

履修の手引

平成25年度

徳島大学総合科学部

平成 25 (2013) 年度 総合科学部年間行事予定表

前 期 (4 月 1 日～9 月 30 日)

新入生オリエンテーション	4 月 4 日(木) から 4 月 9 日(火)
入学式	4 月 5 日(金)
授業開始	4 月 11 日(木)
履修登録期間 (Web登録期間)	4 月 4 日(木) から 4 月 24 日(水)
履修登録確認期間 (Web修正期間)	4 月 25 日(木) から 5 月 2 日(木)
授業振替日 (月曜日)	5 月 2 日(木)
履修登録確認期限 (履修登録修正願提出期限)	5 月 20 日(月)
卒業研究題目届提出期限	5 月 31 日(金)
授業振替日 (月曜日)	7 月 16 日(火)
総括授業・定期試験	7 月 24 日(水) から 8 月 6 日(火)
夏季休業	8 月 7 日(水) から 8 月 31 日(土)
成績の通知日 (追・再試験は 10 月末までに適宜実施)	8 月 26 日(月) から

後 期 (10 月 1 日～3 月 31 日)

授業開始	10 月 1 日(火)
履修登録期間 (Web登録期間)	9 月 24 日(火) から 10 月 7 日(月)
履修登録確認期間 (Web修正期間)	10 月 8 日(火) から 10 月 22 日(火)
授業振替日 (月曜日)	10 月 15 日(火)
授業振替日 (金曜日)	10 月 31 日(木)
大学祭準備のため休業	11 月 1 日(金)
大学祭 (休業日)	11 月 2 日(土) から 11 月 4 日(月)
開学記念日 (休業日)	11 月 2 日(土)
履修登録確認期限 (履修登録修正願提出期限)	11 月 5 日(火)
授業振替日 (月曜日)	12 月 24 日(火)
冬季休業	12 月 25 日(水) から 1 月 6 日(月)
授業振替日 (月曜日)	1 月 15 日(水)
大学入試センター試験場設営のため休業	1 月 17 日(金)
卒業研究提出期間	1 月 29 日(水) から 1 月 31 日(金)
コース分属・転学科・転コース願提出期限	1 月 31 日(金)
総括授業・定期試験	1 月 28 日(火) から 2 月 10 日(月)
成績の通知日	2 月 18 日(火)
追試験・再試験 (4 年次生は 2 月 28 日(木)まで)	2 月 26 日(水) から 3 月 4 日(火)
卒業式・修了式	3 月 24 日(月)
学年末休業	3 月 25 日(火) から 3 月 31 日(月)

大学での学び・求められる能力

徳島大学総合科学部新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんのご入学を心よりお祝い申し上げます。

これから新たに大学生活を始めるにあたって、皆さんは大きな夢や希望、目標とともに、いくばくかの不安も抱えているかもしれません。この『履修の手引』は、皆さんが卒業するまでの総合科学部での履修方法や単位・資格の修得方法、2年次以降に各コースに分属して専門教育を履修する上で必要な要件や規則をまとめたものです。言わば、皆さんが総合科学部で学修するためのナビゲーターです。皆さんには卒業時までこれらの規則が適用されますので、この『履修の手引』に必ず目を通すとともに、卒業時まで大切に保管しておいてください。

皆さんのこれまでの大きな目標は「大学に入ること」にあったかもしれませんが、これからの4年間は、徳島大学総合科学部での学びを基礎に、皆さんが「社会で活躍する」ための準備期間となります。その研鑽・学修の「場」が徳島大学であり、総合科学部であると思ってください。

徳島大学が掲げる教育の理念は、「明日を目指す学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう、進取の気風を身につけた人材の育成」にあります。「進取」とは「進んで事をなすこと」（広辞苑）を意味します。すなわち、自らの問題関心あるいは社会の諸課題に対して、自らが培った能力をもって積極的に行動できる人材の育成が、徳島大学の教育目標となっています。

明治7年（1874）以来140年近い歴史をもつ総合科学部もまた、そうした教育理念のもとに、総合的・学際的な広い視野を持ちつつ核となる自らの専門性を深めることで、複雑化した現代の諸問題について考察・分析し、その解決方法を模索できる人材の育成を目指しています。「探求心」をもって自らの問題関心・課題テーマに取り組むことで、皆さんは総合科学部で学問や研究の醍醐味を知ることになります。

もちろん、社会が大学生に求める能力は、大学で培った教養的知識・専門的知識ばかりではありません。「人間力」あるいは「社会人基礎力」とも言われますが、主体性や行動力、チャレンジ精神、問題発見・解決能力や発想力、コミュニケーション能力や協調性・協働性といった、「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」も、社会から期待されている能力です。コミュニケーション能力とは語学力という意味ではなく、相手の話を聞き、それに対して自分の意見を伝えられる能力のことです。友達とのコミュニケーションであれば簡単でしょうが、見知らぬ他者との間で相手の立場・考えを理解し、自分の考えを相手にどう伝えるか、となると難しいものです。これらの能力は、「学修する力」にも求められます。

それゆえ、総合科学部では、広い視野や社会人としての人格形成教育の観点から、全学共通教育や学部共通科目・学科共通科目の履修も重視しています。このような能力は、大学での学修の場だ

けではなく、学内外のサークル活動や社会活動などを通じて会得することもあります。時間の許す限り、こうした活動に積極的に参加し、様々な社会体験を通じて「自分を研鑽する」ことが、将来にわたっての皆さんの自己形成につながるといえます。

「大学」には、職業教育（キャリア教育）、リベラルアーツ（教養教育）、学術研究（専門教育）という3つの顔があります。総合科学部でもこれらの教育プログラム（カリキュラム）が展開されており、これらの教育プログラムを通じて、大学生としての能力・資質を高め、自らの目標に向かってのキャリアデザイン（将来設計）が求められることになります。ただし、大学は高校までのように集団生活をおくる場ではありません。自己責任と自己管理のもとに、大学生には自律的な学修が求められることになります。そのことを皆さんが十分に理解し行動することで、ぜひ、皆さんが将来、「総合科学部で学んで良かった」「総合科学部で有為な学生生活を送ることができた」と振り返ることができる、充実した学生時代を送られることを期待しています。

平成25年4月

徳島大学総合科学部長

平 井 松 午

目 次

I. 総合科学部でよりよく学び、生活するために	1
1. 総合科学部における学習と学生生活について	3
1 全学共通教育科目履修についての注意事項	3
2 授業時間割表についての注意事項	3
3 各種資格及び教員免許状の取得について	3
4 コース分属について	4
5 転学科について	4
6 成績評価法について	4
7 そ の 他	4
2. コース毎の履修上の要望事項・履修例	
人間文化学科	
国際文化コース	5
心理・健康コース	10
社会創生学科	
公共政策コース	12
地域創生コース	13
環境共生コース	17
総合理数学科	
数理科学コース	19
物質総合コース	21
3. 学生生活を充実させるために	
学生への連絡方法／大学の連絡先	23
学生証の交付	23
学生支援体制について	23
就職斡旋・就職情報	24
定期健康診断	25
休学および退学の手続きについて	25
授業料納付および授業料免除	26
学術交流協定校等への留学及び語学研修制度	27
奨学金制度	29
賞罰（表彰など）	29
身上調書に記入した事項の変更届について	30
学部内施設の使用法	30
学生控室の使用法	30

掲示物の申請方法	31
構内での喫煙	31
構内の交通規制	31
交通事故に遭ったとき	31

II 規 則 集

1. 徳島大学総合科学部規則	35
2. 履修細則	42
3. 試験細則	68
4. コース細則	71
5. 徳島大学総合科学部学友会会則	72

III 各種資格及び教員免許状の取得について

1. 教員免許状取得に関して	77
2. 学芸員になるための資格取得に関して	97
3. 認定心理士の資格取得に関して	98
4. 健康運動指導士の資格取得に関して	100
5. アシスタントマネジャーの資格取得に関して	102
6. 公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コースに関して	103
7. 社会調査士の資格取得に関して	104
8. 社会福祉主事になるための資格取得に関して	106
9. GIS 学術士の資格取得に関して	108
10. 日本語教員養成に関して	110
11. 学習プログラムの履修概要	112

IV 授業概要（シラバス）

V そ の 他

コース担当教員一覧表	169
総合科学部（共通教育棟を含む）建物配置図	172

I． 総合科学部でよりよく学び, 生活するために

1. 総合科学部における学習と学生生活について

総合科学部の特色として、多くの教員によって多様な授業科目が数多く用意されていることが挙げられます。更に「専門性に根ざした教育」と「総合性を追求する教育」ができるようにカリキュラムの体系化がなされています。すなわち、本学部は特定の分野の専門教育と多様な分野についての総合性の教育が合わせて可能な学部です。また、本学部は1学年の学生数265名に対して約130名の教員が指導に当たるという恵まれた教育環境にあります。取得できる教員免許状の種類が多いことも本学部の特色の一つです。その他、学芸員の資格や日本語教員養成に関する授業科目も用意されています。将来の進路・職業について主体的に考える「キャリア教育」にも力を入れています。

学生諸君はこのような総合科学部の特色を十分に理解、活用し、各自の個性に磨きをかけ、能力を引き出すべく学習に心掛けて、貴重な大学生活を送ってください。また、大学生活においては、授業を受講するだけでなく、課外活動や学友会活動にも参加して有意義な学生生活を送ってください。

学生諸君が入学してから卒業に至るまでの総合科学部4年間の学修と学生生活については、この「履修の手引」と「全学共通教育履修の手引」、さらには、学務部発行の「学生生活の手引」に記載されています。学生諸君の4年間は履修上では「全学共通教育」と「専門教育」に分かれており、諸君はこれらの手引にしたがって授業科目を履修するとともに、学生生活に関する諸手続をすることになります。一方、所属の上では1年次生は広く人間文化学科、社会創生学科、総合理数学科に属し、2年次生以降はそれぞれの学科の各コースに分属し、更に学年が進行するにつれて個別の指導教員の指導の下できめ細やかな教育を受けることになります。

1 全学共通教育科目履修についての注意事項

「授業科目」と「授業題目」の違いについて

教養科目群、社会性形成科目群及び基盤形成科目群の下には複数の「授業科目」があり、各授業科目の下には更に複数の「授業題目」が用意されています。「授業科目」の履修方法については「全学共通教育履修の手引」を参照して、間違わないように気を付けて下さい。また「授業科目」と「授業題目」を混同しないように十分に注意して下さい。

2 授業時間割表についての注意事項

授業時間割表には全学共通教育用と専門教育科目用の2種類があり、両方の時間割表にしたがって履修して下さい。なお、授業科目が配当されている学年よりも下位の学年の学生は、その授業科目を履修することはできません。

3 各種資格及び教員免許状の取得について

各種資格及び教員免許状の取得に関する授業科目の履修要件や方法は、この履修の手引の「Ⅲ 各種資格及び教員免許状の取得について」を熟読してください。

4 コース分属について

総合科学部の学生は、2年次の初めに以下に示すコースに分属することになります。みなさんの将来を決める大事な決定です。次ページ以降のコース紹介ならびに履修上の要望事項等をよく読むようにしてください。説明会は7月中旬および12月の中旬に行いますが、各自のやりたいことや適性を考えて、どのコースに所属するか入学時から約一年かけて決めるようにして下さい。

人間文化学科：国際文化コース，心理・健康コース

社会創生学科：公共政策コース，地域創生コース，環境共生コース

総合理数学科：数理科学コース，物質総合コース

5 転学科について

- 1 転学科を希望する者は、1月末までに所定の願書を学務係へ提出しなければなりません。

ただし、第1年次は指導教員、第2年次以降の学生は、各コース選出のコース代表者の承認を経て提出して下さい。

- 2 転学科を願い出た者があるときは、教育上支障がない場合に限り選考の上許可することがあります。

ただし、推薦入試により入学した学生は、転学科をすることができません。

6 成績評価法について

GP (grade point) & GPA (grade point average) について

成績表の中に GP および GPA と呼ばれるものがあります。GP は各科目の点数を下の式に従って換算した数値です。GPA は更に単位修得率を考慮し、下の式に従って算出した数値です。GPA が非常に低いということは、学業計画に何らかの不備がある場合があります。その際には、指導教員やコースの教務委員等に相談するようにしてください。

GP および GPA の求め方；

$$GP = \{(100 \text{ 点を満点としたときの各自が修得した成績}) - 50 \text{ 点}\} / 10$$

但し、60 点未満は“0”とします。

$$GPA = \frac{\sum \{(100 \text{ 点を満点としたときの各自が修得した成績}) - 50 \text{ 点}\} \times \text{単位数} / 10}{\text{履修登録をした総単位数}}$$

7 そ の 他

全学共通教育履修の手引・(総合科学部) 履修の手引・授業概要・授業時間割表の内容、履修方法等について不明な点がある場合は、1年次生は1年次指導教員、2年次以降の学生はコース指導教員に相談して下さい。

2. コース毎の履修上の要望事項・履修例

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
人 間 文 化	国 際 文 化	60 名

I 国際文化コースとは

国際文化コースは、学生のみなさんが、現代社会・国際社会におけるさまざまな社会的・文化的事象を多面的に研究することを通じて、問題を自ら発見し掘り下げる主体性を持ち、広い視野を持って総合的に判断を下すことができる「よき市民」として成長することを目指します。

現代では、世界中のさまざまな地域やそこに住む人々が相互に交流し関連し合っています。そうした結びつきや相互依存は、今後いっそう強固になることはあっても弱まることはないでしょう。その一方で地域間の経済的・文化的格差は拡大し、文化摩擦、環境問題、地域紛争などの問題が起こっています。こうした今日的な問題は、地球のどの地域の問題であっても私たちに無関係ではありません。私たちは、関心を自分たちの周辺のローカルな問題にのみ向け、全地球的な問題に無関心のままでいることは許されません。

そこで本コースでは、日本を含む東アジア、アメリカおよびヨーロッパ諸国の言語、文学、思想、歴史、社会などについて学びます。そうした学習を通じてさまざまな地域の主に文化的な問題に対する理解力、調査能力、さらに語学力、情報発信能力などを身につけます。さらには、経済学、国際関係論、心理学などの領域についても学び、幅広く総合的な問題解決能力を獲得することを目指します。

このように、自ら主体的に学び、多面的な視点から思考する能力は、民主主義社会を担う市民に不可欠であり、また同時に、自らの日常生活をよりよいものにしていくためにも重要なものです。

II 教育目標

国際文化コースでは、上記のような主体性と多面的な思考力を身につけるために、段階的な教育課程を用意しています。まず1年次には、基本的な調査能力・発表能力を身につけます。同時に、哲学、歴史、文化、言語など、幅広い分野について基礎知識を身につけます。そうした基礎的な学力をもとに、2年次以降には、学生の関心や資質に応じて、アジアや欧米の言語、文学、思想、歴史、社会について学び、またそれらの地域を相互に比較して学ぶことができます。学生が自ら学習計画を立案することは、主体的な学習課程の一部です。

具体的な学習目標として、次の3つがあります。

- 1) 日本、アジア、欧米などの地域について、言語や文化、歴史などの幅広い観点から総合的に理解します。(総合的地域研究)
- 2) 言語や文化、歴史などの観点から、日本、アジア、欧米などの地域について相互に比較研究します。(地域間比較研究)

3) 哲学, 歴史, 文学, 言語など, 個別学問領域について専門的知識の獲得を目指します。(個別領域研究)

III 履修上の要望事項

【一般的な要望事項】

国際文化コースでは, さまざまな専門分野にわたる授業を履修することができます。これは「総合科学」を学ぶうえで重要な特徴なのですが, 逆に, しっかりした問題意識・目的意識がないと, 学習が散漫になってしまう可能性があります。指導教員とよく相談し, しっかりした履修計画を立てるようにしてください。

1 年次の指導教員は, 人間文化学科の教務委員です。「大学入門講座」などを通じて指導に当たります。2 年次には自分が仮選択した「履修パターン」代表教員が指導に当たります。3 年次以降は, 「演習」の担当教員が指導教員となります。

また, 卒業に必要な単位を間違いなくそろえるために, この『履修の手引』と, 別冊の『全学共通教育履修の手引』を熟読してください。

【国際文化コースでの履修の道筋】

1 年次末にみなさんは国際文化コースを選択します。国際文化コースでは, みなさんが履修計画を立てる際の指針となるように5つの「履修パターン」を用意しています。5つの「履修パターン」のうちから1つを選択し, そこに示された科目を中心に選択することで, ある領域について一貫性のある履修計画を立てることができます。

2 年次初めに5つの「履修パターン」のうちから1つを**仮選択**し, その「履修パターン」に即して履修します。

3 年次初めには, 「履修パターン」を**本選択**します。必ずしも, 2 年次で仮選択した「履修パターン」と同じパターンを選択する必要はありません。ただし, 履修内容が大きく異なる「履修パターン」への変更は勧めません。

【1 年次の履修】

1 年次には, 全学共通教育科目, 学部共通科目, 学科共通科目の3種類の授業から履修します。

1) 全学共通教育科目

別冊の『全学共通教育履修の手引』を参照して履修してください。

2) 学部共通科目

- ・学部共通科目は, 必修科目を6単位, 選択必修Aを2単位以上, 選択必修Bを4単位以上, 選択必修Cを1単位以上, 合計13単位以上修得するように履修してください。
- ・「基礎ゼミナール」と「キャリアプラン入門Ⅰ」, 「キャリアプラン入門Ⅱ」は必ず履修してください。
- ・選択必修Aのうち1科目(2単位)を履修してください。
- ・選択必修Bのうち, 1年次に受講できるのは「情報処理の基礎Ⅰ」と「情報処理の基礎Ⅱ」のみです。2年次に「実用外国語基礎演習」などの科目も開講されますから, 必ずしも1年次に4単位を修得しなくてもかまいません。
- ・選択必修Cの科目はすべて2年次以上で開講されます。自分の関心と計画にしたがって必ず1科目以

上を履修してください。

3) 学科共通科目

1 年次のうちに、6 科目（12 単位）を選択して履修しておくことが望ましいです。

【2 年次の履修】

2 年次には、全学共通教育科目、学部共通科目、学科共通科目に加えて、一部のコース専門コア科目、コース専門選択科目を受講します。コース専門コア科目、コース専門選択科目については、自分が仮選択した「履修パターン」に提示された科目を中心に履修してください。

1) 全学共通教育科目

2 年次で必ず履修すべきなのは、英語（発信型）の 4 単位分と、教養科目の残り数題目です。

2) 学部共通科目

選択必修 B の科目については、自分が仮選択した「履修パターン」が推奨する科目の中から選択してください。

3) 学科共通科目

1 年次のうちに 6 科目（12 単位）を履修し終わっていることが望ましいです。

4) コース専門コア科目

それぞれの「履修パターン」で履修を推奨する科目が異なります。別表の「履修パターン」を参照してください。

5) コース専門選択科目

それぞれの「履修パターン」で履修を推奨する科目が異なります。別表の「履修パターン」を参照してください。

【3・4 年次の履修】

3・4 年次では、コース専門コア科目、コース専門選択科目、総合科学テーマ科目の 3 種類を中心に履修します。自分が選択した「履修パターン」に即して履修してください。総合科学テーマ科目については、視野を広げて自分の専門領域外も俯瞰できるように他学科、他コースの科目を含めて履修してください。また、4 年次には研究の成果を卒業研究（卒業論文）という形で作り上げます。

1) コース専門コア科目

「実用外国語演習（英語）」または「実用外国語演習（中国語）」（8 単位）の履修を推奨します。

2) コース専門選択科目

コース専門選択科目については別表の「履修パターン」を参考にして履修計画を立て、選択してください。

3) 総合科学テーマ科目

最低 5 科目（10 単位）を選択し、履修してください。

4) 卒業研究

「演習」での指導にもとづいて、卒業研究を制作するようにしてください。

【国際文化コース履修パターン】

パターンの名称		日本・アジア研究	
全学共通 教育科目	大学入門科目		1
	教養科目群		20
	社会性形成科目群		14
	基礎形成科目群		35
学部共通 科目	必修	基礎ゼミナール	2
		キャリアアブランスⅠ	2
		キャリアアブランスⅡ	2
	選択必修 A	科学と人間	○ 2以上
		健康と福祉	
		情報処理の基礎Ⅰ	△
		情報処理の基礎Ⅱ	△
	選択必修 B	国際交流・協力体験	△ 4以上
		基礎英語講義Ⅰ	△
		基礎英語講義Ⅱ	△
		実用外国語基礎演習Ⅰ	○
学科共通科目	選択必修 C	実用外国語基礎演習Ⅱ	○
		キャリアアブランスⅠ	
		キャリアアブランスⅡ	
		キャリアアブランスⅢ	1以上
	短期インターンシップ	短期インターンシップ	
		日本語表現の基礎	○
		文化研究の基礎	△
		哲学・思想の基礎	○
		近現代社会の成立と展開	○
		心理学の基礎Ⅰ	
		心理学の基礎Ⅱ	
		ヘルスプロモーションの基礎	
コース専門コア科目	健康体力科学の基礎	健康体力科学の基礎	
		異文化間コミュニケーション	△
		国際関係Ⅰ	△
		実用外国語演習(英語・中国語)	○
		世界経済論Ⅰ	○
		地域交流史	△
		比較社会論	△
		比較文化研究	△
	比較文化論	比較文化論	○
コース専門選択科目	アジア史基礎研究Ⅰ アジア史基礎研究Ⅱ アジア史研究Ⅰ アジア史研究Ⅱ 考古学基礎研究Ⅰ 考古学基礎研究Ⅱ 考古学研究 東アジア文化論 芸術文化論 東アジア文化論講義Ⅰ 東アジア文化論講義Ⅱ	アジア史基礎研究Ⅰ	8以上
		アジア史基礎研究Ⅱ	
		アジア史研究Ⅰ	
		アジア史研究Ⅱ	
		考古学基礎研究Ⅰ	
		考古学基礎研究Ⅱ	
		考古学研究	
		東アジア文化論	
		芸術文化論	
		東アジア文化論講義Ⅰ	
		東アジア文化論講義Ⅱ	
	日本史基礎研究Ⅰ 日本史基礎研究Ⅱ 日本史研究Ⅰ 日本史研究Ⅱ 日本文学研究Ⅰ 日本文学研究Ⅱ 日本文学講義Ⅰ 日本文学講義Ⅱ 日本文学講義Ⅲ 地域文化論Ⅱ 日本経済論 日本言語概説Ⅰ 日本言語概説Ⅱ 日本言語研究Ⅰ 日本言語研究Ⅱ	日本史基礎研究Ⅰ	30以上
		日本史基礎研究Ⅱ	
		日本史研究Ⅰ	
		日本史研究Ⅱ	
		日本文学研究Ⅰ	
		日本文学研究Ⅱ	
		日本文学講義Ⅰ	
		日本文学講義Ⅱ	
		日本文学講義Ⅲ	
		地域文化論Ⅱ	8以上
		日本経済論	
		日本言語概説Ⅰ	
		日本言語概説Ⅱ	
		日本言語研究Ⅰ	
		日本言語研究Ⅱ	
	日本史演習 考古学演習 日本文学演習 東アジア文化演習 日本言語演習	日本史演習	いずれ か一つ 8単位
		考古学演習	
		日本文学演習	
		東アジア文化演習	
総合科学テーマ科目	比較文化論 地域交流史 日本経済と社会 世界経済論Ⅰ 国際関係論Ⅰ 社会心理学 運動文化論 健康行動論 地域健康福祉論 グローバル社会論 地域創生論 地域政策論Ⅰ 地域文化論Ⅰ 共生社会論 メディア情報論 芸術文化論 情報社会と情報倫理 情報と職業 情報の数理 現象の数理 数学と社会 資源エネルギー論 環境マネジメント 環境倫理学 環境政策論Ⅰ 自然保護論 生態学Ⅰ 総合科学実践プロジェクト 総合科学特別講義	比較文化論	コア
		地域交流史	コア
		日本経済と社会	○
		世界経済論Ⅰ	コア
		国際関係論Ⅰ	コア
		社会心理学	選択
		運動文化論	○
		健康行動論	
		地域健康福祉論	
		グローバル社会論	○
		地域創生論	△
		地域政策論Ⅰ	選択
		地域文化論Ⅰ	選択
		共生社会論	△
		メディア情報論	△
		芸術文化論	選択
		情報社会と情報倫理	
		情報と職業	
		情報の数理	
		現象の数理	
		数学と社会	
		資源エネルギー論	
		環境マネジメント	△
		環境倫理学	○
		環境政策論Ⅰ	
		自然保護論	
		生態学Ⅰ	
		総合科学実践プロジェクト	△
		総合科学特別講義	△
自由選択科目 (学部全体から選択可能)			14以上
計			91
卒業研究			6
合計			132

*○印は受講を特に推奨する科目、△印は受講を推奨する科目です。

パターンの名称		ヨーロッパ・アメリカ研究	
全学共通 教育科目	大学入門科目		1
	教養科目群		20
	社会性形成科目群		14
	基礎形成科目群		35
学部共通 科目	必修	基礎ゼミナール	2
		キャリアアブランスⅠ	2
		キャリアアブランスⅡ	2
	選択必修 A	科学と人間	○ 2以上
		健康と福祉	
		情報処理の基礎Ⅰ	△
		情報処理の基礎Ⅱ	△
	選択必修 B	国際交流・協力体験	△ 4以上
		基礎英語講義Ⅰ	△
		基礎英語講義Ⅱ	△
		実用外国語基礎演習Ⅰ	○
学科共通科目	選択必修 C	実用外国語基礎演習Ⅱ	○
		キャリアアブランスⅠ	
		キャリアアブランスⅡ	
		キャリアアブランスⅢ	1以上
	短期インターンシップ	短期インターンシップ	
		日本語表現の基礎	
		文化研究の基礎	○
		哲学・思想の基礎	○
		近現代社会の成立と展開	△
		心理学の基礎Ⅰ	
		心理学の基礎Ⅱ	
		ヘルスプロモーションの基礎	
コース専門コア科目	健康体力科学の基礎	健康体力科学の基礎	
		異文化間コミュニケーション	○
		国際関係Ⅰ	△
		実用外国語演習(英語・中国語)	○
		世界経済論Ⅰ	△
		地域交流史	△
		比較社会論	○
		比較文化研究	△
	比較文化論	比較文化論	△
コース専門選択科目	ヨーロッパ思想研究 ヨーロッパ文化研究 ヨーロッパ史研究Ⅰ ヨーロッパ史研究Ⅱ ヨーロッパ史研究Ⅲ ヨーロッパ文学研究 アメリカ史研究 音楽学 現代音楽芸術論	ヨーロッパ思想研究	8以上
		ヨーロッパ文化研究	
		ヨーロッパ史研究Ⅰ	
		ヨーロッパ史研究Ⅱ	
		ヨーロッパ史研究Ⅲ	
		ヨーロッパ文学研究	
		アメリカ史研究	
		音楽学	
		現代音楽芸術論	
	英米文化研究Ⅰ 英米文化研究Ⅱ 英米文学研究Ⅰ 英米文学講義Ⅰ 英米文学講義Ⅱ 英米言語研究Ⅰ 英米言語研究Ⅱ 現代英語研究Ⅰ 現代英語研究Ⅱ 現代英語研究Ⅲ 現代英語研究Ⅳ	英米文化研究Ⅰ	30以上
		英米文化研究Ⅱ	
		英米文学研究Ⅰ	
		英米文学講義Ⅰ	
		英米文学講義Ⅱ	
		英米言語研究Ⅰ	
		英米言語研究Ⅱ	
		現代英語研究Ⅰ	8以上
		現代英語研究Ⅱ	
		現代英語研究Ⅲ	
		現代英語研究Ⅳ	
	ヨーロッパ思想演習 ヨーロッパ文学演習 ヨーロッパ文化演習 欧米歴史・社会演習 英米文学演習 比較文化演習 英米言語演習	ヨーロッパ思想演習	いずれ か一つ 8単位
		ヨーロッパ文学演習	
		ヨーロッパ文化演習	
		欧米歴史・社会演習	
総合科学テーマ科目	比較文化論 地域交流史 日本経済と社会 世界経済論Ⅰ 国際関係論Ⅰ 社会心理学 運動文化論 健康行動論 地域健康福祉論 グローバル社会論 地域創生論 地域政策論Ⅰ 地域文化論Ⅰ 共生社会論 メディア情報論 芸術文化論 情報社会と情報倫理 情報と職業 情報の数理 現象の数理 数学と社会 資源エネルギー論 環境マネジメント 環境倫理学 環境政策論Ⅰ 自然保護論 生態学Ⅰ 総合科学実践プロジェクト 総合科学特別講義	比較文化論	コア
		地域交流史	コア
		日本経済と社会	△
		世界経済論Ⅰ	コア
		国際関係論Ⅰ	コア
		社会心理学	選択
		運動文化論	○
		健康行動論	
		地域健康福祉論	
		グローバル社会論	○
		地域創生論	△
		地域政策論Ⅰ	選択
		地域文化論Ⅰ	選択
		共生社会論	△
		メディア情報論	△
		芸術文化論	選択
		情報社会と情報倫理	
		情報と職業	
		情報の数理	
		現象の数理	
		数学と社会	
		資源エネルギー論	
		環境マネジメント	△
		環境倫理学	○
		環境政策論Ⅰ	
		自然保護論	
		生態学Ⅰ	
		総合科学実践プロジェクト	△
		総合科学特別講義	△
自由選択科目 (学部全体から選択可能)			14以上
計			91
卒業研究			6
合計			132

*○印は受講を特に推奨する科目、△印は受講を推奨する科目です。

パターンの名称		歴史研究	
全学共通 教育科目	大学入門科目		1
	教養科目群		20
	社会性形成科目群		14
	基礎形成科目群		35
計			22
学部共通 科目	必修	基礎ゼミナール	2
		キャリアアブランス入門Ⅰ	2
	キャリアアブランス入門Ⅱ	2	
	選択必修 A	科学と人間	○
		健康と福祉	2以上
		情報処理の基礎Ⅰ	△
		情報処理の基礎Ⅱ	△
	選択必修 B	国際交流・協力体験	△
		基礎英語講義Ⅰ	△
		基礎英語講義Ⅱ	△
		実用外国語基礎演習Ⅰ	○
選択必修 C	実用外国語基礎演習Ⅱ	○	
	キャリアアブランスⅠ		
	キャリアアブランスⅡ		
	キャリアアブランスⅢ	1以上	
短期インターンシップ			
学科共通科目	日本語表現の基礎		
	文化研究の基礎	△	
	哲学・思想の基礎	○	
	近現代社会の成立と展開	○	
	心理学の基礎	○	12以上
	心理学の基礎Ⅱ		
コース専門コア科目	ヘルスプロモーションの基礎		
	健康体力科学の基礎		
	異文化間コミュニケーション	△	
	国際関係論Ⅰ	△	
	実用外国語演習(英語・中国語)	○	
	世界経済論Ⅰ	○	12以上
	地域交流史	○	
	比較社会論	○	
	比較文化研究	△	
	比較文化論	△	
コース専門選択科目	ヨーロッパ史研究Ⅰ		8以上
	ヨーロッパ史研究Ⅱ		
	ヨーロッパ史研究Ⅲ		
	アメリカ史研究		
	社会変動論		
	ヨーロッパ文化研究		
	ヨーロッパ思想研究		
	現代音楽芸術論		
	音楽学		
	日本史基礎研究Ⅰ		8以上
	日本史基礎研究Ⅱ		
	日本史研究Ⅰ		
	日本史研究Ⅱ		
	アジア史基礎研究Ⅰ		
	アジア史基礎研究Ⅱ		
	アジア史研究Ⅰ		
	アジア史研究Ⅱ		
	考古学研究		
	考古学基礎研究Ⅰ		
	考古学基礎研究Ⅱ		
	地域文化論Ⅰ		
	地域文化論Ⅱ		
	欧米歴史・社会演習		いずれ か一つ 8単位
	日本史演習		
	東アジア文化演習		
	考古学演習		
総合科学テーマ科目	比較文化論		コア
	地域交流史		コア
	日本経済と社会		○
	世界経済論Ⅰ		コア
	国際関係論Ⅰ		コア
	社会心理学		選択
	運動文化論		○
	健康行動論		
	地域健康福祉論		
	グローバル社会論		○
	地域創生論		△
	地域政策論Ⅰ		
	地域文化論Ⅰ		選択
	共生社会論		
	メディア情報論		△
	芸術文化論		選択
	情報社会と情報倫理		
	情報と職業		
	情報の数理		
	現象の数理		
	数学と社会		
	資源エネルギー論		
	環境マネジメント		△
	環境倫理学		△
環境政策論Ⅰ			
自然保護論			
生態学Ⅰ			
総合科学実践プロジェクト		△	
総合科学特別講義		△	
自由選択科目(学部全体から 選択可能)			14以上
計			91
卒業研究			6
合計			137

パターン①の名称		文学・語学研究			
全学共通 教育科目	大学入門科目		1		
	教養科目群		20		
	社会性形成科目群		14		
	基礎形成科目群		35		
計					
学部共通 科目	必修	基礎ゼミナール	2		
		キャリアアブラソ入門Ⅰ	2		
		キャリアアブラソ入門Ⅱ	2		
	選択必修 A	科学と人間 健康と福祉	○	2 以上	
		選択必修 B	情報処理の基礎Ⅰ	△	4 以上
			情報処理の基礎Ⅱ	△	
	国際交流・協力体験		△		
	基礎英語講義Ⅰ		△		
	基礎英語講義Ⅱ		△		
	実用外国語基礎演習Ⅰ		○		
	選択必修 C	実用外国語基礎演習Ⅱ	○	以上	
		キャリアアブラソⅠ			
		キャリアアブラソⅡ			
		キャリアアブラソⅢ			
		短期インターンシップ			
学科共通科目	日本語表現の基礎	○	12 以上		
	文化研究の基礎	△			
	哲学・思想の基礎	△			
	近現代社会の成立と展開				
	心理学の基礎Ⅰ				
	心理学の基礎Ⅱ				
コース専門 コア科目	ヘルスプロモーションの基礎		12 以上		
	健康体力科学の基礎				
	異文化間コミュニケーション	○			
	国際関係論	△			
	実用外国語演習(英語・中国語)	○			
	世界経済論Ⅰ	△			
	地域交流史	△			
	比較社会論	△			
	比較文化研究	△			
	比較文化論	○			
コース専門 選択科目	日本文学研究Ⅰ		8以上		
	日本文学研究Ⅱ				
	日本文学講義Ⅰ				
	日本文学講義Ⅱ				
	日本文学講義Ⅲ				
	東アジア文化論講義Ⅰ				
	東アジア文化論講義Ⅱ				
	日本語概説Ⅰ				
	日本語概説Ⅱ				
	日本語研究Ⅰ				
	日本語研究Ⅱ				
	日本語研究Ⅲ				
	ヨーロッパ思想研究		8以上		
		ヨーロッパ文学研究			
		英米文学研究			
		英米文学講義Ⅰ			
		英米文学講義Ⅱ			
		英米文化研究Ⅰ			
		英米文化研究Ⅱ			
		英米言語研究Ⅰ			
		英米言語研究Ⅱ			
		英米言語研究Ⅲ			
		英米言語研究Ⅳ			
		現代英語研究Ⅰ			
	現代英語研究Ⅱ				
	現代英語研究Ⅲ				
	現代英語研究Ⅳ				
	ヨーロッパ文学演習		いずれ から 8単位		
		英米文学演習			
		日本文学演習			
英米言語演習					
比較文化演習					
日本語演習					
総合科学 テーマ科目	比較文化論		コア		
	地域交流史		コア		
	日本経済と社会				
	世界経済論Ⅰ		コア		
	国際関係論Ⅰ		コア		
	社会心理学		選択		
	運動文化論		○		
	健康行動論				
	地域健康福祉論				
	グローバル社会論		○		
	地域創生論		△		
	地域政策論Ⅰ				
	地域文化論Ⅰ		選択		
	共生社会論				
	メディア情報論		△		
	芸術文化論		選択		
	情報社会と情報倫理				
	情報と職業				
	情報の数理解				
	現象の数理解				
	数学と社会				
	資源エネルギー論				
	環境マネジメント		△		
	環境倫理学		△		
環境政策論Ⅰ					
自然保護論					
生態学Ⅰ					
総合科学実践プロジェクト		△			
総合科学特別講義		△			
自由選択科目（学部全体から 選択可能）			14以上		
計			91		
卒業研究			6		
合計			132		

*○印は受講を特に推奨する科目、△印は受講を推奨する科目です。

パターンの名称		思想・文化研究			
全学共通 教育科目	大学入門科目		1		
	教養科目群		20		
	社会性形成科目群		14		
	基礎形成科目群		35		
計					
学部共通 科目	必修	基礎ゼミナール	2		
		キャリアアブランスⅠ	2		
		キャリアアブランスⅡ	2		
	選択必修 A	科学と人間 健康と福祉	○	2 以上	
		選択必修 B	情報処理の基礎Ⅰ	△	4 以上
			情報処理の基礎Ⅱ	△	
	国際交流・協力体験		△		
	基礎英語講義Ⅰ		△		
	基礎英語講義Ⅱ		△		
	実用外国語基礎演習Ⅰ		○		
	選択必修 C	実用外国語基礎演習Ⅱ	○	以上	
		キャリアアブランスⅠ			
		キャリアアブランスⅡ			
	学科共通科目	短期インターンシップ			
		日本語表現の基礎			
文化研究の基礎		○	12 以上		
哲学・思想の基礎		○			
近現代社会の成立と展開		△			
心理学の基礎Ⅰ					
心理学の基礎Ⅱ					
ヘルスプロモーションの基礎					
コース専門 コア科目	健康体力科学の基礎				
	異文化コミュニケーション	△	12 以上		
	国際関係論Ⅰ	△			
	実用外国語演習(英語・中国語)	○			
	世界経済論Ⅰ	△			
	地域交流史	△			
	比較社会論	○			
	比較文化論Ⅰ	○			
	比較文化論Ⅱ	○			
	コース専門 選択科目	ヨーロッパ思想研究			8 以上
ヨーロッパ文化研究					
英米言語研究Ⅲ					
英米言語研究Ⅳ					
英米文化研究Ⅰ					
英米文化研究Ⅱ					
英米文学研究					
英米文学講義Ⅰ					
英米文学講義Ⅱ					
社会心理学					
社会変動論					
東アジア文化論			30 以上		
東アジア文化論講義Ⅱ					
地域文化論Ⅰ					
地域文化論Ⅱ					
日本史研究Ⅱ					
日本文学講義Ⅲ					
日本経済論					
地域経済論					
デスクトップミュージック					
現代音楽芸術論					
芸術文化論					
音楽学					
ヨーロッパ思想演習			いづれ かつ 8単位		
ヨーロッパ文化演習					
比較文化演習					
東アジア文化演習					
総合科学 テーマ科目		比較文化論		コア	
	地域交流史		コア		
	日本経済と社会				
	世界経済論Ⅰ		コア		
	国際関係論Ⅰ		コア		
	社会心理学		選択		
	運動文化論		○		
	健康行動論				
	地域健康福祉論				
	グローバル社会論		○		
	地域創生論		△		
	地域政策論Ⅰ				
	地域文化論Ⅰ		選択		
	共生社会論		△		
	メディア情報論		△		
	芸術文化論		選択		
	情報社会と情報倫理		△		
	情報と職業				
	情報の数理解				
	現象の数理解				
	数学と社会				
	資源エネルギー論				
	環境マネジメント		△		
	環境倫理学		○		
	環境政策論Ⅰ				
	自然保護論				
	生態学Ⅰ				
	総合科学実践プロジェクト		△		
総合科学特別講義		△			
自由選択科目（学部全体から 選択可能）			14 以上		
計			91		
卒業研究			6		
合計			132		

*○印は受講を特に推奨する科目、△印は受講を推奨する科目です。

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
人 間 文 化	心 理 ・ 健 康	60 名

I. 心理・健康コースとは

キーワードは「健康・心理・身体・スポーツ」です。心理・健康コースでは、心と体、それを取り巻く生活・文化・社会環境の諸問題に対して、心理学とスポーツ科学の二つの領域からアプローチし、それぞれの専門性を高めるとともに、人間の心と体の健康を総合的に思考する能力を身につけることを目指します。

II. 教育目標

心理・健康コースでは、人間の健康な生活や社会づくりに向けた諸問題を、人間行動と社会環境という視点から広く学際的な視野に立って理解し、現実の課題と関連づけて実践的に処理する能力を身につけさせることを教育目標としています。具体的には・・・

- ① 人間の心の仕組みについて心理学的に理解し、心理現象一般および心と関連する健康について研究および評価・相談できる能力を身につける。
- ② 人間の体の仕組みと働きについて生理学や解剖学を中心に理解し、健康に関わる身体の諸問題について分析・評価できる能力を身につける。
- ③ 人間の健康行動を生活環境・文化環境・社会環境との関係性から捉え、地域における健康的な暮らしや「町づくり」を企画・経営・評価できる能力を身につける。

心理・健康コースの授業は、心の働きとその仕組みを個人・集団・社会との関わりで探求する心理学と、健康体力づくりに関わる科学的・実践的アプローチであるスポーツ科学の二領域から構成されており、自分の興味にあわせたテーマごとに学ぶことができます。

知覚心理学、社会心理学をはじめとする心理学諸分野、運動生理学（身体科学）、スポーツ社会学などのスポーツ科学諸分野の基礎的な知識を体系的に学ぶとともに、心理学実験実習、スポーツ科学実験実習などをとおして基礎的なスキルを習得します。さらに、社会福祉に関する科目など、その周辺諸科学の知識を身につけることによって、理論と実践の両面を兼ね備えた学際的視点から、その成果を全人的な健康増進に生かし、教育・福祉・産業などの分野で、人々の心と体の健康生活を総合的に支援できる人材を養成します。

III. 履修上の要望事項

【コース専門コア科目について】

コース基礎知識として「知覚心理学」「社会心理学」「コミュニティ心理学」「運動生理学」「スポーツ社会学」「スポーツマネジメント」「健康教育学」が開設されています。また、コース基礎研究法として「行動統計学」「人間行動研究法」があり、ゼミナールや卒業研究に向けた基本的な統計処理の手法を学びます。コース専門コア科目は10単位以上が必要で、2年生で履修することが望まれます。

【コース専門選択科目について】

「心理・健康ゼミナールⅠ（前期）およびⅡ（後期）」は必修科目で3年生で履修します。ⅠからⅡへと段階的に履修し卒業研究に引き継がれるもので、原則として同一教員のゼミナールと卒業研究をひとまとまりで履修してください。ゼミナールの受講者調整は2年生の後期に行います。

その他のコース専門選択科目は、自分の興味や将来の進路にあわせて選択し、ゼミナールとあわせて32単位以上履修します。

総合科学テーマ科目（10単位以上）、および自由選択科目（14単位以上）は、各自の興味や進路を十分に考慮して総合的な視点から履修してください。

【取得資格について】

心理・健康コースでは次の資格取得ができます。取得を希望する場合は第Ⅲ章および以下の補足説明を参照し、履修計画を立ててください。

① 認定心理士（社）日本心理学会）について

この資格は、心理学の専門家としての職務を遂行するために必要な最小限の標準的基礎学力と技能を修得していると認定された人に対して与えられる資格です。ただし、専門職を遂行することを想定したものではありません。

「教育心理学」は進級条件や卒業条件の単位としては認められませんが、認定心理士資格の取得のための単位としては認められます。

② 中学校・高等学校「保健体育」教員免許の履修クラスについて

2年次のコース配属から、中学校・高等学校「保健体育」教員免許の取得希望者を履修クラスに編成し、担当教員がついて履修指導します。また、専門科目における地域実習（ウェルネス・プロジェクト実習等）では教員免許取得のために、受け入れ先は学校関係や競技団体等に限定されます。また、履修クラスでは、2年から3年間、保健体育教育の学生ゼミを授業以外で行い、指導実践力を高めていきます。

③ 健康運動指導士養成クラスについて

2年次のコース配属から、健康運動指導士養成クラスを編成し、指導教員を置き、資格取得のためのサポートを行います。

④ 以上の他に、財団法人日本体育協会からは、公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コース、アシスタントマネージャー養成講習会免除適応コースとして承認されています。

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
社 会 創 生	公 共 政 策	80 名

I. 公共政策コースとは

本コースは、社会科学のうち、法律学、政治学、経済学、および経営学の基盤となる知識を習得した上で、現代社会が抱える様々な問題に対して、公共政策的観点から解決策を提示できる能力を身につけることを目指します。

II. 教育目標

持続可能な社会を創生することに貢献できる人材を養成するために、専門の講義、演習、実習などの履修を通じて以下のような教育目標を追求していきます。

- 1) 法律学、政治学、経済学、経営学という社会科学の四分野の基礎能力の習得
- 2) 法律学、政治学、経済学、経営学という社会科学の四分野を、総合的・融合的に理解する能力の習得
- 3) 上記1)、2)の能力を基礎として、現代社会が直面している具体的な課題に対し、公共政策的観点からの解決策を提示、実行できる能力の習得

また本コースでは、社会科学を総合的・融合的に理解する能力を習得できるように、各分野間に単位修得上の垣根を設けてはおりません。そして公共政策の基礎能力を習得できるように、「公共政策論」を開講しています。

III. 履修上の要望事項

1) 演習（ゼミナール）について

本コースのカリキュラムの中核は、3・4年次に開講される「演習」（ゼミナール）です。所属する演習によって専攻が確定し、原則として演習担当教員の指導の下に、専門についての学習が深められ、卒業研究が行われます。2年生後期に演習の所属が決定されますが、できるだけ早い時期にどの演習を選択するのが自分にとってふさわしいか、関係各教員と十分に相談して慎重に検討してください。

具体的には以下の演習が開講されます。

公共政策演習ⅠA：3年次配当の法律・政治学系演習

公共政策演習ⅡA：4年次配当の法律・政治学系演習

公共政策演習ⅠB：3年次配当の経済・経営学系演習

公共政策演習ⅡB：4年次配当の経済・経営学系演習

なお、4年次には所属する演習の担当教員の指導の下、卒業研究（卒論）を書きます（6単位・必修）。

2) その他

全学共通教育科目でも法律学、政治学、経済学、経営学の授業が多数開講されています。たとえば、全学共通教育科目の法律学関係の授業を受けておかないと、公共政策コースの専門科目として開講される法律学の授業がわからないというわけではありませんが、当然関連していますので、自分の関心の分野がある程度絞れてきたのなら、全学共通教育科目の授業でもその関心分野に沿ったテーマの授業の履修を心がけてください。

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
社 会 創 生	地 域 創 生	55 名

I. 地域創生コースとは

キーワードは「まちづくり・地域づくり」です。実際のまちづくり活動に関わりながら、現代社会を、社会学、文化人類学、地理学、言語学、情報、芸術の視点で総合的・重層的に捉え、表現し、創造できる人材を養成することを目指しています。

II. 教育目標

グローバル化が進行するなか、産業空洞化や経済的不均衡の拡大、少子高齢化やコミュニティの変質、ICT社会の問題など、現代の地域社会は多くの問題に直面しています。これらの問題の改善や解決に向けて、的確な判断と柔軟な発想に基づき、ICT（Information and Communication Technology）に関する知識とスキルを身につけた文理融合型「まちづくり・地域づくり」政策を、積極的に推進する人材を養成することを目標にしています。

そのためには、以下に掲げる4つの能力が重要であると考えています。

- ① 統計データの活用と分析、GIS（地理情報システム）を用いた空間解析など、高度な社会情報処理能力（GIS 学術士）
- ② 地域社会の現場におけるフィールドワークを重視し、調査の企画・設計から、インタビューやアンケートの実施、報告書の作成、プレゼンテーションに至るトータルなプロセスをこなせる能力（社会調査士）
- ③ 情報処理のための数学的・言語学的アプローチを身につけ、地域づくりに活用できる能力（言語処理・プログラミング）
- ④ コンテンツクリエイターとして論理的な思考能力とともに、それを芸術的に表現する能力（コンテンツクリエイター）

本コース在学学生には、上記のうちの少なくとも1つの能力をコアに、複数の能力を横断的に身につけてもらいたいと考えています。

III. 履修上の要望事項

【卒業研究について】

地域創生コースでは、卒業研究が必修になっています。3年生時に指導教員の希望を取り、最終的には4年生時に指導教員を決定します。教員のアドバイスを参考にしながら、体系的な履修計画を心がけて下さい。

卒業研究は、卒業論文または卒業制作のどちらかになります。卒業研究を指導する教員ごと異なりますので、指導教員に相談して下さい。

【プログラムについて】

本コースでは、複数の科目を体系的に受講してもらうことで、教育目標の4つの能力を身につけてもらいたいと考えています。これらの科目は、学部共通科目、学科共通科目、コース専門コア科目、コース専門選択科目、総合テーマ科目にまたがっています。各自、自分なりの履修計画を立ててください。

まちづくりアートプロジェクト	
以下の5科目の受講生がグループを作りプロジェクト研究を遂行。どれかを受講することで、学年を越えたメンバーで構成されるプロジェクトを経験できます。	
アート創生プロジェクト	1 後（学科共通科目）
情報創生プロジェクト	2 後（コース専門コア科目）
芸術創生基礎演習	3・4 前（選択必修）
環境アート	2・3・4 後（コース専門コア科目）
（大学院プロジェクト研究	前後）

社 会 調 査 士	
社会調査士の資格取得。社会調査士認定機構により認定されたA～Gの中から6科目を受講する必要がある（詳しくは便覧の社会調査士の項目を参照）。調査設計から実査・フィールドワークを通じての報告書作成といった一連社会調査に必要な能力が身につく。認定科目は年度ごとに変わるので、申請の際には必ず、社会調査士認定機構のHPを参照すること	
A「地域調査法Ⅰ A・C・D・F」	2・3 前（コース専門選択科目）
B「地域調査法Ⅱ A・C・F」	2・3 後（コース専門選択科目）
C「情報処理の基礎Ⅰ」	1 後（学部共通科目）
D「社会統計学Ⅰ」	2 前（コース専門コア科目）
E「社会統計学Ⅱ」	2 後（コース専門選択科目）
F「地域調査法Ⅰ E」	2・3 前（コース専門選択科目）
G「地域調査演習 A・C・D・E・F」	2・3 通年（コース専門選択科目）

調 査 実 習 （ フィールドワーク ）	
「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で、「地域調査演習」その応用と実践（フィールドワーク）にあたります。授業は一体として運営され、それぞれA～Hの8科目あり、原則として担当する教員によって特色ある内容から構成されます。	
地域調査法Ⅰ A～H	2・3 前（コース専門選択科目）
地域調査法Ⅱ A～H	2・3 後（コース専門選択科目）
地域調査演習 A～H	2・3 通年（コース専門選択科目）

GIS 学 術 士	
GIS 学術士の資格取得。日本地理学会より認定されたA～Dに対応する科目を受講する必要がある（詳しくは便覧の GIS 学術士の項目を参照）。地理情報をコンピューターで系統的に取得・構築，管理，分析，総合，表示・伝達することに関わる能力が身につく。対応科目は，年度ごとに多少の変動があるので，申請の際には必ず日本地理学会の GIS 学術士の HP を参照すること	
A：情報科学	1 前（全学共通科目・必修）
B：空間情報論 I	2・3・4 後（コース専門選択科目）
C：空間情報論 II	3・4 前（コース専門選択科目）
C：地域調査演習 B・G	2・3 通年（コース専門選択科目）
D：地域総合演習	3・4 通（コース専門選択科目）

プ ロ グ ラ ミ ン グ	
コンピューターに，自分の意図した情報処理を行わせるスキルが習得できる	
情報処理の基礎 II	1 後（学部共通科目）
情報総合プログラミング I	2 後（コース専門選択科目）
映像情報プログラミング I	2 後（コース専門選択科目）
（さらに高度な能力を求めるなら）	
情報総合プログラミング II	3 前（コース専門選択科目）
映像情報プログラミング II	3 前（コース専門選択科目）

言 語 の 調 査 と 分 析	
言語の実証的研究に必要となるデータ調査方法と分析手法を学ぶ	
言語情報処理研究 I	2 後（コース専門選択科目）
日本言語研究 I	2・3・4 後期（コース専門選択科目）
日本言語研究 II	2・3・4 後期（コース専門選択科目）
言語情報処理研究 II	3 前（コース専門選択科目）
情報総合プログラミング II	3 前（コース専門選択科目）

地 域 ・ 空 間 づ くり プ ロ ジ ェ ク ト	
地域構造を政策・経済の視点から理論的に把握し，GIS により空間的に図示する能力が身につく。	
地域政策論 I	2・3 前（コース専門コア科目）
空間情報論 I	2・3・4 後（コース専門選択科目）
地域構造論	2・3・4 後（コース専門選択科目）
地域経済論	2・3 前（コース専門選択科目）

地域社会をみる視点（見えないものを見る力）	
ミクロ・マクロと視点を移しながら、社会を見る基礎的な視点を身につけることが出来るようになる。	
社会学の基礎Ⅰ・Ⅱ	1・2 後（学科共通科目）
社会変動論	2・3 前（コース専門コア科目）
社会理論	2・3 前（コース専門選択科目）

地 域 文 化	
地域を比較文化的な視点から分析できるようになる	
地域文化論Ⅰ	2・3 前（総合科学テーマ科目）
比較社会論	2・3 後（総合科学テーマ科目）
グローバル社会論	3・4 前（総合科学テーマ科目）

地 域 ネ ッ ト ワ ー ク	
地域社会をネットワーク、コミュニケーションの視点から分析、把握出来るようになる	
情報と職業	3・4 後（コース専門選択科目）
情報社会と情報倫理	3・4 前（コース専門選択科目）
福祉情報論	3・4 後（コース専門コア科目）

コンテンツクリエイター	
効果的に表現する手法を習得し、ネットワークを通じて発信するスキルを身につける。	
アート表現の基礎	2・3・4 前（コース専門選択科目）
映像デザイン	2・3・4 前（コース専門選択科目）
メディア情報論	2・3・4 後（コース専門選択科目）
Web デザインⅠ	2 前（コースコア科目）
Web デザインⅡ	3 前（コース専門選択科目Ⅱ）

【コース専門選択科目】

「地域調査法」と「地域調査演習」は実務能力の養成を重視する本コースの教育の中核となる科目の一つです。「地域調査法」は調査に必要な基礎的な理論や分析手法を身につけるための授業で、「地域調査演習」はその応用と実践にあたります。両者は密接な補完関係にあり、授業は一体として運営されることとなります。それぞれA～Hの8科目からなり、原則として担当する教員によって特色ある内容から構成されています。

「日本語演習」「地域総合演習」の科目は、3・4年次での重複履修（単位の読み重ね）が可能です。3年生前期、後期、4年生前期、後期と、最大8単位（2単位×4回）履修することが可能です。

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
社 会 創 生	環 境 共 生	30 名

I. 環境共生コースとは

環境共生コースでは「生命・環境・共生」をキーワードとして、生命現象や生物と環境の関係・環境問題について広い視野を持ち、かつ生命科学および環境化学の分野における深い知識を持って、社会の様々な分野でそれを活用できる人材の育成を目標としています。そのために広い分野からの授業科目を用意しています。環境共生コースの学生は、2年次の冬に所属研究室（指導教員）を決定し、3年次から各々の研究室に所属します。

II. 教育目標

本コースでは生命科学および環境化学を基本としたカリキュラムを編成しています。また社会創生学科の特徴である総合性を活かし、人文系・社会系の科目も受講できるようになっています。これらの科目を履修することで、「生命・環境・共生」に対して十分な知識と理解が身につくような教育を用意しています。環境共生コースでは、授業・演習・実験・セミナー・卒業研究を通じて、自然環境と共生した持続可能な社会作りに貢献できる人材の養成を目指しています。

III. 履修上の要望事項

【学部共通科目について】

学部共通科目には、必修科目である少人数制の「基礎ゼミナール」、総合的・融合的思考を身につけるための「選択必修A」、総合科学教育の基盤となる技能の養成を目指す「選択必修B」があります。環境共生コースに進学を希望する場合は「選択必修B」の科目では、情報科学の基礎を身につけるため1年次の「情報処理の基礎Ⅰ」、科学英語に慣れるために2年次の「基礎英語講読Ⅱ」の科目を履修しておくとう良いでしょう。

【学科共通科目について】

学科共通科目では、現代の社会のさまざまな問題について学ぶための基礎知識の習得を目指しています。そのため、公共政策、地域社会分析、環境などの問題を学ぶために必要な社会科学、自然科学の科目を提供しています。必修科目としては社会創生学や経済学、社会学、生命科学などがあります。選択必修科目の「生命科学基礎実験」は、生命科学分野の基礎的な実験を行うものですので、環境共生コースを希望する学生は、1年次で必ず履修してください。1年次の終わりに環境共生コースへの希望者が定員の30名を超えた場合は、「生命科学基礎実験」を履修していた学生の希望が優先的に取り扱われます。また化学の基礎、文系数学の基礎の履修も勧めます。

【コースコア科目について】

コースコア科目では、おもに環境に関した科目を学びます。環境政策学・環境倫理学といった社会系の

科目や、生態学・自然保護論といった理系の科目から構成されています。ここで学ぶ科目は環境共生コースのカリキュラムの中心となる科目ですので、なるべく多くの科目を履修することを勧めます。

【コース選択専門科目について】

コース選択科目ではこれまで学んできた内容の上に、さらに深く掘り下げた内容の学習を行います。ここには生化学や細胞情報学、系統分類学などの生命科学系の科目や、分析化学や有機化学などの化学系の科目、社会系の科目、そして環境共生実験、環境共生セミナーなど多くの科目が含まれます。さまざまな分野の科目がありますが、教員と相談するなどして、卒業研究や将来自分が進みたい分野に必要な科目を積極的に履修してください。なお生命科学系の科目の多くでは、同じ教科書(Essential細胞生物学・南江堂)の内容に沿って講義をしますので、購入しておくとい良いでしょう。

【履修パターンについて】

環境共生コースで履修する分野は非常に広範囲です。すべての分野の科目を履修することは不可能ですが、自分の進みたい分野の科目は過不足なく履修する必要があります。ここでは環境共生コースで学ぶことができる代表的な研究分野と、コースコア科目、コース選択科目、総合科学テーマ科目、自由選択科目などから各研究分野で必要とされる科目を簡単に紹介します。なお、ここで紹介されている履修パターンの複数を選択することも可能です。さらに詳しい履修パターンに対する質問は、直接教員にお願いします。

・履修パターン1

生命現象のしくみの基礎に興味のある人向けです。科目としてはコース選択科目の「生化学」、「発生学」、「分子生物学」、「適応進化学」などを履修しましょう。

・履修パターン2

生態系やフィールドワークに興味のある人向けです。コースコア科目の「生態学Ⅰ」、「自然保護論」、コース選択科目の「生態学Ⅱ」、「系統分類学」などを履修しましょう。

・履修パターン3

環境中や食料品に存在する物質、あるいは微生物が作り出す物質が生物に対して与える影響に興味のある人向けです。コース選択科目の「物質作用・影響評価」、「活性物質生理学」、「機能物質作用学」、「生体物質影響学」などの科目を履修しましょう。

・履修パターン4

環境との共生を目指すアプローチとして生物資源由来の化合物、物質の循環、環境の分析に興味のある人向けです。コース選択科目の「生物有機化学」、「天然物化学」、「環境機器分析化学」などと化学系基礎科目および自由選択科目として総合数理学科から提供される「化学基礎実験」、「有機化学Ⅱ」や化学系の講義も積極的に履修しましょう。

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
総 合 理 数	数 理 科 学	35 名

I. 数理科学コースとは

数理科学コースでは、数学や情報科学の教育研究を通して数理科学的思考能力を身に付け、一般職や公務員をはじめ教育、開発、研究、金融、情報関連分野などあらゆる業種・職種で活躍できる柔軟な発想と抽象的・論理的思考ができる人材の育成を目的としています。そして、卒業後には地域社会や国際社会の中で指導的な役割を果たすことができる人へと成長していけるような人材の育成を目指しています。

II. 教育目標

上記教育目的を達成するために、教育課程の中で以下の能力を備えた人材を育成することを目指しています。（ ）内は、目標を実現するための授業科目等です。

【総合的能力】

1. 広い視野、深い教養、豊かな人間性（共通教育）
2. しっかりとした職業観、自己責任の観念、高い倫理観（学部共通）
3. 相手の言うことを正確に聞きとり、自分の考えを適切に伝えることができる（基礎ゼミ、キャリアプラン入門Ⅱ、演習科目全般、卒業研究）
4. 主体的に問題を発見、設定し、解決に導くことができる（基礎ゼミ、キャリアプラン入門Ⅱ、卒業研究）
5. 問題とその解決方法、および、解決結果を明確かつ論理的に表現できる（基礎ゼミ、キャリアプラン入門Ⅱ、演習科目全般、卒業研究）
6. 生涯にわたり自発的に学習する意欲をもつ（基礎ゼミ、キャリアプラン入門Ⅱ、卒業研究）

【専門的能力】

専門的能力は1年次から2年次にかけての期間で学習する基礎的な内容（主に学科共通科目やコースコア科目）と2年次から4年次にかけての期間で学習する発展的な内容（主にコース選択科目）それぞれに対して目標を設けています。

【1年次から2年次にかけて学習する基礎的な内容】

1. 外国語（英語）が基礎的なレベルで読み書きできる（共通教育）
2. 微分積分学、線形代数学など数学の基礎を十分に理解している（数理科学の基礎、微分積分・演習、線形代数・演習、数学基礎、代数基礎、複素解析）
3. 情報機器の仕組みを理解し、基本的な操作方法を習得して、情報の収集、整理、発信に活用できる（情報科学、プログラミング演習Ⅰ、計算機概論、情報数学）
4. 自然、社会、工学などにおける諸現象、諸問題を数理モデルとして定式化し、解析することができる（微分方程式）

【2年次から4年次にかけて学習する発展的な内容】

数理科学コースではコース選択科目の取り方によって数学を中心に学習するカリキュラムと情報科学を中心に学習するカリキュラムが作成可能です。

数学を中心に学習する場合は、普遍的な代数、幾何、解析の数理構造を学術的文献などを利用しながら以下に気をつけて学習します。

1. 数学の諸概念の発展を学び、文化としての数学の重要性を理解する
2. 数学の言語としての側面を理解し、数学記号を使いこなせる
3. 代数学、解析学、幾何学、確率・統計について、その理論体系を十分に理解している（代数学、解析学、幾何学、確率・統計）
4. 基本的な数学の定理を用いて演習問題が解ける
5. 数学の文献を読みこなし、厳密な定義から証明の論理展開を正確に追うことができる（数理科学演習、卒業研究）

情報科学を中心に学習する場合は、コンピュータによる応用数理（問題解決法）や情報関係技術とその応用を以下に気をつけて学習します。

1. 計算機構造、データ構造、アルゴリズムなど、情報科学の基礎技術を身につけている（計算機概論、プログラミング演習Ⅱ、データベース基礎論、情報の数理）
2. 情報システム管理、情報システム構築に関する基礎知識を修得している（データベース基礎論、最適化論、情報の数理）
3. 情報の計測や制御分野への応用力を修得している（制御概論）
4. コンピュータグラフィックスの基礎技術を修得している（コンピュータグラフィックス基礎論）
5. 問題を抽象化する能力、および、適切なデータ構造、アルゴリズムなどの選択能力を身につけている（情報科学演習、卒業研究）
6. 初学者（中・高生など）に情報機器の利用方法を指導できる

III. 履修上の要望事項

数理科学コースの提供する専門科目は十分に余裕のある構成になっています。したがって、履修科目を考える際に、数学に重点を置いた履修、情報科学に重点を置いた履修、あるいはそれらを総合した履修など、各個人が希望する履修方法が考えられます。コース教員のアドバイスを参考にしながら、系統的な履修計画を心がけてください。

【1年次で履修することが望ましい科目】

1. 学部共通科目：情報処理の基礎Ⅰ

学科共通科目：数理科学の基礎Ⅰ，Ⅱ，物理科学の基礎，化学の基礎，生命科学の基礎，地球科学の基礎

2. 高校数学Ⅲ・Ⅳを履修していない学生は全学共通教育の大学入門科目群「高大接続科目（数学）」、高校物理を履修していない学生は全学共通教育の大学入門科目群「自然科学入門（物理学）」

学 科 名	コ ー ス 名	受 入 可 能 数
総 合 理 数	物 質 総 合	45 名

I. 物質総合コースとは

物理学・化学・地球科学など自然科学は個別的なものではなく、互いに密接な関連を持っています。従って、特定の分野に偏ることなく、幅広く自然科学の基礎を身につけ、自然科学に関係する様々な場で活躍できる幅広い基盤的素養を身に付けた上で専門性を高めていくことを目標とします。

II. 教育目標

物質総合コースで勉強する学生は、基盤となる専門分野の学力を高めながら、幅広い視野に立った自然科学の発展に貢献することを学びます。狭い専門領域にとらわれずに、物理学、化学ならびに地球科学に関する基礎を学び、物質科学関連領域の基礎的学力と専門的素養を身につけます。これらの勉学を通じて、次のような人材の育成を目指します。

- ① 物質科学を総合的に理解するために基盤分野の専門性を高める。
- ② さまざまな科学技術分野における種々の問題に対して柔軟に対応できる。
- ③ 広い視野を有し、基盤的な分野はもちろん、応用的な分野にも進出可能な知識を身につける。

III. 履修上の注意事項

【学科共通科目について】

学科共通科目は、総合理数学科の学生にとって大切な、各分野の基礎的な講義ならびに実験・演習から構成されており、物質総合コースに所属する学生にとっては、特に重要な科目が多く含まれています。したがって、12単位以上という必要最低単位数に留まらずに、できるかぎり多くの分野にわたって履修することが望まれます。

【コース専門コア科目】

コース専門コア科目は、物理学・化学・地球科学それぞれの専門性を高めるための基礎となる科目であり、できるかぎり多くの分野にわたって履修することが望まれます。

【コース専門選択科目】

コース専門選択科目は、物理学・化学・地球科学それぞれの専門性をより高めるために必要な科目です。

物 理 系：力学Ⅱ，電磁気学Ⅱ，熱統計力学Ⅱ，放射線科学，量子力学Ⅱ，物性科学，量子物質科学，宇宙科学，物理学実験Ⅰ・Ⅱ

化 学 系：無機化学Ⅱ，有機化学Ⅱ，物理化学Ⅱ，分子化学反応論，生物有機化学，環境機器分析化学，天然物化学，化学実験Ⅰ・Ⅱ

地球科学系：地球表層構造形成論，物質構造解析学，環境地質学，地球科学実験Ⅰ・Ⅱ

【自由選択科目】

社会創生学科で開設されている環境科学系の科目は、物質総合コースでの勉学に深く関連する科目がありますので、自由選択科目として積極的に履修してください。

受講することが望ましい科目：グリーンケミストリー，環境物質循環論，環境リスク論

[1年次で履修することが望ましい科目]

1. 学科共通科目の、数理科学の基礎Ⅰ，物理科学の基礎，化学の基礎，地球科学の基礎，生命科学の基礎
2. 高校数学Ⅲ・Cを履修していない学生は、全学共通教育の大学入門科目群「高大接続科目（数学）」，高校物理を履修していない学生は、全学共通教育の大学入門科目群「自然科学入門（物理学）」

[教員免許状を取得する場合に履修することが望ましい科目]

本コースの授業科目の中で、次の科目を履修することが望まれます。

力学Ⅰ，電磁気学Ⅰ，熱統計力学Ⅰ，無機化学Ⅰ，物理化学Ⅰ，有機化学Ⅰ，分析化学Ⅰ，地球表層環境論

3. 学生生活を充実させるために

総合科学部では、皆さんが充実した学生生活を送ることができるように、様々な支援体制をとっています。以下では、そうした情報や学生生活を送る上での注意事項を紹介しています。授業料免除や留学に関することなど、皆さんに知っておいてほしい情報もありますので、よく目を通し、有意義な学生生活を送るようにして下さい。

なお、学務部発行の『学生生活の手引』も併せてよく読んでおいてください。

学生への連絡方法／大学の連絡先

皆さんに対する通知や連絡（講義室の変更、試験、休講、呼び出しなど）は、すべて掲示によって伝えられます。常に所定の掲示板（全学共通教育については共通教育4号館1階、専門教育については総合科学部1号館学務係前および1号館前）を一日に一回は必ず見るようにして、自己に不利な結果を招かないように注意してください。また、総合科学部のホームページ（<http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>）や、学生用教務事務システムにも主要な事項が掲載されています。

大学への問い合わせや緊急連絡等が必要な場合には、総合科学部学務係まで連絡してください。

◎総合科学部学務係（総合科学部1号館1階西棟） TEL. 088－656－7108

学生証の交付

学生証は、本学の学生であることの証明ですから、常に携帯してください。学生証を所持していないと、講義室、研究室、図書館、情報化推進センターなどの本学諸施設が利用できなかったり、証明書等の交付や試験が受けられない場合があります。紛失した場合には、直ちに学生証汚損（紛失）届に写真（更新する場合のみ）を添え、学務部教育支援課で再交付を受けてください。（徳島大学学部共通細則第7条～第11条『学生生活の手引』関係諸規則参照）

学生支援体制について

総合科学部では、留学生・社会人・帰国子女・編入生を含むすべての学生の大学生活を支援する体制を組織的に整えています。

授業の履修や学習等の支援については「教務委員会」、学生生活の支援については「学生委員会」、将来の進路や就職に関わる支援については「就職委員会」が中心になって担当しています。

みなさんは2年次からいずれかの「コース」に所属することになりますが、各コースに教務委員（1名）、学生委員（1名）、就職委員（1名）を配置しています（具体的には「コース担当教員一覧表」を見て下さい）。また、1年生については、「1年次指導教員」（教務委員1名、学生委員1名）を置いています。何かわからないこと、気になることがあれば、担当の教務委員・学生委員・就職委員の教員に遠慮なく相談してください。

どこに相談してよいかわからないときは、総合科学部学務係に尋ねてください。

総合科学部学務係（1号館1階西棟）

TEL 088-656-7108 FAX 088-656-9314

E-mail: skgakumk@tokushima-u.ac.jp

オフィスアワー

総合科学部の教員が、毎週決まった曜日・時間に研究室で皆さんの相談に応じています。また、相談内容によっては、専門分野の先生方を紹介しています（詳しくは、総合科学部のホームページ、シラバスおよび各教員研究室のドアの表示をご覧ください）。

就職幹旋・就職情報

将来の進路とキャリア教育について

将来の進路（就職・進学）をどうするかは、学生生活で最大の課題です。就職・進学それぞれの進路には、それなりの準備と能力が求められます。早めに自分の将来設計（キャリアデザイン）を立て、その実現に向けての努力も必要になります。

総合科学部では、そうした皆さんの将来設計を支援するキャリア教育プログラム『自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム』を、平成23年度から工学部と共同で実施しています。巣立ちプログラムでは、1年次の前期に「キャリアプラン入門Ⅰ」、後期に「キャリアプラン入門Ⅱ」という必修科目を履修することになります。これらの科目では、大学での学びの意義や方法を学修するとともに、社会人基礎力（人間力・就業力）やキャリアデザイン設計について学びます。コース分属後の2年次以降も、「キャリアプランⅠ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「短期インターンシップ」という授業科目から1単位以上を履修することになりますので、自らの専門分野を深める中で、将来設計の一助としてください。

就職委員会

就職については、各コースの就職委員（教員）で組織する就職委員会を中心に、企業開拓、情報収集、就職説明会・講演会、就職相談、助言指導、進路調査などにあたっています。就職委員は皆さんの進路選択へのアドバイスも行っていますので、将来設計についても積極的に相談してください。就職は人生の一大選択です。家族や指導教員、就職委員、あるいは就職支援センターの職員や相談員などともよく相談しながら、悔いのない選択をしてください。

なお、民間企業を中心とした就職ガイダンスやセミナー、企業説明会、求人紹介などは、全学組織である「就職支援センター」を中心に実施していますが、総合科学部就職委員会ではこのほかに、総合科学部学生にニーズが高い公務員や教員などの試験対策や卒業生との懇談会なども行っています。学生の皆さんは、早い段階からこうした取組に積極的に参加し、自らの意識を高めるように心がけてください。

就職相談室

総合科学部では独自に就職相談室を設けており、キャリアコーディネーターが現在も県内において、より一層の求人開拓を行っています。就活のワンポイントアドバイスを始め、県内・四国内企業就職希望者への情報提供、経済・雇用状況についての分析もしています。

相談室で得られた情報は、各コースの就職委員を通じて掲示されますのでご覧下さい。

また就職相談室では皆さんの就職相談、企業紹介、履歴書・エントリーシートの書き方、添削指導、企

業研究、面接方法と言った個人指導も行っています。

3年生後期になって実際の就職活動が始まってみると戸惑う人も多いのですが、ベテランキャリアコーディネーターの助言は必ず皆さんの役に立つと思います。少しでも就職活動を有利に進めるために、是非とも就職相談室を御利用ください。

また1・2年の皆さんも、将来に向けて役立つ情報を提供しておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

就職支援センター

就職に関する情報は、就職支援センター（共通教育4号館1階）で得ることができます。ここでは、みなさんが将来の進路を考える参考になるように、全国の企業・事業所および公務員試験・国家試験等の就職情報が整理されており、必要に応じて自由に閲覧できるようになっています。

また、就職相談員が皆さんの相談に応じていますので、3・4年生のみならず1・2年生のみなさんも気軽に相談してください。一人で悩んでいるより相談する方が、良い結論が導き出されることはいうまでもありません。なお、就職支援センターには次のような資料等があります。

- 企業からの求人票・会社概要
- 地方別企業ガイドブック
- 公務員等受験案内
- 教員採用試験案内
- 就職関係図書
- 各種就職雑誌（日本経済新聞・受験ジャーナル・教職課程・教員養成セミナー等）
- 卒業生の就職先一覧
- 卒業生から後輩への就職についてのアドバイス綴
- 就職支援センターが発行している就活関連冊子等
- 就職情報検索のためのパソコン
- コピー機

定期健康診断

毎年4月～5月に健康診断を実施していますので、**全員必ず受診してください**。また、4年次学生で就職活動などに必要な健康診断証明書は、定期健康診断受診者に対して保健管理センター又は学務部学生生活支援課で発行しています。発行日程等は掲示により通知します。

休学および退学の手続きについて

1) 手続きについて

休学又は退学をしようとする者は、保証人（保護者）や指導教員と良く話し合った上で、所定の用紙に必要事項を記入の上、保証人と指導教員が承認署名したものを学務係に提出してください。休学退学いずれも、随時受け付けます。

2) 授業料の免除について

休学して次の期の授業料免除を希望する場合は、9月第1水曜日または3月第1水曜日までに申し出てください。ただし10月第1水曜日または4月第1水曜日までに申し出た場合は、翌月分から休学期

間に応じた月割り計算で授業料が免除されます。これらの期日を過ぎれば、休学しようとする期の授業料を納付しなければなりません。

退学の場合は9月第1水曜日または3月第1水曜日までに申し出てください。授業料未納者の退学願は受理できません。

授業料納付および授業料免除

1) 授業料納付

授業料は前期（4月から9月）分を4月末日までに、後期（10月から翌年3月）分を10月末日までに納入しなければなりません。

なお、申出により、前期分納入の際、後期分も納入することができます。

授業料の納入方法として、本学では、窓口での納入に替えて、指定金融機関（阿波銀行・三菱東京UFJ銀行・四国銀行・徳島銀行の各本・支店、ゆうちょ銀行）より、学生又は保証人名義の預金口座から引き落として、大学へ納付する「口座振替制度」を実施しています。

■注意事項

- ① 授業料口座振替申込書は合格通知書に同封されています。
- ② 正当な理由もなく納付を怠り、催告しても、なお、納付しない者は学則28条第2号により除籍されます。

2) 授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業成績ともに優れていると認められる者などには、授業料の全額または半額が免除されることがあります。授業料免除を希望する者は、学務部学生生活支援課で申請書の交付を受け、所定の期間内に提出してください。

ア. 授業料免除提出期日

前期分 3月上旬～中旬（2月上旬に掲示）

後期分 9月上旬～中旬（7月下旬に掲示）

イ. 提出書類

- ① 授業料免除申請書 ② 家庭調書 ③ 市町村長の証明した生計状況調査書
- ④ その他必要書類

授業料免除の申請基準は？

授業料免除の申請時には、経済的な理由だけでなく、学業成績も審査の対象となります。1年次学生は高校の成績が3.5以上、2年次以降の学生は標準修得単位数（2年32単位、3年64単位、4年96単位以上）を取得したうえで、前年度までの学業成績が、学科の同学年で上位1／2以上であることが必要です。成績の算出にあたっては、履修した科目の成績に単位数を掛けた値を合計し、総単位数で除した数値を用います。ただし、成績が60点未満の場合や、履修届を出したにもかかわらず試験等を受けなかった科目については「0点」とカウントされますので注意して下さい。

学術交流協定校等への留学及び語学研修制度

徳島大学は海外大学と学術交流協定を結んでいます(大学院生対象分も含む)。協定締結校等への留学のための奨学金制度もあります。詳細は研究国際部国際課(共通教育4号館1階, TEL 656-7082), 留学支援委員 佐久間(E-mail sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp)に問い合わせてください。カルチャー・ラウンジ(1号館北棟3階)でも資料を閲覧できます。協定締結校の中には**指定された語学試験で一定の成績を課している場合があります**。また、選考にあたっては**学業成績が考慮されることもあります**ので、留学を希望する学生は計画的に準備をしておいてください。

なお、「外国留学願」は出発の2ヶ月前までに研究国際部国際課に提出すること。また、留学により修得した単位の本学部での認定については、「10 留学及び外国語技能検定試験による単位認定」(45頁)を参照してください。

1) 学生交流協定締結校への留学

- ① フロリダアトランティック大学(アメリカ合衆国)
- ② 武漢大学(中国)
- ③ 復旦大学(国際文化交流学院)(中国)
- ④ 韓国海洋大学校(韓国)
- ⑤ 慶北大学校(韓国)
- ⑥ オークランド大学(ニュージーランド)
- ⑦ 吉林大学(中国)
- ⑧ 西安交通大学(中国)
- ⑨ 南京大学(中国)
- ⑩ ルンド大学(スウェーデン)
- ⑪ ダブリンシティ大学(アイルランド)
- ⑫ 国立嘉義大学(人文芸術学院)(台湾)

などへの留学が可能です。

※毎年秋には留学制度の説明会を開催しています。

※慶北大学校では、7月末～8月初旬に「夏休み短期文化研修プログラム」が開催されています。募集は4月～5月頃に行う予定です。

2) 語学研修制度

- ① 南イリノイ大学 Center for English as a Second Language(アメリカ合衆国)
派遣期間: 8月～9月(4週間程度)
募集期間: 5月～6月
費用: 50万円程度
- ② オークランド大学 English Language Academy(ニュージーランド)
派遣期間: 3月(3～4週間程度)
募集期間: 10月～11月
費用: 30万円～40万円程度

③ モナシュ大学 English Language Centre (オーストラリア)

派遣期間：8月～9月, 3月 (3～4週間程度)

募集期間：5月～6月, 10月～11月

費用：30万円～40万円程度

④ 復旦大学 国際文化交流学院 (中国)

派遣期間：8月 (4週間程度)

募集期間：5月～6月

費用：20万円程度

3) 留学及び語学研修に対する援助

① 「徳島大学国際教育研究交流資金」に基づく学生の海外留学に対する援助事業

派遣期間：1ヶ月以上12ヶ月以内

奨学金：月額3～5万円 (旅費は支給されない)

応募締切：4～5月頃

採択数：若干名 (徳島大学)

応募資格：学部2年生以上, または大学院生。協定校への留学を優先する。

② 「徳島大学学生後援会」による学生の海外派遣支援助成

派遣期間：28日以上

奨学金：大学院生 5万円

学部学生 3万円 ※1度の派遣につき1回限り

応募締切：随時

採択数：15人程度

応募資格：留学願書を提出し, 所属学部教授会で留学承認された者で他の団体等から旅費等の援助を受けていない者。学年は問わない。

③ 上記以外に援助が出る場合もありますので, 研究国際部国際課に問い合わせせてみて下さい。

留学生のための奨学金制度

私費留学生が応募できる奨学金には下記のようなものがあります。

・日本学生支援機構による私費外国人留学生学習奨励費

申請時期：3月末～4月初旬

・徳島大学国際教育研究交流資金による外国人留学生に対する奨学金事業

申請時期：3月～5月頃

・国内採用による国費外国人留学生制度

申請時期：10月

・各種民間財団による奨学金

詳細については研究国際部国際課に問い合わせてください。

奨学金制度

人物・学業ともに優秀で、かつ経済的理由から就学が困難と認められる者には、選考の上、日本学生支援機構から**第1種奨学金（無利子貸与）**、**第2種奨学金（有利子貸与）**が貸与されます。ただし、学業成績が著しく不良な者は、奨学金の貸与が停止になることがあります。

これ以外にも、地方公共団体および民間奨学会による奨学金制度があります。募集等の条件は、団体により種々異なり、大学を通して応募するものと団体へ直接応募するものがあります。

奨学生の募集は掲示により通知しますので、希望者は学務部学生生活支援課（共通教育4号館1階）へ申し出てください。（詳細は学務部発行の『学生生活の手引』を参照のこと）

賞罰（表彰など）

学業や課外活動、社会活動において高い評価を受けた学生は、「徳島大学学生表彰」を受けることがあります。また、学業・人物が優秀な学生は「康楽賞」による表彰制度もあります。一方、本学学生としての本分に反した者は、退学・停学などの懲戒処分を受ける場合があります。（「徳島大学学則第51・52条」）

1）徳島大学学生表彰

「徳島大学学生表彰要項」にもとづいて推薦されますが、表彰を受ける基準は次のようになっています。該当者は学務部学生生活支援課（共通教育4号館1階）まで申し出てください。

- ① 学業その他において得られた成果が、学会又は国内外の公的機関等において表彰された者
- ② 全国規模のスポーツ競技会等において3位以内に入賞した者
- ③ 西日本大会等において優勝した者
- ④ 中・四国大会等において優勝した者
- ⑤ 四国地区大学総合体育大会（通称インカレ）において優勝した者
- ⑥ 文学、絵画、彫刻、音楽、演劇等の芸術・文化活動で作品・公演等が、全国規模の審査等で賞を受けた者
- ⑦ ボランティア活動、人命救助、犯罪または火災防止等で、国内外の公的機関等において表彰された者

2）総合科学部学生表彰

総合科学部では、学業成績（GPA：4ページ参照）が優秀であった3年生及び4年生を「総合科学部学生表彰要項」に基づいて表彰します。

3）康 楽 賞

本学には、康楽会から贈られる**康楽賞**（学術研究と奨学金の2種類）の制度があります。いずれも、各年度の卒業年次学生に対して優先的に授与されます。募集は毎年7月頃に掲示により通知されますので、希望者は推薦書などの所定の書類を揃えて学務部学生生活支援課へ提出してください。

康楽賞（学術研究）は人物および学業成績が優秀で、卒業研究などで優れた研究成果等をあげた者（3件）に賞状と賞金（3万円）が授与されます。応募時には研究報告書が必要です。また、康楽賞（奨学金）は学業成績が優秀で、経済的に困難である者（3名）に賞状と賞金（5万円）が授与されます。

4）試験等における不正行為について

試験において不正行為をした者は、その学期中に履修した全授業科目の成績が取り消されたうえ、「徳島大学学則」にもとづいて懲戒処分を受けることになります。また、当該学生は、所定の授業科目を

学期を改めて履修し直さなければならなくなります。〔試験における学生の不正行為に対する措置要項〕

レポートにおいて、インターネット上のウェブサイトから他人の意見をコピー＆ペーストし、引用元を明らかにすることなく自分の意見のように書く行為は、不正行為に該当し、「徳島大学学則」の規定による懲戒の対象となる場合があります。

学業成績も考慮されます！

授業料免除と同様に、学生交流協定締結校への留学や、奨学資金・康楽賞の応募には、「学業成績が優秀」であることも条件となっています。各選考の学業成績基準は若干異なりますが、1) 1年次の場合には高校の成績が3.5以上、2年生以上は標準修得単位数(2年32単位、3年64単位、4年96単位以上)を取得したうえで、2) 成績が学科の同学年で上位1/2以上か、3) 修得単位ごとの各科目の成績に〔優5/良3/可1〕の数字を乗じ、その総和を総単位数で除した成績が3.0以上であることが、一つの目安になります。

身上調書に記入した事項の変更届について

身上調書に記入した事項を変更した場合は1週間以内に学務係へ届けてください。

学部内施設の使用法

1) 運動場及びテニスコートの使用について

- (1) 使用の受付は総合科学部学務係が担当しています。
- (2) 使用調整のため、前期・後期に使用の希望調査(仮予約)を実施します。
 - ・希望調査は「希望調査表」を学務係に提出して下さい。
- (3) 希望調査期間等は、それぞれの学期の初めに掲示板に掲示し周知します。
- (4) 「希望調査表」に基づき「使用日の仮予約」を学務係が行います。
- (5) 使用責任者は、仮予約後に実際に使用する場合は必ず使用日の3日前までには、「運動場及びテニスコート使用願」を学務係に提出して下さい。
- (6) 仮予約をしていない使用予定者は学務係で「使用状況表」を確認し、施設の空いている日を「運動場及びテニスコート使用願」に記入の上提出して下さい。
- (7) 施設の使用に当たり、「運動場及びテニスコート使用許可書」を交付します。

なお、使用に当たっては次の使用条件を遵守し学務係員の指示に従って下さい。

 - ① 火気を使用してはならない。
 - ② 設備品は丁寧に取り扱い、移動させないこと。
 - ③ 施設周辺の駐車場・通路等の利用者及び車等にはよく注意し使用して下さい。
 - ④ 使用後は後始末を十分に行うこと。
 - ⑤ 上記の使用条件に違反した場合は、直ちに使用を停止し、また、その後の使用を許可しないことがある。

学生控室の使用法

ゼミナール室は、空いている時間帯に限り学生控室として使用することができます。

掲示物の申請方法

学生個人または団体が総合科学部の掲示板を利用しようとするときは、掲示物を総合科学部学務係へ提出して許可を受けなければなりません。掲示期間は7日間です。期限後は、責任者が掲示物を撤去してください。（徳島大学学部共通細則取扱内規の第5～7条）

構内での喫煙

キャンパス内は原則禁煙。

常三島キャンパスでは、非喫煙者の受動的喫煙による不快感を解消し、その健康被害を予防するために、建物内を全面禁煙としています。喫煙場所は生協前の憩い広場（喫煙コーナー）のほか指定された場所で行ってください。

構内の交通規制

交通事故防止のため構内では自転車、オートバイ、自動車等の車両の通行が規制されていますので、次の事を厳守してください。

1) **自転車**は自転車置場に整然と駐輪してください。

2) **オートバイ**

ア. オートバイの構内走行は禁止しています。

イ. オートバイは必ずオートバイ専用置場に駐輪してください。

3) **自動車**

ア. 公共交通機関を利用して通学するのが原則であるが、交通が不便、かつ、通学距離が片道10km以上で、公共交通機関による通学が著しく不便である第4年次生（卒業研究受講資格者に限る。）で、自動車通学を希望する学生は、駐車許可申請書を総合科学部総務係へ提出してください。選考の上、駐車許可証を発行します。なお、駐車許可証の発行は年1回で、申請時期は4月を予定しており、詳細は掲示で通知します。

イ. 駐車許可証の交付を受けた者の駐車場は、附属図書館南側の第1駐車場です。入構時には、駐車許可証を車外から確認できるようにしてください。

ウ. 休日や休業期間も含め、総合科学部構内への学生の乗り入れは一切禁止しています。

交通事故に遭ったとき

日頃から交通安全及び交通規則の遵守を心掛けてください。万一、学内外で交通事故が発生し、事故の当事者になった場合は、すみやかに以下へ届けてください。

- | | | |
|---------|----------|------------------|
| ・平日昼間 | 総合科学部学務係 | TEL 088-656-7108 |
| ・平日夜間休日 | セコム | TEL 088-655-4001 |

Ⅱ．規 則 集

1. 徳島大学総合科学部規則

第1章 総則

(通則)

第1条 徳島大学総合科学部（以下「本学部」という。）に関する事項は、徳島大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

2 学則及びこの規則に定めるもののほか、本学部に関する事項は、本学部教授会が定める。
(教育研究上の目的)

第1条の2 本学部は、人文、社会、自然諸科学の教育及び研究を通じて、学生の教養と自立心を涵養し、現代社会の諸問題について、専門的な分析能力と総合的な判断力を兼ね備えた人材の育成を目的とし、人類の福祉と文化の向上に貢献することをめざす。

2 人間文化学科は、人文科学における専門知識や専門技能、技術を身につけ、現代社会の諸問題に対応し得る幅広い視野を有する人材育成を目的とする。

3 社会創生学科は、地域・情報・環境・政策等に関わる諸科学を学び、それらを総合して、環境と共生する望ましい社会や地域の創生に向けて貢献できる人材育成を目的とする。

4 総合理数学科は、数理科学・物質科学に基づき現代社会、特に科学技術分野の諸問題を、幅広い視野から解決する能力を身につけた人材育成を目的とする。

第2章 入学者選考

(入学者選考)

第2条 本学部の入学者の選考は、学則の定めるところによって行うものとする。

第3章 教育課程及び履修方法

(コース)

第3条 本学部の各学科に次のコースを置く。

人間文化学科

国際文化コース

心理・健康コース

社会創生学科

公共政策コース

地域創生コース

環境共生コース

総合理数学科

数理科学コース

物質総合コース

(コースの決定及び変更)

第4条 本学部の学生は、前条に掲げる所属学科の各コースのうち、いずれか一つを専攻するものとする。

2 前項のコースの決定時期は、第2年次の初めとする。

3 第1項のコースを変更しようとするときは、第2年次以降の学年末に、所定の願書を本学部長に提出しなければならない。

4 前項の願出については、教育上支障がない場合に限り選考の上、許可することがある。

(教育課程)

第4条の2 本学部の教育課程は、全学共通教育の授業科目（以下「共通教育科目」という。）及び専門教育の授業科目（以下「専門教育科目」という。）により編成する。

(共通教育科目の履修等)

第4条の3 共通教育科目の履修等に関することは、徳島大学全学共通教育履修規則（以下「共通教育履修規則」という。）の定めるところによる。

2 共通教育履修規則第5条に定める履修要件は、別表第1のとおりとする。

(専門教育科目)

第5条 専門教育科目は、学部共通科目、学科共通科目、コース専門コア科目、コース専門選択科目、総合科学テーマ科目、自由選択科目及び卒業研究に区分する。

2 専門教育科目及びその単位数は、別表第2のとおりとする。ただし、自由選択科目は、同表に掲げる授業科目のうち、本学部長の指定する

授業科目を選択するものとする。

3 他の学部に属する専門教育科目は自由科目とし、これを履修することができる。

4 前項の規定により修得した単位は、20単位を超えない範囲で本学部における修得単位として認定することができる。

(履修手続)

第6条 専門教育科目を履修するためには、所定の期日までに当該専門教育科目担当教員に受講申請し、承認を受けるものとする。

第7条 第5条第3項の規定により履修するためには、本学部長を経て関係学部長の許可を得た後、当該専門教育科目担当教員に受講申請するものとする。

(進級要件)

第7条の2 上級学年に進級するためには、本学部長が別に定める要件を満たさなければならない。

(卒業研究)

第8条 卒業研究を行うには、各コースにおいて必要と認めた授業科目について、その単位を修得していなければならない。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第9条 他の大学若しくは短期大学の授業科目を履修しようとする者又は外国の大学若しくは短期大学へ留学を志願する者は、所定の願書を本学部長を経て学長に提出し、許可を受けなければならない。

(単位の認定)

第10条 前条の規定により許可を受けた者（以下「派遣学生」という。）が他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学で修得した単位の認定は、当該大学又は短期大学が発行する成績証明書により行う。

2 大学以外教育施設等における学修に基づく単位の認定は、大学以外の教育施設等が発行する成績証明書等により行う。

(履修報告書)

第11条 派遣学生は、履修を終えたときは、速やかに（外国の大学又は短期大学に留学する者については、帰国の日から1月以内）、所定の履修報告書を本学部長を経て学長に提出しなければならない。

第4章 試験、卒業、教員の免許状及び学芸員の資格

(試験)

第12条 授業科目の試験は、原則として定められた試験期間に行う。ただし、演習、実験及び実習については、試験を行わないことがある。

2 授業科目の試験を受けるには、授業時間数の3分の2以上出席していなければならない。

(成績)

第13条 試験及び卒業研究の成績は、100点をもって満点とし、60点以上をもって合格とする。

2 成績は、優（80点以上）、良（70点以上）及び可（60点以上）に区分する。

(追試験)

第14条 病気その他やむを得ない事情のため、定められた期日に受験できなかった者は、その学年末までに追試験を受けることができる。

(再試験)

第15条 試験を受けて合格しなかった者は、その学年末までに再試験を受けることができる。

(卒業)

第16条 本学部を卒業するためには、次の単位を修得しなければならない。

人間文化学科

教育課程	授業科目区分	単 位 数
共通教育科目		35 単位
専門教育科目	学部共通科目	13 単位以上 (ただし、選択必修Aから2単位必修、選択必修Bから4単位必修、選択必修Cから1単位以上必修)
	学科共通科目	12 単位以上
	コース専門コア科目 コース専門選択科目	42 単位以上 (ただし、国際文化コースは、コース専門コア科目が12単位以上、心理・健康コースはコース専門コア科目が10単位以上)
	総合科学テーマ科目	10 単位以上
	自由選択科目	別表第2に掲げる授業科目から14単位以上
	卒業研究	6 単位
	計	97 単位以上
合 計		132 単位以上

社会創生学科

教育課程	授業科目区分	単 位 数
共通教育科目		35 単位
専門教育科目	学部共通科目	13 単位以上 (ただし、選択必修Aから2単位必修、選択必修Bから4単位必修、選択必修Cから1単位以上必修)
	学科共通科目	12 単位以上
	コース専門コア科目 コース専門選択科目	42 単位以上 (ただし、公共政策コースと地域創生コースは、コース専門コア科目が10単位以上、環境共生コースは、コース専門コア科目が14単位以上)
	総合科学テーマ科目	10 単位以上
	自由選択科目	別表第2に掲げる授業科目から14単位以上
	卒業研究	6 単位
	計	97 単位以上
合 計		132 単位以上

総合理数学科（各コース共通）

教育課程	授業科目区分	単 位 数
共通教育科目		35 単位
専門教育科目	学部共通科目	13 単位以上 (ただし、選択必修Aから2単位必修、選択必修Bから4単位必修、選択必修Cから1単位以上必修)
	学科共通科目	12 単位以上
	コース専門コア科目 コース専門選択科目	42 単位以上 (ただし、コース専門コア科目が14単位以上)
	総合科学テーマ科目	10 単位以上
	自由選択科目	別表第2に掲げる授業科目から14単位以上
	卒業研究	6 単位
	計	97 単位以上
合 計		132 単位以上

(教員の免許状)

第17条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については、本学部長が別に定める。
(学芸員の資格)

第17条の2 学芸員となる資格を取得しようとする者は、博物館法（昭和26年法律第285号）及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の単位を修得するために必要な授業科目及び履修方法については、本学部長が別に定める。

第5章 転学部、転学科並びに再入学及び補欠入学

(転学部)

第18条 学則第22条の3の規定により本学部に転学部を願い出た者があるときは、教育上支障がない場合に限り選考の上、許可することができる。

2 転学部を許可する時期は、入学後1年以上を経過した学年の初めとする。

3 転学部を許可した学生を在籍させる年次は、本学部教授会の議を経て定める。

4 転学部を許可した学生の既修得単位の認定は、本学部教授会の議を経て定める。

(転学科)

第18条の2 学則第22条の4の規定により転学科を願い出た者があるときは、教育上支障がない場合に限り選考の上、許可することができる。

2 前条第2項から第4項までの規定は、前項の転学科を許可する場合に準用する。

(再入学及び補欠入学)

第19条 学則第21条の5及び第22条の規定により入学した者の在学期間及び既修得単位の認定については、次のとおりとする。

(1) 在学期間は、第2年次に入学した者は6年、第3年次に入学した者は4年とする。

(2) 既修得単位の認定は、本学部教授会の議を経て定める。

附 則

1 この規則は、平成25年4月1日から施行する。

2 平成24年度以前に入学した者並びに平成25年度に転学部、再入学又は補欠入学する者及び平成26年度に第3年次に転学部、再入学又は補欠入学する者については、改正後の別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第1

共通教育科目の履修要件

人間文化学科、社会創生学科

区 分	授 業 科 目	所要単位数	
大学入門科目群	大 学 入 門 講 座	1 単 位	
教 養 科 目 群	歴 史 と 文 化 人 間 と 生 命 生 活 と 社 会 自 然 と 技 術	4 単位 4 単位 4 単位 4 単位	左に 加え 2 単位
	ウ エ ル ネ ス 総 合 演 習 共 創 型 学 習	2 単位	
基盤形成科目群	英 語 以 外 の 外 国 語 科 目 情 報 科 学	8 単位 4 単位 2 単位	
合 計		35 単位	

区 分	授 業 科 目	所要単位数
大学入門科目群	大 学 入 門 講 座	1 単位
教 養 科 目 群	歴 史 と 文 化 人 間 と 生 命 生 活 と 社 会 自 然 と 技 術	4 単位 4 単位 4 単位 4 単位
社会性形成科目群	ウ エ ル ネ ス 総 合 演 習	2 単位
	共 創 型 学 習	
基盤形成科目群	英 語 以 外 の 外 国 語 科 学 情 報 科 学	6 単位 2 単位 2 単位
合 計		35 単位

	授 業 科 目	単 位 数
必修	基礎ゼミナールⅠ	2
	キャリアプラン入門Ⅰ	2
	キャリアプラン入門Ⅱ	2
選択必修A	科学と人間	2
	健康と福祉	2
選択必修B	情報処理の基礎Ⅰ	2
	情報処理の基礎Ⅱ	2
	国際交流・協力体験	2
	基礎英語講読Ⅰ	2
	基礎英語講読Ⅱ	2
	実用外国語基礎演習Ⅰ	2
	実用外国語基礎演習Ⅱ	2
選択必修C	キャリアプランⅠ	1
	キャリアプランⅡ	1
	キャリアプランⅢ	1
	短期インターンシップ	2

授 業 科 目	単 位 数
日 本 語 表 現 の 基 礎	2
文 化 研 究 の 基 礎	2
哲 学 ・ 思 想 の 基 礎	2
近 現 代 世 界 の 成 立 と 展 開	2
心 理 学 の 基 礎 I	2
心 理 学 の 基 礎 II	2
ヘルスプロモーションの基礎	2
健康体力科学の基礎	2

授 業 科 目	単 位 数
比較文化研究	2
比較文化論	2
地域交流史	2
比較社会論	2
世界経済論Ⅰ	2
国際関係論Ⅰ	2
実用外国語演習（英語）	8
実用外国語演習（中国語）	8
異文化間コミュニケーション	2

数	位	単	目	科	業	授
2			I	概	言	日
2			II	概	言	日
2			II	研	言	日
2			習	研	言	日
8			I	研	文	日
2			II	研	文	日
2			I	講	文	日
2			II	講	文	日
2			III	講	文	日
8			習	学	文	日
2			I	基礎	史	日
2			II	基礎	史	日
2			I	研	史	日
2			II	研	史	日
8			習	演	本	日
2			I	化	ア	東
2			II	論	ジ	東
2			III	講	ア	東
8			習	化	ア	東
2			I	研	古	考
2			II	研	古	考
2			III	研	古	考
8			習	基礎	ア	ア
2			I	基礎	ア	ア
2			II	研	ミ	英
2			I	研	ミ	英
2			II	研	ミ	英
2			III	研	ミ	英
2			IV	研	ミ	英
2			I	研	文	現
2			II	研	文	現
8			III	研	文	現
2			IV	研	文	現
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2			II	学	文	英
2			III	学	文	英
8			習	学	文	英
2			I	学	文	英
2						

コース専門コア科目

コース専門選択科目

学科共通科目

コース専門コア科目

コース専門選択科目

– 38 –

コース専門コア科目

地域創生コース

コース専門選択科目

環境共生コース

コース専門コア科目

環境共生コース

コース専門選択科目

授 業 科 目		単 位 数
生 化 学	子 生 物 学	2
分 生 学	登 生 学	2
		2

適	応	進	化	学	2
細	胞	情	報	学	2
保	全	生	物	学	2
環	境	源	利	学	2
分	資	策	用	学	2
環	境	化	学	学	2
グ	一	器	分	学	2
環	境	ケ	ミ	学	2
物	性	生	影	学	2
活	作	・	響	学	2
生	物	質	生	学	2
天	然	物	機	学	2
生	命	環	境	学	2
系	統	境	情	学	2
細	胞	分	理	学	2
機	能	生	作	学	2
生	体	質	影	学	2
環	境	生	実	学	2
環	境	生	実	学	2
環	境	生	ミ	学	2
環	境	生	合	学	2
環	境	生	合	学	2
財	政	政	学	学	2
福	祉	情	報	論	2
地	域	変	容	論	2
地	民	環	境	論	2
市	統	活	動	論	2
熱	機	化	学	論	2
無	理	化	学	論	2
無	機	化	学	論	2
有	機	化	学	論	2
有	学	基	礎	学	2
化	質	構	造	学	2
物	球	層	環	学	2
地	球	表	境	学	2
地	球	系	の	学	2
生	態	・	交	通	2
都	市	・	環	境	2
資	源	・	環	境	2
地	域	・	環	境	2
地	域	・	環	境	2
緑	の	デ	ザ	イ	2
環	境	を	考	え	2

総合理数学科
学科共通科目

授業科目							単位数		
数	理	科	学	の	基	礎	I	2	
数	理	科	学	の	基	礎	II	2	
物	理	科	学	の	基	礎	礎	2	
化	学	科	学	の	基	礎	礎	2	
生	命	科	学	の	基	礎	礎	2	
地	球	科	学	の	基	礎	礎	2	
プ	ロ	グ	ラ	ミ	ン	グ	演習	I	2
物	理	学	基	礎	実	験	験	2	
化	学	基	礎	実	験	験	験	2	
生	命	科	学	基	礎	実	験	2	
地	球	科	学	基	礎	実	験	2	

数理科学コース
コース専門コア科目

授業科目						単位数	
数	理	科	学	の	基	礎Ⅲ	2
数	分	積	分	・	基	礎Ⅱ	2
微	分	積	分	・	演	習Ⅰ	2

微	分	積	分	・	演	習	Ⅱ	2
線	形	代	数	・	演	習	Ⅱ	2
計	算	算	機	・	演	習	Ⅱ	2
情	一	タ	ベ	一	ス	基	Ⅱ	2
デ	一	タ	ベ	一	ス	基	Ⅱ	2

数理科学コース
コース専門選択科目

授	業	科	目	単	位	数
代	数	基	礎	Ⅰ	2	
代	数	基	礎	Ⅱ	2	
複	素	解	析	Ⅱ	2	
微	分	方	式	Ⅱ	2	
確	率	方	式	Ⅱ	2	
確	率	方	式	Ⅱ	2	
代	数	何	学	Ⅱ	2	
代	幾	何	学	Ⅱ	2	
幾	何	何	学	Ⅱ	2	
解	析	何	学	Ⅱ	2	
応	用	数	理	Ⅱ	2	
応	用	数	理	Ⅱ	2	
情	報	シ	ス	Ⅱ	2	
情	報	シ	ス	Ⅱ	2	
モ	デ	ラ	ミ	Ⅱ	2	
プ	ロ	グ	ン	Ⅱ	2	
制	値	御	概	Ⅱ	2	
数	適	計	算	Ⅱ	2	
最	適	化	論	Ⅱ	2	
コ	ン	ピ	ュ	Ⅱ	2	
情	報	総	合	Ⅱ	2	
経	商	法	法	Ⅱ	2	
数	理	科	学	Ⅱ	4	
情	報	科	学	Ⅱ	4	

物質総合コース
コース専門コア科目

授業科目				單位	數
力		學	I		2
電	磁	氣學	I		2
熱	統	力學	I		2
量	子計	學	I		2
無	子機	學	I		2
物	理機	學	I		2
有	析	學	I		2
分		學	I		2
地	球	物	學		2
地	球	環	質	科	2
地	球	層	境	科	2
地	球	表	構	形	2
地	球	表	造	成	2
			環	境	2
				論	2

物質総合コース
コース専門選択科目

授業科目				単位	数
物理学実験	I			2	
化学実験	I			2	
地球科学実験	I			2	
力学	II			2	
電気磁気学	II			2	
熱統計力学	II			2	
量子力学	II			2	
物理実験	II			2	
物性科学	II			2	
放射線科学	II			2	
量子物質科学	II			2	

宇	機	宙	科	学	2
無	理	化	学	II	2
物	機	化	学	II	2
有	機	化	学	II	2
生	境	器	分	学	2
環	然	物	析	学	2
天	子	化	化	学	2
分	物	有	反	学	2
生	境	物	機	論	2
環	境	リ	循	学	2
グ	リ	ン	ス	論	2
化	一	ケ	ミ	一	2
細	学	実	ス	II	2
環	胞	生	験	学	2
生	体	物	理	学	2
環	境	物	理	学	2
物	質	構	質	学	2
地	球	科	解	学	2
物	質	総	実	II	2
		合	ミ	一	4
		セ	ナ		

総合科学テーマ科目

授 業 科 目	単 位 数
比 較 文 化 論	2
地 域 経 済 と 社 会	2
日 本 界 際 経 済 論	2
国 際 会 動 心 文 理 学	2
社 運 健 康 行 動 論	2
地 域 一 健 バ 福 社 会	2
グ ロ 域 創 ル 社 生 論	2
地 域 政 策 策 論	2
地 域 文 化 化 論	2
共 デ 生 イ 社 ア 情 報 論	2
メ 報 術 社 会 と 情 報 倫 理	2
情 報 報 象 の の 数 数 理	2
現 数 源 境 エ ネ ル ジ ー 論	2
資 環 境 境 政 策 理 論	2
環 境 然 態 保 学 護	2
自 生 合 科 学 実 践 プ ロ ジ ェ ク ト	2
総 合 科 学 実 践 プ ロ ジ ェ ク ト 義	2

卒業研究

授 業 科 目	単 位 数
卒 業 研 究	6

2. 履 修 細 則

1 授業科目の科目区分

- (1) 授業科目は、全学共通教育科目及び専門教育科目に大別される。
- (2) 専門教育科目は、学部共通科目、学科共通科目、コース専門コア科目、コース専門選択科目、総合科学テーマ科目、卒業研究（必修科目）及び全専門教育科目の中から履修する自由選択科目（選択科目）とする。

2 科目区分と卒業に必要な単位数

詳しくは、17 コース別履修科目表を参照すること。

科目区分		学科	人間文化学科	社会創生学科	総合理数学科	単位数
全学共通教育科目	大学入門科目群	1 単位				35単位
	教養科目群	20 単位	20 単位	22 単位		
	社会性形成科目群					
	基盤形成科目群	14 単位	14 単位	12 単位		
専門教育科目	学部共通科目	13 単位以上 (ただし、基礎ゼミナール、キャリアプラン入門Ⅰ及びキャリアプラン入門Ⅱは必修。選択必修Aから2 単位必修、選択必修Bから4 単位必修、選択必修Cから1 単位以上必修)				97単位以上
	学科共通科目	12 単位以上				
	コース専門コア科目 コース専門選択科目	42 単位以上 (ただし、国際文化コースは、コース専門コア科目が12 単位以上、心理・健康コースはコース専門コア科目が10 単位以上) (詳細はコース別履修科目表を参照)	42 単位以上 (ただし、公共政策コースと地域創生コースは、コース専門コア科目が10 単位以上、環境共生コースはコース専門コア科目が14 単位以上) (詳細はコース別履修科目表を参照)	42 単位以上 (ただし、コース専門コア科目が14 単位以上) (詳細はコース別履修科目表を参照)		
	総合科学テーマ科目	10 単位以上				
	自由選択科目	14 単位以上				
	卒業研究	6 単位				
計		132 単位以上				

3 授業等に関する担当係及び掲示

全学共通教育科目に関する担当係は教育支援課共通教育係であり、関連事項は全学共通教育用の掲示板に掲示される。専門教育科目に関する担当係は総合科学部学務係であり、関連事項は総合科学部掲示板に掲示される。

4 履修要件と履修方法

(1) 単位の定義

授業時間数と単位の関係は、徳島大学学則第 30 条の規定に基づき下表のように定められている。十分な予習及び復習をしたうえで授業を受けることが、授業の理解と単位の修得のために必要となる。

単位の定義

大学設置基準に準拠（学則第 30 条）

科 目	1 単位の時間	内 容
講義・演習科目	45 時間	(予習 1 時間＋授業 1 時間＋復習 1 時間) × 15 回
実験・実習科目	45 時間	(予習・復習 1 時間＋授業 2 時間) × 15 回
卒 業 研 究		学修の成果を評価して定める

(2) 年間の履修単位数

- ① 1～3 年の各学年において 1 年間に履修する総単位数は、40 単位を標準とする。
- ② 4 年生については、卒業研究を含めて 10 単位以上を履修することを原則とする。

(3) 全学共通教育科目の履修要件と履修方法

全学共通教育科目の詳しい説明は、「全学共通教育履修の手引」を参照すること。

(4) 専門教育科目の履修要件と履修方法

① 学部共通科目

- ア 13 単位以上修得すること。
- イ 「基礎ゼミナール」、「キャリアプラン入門Ⅰ」及び「キャリアプラン入門Ⅱ」は必ず修得すること。
- ウ 選択必修 A から 2 単位、選択必修 B から 4 単位、選択必修 C から 1 単位以上を必ず修得すること。
- エ 13 単位を超えて修得した単位数については、自由選択科目の修得単位として自動的に算定する。

② 学科共通科目

- ア コース別履修科目表に従って 12 単位以上修得すること。
- イ 社会創生学科においては、12 単位のうち 8 単位は、別に指定する 5 科目から履修すること（コース別履修科目表参照）。
- ウ 学科共通科目の必要単位数（12 単位）を超えて修得した単位数については、自由選択科目として自動的に算定する。

③ コース専門コア科目・コース専門選択科目

- ア コース別履修科目表に従って 42 単位以上修得すること。
- イ コース専門コア科目・コース専門選択科目の必要単位数を超えて修得した単位数は、自由選択科目の単位として自動的に算定する。

④ 総合科学テーマ科目

- ア コース別履修科目表に従って 10 単位以上修得すること。
- イ 総合科学テーマ科目の必要単位数（10 単位）を超えて修得した単位数は、自由選択科目の単位として自動的に算定する。

⑤ 自由選択科目

全ての専門教育科目の中から選択し、履修することができる。

5 授業科目の配当学年

- (1) 授業科目の配当学年は時間割表に記載する。
- (2) 専門教育科目は、自由選択科目として履修する場合も含めて、配当学年以上の学年の学生のみが履修できる。

6 受講申請

毎学期の始めに、履修しようとする科目の授業担当教員に受講申請を行わなければならない。ただし講義室等の関係で受講者を制限する場合がある。

7 履修科目の登録等

- (1) 毎学期の始めに、その学期に履修しようとする科目を履修登録期限までにWeb履修システムにおいて履修登録しなければならない。
- (2) 履修登録していない科目は受講できない。
- (3) 履修登録の変更について
 - ① 履修登録確認期間中には担当教員の承認なしで履修登録を削除することができる。
 - ② 履修登録確認期限までは履修登録の変更は可能であるが、担当教員の承認を必要とする。なお、本人の責に帰さない事由で承認印を得られない場合は仮提出理由書（所定様式）を学務係に提出する。
 - ③ 履修登録確認期限を過ぎての変更はできない。

8 授業科目区分の変更

- (1) 修得した専門教育科目のコース専門コア科目・コース専門選択科目のうち、総合科学テーマ科目の科目群に含まれる科目の科目区分については、所定の様式に従い、随時変更できるものとする。また、4の(4)に記した様に、必要単位数を超えて修得した学部共通・学科共通科目・コース専門コア科目・コース専門選択科目及び総合科学テーマ科目の単位数は自由選択科目の単位数として自動的に算定される。
- (2) 所属コースを変更した場合の科目区分の変更について
転学科、転コースをした場合は、転学科・転コース先の科目区分に従って、修得した専門教育科目の科目区分を自動的に変更する。

9 他大学（単位互換協定校）及び本学工学部における授業科目の履修

- (1) 鳴門教育大学、放送大学、四国大学及び徳島文理大学の授業科目の履修を希望する学生は事前に「願書」を担当係へ提出し、許可を受けなければならない。
- (2) 履修可能な授業科目名及び科目区分等は学務係で閲覧できる。
- (3) 修得した成績は本学部の評価に読み替え、修得大学名または学部名を付記する。
- (4) 鳴門教育大学、放送大学、四国大学、徳島文理大学及び本学工学部で修得した単位は、合計で20単位まで卒業要件に算定される。
 - ① 鳴門教育大学での履修
鳴門教育大学で修得した単位数は、8単位まで自由選択科目又は教職科目に含めることができる。
なお、教職科目の単位は卒業要件に算定されない。

② 放送大学での履修

ア 放送大学で修得した単位数は、専門教育科目と全学共通教育科目を合わせた12単位まで含めることができる。ただし、全学共通教育科目は8単位以下とする。

イ 放送大学の授業科目の単位数（2単位）は本学部の2単位とするが、外国語及び保健体育科目の2単位は本学部の1単位とする。

ウ 放送大学の授業科目は下記の範囲内で本学部の授業科目として履修できる。

（ア）放送大学の共通科目

i) 外国語科目と保健体育科目を除く共通科目は、全学共通教育科目における教養科目群の授業科目として履修できる。ただし、教養科目群の4つの授業科目（歴史と文化・人間と生命・生活と社会・自然と技術）からは少なくとも各2単位ずつの合計8単位分は本学の授業科目で履修すること。

ii) 外国語科目（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）は、全学共通教育の基盤形成科目群の外国語として履修できる。

iii) 保健体育科目は、全学共通教育科目の社会性形成科目群（ウェルネス総合演習）として履修できる。

（イ）放送大学の専門科目

本学部の自由選択科目として履修できる。

③ 四国大学での履修

四国大学で修得した単位数は、総合科学部長が定めた農工商連携スタディーズ開設授業科目のうち、6単位まで自由選択科目に含めることができる。

④ 徳島文理大学での履修

徳島文理大学で修得した単位数は、総合科学部長が定めた農工商連携スタディーズ開設授業科目のうち、6単位まで自由選択科目に含めることができる。

⑤ 本学工学部での履修

本学工学部で修得した単位は、12単位まで自由選択科目に含めることができる。

10 留学及び外国語技能検定試験による単位認定

留学により修得した成績や、外国語技能検定試験により修得した成績は、全学共通教育科目や、本学部の専門教育科目の単位として認めることがある。全学共通教育科目の単位認定については、「全学共通教育履修の手引」に示される基準に基づいて行うものとする。

(1) 留学

留学の申請は、留学を希望する学生が、「外国留学願」に健康診断書を添えて担当係に提出することにより行うものとする。また、留学中に修得した成績を本学部の専門教育科目の単位として認定する申請は、帰国後速やかに「外国留学における成績に基づく単位認定申請書」等を学務係に提出することにより行うものとする。

① 交流協定校への留学

ア 修得した成績は審査により本学部の専門教育科目として認める。

イ 修得した成績は本学部の評価に読み替え、修得大学名を付記する。

ウ 修得した成績の科目区分は、留学時の学年及び所属する学科・コースの科目区分に基づき判定する。

② 交流協定校以外への留学

ア 修得した成績は審査により本学部の専門教育科目として認める。ただし、成績認定の申請時には留学先の大学概要・シラバス等を併せて提出し、認定可能かどうか審査を受けなければならない。

この審査は出発前に受けておくのが望ましい。

イ 修得した成績は本学部の評価に読み替え、修得大学名を付記する。

ウ 修得した成績の科目区分は、留学時の学年及び所属する学科・コースの科目区分に基づき判定する。

③ 上記①、②において認定された単位は、40 単位まで卒業要件に算定される。

④ 上記①、②は本学部を休学する場合にも適用する。

(2) 外国語技能検定試験

外国語技能検定試験により修得した成績は本学部の専門教育科目の単位として審査の上認めることがある。単位の認定の申請は、学務係に所定の申請書を提出することにより行うものとする。申請の期限は、当該の試験を受験した日から2年以内とする。下記の単位認定に際して、既に認定又は単位の修得がなされている場合は、「実用外国語基礎演習Ⅰ」及び「実用外国語基礎演習Ⅱ」においては各2単位から、「実用外国語演習」においては8単位から、既に認定及び修得された単位数の合計を差し引いた単位数を認定の上限とする。認定基準については言語ごとに次のように定める。

① 英語

実用英語技能検定（英検）（財団法人 日本英語検定協会）

1 級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2 単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2 単位 及び

「実用外国語演習（英語）」8 単位

※ ただし、「全学共通教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEFL（国際教育交換協議会）

IBT（Internet-based Testing）90 点以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2 単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2 単位

IBT（Internet-based Testing）95 点以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2 単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2 単位及び

「実用外国語演習（英語）」4 単位

IBT（Internet-based Testing）100 点以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2 単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2 単位及び

「実用外国語演習（英語）」8 単位

※ ただし、「全学共通教育」の「英語」に加えて認定することができる。

TOEIC（財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会）

800 点以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2 単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2 単位

850 点以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2 単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2単位及び

「実用外国語演習（英語）」4単位

900点以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）」2単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）」2単位及び

「実用外国語演習（英語）」8単位

※ ただし、「全学共通教育」の「英語」に加えて認定することができる。

② ドイツ語

ドイツ語技能検定試験（独検）（財団法人ドイツ語学文学振興会）

3級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」2単位

2級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）」2単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）」2単位

※ ただし、いずれの場合も「全学共通教育」の「ドイツ語」に加えて認定することができる。

③ フランス語

実用フランス語技能検定試験（仏検）（財団法人フランス語教育振興協会）

準2級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）」2単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）」2単位

※ ただし、「全学共通教育」の「フランス語」に加えて認定することができる。

④ 中国語

中国語検定試験（日本中国語検定協会）

3級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」2単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」2単位

2級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」2単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」2単位及び

「実用外国語演習（中国語）」8単位

※ ただし、「全学共通教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

中国政府漢語水平考試（HSK）（中国国家漢語水平考試委員会）

4級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」2単位及び

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」2単位

5級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」2単位、

「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」2単位及び

「実用外国語演習（中国語）」8単位

※ ただし、「全学共通教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

なお、平成21年度以前に実施された旧HSKにおいて取得した級については、次のとおり認定する。

初等4級もしくは初等5級：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」2単位及び
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」2単位

中等6級以上：「実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）」2単位、
「実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）」2単位及び
「実用外国語演習（中国語）」8単位

※ ただし、「全学共通教育」の「中国語」に加えて認定することができる。

11 入学前の既修得単位の認定

- (1) 他大学又は本学において修得した科目の単位（科目等履修生として修得した単位を含む）は、下記に定める単位を上限として、本学部で修得した単位として認めることがある。ただし、成績は、本学で修得した場合を除き、「認定」と表記する。
- (2) 本学部において修得した科目の単位（科目等履修生等として修得した単位を含む）は(1)の上限規定にかかわらず上限なしで認めることができる。
- (3) 科目及び単位認定は、入学時の学年及び所属する学科・コースの科目区分に従って、対応する科目について行う。
- (4) 既修得単位の認定申請は、本学部の入学時に行わなくてはならない。

① 第1年次入学者

ア 他大学卒業者又は中途退学者の場合

(ア) 全学共通教育科目	30単位まで	
	人間文化学科	総合理数学科
	社会創生学科	
教養科目群	18単位まで	20単位まで
社会性形成科目群	4単位まで	6単位まで
基盤形成科目群	14単位まで	12単位まで
(イ) 専門教育科目	8単位まで	
	合 計	38単位まで

イ 徳島大学卒業者又は中途退学者の場合

(ア) 全学共通教育科目	35単位まで	
	人間文化学科	総合理数学科
	社会創生学科	
大学入門科目群	1単位	1単位
教養科目群	18単位まで	20単位まで
社会性形成科目群	4単位まで	6単位まで
基盤形成科目群	14単位まで	12単位まで
(イ) 専門教育科目	8単位まで	
	合 計	43単位まで

② 第2年次入学者（転学部入学者が対象）

ア 全学共通教育科目

本学で修得した、あるいは認定された科目について、基礎科目群を除きすべてそのまま認定する。

イ 専門教育科目 6単位まで

③ 第3年次入学者（転学部入学者及び補欠入学者が対象）

ア 転学部入学者の場合

(ア) 全学共通教育科目

本学で修得した、あるいは認定された科目について、基礎科目群を除きすべてそのまま認定する。

(イ) 専門教育科目 38単位まで

イ 補欠入学者の場合

(ア) 全学共通科目教育科目

人間文化学科 総合理数学科

社会創生学科

大学入門科目群	1単位	1単位
教養科目群	18単位まで	20単位まで
社会性形成科目群	4単位まで	6単位まで
基盤形成科目群	14単位まで	12単位まで

合 計 35単位まで

(イ) 専門教育科目 38単位まで

12 進級要件及び卒業研究の受講資格

(1) 進級要件

- ① 2年次に進級するためには、1年次末において全学共通教育科目と専門教育科目を合わせて20単位以上を修得していなければならない。
- ② 3年次に進級するためには、2年次末において全学共通教育科目と専門教育科目を合わせて50単位以上を修得していなければならない。
- ③ 4年次に進級するためには、3年次末において全学共通教育科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、合計106単位以上を修得していなければならない。
- ④ 上記の専門教育科目は、徳島大学総合科学部規則第5条第2項の別表第2に掲げる専門教育科目を言う。
- ⑤ 後期より半年以上留学する学生は、翌年4月に進級するためには、出国前にあらかじめ留学先での単位認定予定科目を申請するとともに、2月末までに留学先での単位修得見込みを証明する文書を提出し、その修得見込みの単位数を加算した単位数が上記の進級要件を満たしていなければならない。

(2) 卒業研究の受講資格

卒業研究は4年生の履修科目であり、これを受講するには、4年次への進級要件を満たしていなければならない。なお、長期留学中の4年次生は、5月末までに卒業研究の題目とともに留学先での卒業研究指導教員の指導証明書を提出しなければならない。

13 卒業の要件

本学部を卒業するには、大学に4年以上在学して、総合科学部規則の規定に従って132単位以上を修得しなければならない。

14 卒業研究の題目の届出及び成果の提出

- (1) 卒業研究の題目は、5月末日までに指導教員の認印を得て、学務係へ提出しなければならない。
- (2) 卒業研究の成果は、1月末日までに指導教員又は学務係へ提出しなければならない。ただし、年度を越えて留学する学生については、卒業研究の成果の提出は次年度の7月末日又は1月末日までとする。

15 学習プログラムの単位修得による証明書の発行

総合科学部で開設している学習プログラムの所定の単位を修得した場合は、そのことを証明する証明書を本学部が発行するので、希望者は所定の手続きをとること。

16 気象警報が発令された場合の休講措置

台風等により、気象警報が徳島市に発令された場合の授業の休講措置は、次のとおりとする。

- (1) 昼間に開講する授業については、午前7時に「暴風警報と大雨警報」若しくは「暴風警報と洪水警報」又は「大雪警報」（以下「警報」という。）が発令中の場合は、午前の授業を休講とする。午前11時に警報が発令中の場合は、午後の授業を休講とする。
- (2) 夜間に開講する授業については、午後4時に警報が発令中の場合は、すべて授業を休講とする。
- (3) 授業開始後に警報が発令された場合は、次の時限以降の授業を休講とする。
- (4) (1)から(3)に定める以外の場合並びに特別な事情がある場合は、総合科学部長が措置を決定する。
- (5) (1)から(4)の措置により休講となった授業は後日に補講する。
- (6) 上記のほか、授業の休講措置に関し必要な事項は、総合科学部長が別に定める。

国際文化コース

– 51 –

心理・健康コース

[illegible]

[illegible]

公共政策コース

全学共通教育科目		大学入門科目群						1	
		教養科目群						20	
		社会性形成科目群						14	
		基盤形成科目群						35単位	
学部共通科目	必修	基礎ゼミナールⅠ	2	必修					
		基礎ゼミナールⅡ	2	必修					
	選択必修A	基礎ゼミナールⅢ	2	必修					
		健康と人福祉	2		2単位以上必修				
	選択必修B	情報処理の基礎Ⅰ	2	* 1 4つの内2単位までしか、卒業に必要な単位に算入されない。					
		情報処理の基礎Ⅱ	2						
		国際交流・協力体験Ⅰ	2						
		基礎英語講読Ⅰ	2						
		基礎英語講読Ⅱ	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2						
	選択必修C	実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）	2	* 2 4つの内2単位までしか、卒業に必要な単位に算入されない。					
実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）		2							
実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）		2							
実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）		2							
キャリアアップランⅠ		1			1単位以上必修				
キャリアアップランⅡ	1								
キャリアアップランⅢ	1								
短期インターンシップ	2								
		計						13単位以上	
学科共通科目		社会創生の基礎Ⅰ	2	必修					
		経済学の基礎Ⅰ	2	必修					
		社会学の基礎Ⅰ	2	] 2単位以上必修					
		社会学の基礎Ⅱ	2						
		社会学の基礎Ⅲ	2	必修					
		社会学の基礎Ⅳ	2						
		社会学の基礎Ⅴ	2						
		社会学の基礎Ⅵ	2						
		社会学の基礎Ⅶ	2						
		計						12単位以上	
コース専門コア科目		環境政策論Ⅰ	2						
		環境政策論Ⅱ	2						
		マクロ経済学Ⅰ	2						
		マクロ経済学Ⅱ	2						
		財政学Ⅰ	2						
		財政学Ⅱ	2						
		地域公共政策Ⅰ	2						
		地域公共政策Ⅱ	2						
		計						10単位以上	
コース専門選択科目		民法Ⅰ	2						
		民法Ⅱ	2						
		刑法Ⅰ	2						
		刑法Ⅱ	2						
		行政法Ⅰ	2						
		行政法Ⅱ	2						
		商法Ⅰ	2						
		商法Ⅱ	2						
		企業法Ⅰ	2						
		企業法Ⅱ	2						
		経済法Ⅰ	2						
		経済法Ⅱ	2						
		ミクロ経済学Ⅰ	2						
		ミクロ経済学Ⅱ	2						
		マクロ経済学Ⅰ	2						
		マクロ経済学Ⅱ	2						
		財政学Ⅰ	2						
		財政学Ⅱ	2						
		地域公共政策Ⅰ	2						
		地域公共政策Ⅱ	2						

コース専門選択科目	国際世	世界一	経済	際	論	法	2
	世	口	経	パ	想	I	2
	地	域	政	策	研	II	2
	市	民	政	策	論	I	2
	比	域	統	計	動	II	2
	社	校	統	計	会	論	2
	情	会	会	と	学	論	2
	環	報	政	倫	学	I	2
	境	境	マ	保	倫	II	2
	自	境	画	の	ン	ト	2
	環	境	画	の	ク	論	2
	計	市	政	交	数	理	2
	都	共	政	策	論	理	2
	公	共	政	策	計	画	2
	公	共	策	策	I	A	4
	計				II	B	4
						4	
						32 単位以上	
総合科学テーマ科目	比地	較域	文交	化流	論史	2	
	日世	本界	経経	と社	会	2	
	国社	界際	関	済係	I	2	
	運健	会動	心文	理化	学	2	
	地地	域康	行行	動動	論	2	
	グ地	口一	バ創	福社	論	2	
	地地	域域	策策	生論	論	2	
	共メ	生デ	社ア	会情	I	2	
	芸芸	報報	文文	報報	論	2	
	情情	社報	とと	職職	理	2	
	現現	象象	のの	数数	業	2	
	数数	学学	ネネ	社社	理	2	
	資資	エエ	ルル	ギギ	理	2	
	環環	ママ	ジジ	メメ	論	2	
	境境	境境	倫倫	理理	学	2	
	自自	然然	保保	護護	I	2	
	生生	態態	学学	学学	論	2	
	総総	合合	実実	ププ	ロロ	2	
	合合	科科	学学	ロロ	ジジ	2	
	計計			エエ	クク	2	
						2	
						10 単位以上	
	自由選択科目	総合	科学	部全	学科	の全	の
		専門	教育	科目	の中	から	選択
	卒業研究	計					14 単位以上
		計					6 単位 必修
	合計						132 単位

地域創生コース

全学共通教育科目		大 学 入 門 科 目 群	1	
		教 養 科 目 群	20	
		社 会 性 形 成 科 目 群	14	
		基 盤 形 成 計	35単位	
学 部 共 通 目	必 修	基 礎 ゼ ミ ナ ー ル	2	必修
		キ ャ リ ア プ ラ ン Ⅰ	2	必修
		キ ャ リ ア プ ラ ン Ⅱ	2	必修
	選択必修A	科 健 学 康 と 人 福 問 社	2	] 2単位以上必修
			2	
	選択必修B	情 報 処 理 の 基 礎 Ⅰ	2	4単位以上必修
		情 報 処 理 の 基 礎 Ⅱ	2	
		国 際 交 流 ・ 協 力 体 験 Ⅰ	2	
		基 礎 英 語 講 読 Ⅰ	2	
		基 礎 英 語 講 読 Ⅱ	2	
		実 用 外 国 語 基 礎 演 習 Ⅰ（英 語）	2	
		実 用 外 国 語 基 礎 演 習 Ⅰ（中 国 語）	2	
		実 用 外 国 語 基 礎 演 習 Ⅰ（ド イ ツ 語）	2	
実 用 外 国 語 基 礎 演 習 Ⅰ（フ ラ ン ス 語）		2		
実 用 外 国 語 基 礎 演 習 Ⅱ（英 語）		2		
選択必修C	キ ャ リ ア プ ラ ン Ⅰ	1	] 1単位以上必修	
	キ ャ リ ア プ ラ ン Ⅱ	1		
	キ ャ リ ア プ ラ ン Ⅲ	1		
	短 期 イ ン タ ー ン シ ッ プ	2		
		計	13単位以上	
学 科 共 通 科 目		社 会 創 生 学 の 基 礎 Ⅰ	2	必修
		経 済 学 の 基 礎 Ⅰ	2	必修
		社 会 学 の 基 礎 Ⅰ	2	] 2単位以上必修
		社 会 学 の 基 礎 Ⅱ	2	
		生 命 学 的 の 基 礎 Ⅰ	2	] 必修
		法 律 学 的 の 基 礎 Ⅰ	2	
		地 文 系 の 基 礎 Ⅰ	2	] 必修
		ア ー ト 創 生 の 基 礎 Ⅰ	2	
		化 学 基 礎 Ⅰ	2	
		生 命 科 学 基 礎 Ⅰ	2	
		計	12単位以上	
コ ー ス 専 門 コ ア 科 目		地 理 学 の 基 礎 Ⅱ	2	
		情 報 創 生 プ ロ ジ ェ ク ト Ⅰ	2	
		社 会 統 文 政 計 化 策 Ⅰ	2	
		地 域 統 文 政 計 化 策 Ⅱ	2	
		地 域 統 文 政 計 化 策 Ⅲ	2	
		社 福 会 社 変 情 動 報 Ⅰ	2	
		W e b デ ザ イ ン Ⅰ	2	
		情 報 社 会 と ア 情 報 倫 理 ト Ⅰ	2	
		環 境 本 言 語 研 究 Ⅰ	2	
				計
コ ー ス 専 門 選 択 科 目		地 域 構 造 論 Ⅰ	2	
		空 間 情 報 報 論 Ⅱ	2	
		地 域 変 環 容 境 論 Ⅱ	2	
		地 域 文 政 化 策 論 Ⅱ	2	
		地 市 民 活 経 動 済 論 Ⅱ	2	
		地 日 本 域 本 域 較 社 理 学 学 Ⅱ	2	
		地 比 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	
		地 社 経 経 社 論 Ⅱ	2	

	地	域	調	查	法	I	D	2
	地	域	調	查	法	II	E	2
	地	域	調	查	法	II	E	2
	地	域	調	查	法	II	F	2
	地	域	調	查	法	II	F	2
	地	域	調	查	法	II	G	2
	地	域	調	查	法	II	G	2
	地	域	調	查	法	II	H	2
	地	域	調	查	法	II	H	2
	地	域	調	查	演	習	A	4
	地	域	調	查	演	習	B	4
	地	域	調	查	演	習	C	4
	地	域	調	查	演	習	D	4
	地	域	調	查	演	習	E	4
	地	域	調	查	演	習	F	4
	地	域	調	查	演	習	G	4
	地	域	調	查	演	習	H	4
	地	域	調	查	演	習	法	8
	憲		政	法	学	I	I	2
	民	際	政	法	学	I	I	2
	財	ク	政	法	学	I	I	2
	行	ク	政	法	学	I	I	2
	国	ク	政	法	学	I	I	2
	ミ	ク	政	法	学	I	I	2
	マ	ク	政	法	学	I	I	2
	社	ク	政	法	学	I	I	2
	コ	ミ	政	法	学	I	I	2
	ス	ポ	政	法	学	I	I	2
	比	ー	政	法	学	I	I	2
	異	ツ	政	法	学	I	I	2
	環	マ	政	法	学	I	I	2
	環	境	政	法	学	I	I	2
	環	境	政	法	学	I	I	2
	自	境	政	法	学	I	I	2
	計	然	政	法	学	I	I	2
	都	画	政	法	学	I	I	2
	環	市	政	法	学	I	I	2
	地	境	政	法	学	I	I	2
	生	域	政	法	学	I	I	2
	芸	態	政	法	学	I	I	2
	W	報	政	法	学	I	I	2
	情	e	政	法	学	I	I	2
	言	報	政	法	学	I	I	2
	言	總	政	法	学	I	I	2
	映	語	政	法	学	I	I	2
	映	情	政	法	学	I	I	2
	芸	像	政	法	学	I	I	2
	芸	術	政	法	学	I	I	2
	芸	術	政	法	学	I	I	2
	芸	術	政	法	学	I	I	2
	メ	デ	政	法	学	I	I	2
	メ	デ	政	法	学	I	I	2
	メ	デ	政	法	学	I	I	2
	言	語	政	法	学	I	I	2
	メ	デ	政	法	学	I	I	2
	映	像	政	法	学	I	I	2
	ア	一	政	法	学	I	I	2
	工	芸	政	法	学	I	I	2
	彫	米	政	法	学	I	I	2
	美	米	政	法	学	I	I	2
	英	米	政	法	学	I	I	2
	英	米	政	法	学	I	I	2
	日	本	政	法	学	I	I	2

コース専門選択科目

コース専門選択科目	日語概説ⅠⅡ	2
	日本語演習Ⅱ	2
	日本語概算基礎	8
	日本語概算基礎Ⅱ	2
	日本語概算基礎Ⅲ	2
	日本語概算基礎Ⅳ	2
	日本語概算基礎Ⅴ	2
	日本語概算基礎Ⅵ	2
	日本語概算基礎Ⅶ	2
	日本語概算基礎Ⅷ	2
32 単位以上		
総合科学テーマ科目	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
	比地日世国社運健地グ地地地共メ芸情情現数資環環自生総合	2
10 単位以上		
自由選択科目	総合科学部全学科の全ての科目の中から選択	
	計	14 単位以上
卒業研究		6 単位 必修
合計		132 単位

環境共生コース

全学共通教育科目		大学入門科目群						1	
		教養科目群						20	
		社会性形成科目群						14	
		基盤形成計						35単位	
学部共通科目	必修	基礎ゼミナールⅠ	2	必修					
		キャリアアップⅠ	2	必修					
		キャリアアップⅡ	2	必修					
	選択必修A	健康と人福祉	2					] 2単位以上必修	
		健康と人福祉	2						
	選択必修B	情報処理の基礎Ⅰ	2					] 4単位以上必修	
		情報処理の基礎Ⅱ	2						
		国際交流協力体験Ⅰ	2						
		基礎英語講読Ⅰ	2						
		基礎英語講読Ⅱ	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）	2						
実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）		2							
キャリアアップⅠ		1					] 1単位以上必修		
キャリアアップⅡ	1								
キャリアアップⅢ	1								
短期インターシップ	2								
		計						13単位以上	
学科共通科目		社会創生の基礎Ⅰ	2	必修					
		経済学の基礎Ⅰ	2	必修					
		社会学の基礎Ⅱ	2					] 2単位以上必修	
		社会生活の基礎Ⅱ	2						
		生命科学の基礎Ⅰ	2					] 必修	
		法地理学の基礎Ⅰ	2						
		文系数学の基礎Ⅰ	2						
		アート創生のプロジェクト	2						
		化学の基礎Ⅰ	2						
		生命科学の基礎Ⅰ	2						
		計						12単位以上	
コース専門コア科目		環境政策論Ⅰ	2						
		環境倫理Ⅰ	2						
		環境物質循環Ⅰ	2						
		環境生態学Ⅰ	2						
		生物資源論Ⅰ	2						
		自然資源論Ⅰ	2						
		環境リスク論Ⅰ	2						
		環境マネジメントⅠ	2						
		計						14単位以上	
コース専門選択科目		生分子化学	2	学学					
		発達応進生物	2	学学					
		適応進生物	2	学学					
		細胞全進生物	2	学学					
		環境資源利用	2	学学					
		環境政策論	2	学学					
		環境分析化学Ⅰ	2	学学					
		環境分析化学Ⅱ	2	学学					
		環境分析化学Ⅲ	2	学学					
		環境分析化学Ⅳ	2	学学					
		環境分析化学Ⅴ	2	学学					
		環境分析化学Ⅵ	2	学学					
		環境分析化学Ⅶ	2	学学					
		環境分析化学Ⅷ	2	学学					
		環境分析化学Ⅸ	2	学学					
		環境分析化学Ⅹ	2	学学					
		環境分析化学Ⅺ	2	学学					
		環境分析化学Ⅻ	2	学学					
		環境分析化学Ⅼ	2	学学					

[illegible]

数理科学コース

全学共通教育科目		大学入門科目群	1	
		教養科目群	22	
		社会性形成科目群	12	
		基盤形成科目群	12	
		計	35	単位
学部共通科目	必修	基礎ゼミナールⅠ	2	必修
		キャリアアップラン入門Ⅰ	2	必修
		キャリアアップラン入門Ⅱ	2	必修
	選択必修A	科健	2	] 2単位以上必修
		学康	2	
	選択必修B	情報処理の基礎Ⅰ	2	] 4単位以上必修
		情報処理の基礎Ⅱ	2	
		国際交流・協力体験Ⅰ	2	
		基礎英語講読Ⅰ	2	
		基礎英語講読Ⅱ	2	
		実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）	2	
		実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	2	
		実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	2	
		実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2	
		実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）	2	] * 1
		実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）	2	
		実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）	2	
実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）		2		
実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）		2		
選択必修C	キャリアアップランⅠ	1	] 1単位以上必修	
	キャリアアップランⅡ	1		
	キャリアアップランⅢ	1		
	短期インターンシップ	2		
		計	13	単位以上
学科共通科目		数理学の基礎Ⅰ	2	] 10単位以上必修
		理理学の基礎Ⅱ	2	
		物理科学の基礎Ⅲ	2	
		化学科学の基礎Ⅳ	2	
		生命科学の基礎Ⅴ	2	
		地球科学の基礎Ⅵ	2	
		プログラミングミ基	2	
		物理学基礎Ⅰ	2	
		化学基礎Ⅱ	2	
		生命科学基礎Ⅲ	2	
		計	12	単位以上
コース専門コア科目		数理学の基礎Ⅲ	2	] 10単位以上必修
		数微積分・演習Ⅰ	2	
		数微積分・演習Ⅱ	2	
		線形代数・演習Ⅰ	2	
		線形代数・演習Ⅱ	2	
		計情算機概論Ⅰ	2	
		データベースⅠ	2	
		データベースⅡ	2	
		計	14	単位以上
コース専門選択科目		代数学Ⅰ	2	] 20単位以上必修
		代数学Ⅱ	2	
		複素解析Ⅰ	2	
		確率論Ⅰ	2	
		確率論Ⅱ	2	
		微分方程式Ⅰ	2	
		微分方程式Ⅱ	2	
		代幾何学Ⅰ	2	
		代幾何学Ⅱ	2	
		幾何学Ⅰ	2	
		幾何学Ⅱ	2	
		解析学Ⅰ	2	
		解析学Ⅱ	2	
		応用数学Ⅰ	2	
		応用数学Ⅱ	2	
		情報システムⅠ	2	
		情報システムⅡ	2	
		情報システムⅢ	2	
		情報システムⅣ	2	
		制御理論Ⅰ	2	
		最適化理論Ⅰ	2	
		最適化理論Ⅱ	2	
		コンピュータグラフィックス基礎論	2	

コース専門選択科目	情報経済	総合	プロ	グ	ラ	ミ	ン	グ	I	2	
	経商	済	法	ン	グ	ミ	ン	グ	II	2	
	数情	理	科	学	学	演	演	演	II	2	
	情報	報	科	学	学	演	演	演	II	4	
									習	4	
	計									28 単位以上	
総合科学テーマ科目	比地	較域	文交	化流	社	論	史	会	I	2	
	本日	本界	経経	と	論	論	I	I	I	2	
	世国	際	関	係	論	論	学	論	論	2	
	社運	会動	心文	理	化	論	論	論	論	2	
	健地	域	行	動	福	社	論	論	論	2	
	グ	口	バ	ル	社	生	論	論	論	2	
	地地	域	創	策	化	論	論	論	論	2	
	地地	域	文	策	化	論	論	論	論	2	
	共メ	生	社	情	情	報	報	倫	倫	2	
	芸情	報	文	情	情	報	報	倫	倫	2	
	情情	報	と	情	情	報	報	倫	倫	2	
	現数	報	の	の	の	数	数	理	理	2	
	資環	源	と	と	と	社	社	理	理	2	
	環境	境	ネ	ル	ギ	メ	メ	論	ト	2	
	環境	境	政	倫	策	理	理	論	学	2	
	自生	然	保	学	学	学	学	学	学	2	
	態	態	保	学	学	学	学	学	学	2	
	合科	合科	合科	合科	合科	合科	合科	合科	合科	2	
	学学	学学	学学	学学	学学	学学	学学	学学	学学	2	
	実学	実学	実学	実学	実学	実学	実学	実学	実学	2	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	2	
		計									10 単位以上
	自由選択科目	総合	科学	部全	学	科	の全	ての	の		
	専門	教育	科	の	中	か	ら	選	択		
	計									14 単位以上	
卒業研究										6 単位 必修	
合計										132 単位	

物質総合コース

全学共通教育科目		大学入門科目群						1	
		教養科目群						22	
		社会性形成科目群						12	
		基盤形成科目群						35単位	
学部共通科目	必修	基礎ゼミナールⅠ	2	必修					
		キャリアアップⅠ	2	必修					
		キャリアアップⅡ	2	必修					
	選択必修A	健康と人福祉	2					2単位以上必修	
			2						
	選択必修B	情報処理の基礎Ⅰ	2					4単位以上必修	
		情報処理の基礎Ⅱ	2						
		国際交流・協力体験Ⅰ	2						
		基礎英語講読Ⅰ	2						
		基礎英語講読Ⅱ	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	2						
		実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	2						
実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）		2							
実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）		2							
選択必修C	実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）	2					* 1 4つの内2単位までしか、卒業に必要な単位に算入されない。 * 2 4つの内2単位までしか、卒業に必要な単位に算入されない。		
	実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）	2							
	実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	2							
		2							
	選択必修C	キャリアアップⅠ	1				1単位以上必修		
	キャリアアップⅡ	1							
	キャリアアップⅢ	1							
	短期インターンシップ	2							
		計						13単位以上	
学科共通科目		数理学の基礎Ⅰ	2				10単位以上必修		
		理理学の基礎Ⅱ	2						
		化学の基礎Ⅰ	2						
		生命科学の基礎Ⅰ	2						
		地球科学の基礎Ⅰ	2						
		プログラミングミ	2						
		物理学基礎Ⅰ	2						
		化学基礎Ⅰ	2						
		生命科学基礎Ⅰ	2						
		地球科学基礎Ⅰ	2						
		計						12単位以上	
コース専門コア科目		力学Ⅰ	2				14単位以上		
		電磁統計力学Ⅰ	2						
		熱力学Ⅰ	2						
		量子力学Ⅰ	2						
		無機化学Ⅰ	2						
		有機化学Ⅰ	2						
		地球物理学Ⅰ	2						
		地球環境科学Ⅰ	2						
		地球表層構造Ⅰ	2						
		地球表層環境Ⅰ	2						
		計						14単位以上	
コース専門選択科目		物理学実験Ⅰ	2						
		化学実験Ⅰ	2						
		地球科学実験Ⅰ	2						
		力学Ⅱ	2						
		電磁統計力学Ⅱ	2						
		熱力学Ⅱ	2						
		量子力学Ⅱ	2						
		無機化学Ⅱ	2						
		有機化学Ⅱ	2						
		地球物理学Ⅱ	2						
		地球環境科学Ⅱ	2						
		地球表層構造Ⅱ	2						
		地球表層環境Ⅱ	2						
		物理学Ⅲ	2						
		化学Ⅲ	2						
		地球科学Ⅲ	2						
		力学Ⅲ	2						
		電磁統計力学Ⅲ	2						
		熱力学Ⅲ	2						
		量子力学Ⅲ	2						
		無機化学Ⅲ	2						
		有機化学Ⅲ	2						
		地球物理学Ⅲ	2						
		地球環境科学Ⅲ	2						
		地球表層構造Ⅲ	2						
		地球表層環境Ⅲ	2						

[illegible]

18 教職に関する科目表

授 業 科 目	単 位 数
教 師 論	2
教 育 学	2
教 育 心 理 学	2
学 校 制 度 論	2
教 育 課 程 論	2
国 語 科 教 育 法 I	2
国 語 科 教 育 法 II	2
国 語 科 教 育 法 III	2
国 語 科 教 育 法 IV	2
社 会 科 教 育 法	2
地 理 歴 史 科 教 育 法	2
地 理 歴 史 科 教 育 方 法 論	2
公 民 科 教 育 法	2
公 民 科 教 育 方 法 論	2
英 語 科 教 育 法 I	2
英 語 科 教 育 法 II	2
英 語 科 教 育 法 III	2
英 語 科 教 育 法 IV	2
美 術 科 教 育 法 I	2
美 術 科 教 育 法 II	2
美 術 科 教 育 法 III	2
美 術 科 教 育 法 IV	2
保 健 体 育 科 教 育 法 I	2
保 健 体 育 科 教 育 法 II	2
保 健 体 育 科 教 育 法 III	2
保 健 体 育 科 教 育 法 IV	2
数 学 科 教 育 法 I	2
数 学 科 教 育 法 II	2
数 学 科 教 育 法 III	2
数 学 科 教 育 法 IV	2
情 報 科 教 育 法 I	2
情 報 科 教 育 法 II	2
理 科 教 育 法 I	2
理 科 教 育 法 II	2
理 科 教 育 法 III	2
理 科 教 育 法 IV	2
道 徳 教 育	2
特 別 活 動 研 究	2
教 育 方 法 学	2
生 徒 指 導 論	2
教 育 相 談	2
教 育 実 習 事 前 事 後 指 導	1
教 育 実 習 (中 学)	4
教 育 実 習 (高 校)	2
介 護 等 体 験	1
教 職 実 践 演 習	2

上記の科目のうち、「教育相談」以外は進級要件、卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

19 学芸員資格に関する科目表

授 業 科 目	単 位 数
生 涯 学 習 概 論	2
博 物 館 概 論	2
博 物 館 経 営 論	2
博 物 館 資 料 論	2
博 物 館 資 料 保 存 論	2
博 物 館 展 示 論	2
博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2
博 物 館 教 育 論	2
博 物 館 実 習	3

上記の科目は、進級要件、卒業要件及び成績評価（GP・GPA）に算定されない。

附 則

この細則は、平成13年4月1日から施行し、平成13年度入学者から適用する。ただし、平成13年度に転学部又は補欠入学する者及び平成14年度に第3年次に転学部又は補欠入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成14年4月1日から施行し、平成13年度入学者から適用する。ただし、平成13年度に補欠入学した者及び平成14年度に第3年次に補欠入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成15年4月1日から施行し、16コース別履修科目表については、平成13年度入学者から適用する。ただし、平成13年度に第3年次に補欠入学した者及び平成14年度に第3年次に転学部又は補欠入学した者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、平成17年度以前に入学した者に係るコース別履修科目表については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成21年4月1日から施行する。ただし、平成21年3月31日に本学部在学する者、並びに、平成21年度に転学部又は補欠入学する者及び平成22年度に3年次に転学部又は補欠入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。ただし、平成22年3月31日に本学部在学する者、並びに、平成22年度に転学部又は補欠入学する者及び平成23年度に3年次に転学部又は補欠入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成23年4月1日から施行する。ただし、平成22年度以前に入学した者、並びに、平成23年度に転学部又は補欠入学する者及び平成24年度に3年次に転学部又は補欠入学する者については、なお従前の例による。

附 則

この細則は、平成23年6月9日から施行する。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から施行する。ただし、平成23年度以前に入学した者については、なお、従前の例による。

3. 試 験 細 則

1 試 験

- (1) 成績の考査の一環として学年暦に定める期間に試験（定期試験）を行う。
- (2) 定期試験は、授業時間数の3分の2以上出席した者につき行う。
- (3) 成績の考査を試験によらない科目は、論文、レポート、制作物の提出及び作業演習等をもって行う。
- (4) 成績は、1科目につき100点をもって満点とし、60点以上をもって合格とする。

2 受 験 心 得

- (1) 受講の許可を得ている科目に限り受験することができる。
- (2) 遅刻した場合は、受験することができない。ただし、遅刻が20分以内で、やむを得ない理由がある
と監督教員が認めたときは、受験することができる。
- (3) 受験の際は、学生証を携行し、机上の右上隅に置くこと。忘れた者は、学務部で仮学生証の交付を受
けること。
- (4) 受験の際は、監督教員の指示に従うこと。
- (5) 不正行為をした者は、徳島大学学則第52条に基づき処分される。

3 成績の通知・確認

- (1) 履修科目の成績は、原則として前期・後期ともに学期内に通知する。ただし、前期の追試験・再試験
及び9月に実施される集中講義等の成績は、11月上旬に通知する。
- (2) 通知を受けた者は、成績を確認して疑義のある場合は、成績の通知日から1週間以内、ただし1週間後
の同日が休業日である場合は、休業日あけの最初の平日までに学務係まで申し出のうえ、確認すること。
- (3) 成績記入は、次のとおりである。

1科目につき60点以上……………合 格

不……………不合格（再試験可） （不）……………再受講（再試験不可）

欠……………試験当日欠席（追試験又は再受講） （欠）……………受験資格なし（再受講）

- (4) すべての学生は、入学時に「個別成績表の送付に係る同意書」を学務係に提出し、成績表の保証人へ
の送付の可否について申し出ることとする。

ただし、成績表の送付を「否」とした場合でも、下記の事項に該当する場合には、保証人に成績表を
送付する。

- ① 単位の修得状況の芳しくない者
- ② 進級要件又は卒業要件に満たない者

4 追 試 験

- (1) 次の理由により定期検査が受けられなかった者は、「追試験」を願い出ることができる。
ア 本人の責に帰し得ない理由の場合

イ 病気の場合

願い出にあたっては、欠席の詳細な理由を記した「欠席届」、アまたはイを証明する「証明書」(医師の診断書など)、「追試験願」を学務係に提出する。

「欠席届」「追試験願」の用紙は学務係で交付される。

- (2) 追試験の願い出は、試験実施日から2週間以内に行うこと。ただし2週間後の同日が休業日である場合は、休業日あけの最初の平日までに行うこと。
- (3) 追試験の許可は、教務委員会で審査のうえ行う。
- (4) 追試験の受験を許可された者は、前期においては10月末までに、後期においては学期内に受験するものとする。

5 再 試 験

- (1) 定期試験に不合格になり、かつ「再試験」の指示があった場合には、再試験を受けることができる。
- (2) 再試験は、前期においては10月末までに、後期においては学期内に受験するものとする。
- (3) 再試験を受験しようとするときは、学務係で願出用紙の交付を受け、当該試験の担当教員の認印を得たうえで、学務係に提出しなければならない。
- (4) 願出用紙の提出は、その再試験が行われる日の前日までとする。
- (5) 再試験に合格した者の成績は、1科目につき60点とする。

6 追試験・再試験成績の通知・確認

- (1) 追試験・再試験の成績は、前期においては11月上旬に、後期においては学期内に学務係で本人に通知する。
- (2) 通知を受けた者は、成績を確認して疑義のある場合は、成績の通知日から1週間以内、ただし1週間後の同日が休業日である場合は、休業日あけの最初の平日までに学務係まで申し出のうえ、確認すること。

附 則

この細則は、平成2年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成5年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成11年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成12年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成13年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成14年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この細則は、平成 18 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から実施する。

附 則

この細則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

4. コース細則

1 コース

人間文化学科，社会創生学科及び総合理数学科に3の表に示すコースを置く。

2 コース決定及び変更

- (1) 1年次学生は，コース選考についてのガイダンスを受け，学年暦によって定められた期日までに，コース志望届を提出しなければならない。
- (2) 2年次以上の全学生が所属学科のいずれか一つのコースに所属しなければならない。コースへの所属は2年次の初めとする。
- (3) 各コースの受入可能数は3の表のとおりである。
- (4) 受入可能数を超える志望者があるコースは，選抜を行う。選抜の方法は，次のうち一つまたは二つを用いる。
①成績，②面接，③筆記試験，④小論文，⑤実技
- (5) 教育上支障がない場合に限り，選考の上，年度の初めにコースの変更を許可することがある。コース変更を希望する者は，2年次以降，学年暦によって定められた期日までにコース変更届を提出する。

3 コース表

人間文化学科

コース	受入可能数
国際文化	60
心理・健康	60

社会創生学科

コース	受入可能数
公共政策	80
地域創生	55
環境共生	30

総合理数学科

コース	受入可能数
数理科学	35
物質総合	45

附 則

この細則は，平成21年4月1日から施行する。ただし，平成21年3月31日に本学部 に在学する者，並びに，平成21年度に転学部又は補欠入学する者及び平成22年度に3年次に転学部又は補欠入学する者については，なお従前の例による。

附 則

この細則は，平成22年4月1日から施行する。

5. 徳島大学総合科学部学友会会則

(名称)

第1条 本会は、徳島大学総合科学部学友会と称し、事務所を徳島大学総合科学部内に置く。

(会員)

第2条 本会は、正会員（総合科学部）及び特別会員（総合科学部教職員）で組織する。

(目的)

第3条 本会は、学生の自治的活動を通じて、健全な学風の樹立、学生生活の向上及び将来における社会参加への準備を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 一 学生が自治的に行う行事の企画及び実行。
- 二 学生のサークルに対する援助。
- 三 就職に関する学生の自治的活動。
- 四 その他本会が必要と認めた事項。

(役員)

第5条 本会に次の役員を置く。

- 一 会 長 1名
- 二 副 会 長 1名
- 三 委 員 長 1名
- 四 副委員長 2名
- 五 監 査 1名
- 六 幹 事 大学祭担当1名、卒業アルバム担当1名、就職活動担当1名、その他若干名

(役員を選出)

第6条 役員は、次の方法によって選出する。

- 一 会長は、学部長をもって充てる。
- 二 副会長は、学生委員会委員長をもって充てる。
- 三 委員長、副委員長、監査は、正会員から公選とする。
- 四 幹事は、正会員の中から委員長が委嘱する。

(役員の任務)

第7条 役員の任務は、次のとおりとする。

- 一 会長は、本会を代表し会務を総括する。
- 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 三 委員長は、正会員の代表として本会の事業を総括する。
- 四 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故のあるときは、副委員長のうち1名が、その職務を代行する。
- 五 監査は、会計を監査する。

六 幹事は、会務を処理する。

(役員の任期)

第8条 役員の任期は、一年とし、再任を妨げない。

2 役員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(役員の選挙)

第9条 正会員による選挙は、次のとおりに行う。

一 委員長は毎年1月に選挙管理委員会を設ける。

二 選挙管理委員会は、毎年2月に次年度の役員の選挙を行う。

三 選挙管理委員会は、各学科の各学年から互選された選挙管理委員1名ずつで構成し、その中から選挙管理委員長を互選する。

四 役員に立候補する者は、公示の日から選挙期間の開始1週間前までに、文書で選挙管理委員長に届け出なければならない。

五 選挙が成立するためには、投票総数が正会員の3分の1を超えなければならない。

六 有効投票の過半数を得た者を当選とする。ただし、白票は無効票とする。

七 選挙の結果、有効投票の過半数に満たない場合は、上位得票の2名で再投票を行う。

八 再投票の結果、有効投票の最多得票数を得た者を当選とする。

九 期間内に立候補する者が現れない場合は、現委員長の選任によって次年度委員長、副委員長、監査の計4名を決定する。

(会議)

第10条 会長は、必要があると認めるときは、総会を招集することができる。

2 総会は、会則の改廃その他重要な事項を審議する。

3 総会の議事は、正会員の過半数の賛成によって議決し、議決にあたっては、あらかじめ作成された原案に対する委任状を認める。

(会計)

第11条 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 本会の経費は、正会員の入会金(200円)、会費(4,000円)、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

3 入会金及び会費は入学時に納入する。

4 既納の入会金及び会費は返還しない。

(情報開示)

第12条 情報開示は次に従うものとする。

一 開示請求書発行は委員長のみが発行できるものとする。

二 開示請求依頼者は発行依頼を委員長に対して行う。

三 開示請求が行える学生は、総合科学部の学生に限定する。

四 開示可能な情報は、監査を受けた最新の決算のみとする。

五 開示された情報はいかなる方法によっても、コピー、複製等を行わないものとする。

附 則

本会則は、平成18年4月1日から施行する。

Ⅲ. 各種資格及び教員免許状の取得 について

1. 教員免許状取得に関して

本学部では、「1 免許状の種類及び教科」に示す教員免許が取得できます。本学部では、教員免許状取得を希望する学生に対して、1年次の10月頃に説明会を実施し、免許状取得に関する指導を行っています。免許状の取得を希望する学生はこの説明会に必ず出席して下さい。

教員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位のほかに、卒業要件とならない授業科目を多数履修し、4年次には「教育実習」や「教職実践演習」を受講しなければなりません。また、中学校教員免許状を取得するためには、「介護等体験」の受講が必修となっています。これらの実習や演習で実施される学外での実習は、実習先のご好意によって受講が可能となっているものです。このような実情を踏まえ、本学部では実習を受講するために要件を定めています。それらは、4-4、5-1、5-2に示していますので、各自で確認して下さい。なお、「教職実践演習」を受講するためには、「教職キャリアノート」を通した指導を2年以上受けていなければなりません。また、免許の取得に必修の科目の中には、隔年開講のものもあります。履修に際しては、各年次の時間割によく目を通して、履修計画を立てるようにしてください。

教員免許状取得には上記に示したような、多くの科目の履修や学外での実習が必要であることを踏まえ、安易な気持ちで教員免許状を取得することは厳に慎んで下さい。

以下に大まかに、免許状取得までの説明会・事前指導等の実施予定を示しておきます。詳しくは、「2 基礎資格及び必要単位数」以下を熟読してください。

【教職課程スケジュール概要】

日程の詳細は、学務係前の「教職関連の掲示板」に掲示することで通知されます。掲示板を毎日確認するようにしてください。

日 程	「教育実習」と「介護等体験」	「教職キャリアノート」と「教職実践演習」
1年次10月	教員免許状取得希望者に対する説明会 介護等体験受講希望調査	教職キャリアノートの配布
12月	介護等体験実施説明会	
2年次5月	介護等体験事前指導 (福祉施設実習について)	教職キャリアノートは、前・後期1回ずつ提出し、指導を受けて返却されます。各期日は、学務係前の掲示板に通知されます。
11月	介護等体験事前指導 (鳴門教育大学附属特別支援学校実習について)	
2月	教育実習受講希望調査	
3年次4月	教育実習受講説明会	
4年次	教育実習事前指導	教職実践演習
	教育実習	
	教育実習事後指導	

次頁は、本学部が示す「教員として身につけておくべき資質能力の年次別到達目標」です。これをよく読んで、教師となるための心得を自覚しながら、各学年ごとに教員としての資質を高めていけるように努力して下さい。

教員として身につけておくべき資質能力の年次別到達目標

		1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
イニシアティブ力	創造力・企画力	日常生活の中で教育的愛情とは何かを考え、積極的に自らの安全、健康を守るために行動することができる。	教育的愛情について理解し、介護等体験やボランティア活動等を通じ、他の人の安全、健康を守ることができる。	教育的愛情を根幹として、生徒の成長や安全、健康を守るための方法について具体的に考えることができる。	教育的愛情を根幹として、生徒の成長や安全、健康のために、自ら率先して行動することができ、教育実習においても実践することができる。
	使命感	教師の存在の意味やその必要性を考えながら講義に出席し、自分なりにその解をいくつか見いだすことができる。	教師の使命や教師に必要な資質・能力を理解し、介護等体験やボランティア活動等に熱意と誠意をもって当たることができる。	教育実習に向けての明確な心構えをもって、積極的に講義に参加し、生徒の成長に資するために必要となる力を身につけようと努める。	生徒の健全な成長に資するという情熱を常にもち、積極的に学び、共に成長しようとする意識をもって教育実習に当たることができる。
	自己統制力	講義を通じ、徳島大学の目指す「人間力」とは何かを理解し、それらを身につけようと努める。	介護等体験やボランティア活動等を通してさまざまな立場の人を思いやり、他者を理解する姿勢を持って、活動をやり遂げることができる。	教育公務員として倫理観の重要性を理解し、責任感を養いつつ、積極的に教育実習の準備を進めることができる。	教育公務員としての責任感や倫理観をもち、教育実習において困難に直面しても、職責を果たすことができる。
コーディネート力	人間関係調整力	新入生オリエンテーション等を通じ、新しい人間関係を築こうと努力し、仲間づくりができる。	サークル活動、ボランティア活動等を通じてお互いを認め合い、支え合う関係づくりができる。	講義や教員採用説明会等を通じ、教職に対する自覚をもち、他者の立場に立って行動することができる。	教員としての職責や義務の自覚に基づき、教育実習で目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。
	協働力	分野を超えて交友関係を広げ、対等に意見交換や話し合いをし、自分の潜在的能力を引き出すことができる。	サークル活動、ボランティア活動等を通して、共に問題解決に取り組むために協働で考え企画することができる。	ゼミの活動等を通して、目的・情報・資源・関係性を共有し、ネットワークをつくり共有した目標に向けて努力することができる。	教育実習では、学校組織の一員として、周りの人と協力して職務を果たすことができる。
	社会性	他者に対して適切な行動が取れ、人間関係を円滑に維持しようとすることができる。	集団の中で、協調的に行動ができ、周りの人との関係づくりを省察し、自認することができる。	社会の情勢・風潮に関心を寄せ、人間関係を円滑にするための力を身につけようと努力する。	主に教育実習を通して保護者・地域との連携の仕方を学び、良好な人間関係の築き方を身につける。
生徒指導力	コミュニケーション力	友人や教職員とコミュニケーションを積極的にかかわそうとする意欲をもち、受容的な態度をとることができる。	講義や介護等体験・ボランティア活動等の中で自分の意志を他者に適切に伝え、相手の感情や思考を把握しようとする。	生徒の発達に合った、表情や声の抑揚、身振り手振りなど、コミュニケーションスキルの上達を目指し、努力することができる。	生徒と共にコミュニケーションしようとする。共に、生徒のコミュニケーション力を高めるための指導ができる。
	個人指導力	身近な人の些細な変化にも気づくよう心を配り、人の役に立つ行動をとろうとする。	生徒の発達状況に基づく心的特性や発達課題について理解し、それらを介護等体験等で実践しようとする。	生徒理解の方法を理解し、講義の受講を通していじめや不登校等に関する教育相談の習熟を図る。	生徒理解に努め、生徒個々人の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行うことができる。
	集団指導力	社会の一員としての自覚をもち、集団生活上のモラルやルールの意義について自分なりの見解をもつ。	社会参加をする中で、好悪の感情にとらわれずに他者と望ましい人間関係を築こうと努める。	特別活動等の講義を通じて、成長を促す学級経営の在り方を具体的にイメージすることができる。	学級集団としての目的意識を生徒と共に確立するよう学級経営に積極的に参画できるようになり、教育実習において実践する。
学習指導力	授業構想力	様々な講義から、学習者の意欲を喚起する方法に気づくことができる。	学習指導要領の熟知に努め、教科の観点別目標を理解し、他者に説明できる。	教育実習へ向けて、指導案の書き方の習熟を図り、導入・展開・終末の流れのある指導案を作成できる。	学習指導の基本的要素を理解し、学習指導要領の内容に基づき授業を構想することができる。
	展開力	分かり易い言葉遣いや話し方に留意し、文字を丁寧に書くように努める。	表情を工夫し、問の取り方や個・集団を意識した話し方の習熟に努める。	教育実習の授業を想定し、発問を考え、生徒の反応を予想することができる。	授業を行う上での基本的な表現力や実践力を身につけ、柔軟に授業を展開することができる。
	評価力	各講義に対する自分の評価が適切であったかどうかを多角的に再考するよう努める。	適切な評価の方法（診断的評価・形成的評価・総括的評価、自己評価等）や評価の観点について理解する。	教育実習の授業を想定し、授業内容に即し、多様な評価の手立てを工夫することができる。	生徒の学習の定着状況に基づいて、自分自身の授業を省察し、授業計画や指導方法等を工夫・改善していくことができる。

1 免許状の種類及び教科

総合科学部で取得可能な免許状の種類及び教科は次のとおりです。

免許状の種類及び免許教科	関 連 す る コ ー ス*
中学校教諭一種免許状(国語) 高等学校教諭一種免許状(国語)	国際文化コース
中学校教諭一種免許状(社会)	公共政策コース・地域創生コース
高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	国際文化コース・地域創生コース
高等学校教諭一種免許状(公民)	公共政策コース
中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)	数理科学コース
高等学校教諭一種免許状(情報)	地域創生コース・数理科学コース
中学校教諭一種免許状(理科) 高等学校教諭一種免許状(理科)	環境共生コース・物質総合コース
中学校教諭一種免許状(美術) 高等学校教諭一種免許状(美術)	地域創生コース
中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)	心理・健康コース
中学校教諭一種免許状(英語) 高等学校教諭一種免許状(英語)	国際文化コース

*関連するコースとは、コースの専門科目と免許科目の関係が深いコースを指しています。

2 基礎資格及び必要単位数

教員免許状を取得する場合の基礎資格及び必要単位数は次のとおりです。

免許状の種類	基礎資格	科 目 区 分 及 び 単 位 数				合計
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目(8)	教科に関する科目(20)	教職に関する科目(31)	教科又は教職に関する科目(8)	(67)
高等学校教諭一種免許状			教科に関する科目(20)	教職に関する科目(23)	教科又は教職に関する科目(16)	(67)

ただし、「4 本学で開設している授業科目」のうち、必修の指定のある科目は上記の単位数にかかわらず必ず履修しなければなりません。なお、4-4「介護等体験」は、上記の表に含まれていませんが、本学部では中学一種免許状の必修の科目として開設しています。

3 法令で規定された単位数

3-1 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」

法令で規定された単位数は次のとおりです。本学部では4-1に従って履修してください。

免許状の種類	免許法に定める教科	単位数
中学校教諭一種免許状	日本国憲法	2
	体育	2
高等学校教諭一種免許状	外国語コミュニケーション	2
	情報機器の操作	2

3－2 「教科に関する科目」

免許状種別及び教科別等による法令で規定された単位数は次のとおりです。本学部では4－2に従って履修してください。

中学校教諭一種免許状

教科	免許法に定める科目	単位数	合計単位数
国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学 書道（書写を中心とする。）	1単位以上 " " "	20
社会	日本史及び外国史 地理学（地誌を含む。） 「法律学，政治学」 「社会学，経済学」 「哲学，倫理学，宗教学」	1単位以上 " " " "	20
数学	代数学 幾何学 解析学 「確率論，統計学」 コンピュータ	1単位以上 " " " "	20
理科	物理学 物理学実験（コンピュータ活用を含む。） 化学 化学実験（コンピュータ活用を含む。） 生物学 生物学実験（コンピュータ活用を含む。） 地学 地学実験（コンピュータ活用を含む。）	1単位以上 " " " " " "	20
美術	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 工芸 美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	1単位以上 " " " "	20
保健体育	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学」及び運動学（運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学及び公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	1単位以上 " " " "	20
英語	英語学 英米文学 英語コミュニケーション 異文化理解	1単位以上 " " "	20

高等学校教諭一種免許状

教 科	免 許 法 に 定 め る 科 目	単 位 数	合 計 単位数
国 語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） 国文学（国文学史を含む。） 漢文学	1 単位以上 " "	20
地 理 歴 史	日本史 外国史 人文地理学及び自然地理学 地誌	1 単位以上 " " "	20
公 民	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」 「社会学，経済学（国際経済を含む。）」 「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	1 単位以上 " "	20
数 学	代数学 幾何学 解析学 「確率論，統計学」 コンピュータ	1 単位以上 " " " "	20
情 報	情報社会及び情報倫理 コンピュータ及び情報処理（実習を含む。） 情報システム（実習を含む。） 情報通信ネットワーク（実習を含む。） マルチメディア表現及び技術（実習を含む。） 情報と職業	1 単位以上 " " " " "	20
理 科	物理学 化学 生物学 地学 「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）， 化学実験（コンピュータ活用を含む。）， 生物学実験（コンピュータ活用を含む。）， 地学実験（コンピュータ活用を含む。）」	1 単位以上 " " " "	20
美 術	絵画（映像メディア表現を含む。） 彫刻 デザイン（映像メディア表現を含む。） 美術理論及び美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	1 単位以上 " " "	20
保 健 体 育	体育実技 「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学」及び運動学 （運動方法学を含む。） 生理学（運動生理学を含む。） 衛生学及び公衆衛生学 学校保健（小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。）	1 単位以上 " " " "	20
英 語	英語学 英米文学 英語コミュニケーション 異文化理解	1 単位以上 " " "	20

3－3 「教職に関する科目」

免許状種別による法令で規定された単位数は次のとおりです。本学部では4－3に従って履修してください。

免許法に定める科目	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
教職の意義等に関する科目	2	2
教育の基礎理論に関する科目	6	6
教育課程及び指導法に関する科目	12	6
生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目	4	4
教職実践演習	2	2
教育実習（事前及び事後の指導1単位を含む。）	5	3

3－4 「教科又は教職に関する科目」

免許状種別及び教科別等による法令で規定された単位数は次のとおりです。本学部では4－2「教科に関する科目」又は4－3「教職に関する科目」から履修してください。

3－2又は3－3で指定された単位数を超えて修得した単位数は「教科又は教職に関する科目」の単位数に算入されます。

免許状の種類	科 目 区 分	単位数
中学校教諭一種免許状	教科又は教職に関する科目	8
高等学校教諭一種免許状	教科又は教職に関する科目	16

4 本学で開設している授業科目

4－1 「免許法66条の6に定める科目」

以下に示す，全学共通教育科目・専門教育科目の中から各2単位，計8単位を履修してください。

免許法に定める科目	授業科目・授業題目	中学	高校	摘 要
日 本 国 憲 法	憲法と人権Ⅰ（全学共通教育科目） 憲法と人権Ⅱ（全学共通教育科目） 憲法と人権（全学共通教育科目） 法律学の基礎Ⅰ（専門教育科目） 憲法（専門教育科目）	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	1科目選択 必修
体 育	ウェルネス総合演習（全学共通教育科目）	2	2	
外 国 語 コミュニケーション	英語（全学共通教育科目） 英語以外の外国語（全学共通教育科目）	2 2	2 2	1科目選択 必修
情 報 機 器 の 操 作	情報科学入門（全学共通教育科目）	2	2	
合 計		8	8	

4－2 「教科に関する科目」

本学部では「教科に関する科目」として下記のとおり開設していますので，該当する免許状の種類及び教科に応じて，履修してください。

免許教科 中一種免・高一種免「国語」

科 目 の 区 分	授 業 科 目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
国 語 学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語表現の基礎	2		2	
	日本語概説Ⅰ	2		2	
	日本語概説Ⅱ	2		2	
	日本語研究Ⅰ		2		2
	日本語研究Ⅱ		2		2
	日本語演習		4		4
	歴史と文化：日本語の敬語		2		2
	歴史と文化：世界の中の日本語		2		2
	歴史と文化：日本語の音声		2		2
	歴史と文化：方言と社会		2		2
国 文 学 (国文学史を含む。)	日本文学研究Ⅰ	2		2	
	日本文学研究Ⅱ	2		2	
	日本文学講読Ⅰ		2		2
	日本文学講読Ⅱ		2		2
	日本文学講読Ⅲ		2		2
	日本文学演習		8		8
	歴史と文化：近現代文学の世界Ⅰ		2		2
	歴史と文化：近現代文学の世界Ⅱ		2		2
漢 文 学	東アジア文化論	2		2	
	東アジア文化論講読Ⅰ		2		2
書 道 (書写を中心とする。) (中学校のみ教科の単位として認められる。)	書道	2			

免許教科 中一種免「社会」

科目の区分	授業科目	中一種免	
		単位数	
		必修	選択
日本史及び外国史	近現代世界の成立と展開		2
	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ		2
	日本史研究Ⅱ	2	
	考古学基礎研究Ⅰ		2
	考古学基礎研究Ⅱ		2
	考古学研究		2
	アジア史基礎研究Ⅰ		2
	アジア史基礎研究Ⅱ		2
	アジア史研究Ⅰ	2	
	アジア史研究Ⅱ		2
	ヨーロッパ史研究Ⅰ	2	
	ヨーロッパ史研究Ⅱ		2
	ヨーロッパ史研究Ⅲ		2
	アメリカ史研究		2
	地域交流史	2	
	歴史と文化：日本の古代史		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会		2
	歴史と文化：アジアの近代と日本		2
	人間と生命：東洋の知識人		2
地理学 (地誌を含む。)	地理学の基礎Ⅰ	2	
	地理学の基礎Ⅱ		2
	地域構造論		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域変容論		2
	地域環境論		2
	歴史と文化：日本図の歴史		2
	歴史と文化：世界図の歴史		2
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史		2
	生活と社会：産業と交通		2
	生活と社会：地球環境問題		2
「法学，政治学」	法学の基礎Ⅰ	2 選択 必修	2
	法学の基礎Ⅱ		2
	国際関係論Ⅰ		2
	国際関係論Ⅱ		2
	環境政策論Ⅰ		2
	環境政策論Ⅱ		2

科目の区分	授業科目	中一種免	
		単位数	
		必修	選択
「法律学，政治学」	憲法	2	
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	商法Ⅰ		2
	経済法Ⅰ		2
	国際法	2	
「社会学，経済学」	経済学の基礎Ⅰ	2	
	経済学の基礎Ⅱ		2
	社会学の基礎Ⅰ	2	
	社会学の基礎Ⅱ		2
	比較社会論		2
	世界経済論Ⅰ	2	
	世界経済論Ⅱ		2
	日本経済論		2
	地域経済論		2
	社会変動論		2
	福祉情報論		2
	地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
	環境経済学		2
	理論経済学Ⅰ		2
	理論経済学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学」	哲学・思想の基礎	2	
	ヨーロッパ思想研究		2
	環境倫理学		2

免許教科 高一種免「地理歴史」

科目の区分	授業科目	高一種免	
		単位数	
		必修	選択
日本史	日本史基礎研究Ⅰ		2
	日本史基礎研究Ⅱ		2
	日本史研究Ⅰ		2
	日本史研究Ⅱ	2	
	歴史と文化：日本の古代史		2
	歴史と文化：古代・中世日本の社会		2
外国史	近現代世界の成立と展開		2
	地域交流史	2	
	考古学基礎研究Ⅰ		2
	考古学基礎研究Ⅱ		2
	アジア史基礎研究Ⅰ		2
	アジア史基礎研究Ⅱ		2
	考古学研究	2	
	アジア史研究Ⅰ	2	
	アジア史研究Ⅱ		2
	アメリカ史研究		2
	ヨーロッパ史研究Ⅰ	2	
	ヨーロッパ史研究Ⅱ		2
	ヨーロッパ史研究Ⅲ		2
	歴史と文化：アジアの近代と日本		2
	人間と生命：東洋の知識人		2
人文地理学及び自然地理学	地理学の基礎Ⅰ	2	
	地域構造論		2
	空間情報論Ⅰ		2
	空間情報論Ⅱ		2
	地域環境論	2	
	歴史と文化：日本図の歴史		2
	歴史と文化：世界図の歴史		2
	歴史と文化：世界遺産が語る地理と歴史		2
	生活と社会：産業と交通		2
	生活と社会：地球環境問題		2
地誌	地理学の基礎Ⅱ	2	
	地域変容論		2

免許教科 高一種免「公民」

科目の区分	授業科目	高一種免	
		単位数	
		必修	選択
「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	法学の基礎Ⅰ	2	
	法学の基礎Ⅱ		2
	国際関係論Ⅰ		2
	国際関係論Ⅱ		2
	環境政策論Ⅰ		2
	環境政策論Ⅱ		2
	憲法	2	
	行政法Ⅰ		2
	行政法Ⅱ		2
	民法Ⅰ		2
	民法Ⅱ		2
	商法Ⅰ		2
	経済法Ⅰ		2
	国際法	2	
「社会学，経済学（国際経済を含む。）」	経済学の基礎Ⅰ	2	
	経済学の基礎Ⅱ		2
	社会学の基礎Ⅰ	2	
	社会学の基礎Ⅱ		2
	比較社会論		2
	世界経済論Ⅰ	2	
	世界経済論Ⅱ		2
	日本経済論		2
	地域経済論		2
	社会変動論		2
	福祉情報論		2
	地域社会論		2
	マクロ経済学Ⅰ		2
	マクロ経済学Ⅱ		2
	ミクロ経済学Ⅰ		2
	ミクロ経済学Ⅱ		2
	環境経済学		2
	理論経済学Ⅰ		2
	理論経済学Ⅱ		2
	財政学Ⅰ		2
	財政学Ⅱ		2
「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	哲学・思想の基礎	2	
	心理学の基礎Ⅰ	2	
	ヨーロッパ思想研究		2
	社会心理学		2
	コミュニティ心理学		2
	人格心理学		2
	環境倫理学		2

免許教科 中一種免・高一種免「数学」

科目の区分	授業科目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
代 数 学	数学と社会		2		2
	代数基礎Ⅰ	2 選択 必修	2	2 選択 必修	2
	代数基礎Ⅱ		2		2
	代数学Ⅰ		2		2
	代数学Ⅱ		2		2
	線形代数・演習Ⅰ		2		2
	線形代数・演習Ⅱ		2		2
幾 何 学	数理科学の基礎Ⅲ		2		2
	数学基礎	2 選択 必修	2	2 選択 必修	2
	幾何学Ⅰ		2		2
	幾何学Ⅱ		2		2
解 析 学	数理科学の基礎Ⅰ	2 選択 必修	2	2 選択 必修	2
	数理科学の基礎Ⅱ		2		2
	解析学Ⅰ		2		2
	解析学Ⅱ		2		2
	微分積分・演習Ⅰ		2		2
	微分積分・演習Ⅱ		2		2
	複素解析Ⅰ		2		2
	複素解析Ⅱ		2		2
	微分方程式Ⅰ		2		2
	微分方程式Ⅱ		2		2
	現象の数理		2		2
「確率論，統計学」	確率・統計Ⅰ	2 選択 必修	2	2 選択 必修	2
	確率・統計Ⅱ		2		2
コ ン ピ ュ ー タ	プログラミング演習Ⅰ	2		2	
	応用数理Ⅰ		2		2
	応用数理Ⅱ		2		2
	数理科学演習		4		4

免許教科 高一種免「情報」

科 目 の 区 分	授 業 科 目	高一種免	
		単位数	
		必修	選択
情報社会及び情報倫理	情報社会と情報倫理	2	
	経済法Ⅱ		2
コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	数値計算法		2
	情報数学		2
	制御概論		2
	プログラミング演習Ⅱ	2	
	計算機概論	2	
	情報創生演習		2
	情報処理の基礎Ⅰ		2
	言語情報処理研究Ⅰ		2
	言語情報処理研究Ⅱ		2
	映像情報プログラミングⅠ		2
	言語情報演習Ⅰ		2
	言語情報演習Ⅱ		2
	情報科学演習		4
情報システム (実習を含む。)	データベース基礎論	2 選択 必修	2
	情報総合プログラミングⅠ		2
	情報システム特論Ⅰ		2
	情報システム特論Ⅱ		2
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	最適化論	2 選択 必修	2
	情報の数理		2
	Web デザインⅠ		2
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	モデリング理論	2 選択 必修	2
	コンピュータグラフィックス基礎論		2
	情報処理の基礎Ⅱ		2
	映像情報プログラミングⅡ		2
	メディア情報演習ⅠA		2
	メディア情報演習ⅡA		2
情報と職業	情報と職業	2	

免許教科 中一種免・高一種免「理科」

科目の区分	授業科目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
物理学	物理学の基礎	2		2	
	力学Ⅰ		2		2
	力学Ⅱ		2		2
	熱統計力学Ⅰ		2		2
	熱統計力学Ⅱ		2		2
	電磁気学Ⅰ		2		2
	電磁気学Ⅱ		2		2
	量子力学Ⅰ		2		2
	量子力学Ⅱ		2		2
	物性科学		2		2
	放射線科学		2		2
化学	化学の基礎	2		2	
	環境物質循環論		2		2
	生物有機化学		2		2
	無機化学Ⅰ		2		2
	無機化学Ⅱ		2		2
	物理化学Ⅰ		2		2
	物理化学Ⅱ		2		2
	有機化学Ⅰ		2		2
	有機化学Ⅱ		2		2
	分析化学Ⅰ		2		2
	環境機器分析化学		2		2
	分子化学反応論		2		2
	グリーンケミストリー		2		2
生物	生命科学の基礎	2		2	
	自然保護論		2		2
	生化学		2		2
	分子生物学		2		2
	発生学		2		2
	生態学Ⅰ		2		2
	生態学Ⅱ		2		2
	適応進化学		2		2
	細胞情報学		2		2
	環境生理学		2		2
	物質作用・影響評価		2		2
	活性物質生理学		2		2
	生命環境情報学		2		2
	系統分類学		2		2
	細胞生理学		2		2
	機能物質作用学		2		2
	生体物質影響学		2		2

科目の区分	授業科目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
地学	地球科学の基礎	2		2	
	物質構造解析学		2		2
	地球表層構造形成論		2		2
	地球表層環境論		2		2
	地球環境科学		2		2
	地球物質科学		2		2
	環境地質学		2		2
物理学実験 (コンピュータ活用を含む。)	★物理学基礎実験	2		2 ★の中から 選択必修	2
	物理学実験Ⅰ		2		2
	物理学実験Ⅱ		2		2
化学実験 (コンピュータ活用を含む。)	★化学基礎実験	2	2		2
	化学実験Ⅰ		2		2
	化学実験Ⅱ		2		2
生物学実験 (コンピュータ活用を含む。)	★生命科学基礎実験	2			2
	環境共生学実験Ⅰ		2		2
	環境共生学実験Ⅱ		2		2
	環境共生学実験Ⅲ		2		2
地学実験 (コンピュータ活用を含む。)	★地球科学基礎実験	2			2
	地球科学実験Ⅰ		2		2

免許教科 中一種免・高一種免「美術」

科 目 の 区 分	授 業 科 目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
絵 画 (映像メディア表現を含む。)	環境アート		2		2
	芸術創生基礎演習		2		2
	芸術研究演習ⅠA		2		2
	芸術研究演習ⅡA		2		2
	メディア情報演習ⅠB		2		2
	メディア情報演習ⅡB		2		2
	メディア情報論		2		2
	アート表現基礎	2		2	
	歴史と文化：絵画表現と技法の基礎		2		2
	歴史と文化：絵画表現と技法の応用		2		2
	歴史と文化：現代絵画論		2		2
彫 刻	彫刻研究	2		2	
デ ザ イ ン (映像メディア表現を含む。)	Web デザインⅡ		2		2
	芸術研究演習ⅠB		2		2
	芸術研究演習ⅡB		2		2
	映像デザイン	2		2	
	歴史と文化：ビジュアルコミュニケーション		2		2
	歴史と文化：写真画像保存技術概論		2		2
美術理論及び美術史 (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)	美術概論	2		2	
工 芸 (中学校の教科の単位として認められる。)	工芸技法と表現	2			

免許教科 中一種免・高一種免「保健体育」

科 目 の 区 分	授 業 科 目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
体 育 実 技	コーチング論実習Ⅰ	1		1	
	コーチング論実習Ⅱ	1		1	
	コーチング論実習Ⅲ	1		1	
	コーチング論実習Ⅳ	2 選択 必修	1	2 選択 必修	1
	コーチング論実習Ⅴ		1		1
	コーチング論実習Ⅵ		1		1
	コーチング論実習Ⅶ		1		1
	コーチング論実習Ⅷ		1		1
	ウェルネス・プロジェクト実習		2		2
「体育原理，体育心理学，体育経営管理学，体育社会学」及び運動学 (運動方法学を含む。)	健康体力科学の基礎	2		2	
	コーチング論	2		2	
	運動文化論		2		2
	スポーツ心理学	2		2	
	スポーツ社会学	2		2	
	レジャーマーケティング論		2		2
	スポーツマネジメント論	2		2	
	スポーツ障害論		2		2
	心理・健康ゼミナールⅠ	2		2	
	心理・健康ゼミナールⅡ	2		2	
生 理 学 (運動生理学を含む。)	運動生理学	2		2	
	応用解剖生理学		2		2
	スポーツ栄養学		2		2
	スポーツ科学実験実習	2		2	
衛 生 学 及 び 公 衆 衛 生 学	ヘルスプロモーションの基礎		2		2
	衛生・公衆衛生学	2		2	
	地域健康福祉論		2		2
学 校 保 健 (小児保健，精神保健，学校安全及び救急処置を含む。)	心理学の基礎Ⅱ		2		2
	健康教育学	2		2	
	精神医学	2		2	
	健康心理学		2		2
	救急処置法	2		2	
	健康行動論	2		2	

免許教科 中一種免・高一種免「英語」

科目の区分	授業科目	中一種免		高一種免	
		単位数		単位数	
		必修	選択	必修	選択
英語学	英米言語研究Ⅰ	2		2	
	英米言語研究Ⅱ		2		2
	英米言語研究Ⅲ		2		2
	英米言語研究Ⅳ		2		2
	英米言語演習		8		8
	現代英語研究Ⅰ		2		2
英米文学	英米文化研究Ⅰ		2		2
	英米文化研究Ⅱ		2		2
	英米文学研究	2		2	
	英米文学講読Ⅰ		2		2
	英米文学講読Ⅱ		2		2
	英米文学演習		8		8
英語コミュニケーション	現代英語研究Ⅱ	2		2	
	現代英語研究Ⅲ		2		2
異文化理解	異文化間コミュニケーション	2		2	
	現代英語研究Ⅳ		2		2

4－3 「教職に関する科目」

科目の区分	授業科目	単位数	中一種免	高一種免	備 考		
			必修	必修			
教職の意義等に関する科目	教師論	2	2	2			
教育の基礎理論に関する科目	教育学	2	2	2			
	教育心理学	2	2	2			
	学校制度論	2	2	2			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程論	2	2	2	「教科教育法」 取得したい教科免許状の教科教育法を修得しなければならない。また、他の教科教育法の単位は「教科又は教職に関する科目」に算入されない。 中一種免（社会）では「社会科教育法」の他に「地理歴史科教育法」と「公民科教育法」のうち1科目以上を履修しなければならない。 高一種免（情報）では「情報科教育法Ⅰ」，「情報科教育法Ⅱ」の2科目で履修しなければならない。		
	国語科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修			
	国語科教育法Ⅱ	2					
	国語科教育法Ⅲ	2					
	国語科教育法Ⅳ	2					
	社会科教育法	2	2				
	地理歴史科教育法	2	2 選択必修	2 選択必修			
	地理歴史科教育方法論	2		2 選択必修			
	公民科教育法	2				2 選択必修	
	公民科教育方法論	2					
	英語科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修			
	英語科教育法Ⅱ	2					
	英語科教育法Ⅲ	2					
	英語科教育法Ⅳ	2					
	美術科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修			
	美術科教育法Ⅱ	2					
	美術科教育法Ⅲ	2					
	美術科教育法Ⅳ	2					
	保健体育科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修			
	保健体育科教育法Ⅱ	2					
	保健体育科教育法Ⅲ	2					
	保健体育科教育法Ⅳ	2					
	数学科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修			
	数学科教育法Ⅱ	2					
	数学科教育法Ⅲ	2					
	数学科教育法Ⅳ	2					
	情報科教育法Ⅰ	2		2			
	情報科教育法Ⅱ	2		2			
	理科教育法Ⅰ	2	4 選択必修	2 選択必修			
	理科教育法Ⅱ	2					
	理科教育法Ⅲ	2					
	理科教育法Ⅳ	2					
	道德教育	2	2				
	特別活動研究	2	2	2			
	教育方法学	2	2	2			
	生徒指導，教育相談及び進路指導に関する科目	生徒指導論	2	2		2	
		教育相談	2	2		2	
教 育 実 習	教育実習事前事後指導	1	1	1	3週間 2週間		
	教育実習（中学）	4	4				
	教育実習（高校）	2		2			
教 職 実 践 演 習	教職実践演習	2	2	2			

4-4 「介護等体験」

本学部では「介護等体験」を中学一種免許状の必修の科目として開設しています。中学一種免許状を取得する場合は、2年次に履修してください。受講希望者は、受講の前年度に実施される「介護等体験」の受講説明会に出席し、「希望調査票」を提出してください。また、「介護等体験」の実習までに開催される説明会・事前指導のすべてに出席してください。

科目名	単位数	摘 要
介護等体験	1 (中一種免必修)	社会福祉施設等で5日間 鳴門教育大学附属特別支援学校等で2日間

5 履修上の注意

5-1 「教育実習」

教育実習を受講するためには、受講の前年度当初に実施される「教育実習」の受講説明会に出席し、希望調査票を提出してください。また、受講年度の「教育実習事前事後指導」を受講し、「教育実習」の事前指導を受けてください。なお、受講の前年度末において以下の要件を満たしていなければなりません。

- ① 4年次に進級できる者。
- ② 下記の単位数を修得していること。

科 目	教育実習（中学） 実習期間：3週間	教育実習（高校） 実習期間：2週間
「教科に関する科目」	24単位以上	24単位以上
「教職に関する科目」	16単位以上 (教科教育法4単位を含む)	10単位以上 (教科教育法2単位を含む)
「教科又は教職に関する科目」	介護等体験（1単位）	

中一種免と高一種免を同時に取得する場合、「教育実習」は3週間のみを履修すれば十分です。その場合、履修登録は「教育実習（中学）」としてください。ただし、高一種免の単位としては「教育実習」は2単位となります。

5-2 「教職実践演習」

「教職実践演習」を受講するためには、1年次後期に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席し、「教職キャリアノート」を通した指導を2年以上受け、受講年度の「教職実践演習受講予定者リスト」に登録されていなければなりません。このリストは、以下の要領で作成されます。

- ① 1年次10月に実施される「教員免許状取得希望者に対する説明会」の出席者リストから、卒業予定年度の「教職実践演習受講予定者リスト」が作成されます。
- ② 「教職キャリアノート」を提出しなかった者や、返却説明会に欠席した者は、「教職実践演習受講予定者リスト」から削除されます。
- ③ 2年次以降に教職免許状の取得をめざす学生は、次年度10月に開催される「教員免許状取得希望者に対する説明会」に出席して、指導を受けることになりますが、その際、2年次10月から指導を受けた学生は、その学生の卒業予定年度の「教職実践演習受講予定者リスト」に追加登録されます。

5-3 その他

- ① 他大学等で修得した「教職に関する科目」の単位は、その単位を修得した他大学等で取得できる免許状の必要最低単位数を上限として、本学部における当該科目を履修し修得した単位として認められます。
- ② 他大学（鳴門教育大学など）で履修した単位を加えて免許を取得しようとする場合には、前もって学務係に相談するようにして下さい。なお、他大学（鳴門教育大学など）の教職に関する科目の中には、本学での免許の単位とはできない科目もあります。
- ③ 「教職に関する科目」のうち、「教育相談」のみ進級および卒業に必要な単位に認められます。

2. 学芸員になるための資格取得に関して

1 学芸員の資格

学芸員の資格は、博物館法第五条第一項の規定により、次のように定められています。

学士の資格を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。

2 文部科学省令で定められた博物館に関する科目

文部科学省令で定められた博物館に関する科目は以下のとおりです。

科 目 名	単 位 数
生涯学習概論	2 単位
博物館概論	2 単位
博物館経営論	2 単位
博物館資料論	2 単位
博物館資料保存論*	2 単位
博物館展示論*	2 単位
博物館教育論*	2 単位
博物館情報メディア論	2 単位
博物館実習（事前事後指導を含む）	3 単位
計	19 単位

本学部では、すべて上記の科目名のままで開講します。また、*の付いた3科目は、徳島県文化の森総合公園内の県立博物館・県立美術館・県立文書館との連携によって、鳴門教育大学・四国大学の学生と合同で受講する科目です。会場も文化の森で受講することとなります。

3 受講に際しての注意事項

- (1) 2で示された博物館に関する科目のすべては、学芸員の資格を取得するための必須科目ですが、進級および卒業に必要な単位には算入されません。
- (2) 博物館教育論、博物館展示論、博物館資料保存論及び博物館実習は、学外の施設において受講する科目であることを踏まえ、受講要件として、以下の①及び②の両方を満たす者としてします。
 - ① 本学部在学もしくは本学部を卒業した者
 - ② 各科目を受講するまでに以下に示す要件を満たした者

科 目 名	受講までに修得すべき科目と単位数
博物館教育論	「博物館概論」 2 単位
博物館展示論	「博物館概論」・「博物館情報・メディア論」 計 4 単位
博物館資料保存論	「博物館概論」「博物館資料論」 計 4 単位
博物館実習	「博物館概論」及び「博物館資料論」を含めて 12 単位以上

4 そ の 他

- (1) 学芸員の資格取得を希望する学生は、毎年7月末頃に実施する「学芸員資格取得希望者に対する説明会」に出席し、履修指導を受けて下さい。
- (2) 学芸員の資格取得のために、単位互換協定校の単位を修得し単位の認定を希望する者は、事前に学務係に照会して下さい。

3. 認定心理士の資格取得に関して

1 認定心理士とは

（社）日本心理学会により認定される心理学の基礎資格で、指定された科目を履修することによって取得できます。

2 認定心理士の目的

心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得していることを（社）日本心理学会が認定するものです。

3 認定心理士取得のための履修科目

資格取得に必要な領域と必要単位数は以下の通りです。

「基礎科目」 a：心理学概論， b：心理学研究法， c：心理学実験・実習

○ a， b の各領域 4 単位以上， 領域 c は 3 単位以上で， 小計 12 単位以上

「選択科目」 d：知覚心理学・学習心理学， e：生理心理学・比較心理学， f：教育心理学・発達心理学，
g：臨床心理学・人格心理学， h：社会心理学・産業心理学

○ d， e， f， g， h の 5 領域中 3 領域以上で各領域 4 単位以上

○ 5 領域の小計が 16 単位以上

「その他の科目」 i：心理学関連科目， 卒業論文・卒業研究（最大 4 単位まで）

* 基礎科目， 選択科目， その他の科目で総計 36 単位以上が必要

* 「その他の科目」以外の各領域は「基本主題」と「副次主題」のいずれかに分類されます。各領域で必要な単位は 4 単位以上ですが，この 4 単位中少なくとも 2 単位は「基本主題」に属する単位でなければなりません。

上記領域に該当する本学における開講科目は以下の通りです（（ ）は単位数）。なお，全学共通教育科目，教職科目以外は心理・健康コースで開設されている科目です。

「基礎科目」

領域 a（基本主題）心理学入門（2），心理学概論（2），心理学概説（2），心理学基礎（2）

<以上，全学共通教育科目>

領域 b（基本主題）行動統計学（2），人間行動研究法（2）

領域 c（基本主題）心理学実験実習Ⅰ（1），心理学実験実習Ⅱ（1）

心理学実験実習Ⅲ（1），心理学実験実習Ⅳ（1）

「選択科目」

領域 d（基本主題）知覚心理学（2），認知心理学（2），学習心理学（2）

領域 e（基本主題）生理心理学（2）

領域 f（基本主題）心理学の基礎Ⅰ（２），教育心理学（２）＜教職科目＞

領域 g（基本主題）心理学の基礎Ⅱ（２），人格心理学（２），教育相談（２），健康心理学（２）
（副次主題）精神医学（１）

領域 h（基本主題）社会心理学（２），コミュニティ心理学（２）

「その他の科目」

領域 i（基本主題）スポーツ心理学（２），卒業研究（心理学に関するもの：４）

4 認定心理士申請に関して

認定心理士の認定申請は，大学を卒業した後で資格取得希望者が個人の資格で申し込むことを原則としています。大学を卒業し，その在学期間に取得した単位を認定単位として申請します。

面接試験や筆記試験は無く，更新ありません。

申請書類，および資格申請の手引きは（社）日本心理学会のホームページよりダウンロードすることができます。

申請には指導教員等の署名・捺印，成績証明書，卒業証明書が必要です，卒業前に準備しておくとい良いでしょう。また，基礎科目 b，c に該当する科目には受講年度のシラバスのコピーが必要です。

4. 健康運動指導士の資格取得に関して

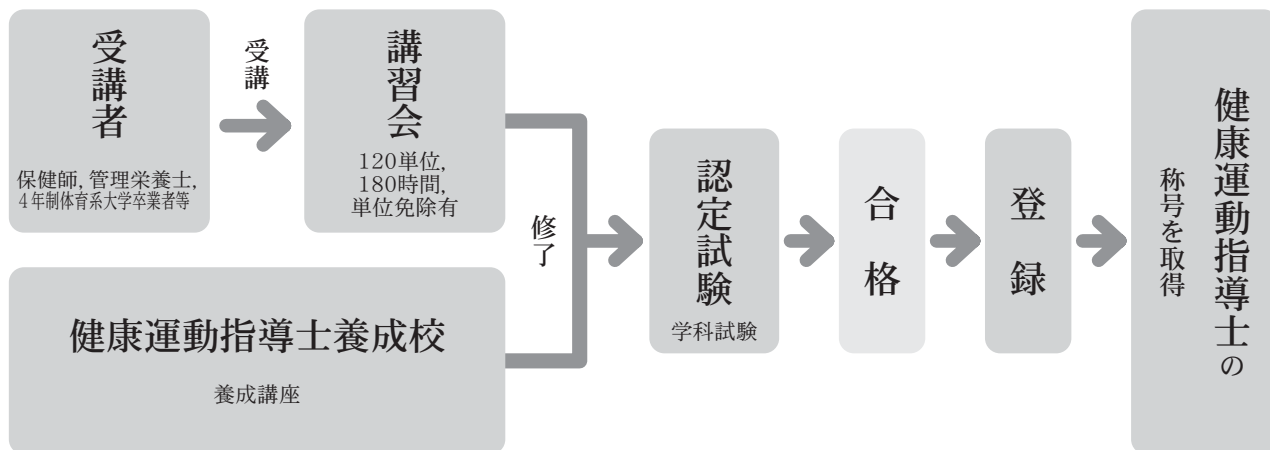
1 「健康運動指導士」について

健康運動指導士は、スポーツクラブや保健所・保健センター、病院・介護施設などにおいて、人々の健康を維持・改善するために、安全かつ適切な運動プログラムを提案・指導する専門家です。厚生労働省所管の(財)健康・体力づくり事業財団が養成・資格の認定・登録事業を行っています。

健康運動指導士は、特に運動を重視した国の施策として展開された第2次国民健康づくり対策（アクティブ80ヘルスプラン）から誕生した資格です。現在、「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」が積極的に展開されていますが、メタボリックシンドロームの予防、生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢社会を踏まえた介護予防のための運動指導に関する専門的知識及び技術を有する者として動機づけ、支援、または積極的支援対象者に対して生活習慣の改善のための取り組みに資する働きかけを担う人材として期待されています。

2 「健康運動指導士」養成校＝指定された授業単位を修得することで認定試験が受験できる

健康運動指導士の称号は、次の図のように、健康運動指導士養成講習会を受講するか、または、健康運動指導士養成校の養成講座を修了して、健康運動指導士認定試験に合格した上で、健康運動指導士台帳に登録されなければなりません。



詳しくは(財)健康・体力づくり事業財団 <http://www.health-net.or.jp/shikaku/index.html> を参照

本学部では、人間文化学科心理・健康コースに健康運動指導士養成校としての養成プログラムを開設しており、そこで指定された科目の単位修得により認定試験を受験することができます。

3 「健康運動指導士養成プログラム」として指定されている科目

健康運動指導士養成プログラムとして指定されている科目は、年次ごとに開講されており、中には隔年開講のものもあるので、1年から3年までの履修計画を立てて、必要とされる単位を全て修得することが、認定試験の受験資格となります。

	前 期		後 期	
1 年	ヘルスプロモーションの基礎	2	心理学の基礎Ⅱ	2
2 年	運動生理学	2	健康教育学	2
	応用解剖生理学	2	衛生・公衆衛生学	2
	コーチング論	2	スポーツ栄養学	2
	コーチング論実習Ⅰ＊	1	コーチング論実習Ⅲ＊	1
	コーチング論実習Ⅱ＊	1		
	コーチング論実習Ⅷ＊	1		
3 年	健康行動論	2	救急処置法	2
	地域健康福祉論	2	(コーチング論実習Ⅲ＊	1)
	スポーツ障害論	2		
	スポーツ科学実験実習	2		
	(コーチング論実習Ⅰ＊	1)		
	(コーチング論実習Ⅱ＊	1)		
	(コーチング論実習Ⅷ＊	1)		
	ウェルネスプロジェクト実習		2	
合計 32 単位				

- ・1年次の2つの授業は学部・学科共通科目で、1年次に単位修得していなかった学生は、2年次以降に履修をするように。
- ・コーチング論実習＊は隔年開講科目であるため、2・3年が合同で履修します。
- ・通年の「ウェルネスプロジェクト実習」の履修学生のうち「健康運動指導士養成クラス」の学生は、実習先をフィットネスクラブ「ハッピー徳島」と定め、健康増進施設実習・水泳水中運動指導実習として実施します。

4 「健康運動指導士養成クラス」による資格取得サポート

心理・健康コースに配属された2年次から「健康運動指導士養成クラス」を編成し、クラス担当の指導教員を置き、履修指導や資格情報、模試などの資格取得のためのサポートを月1回程度で実施します。先輩からのアドバイスや、授業の復習、相互自習など、学生主体となったゼミ形式で、4年の9月、あるいは3月に認定試験を受けるまでの学習を支援します。

ただし、4年間の在学中に養成プログラム科目にかかるすべての単位を修得したものに限り、卒業後の受験が認められます。再受験は可能ですが、できるだけ4年生の2回の試験で合格できるように努力してください。

5. アシスタントマネジャーの資格取得に関して

1 財日本体育協会公認『アシスタントマネジャー』について

本学部では、財日本体育協会が認定するスポーツマネジメント資格「アシスタントマネジャー」を取得するための養成講習会のカリキュラムに沿った教育が実施されている大学として、講習会免除適応コースの承認を2009年度より受けました。

スポーツマネジメント資格には、「クラブマネジャー」と「アシスタントマネジャー」があります。「クラブマネジャー」とは、地域スポーツクラブなどにおいて、クラブ会員が継続的に快適なクラブライフを送ることができるよう、健全なクラブ経営を行うためのマネジメント能力を身につけるための資格です。

「アシスタントマネジャー」は、その組織経営のための諸活動をサポートするために必要なスポーツクラブのマネジメントに関する基礎的知識を有し、協働できる能力を身につけるための資格です。本学部において、定められた科目を履修することで、「アシスタントマネジャー」資格取得のための養成講習会の受講を免除されており、卒業年度の検定試験の受験によって資格取得が可能になります。

2 「アシスタントマネジャー養成コース」として指定されている科目

「アシスタントマネジャー」を取得するためには、心理・健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し、単位を修得する必要があります。それによって、財日本体育協会公認「アシスタントマネジャー」の34時間の養成講習会の受講を免除され、受験資格を得ることができます。「アシスタントマネジャー」の資格を得るためには、卒業年度に財日本体育協会が実施する特別講習会（1時間）と検定試験を受けなければなりません。

（1年生）

健康体力科学の基礎

（2年生）

スポーツマネジメント論

スポーツ社会学

コーチング論

スポーツ栄養学

スポーツ心理学（隔年開講）

（3年生）

健康行動論

救急処置法

スポーツ障害論

レジャーマーケティング論

※ただし、上記の科目の履修及び単位修得が2009年度以降の者に限る。

3 資格取得に必要な費用

□公認アシスタントマネジャー養成テキスト	3,150 円（購入することが望ましい）
□修了証明書	9,450 円（アシスタントマネジャー）
□検定受検料	10,500 円（受験のための交通費は別途必要）
□資格登録料（初回登録のみ + 3,000 円）	13,000 円（初回登録料含む）

6. 公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コースに関して

1 財日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コースについて

本学部では、2009年度より、財日本体育協会の「スポーツ指導者養成講習会免除適応コース」承認校となっています。適応コースとは財日本体育協会で実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラムを本学部で履修することができ、講習・試験の一部またはすべてが免除されるシステムです。

本学部で免除適応されるのは共通科目コースⅠとⅡであり、卒業時に財日本体育協会へ申請し、「免除適応コース修了証明書」が交付されます。

卒業後、財日本体育協会の公認スポーツ指導者資格を取得する場合、共通科目の一部またはすべての講習が免除されます（専門科目の受講は必要です）。

＜すべての講習が免除される資格＞

スポーツリーダー

＜共通科目のすべての講習が免除される資格＞

指導員（競技種目別）

上級指導員（競技種目別）

ジュニアスポーツ指導員

クラブマネジャー

＜共通科目の一部の講習が免除される資格＞

アスレティックトレーナー（共通科目Ⅲのみ受講）

スポーツ栄養士（共通科目Ⅲのみ受講）

コーチ（競技種目別）（共通科目Ⅲのみ受講）

教師（競技種目別）（共通科目Ⅲのみ受講）

上級コーチ（競技種目別）（共通科目Ⅲ、Ⅳのみ受講）

上級教師（競技種目別）（共通科目Ⅲ、Ⅳのみ受講）

2 公認スポーツ指導者養成講習会免除適応コースとして指定されている科目

「免除適応コース修了証明書」を取得するためには、心理・健康コースで開講している下記の科目を卒業年度までに履修し、単位を修得する必要があります。

（1年生）

健康体力科学の基礎

（2年生）

スポーツマネジメント論

スポーツ社会学

コーチング論

スポーツ栄養学

スポーツ心理学（隔年開講）

（3年生）

健康行動論

救急処置法

スポーツ障害論

※ただし、上記の科目の履修及び単位修得が2009年度以降の者に限る。

3 詳細な情報を必要な場合は、財日本体育協会のHPで調べるか、心理・健康コースの佐竹まで問い合わせてください。

7. 社会調査士の資格取得に関して

社会調査士資格制度について

社会調査士は、一般社団法人 社会調査協会により認定される制度です。

社会調査士資格制度の目的

情報化社会としての現代社会は、おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい、多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ、生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで、社会調査は不可欠の方法である。

こうした社会調査の高まる重要性に比して、その担い手となる専門的人材の育成システムの現状はきわめて未整備の状態にあるといつてよい。その結果として、現在実施されている社会調査の一部については、しばしば方法上・倫理上の問題点が指摘されており、社会調査の質的な改善や水準向上を求める声には大きなものがある。

こうした声に応え、事態の改善をはかるためには、なによりも社会調査に関する教育体制を整備し、調査を担当する人材の育成を制度化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかることが必要とされる。このたび日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の3学会が、相互の連携協力のもとに、「社会調査士」資格の制度化をはかり、「社会調査士資格認定機構」の設立を構想したのは、そうした社会的制度に応えることをねらいとするものである。（社会調査士資格認定機構設立趣旨書より）（平成20年12月25日より、「社会調査士資格認定機構」は、体制を整備し、名称を新たに「一般社団法人 社会調査協会」として新しいスタートを切りました。）

社会調査士資格取得のための標準カリキュラム

社会調査士取得のためには、以下のA～Gに対応する授業科目単位を修得する必要があります。

A：社会調査の基本的事項に関する科目

B：調査設計と実施方法に関する科目

C：基本的な資料とデータの分析に関する科目

D：社会調査に必要な統計学に関する科目

E：量的データ解析の方法に関する科目

F：質的な分析の方法に関する科目

G：社会調査の実習を中心とする科目

＊ EとFはどちらかひとつを選択して下さい。

A～Gがどの授業科目に対応するかは毎年協会に申請するため、多少の変動がありますので、申請の際には必ず、一般社団法人 社会調査協会のホームページを参照して下さい。現在2012年度の認定科目申請中です。

<http://jasr.or.jp>

本学部では、一般社団法人 社会調査協会の発行する社会調査士資格取得のために必要な科目（調査協会標準カリキュラムに準拠）を設置しております。

社会調査士資格には、卒業以前に取得できる「社会調査士（見込み）」資格と、卒業資格取得後に申請、あるいは、社会調査士（見込み）資格を変更して取得する正規の「社会調査士」資格があります。資格申請受付期間は毎年変更がありますので、必ずHPを確認して下さい。

資格取得希望者は、以下の要件に従って書類を準備、申請して下さい。

申請にあたっては、必ず自身が資格申請要件を有しているかどうか確認して下さい。

【資格申請要件】

- ① 在籍期間が2年以上であること
- ② 社会調査士科目を設置している大学（機関）で標準カリキュラムA～Gに対応した科目単位を申請時まで、3科目以上単位修得していること
- ③ 2の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が5科目以上であること
（ただしE／F科目は選択制のため1科目と数える）

【資格申請手順】

- ① 社会調査協会ホームページから様式をダウンロードし、必要事項を記入
（本校連絡責任者 矢部拓也）
<http://jasr.or.jp>
- ② 必要書類を準備
社会調査士（見込み）認定申請書のコピーを学務に提出し、学務より社会調査士指定科目証明書を受け取る
- ③ 資格認定手数料 15,750 円（税込）を郵便局にて振込み、領収証コピーを様式裏面に貼付
口座番号：00110－1－654739
加入者名：一般社団法人 社会調査協会
- ④ 上記の様式および必要書類を、連絡責任者に提出

注）本規定は、2010年12月時点のものであり、今後、改訂される可能性があります。申請に際しては、各自、社会調査協会のホームページを読んでから申請にのぞんで下さい。

8. 社会福祉主事になるための資格取得に関して

社会福祉主事について

社会福祉主事は、「社会福祉法第19条」に規定されている「任用資格」で、福祉事務所現業員として任用される者に要求される資格（任用資格）であり、社会福祉施設職員等の資格に準用されています。「任用資格」とは、社会福祉主事として採用されて始めて「社会福祉主事」と名乗れるということを意味します。任用資格を取得するためには、大学在学中に、下記に示す社会福祉主事任用資格指定科目の内、3科目以上を受講する必要があります。

社会福祉主事の職務は、下記に示す福祉施設等において、福祉各法に定められた援護・育成・公正の措置に関する事務を行うことです。社会福祉主事任用資格の必要な職種は以下のとおりです。

【行政】

1. 福祉事務所

現業員、査察指導員、老人福祉指導主事、家庭児童福祉主事〔児童福祉事業従事2年以上等〕、家庭相談員〔児童福祉事業従事2年以上等〕、母子相談員

2. 各種相談所

知的障害者福祉司〔知的障害者福祉事業従事2年以上等〕、身体障害者福祉司〔身体障害者福祉事業従事2年以上等〕、児童福祉司〔児童福祉事業従事2年以上等〕

【社会福祉施設】

施設長、生活指導員 等

※〔 〕内は、社会福祉主事任用資格に加えて必要な要件

社会福祉主事任用資格指定科目

【社会福祉法第19条1号に定められた指定科目一覧】

社会福祉概論、社会福祉事業史、社会福祉援助技術論、社会福祉調査論、社会福祉施設経営論、社会福祉行政論、社会保障論、公的扶助論、児童福祉論、家庭福祉論、保育理論、身体障害者福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、老人福祉論、医療社会事業論、地域福祉論、法学、民法、行政法、経済学、社会政策、経済政策、心理学、社会学、教育学、倫理学、公衆衛生学、医学一般、リハビリテーション論、看護学、介護概論、栄養学、家政学

本学部での履修と、社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の発行について

社会福祉主事として任用されるに際しては、卒業証明書と成績証明書によって履修を証明することができます。但し、採用に際して社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書の提示を求められることがあります。その場合には、本学部では、次に示す科目の内の3科目を履修することにより、福祉主事任用資格必要科目履修証明書を発行することができます。

【社会福祉主事任用資格必要科目履修証明書発行のために受講が必要な科目】

本学開講科目（読替科目）	指 定 科 目
・ 民法Ⅰ及びⅡ ・ 行政法Ⅰ及びⅡ ・ 精神医学 ・ 教育学 ・ 人間と生命／心理学基礎 ・ 生活と社会／社会学概論 ・ 社会統計学Ⅰ及びⅡ ・ 環境倫理学 ・ 衛生・公衆衛生学	民法 行政法 精神障害者保健福祉論 教育学 心理学 社会学 社会福祉調査論 倫理学 公衆衛生学

※民法，行政法及び社会統計学はⅠとⅡの両方を受講して1科目と見なされるので，両方とも受講すること。

9. GIS 学術士の資格取得に関して

1 「GIS 学術士」の資格制度について

「GIS 学術士」とは、GIS の学術を保有する者として、公益社団法人 日本地理学会により認定される制度です。

2 「GIS 学術士」の資格制度の目的

「GIS」とは、地理情報科学（Geographic Information Sciences）および地理情報システム（Geographic Information System）を指し、「GIS」の学術とは地理情報をコンピュータで系統的に取得・構築、管理、分析、総合、表示・伝達することに係わる学術を意味します。「地理情報」とは、地理的な位置や範囲と属性情報が対になっている情報を指します。「GIS 学術士」の資格制度は、GIS の知識と技術の向上をはかり、適正な GIS 学術を普及し、もって地理情報科学及び地理学の進歩と社会の発展に貢献することを目的としています（「GIS 学術士資格認定規定」をもとに作成）。

3 「GIS 学術士」資格取得のための標準カリキュラム

「GIS 学術士」資格取得のためには、以下の【A】～【D】に対応する授業科目単位を修得する必要があります。

【A】：GIS に関連する情報処理を中心とする科目

【B】：GIS の基本的機能と空間データの講義を中心とする科目

【C】：GIS による地図作成・空間分析の実習を中心とする科目

【D】：GIS を利用した卒業論文を執筆する科目（または、それに相当する演習）

総合科学部のどの授業科目が【A】～【D】に対応するかは、年度ごとに多少の変動がありますので、申請の際には必ず、公益社団法人 日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページ（下記 URL）を参照してください。

<http://ajg-certi.jp/>

4 「GIS 学術士」資格申請に際して

「GIS 学術士」の取得は卒業後になります（申請は卒業前に可）。ただし、下記の要件を満たしていれば、卒業前に「GIS 学術士（見込み）」の認定を受けることができます。「GIS 学術士（見込み）」が認定されれば、資格要件科目をすべて修得した後に、「GIS 学術士」資格への変更を申請することが可能になります。

○「GIS 学術士（見込み）」の認定要件

- ① 大学在籍期間が3年以上であること。
- ② 3の【A】，【B】，【C】に対応した科目の単位を申請時までに2科目以上修得していること。
- ③ ②の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が3科目以上であること。

5 資格申請手順について

以下では「GIS 学術士（見込み）」の申請手順について簡潔に記します。

- ① 公益社団法人 日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページから各種申請書をダウンロードして必要事項を記入します。

<http://ajg-certi.jp/>

- ② 単位修得・科目履修を証明する書類を準備します。
- ③ 手数料を払い込みます（「GIS 学術士（見込み）」は認定審査手数料 5,250 円）。払込金受領書のコピーを申請書の裏面に貼付してください。

【払込先（郵便局）】

振替口座：00130－0－413143

加入者名：公益社団法人 日本地理学会 GIS 学術士資格委員会

* 払込金受領書の「ご依頼人」の欄に、住所、氏名（大学名・学生番号）を記入してください

- ④ 上記の必要書類一式を公益社団法人 日本地理学会 GIS 学術士資格委員会まで郵送してください。

注）上記の情報は 2012 年 9 月時点のものであり、今後改訂される可能性もあります。申請に際しては、公益社団法人 日本地理学会の「資格専門委員会」のホームページを必ず事前に確認してください。不明な点があれば、平井松午（「GIS 学術士」徳島大学総合科学部代表担当者）まで問い合わせください。

10. 日本語教員養成に関して

「クール・ジャパン」の流行や漫画・アニメ、また日本食の人気などで、世界では日本語を学ぶ人たちが増えています。私たちの使っている日本語は、統計によると現在133カ国で約365万人が学んでおり、国内でも17万人の外国人が勉強しています。さらに、日本政府も国家戦略の一つとして日本国内への留学生や優秀な労働者の積極的な受け入れを進めており、これからも質の高い日本語教師の必要性は高くなっていくと思われます。

日本人なのだから日本語が教えられる、と思うかもしれませんが。確かに日本人なら誰でも日本語を話しますが、実は日本語教育と国語教育は視点が全く違います。そして、日本語が全くわからない人に、整理して文法を教えたり日本人と上手に会話できるように指導したりするには、十分な知識と技術が必要です。

総合科学部では、次ページにある日本語教育関連の授業を提供していますが、それらの授業を履修しても日本語教師のための資格や免許が得られるわけではありません。でも、日本語教育に関連した事柄を学ぶことで、自分の言語である日本語と言語を含む日本文化や日本人の考え方などを客観的にとらえ直すことができます。また、日本語を使った日本人との円滑なコミュニケーションの仕組みについても学びますから、他の日本人や外国人留学生や友達との良いコミュニケーションのとり方についても理解することができます。もちろん、これらの授業は将来日本語教師として働くための良い土台となります。

日本語教師を職業として目指すなら、一般の教員免許を取得するための授業科目を履修しておくこと、また外国語を体系立てて勉強しておくことを勧めます。

副専攻課程に相当する単位を取得した場合、そのことを証明する証明書を本学部が発行しますので、希望者は所定の手続きを取ってください。証明書をを得るために他大学・他学部との間で単位互換を希望する人は、事前に教務委員を通して教務委員会に照会し、履修希望授業科目が文部科学省の示した表Aの科目として認定されるかを確認してください。

表A 文部科学省が日本語教員養成のための標準的教育内容として示した分野と副専攻のための最低修得単位数

記 号	内 容	副専攻課程
I ー(1)	日本語の構造に関する体系的、具体的な知識	10単位
I ー(2)	日本語の教授に関する知識・能力	9 単位
II	言語学的知識・能力	4 単位
III	日本人の言語生活等に関する知識・能力	2 単位
IV	日本事情	1 単位
	計	26単位

表B 分野ごとに本学部で開設している授業科目と認定されうる最大単位数

記 号	授 業 科 目 の 名 称	単 位 数
I -(1)	日本語研究 I	2
	日本語概説 I	2
	日本語研究 II	2
	日本語概説 II	2
	日本語演習	8
	日本語表現の基礎	2
	* 歴史と文化 (日本語の音声)	2
I -(2)	日本語教育方法論 I	2
	日本語教育方法論 II	2
	日本語教授法 I	2
	日本語教授法 II	2
	日本語教材研究	2
II	英米言語演習	8
	現代英語研究 I	2
	英米言語研究 I	2
	英米言語研究 II	2
	英米言語研究 III	2
	英米言語研究 IV	2
	* 歴史と文化 (方言と社会)	2
III	日本文学講読 III	2
	異文化間コミュニケーション	2
	* 歴史と文化 (日本語について考える)	2
IV	アート創生プロジェクト	2
	社会学の基礎 I	2
	社会学の基礎 II	2
	市民活動論	2
	比較文化論	2
	地域文化論 I	2
	地理学の基礎 II	2
	美術概論	2

* 印の付いた科目は全学共通教育科目 (年度によって名称が変更されることがある。)

11. 学習プログラムの履修概要

総合科学部では、学科横断的な複数科目を受講することで一定のまとまった知識や能力を獲得できるようにまとめた一連の科目を「学習プログラム」と名付けてまとめ、「環境科学プログラム」を用意しています。これらの科目の一部のみを受講することもできますが、プログラム所定の単位を修得した場合は、プログラム単位修得証明書を発行します。くわしくは学務係でたずねてください。

環境科学プログラム（卒業まで次表に従って、計 20 単位以上を修得）

このプログラムは、総合理数学科および社会創生学科の複数のコースの開設科目の中から、環境科学の視点にたつて社会における各種の課題に寄与できると考えられる科目から構成されている学習プログラムです。学生自らが、各コースの専門教育と有機的に連携させることによって、身近な生活環境から地球レベルにいたる連続的な環境に関連する科学の基本事項の理解力を高めることを目的とします。環境に関する対応が求められる社会において活躍する学生諸君は、自分自身の所属するコースの専門教育の内容を深く理解した上で自らの目的に応じて科目を選択し、コース横断的および学科横断的な学習を行ってください。

このプログラムで用意される科目は、修得単位数と合わせ次表にまとめられています。修得した単位数は、学生が所属するコースの履修科目表に対応して学科共通科目、コース専門コア科目、コース専門選択科目、総合科学テーマ科目および自由選択科目などの卒業要件単位に認められます。ただし、環境科学の分野は、年々変化が大きいため指定科目にも変更が生じる場合があります。

総合理数学科	環境共生コース	公共政策コース 地域創生コース
環境機器分析化学 放射線科学 天然物化学 地球科学の基礎 地球環境科学 地球表層環境論 確率・統計Ⅰ・Ⅱ 現象の数理 資源エネルギー論	環境生理学 生体物質影響学 生化学 細胞生理学 自然保護論 生態学Ⅰ 環境物質循環論 環境リスク論 資源循環工学 地域環境デザイン 緑のデザイン エコシステム工学	環境政策論Ⅰ・Ⅱ グローバル社会論 市民活動論 地域環境論 空間情報論Ⅰ・Ⅱ メディア情報演習ⅠA・ⅡA 地域構造論 生態系の保全 環境を考える
6 単位以上	6 単位以上	4 単位以上
合計20単位以上		

IV. 授業概要（シラバス）

1. 総合科学部

学部共通科目

ページ	配当学年		授 業 科 目	単位数等	
117	①	必修	基礎ゼミナール	2	必修
124	①		キャリアプラン入門Ⅰ	2	必修
125	①		キャリアプラン入門Ⅱ	2	必修
133	①②	選択必修A	科学と人間	2	2 単位以上 必修
133	①②		健康と福祉	2	
134	①	選択必修B	情報処理の基礎Ⅰ	2	4 単位以上 必修 * 1 4つの内 2 単位までしか、卒業に必要な単位に算入されない。 * 2 4つの内 2 単位までしか、卒業に必要な単位に算入されない。
134	①		情報処理の基礎Ⅱ	2	
135	②		国際交流・協力体験	2	
135	②③		基礎英語講読Ⅰ	2	
137	②③		基礎英語講読Ⅱ	2	
138	②③		実用外国語基礎演習Ⅰ（英語）	2	
139	②③		実用外国語基礎演習Ⅰ（ドイツ語）	2	
140	②③		実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）	2	
140	②③		実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）	2	
141	②③		実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）	2	
141	②③		実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）	2	
141	②③		実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）	2	
142	②③		実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）	2	
142	②	選択必修C	キャリアプランⅠ	1	1 単位以上 必修
142	②		キャリアプランⅡ	1	
143	④		キャリアプランⅢ	1	
143	③		短期インターンシップ	2	
計				13 単位以上	

基礎ゼミナール総論

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
村上公一

【授業の目的】

人間力の育成とコミュニケーション能力の向上を図る。

1. 教員と学生が議論して課題を設定し、問題解決のための手法を学ぶ。
2. 少人数で討論し、課題を解決してゆく過程を通じて、学生と教員及び学生相互の人間関係を構築し、コミュニケーション能力を高めながら人間力を涵養する。
3. 学習の成果を発表会で報告することにより、プレゼンテーション能力を身につける。

【授業の概要】 大学入学直後の学生が、大学で学習していくために必要なことを身につけるためのゼミナール。大学での学習は、高校までの学習とは異なり、単に既存の知識を「覚え」「正解を導き出す」ことだけではない。自ら考え、疑問や問題点を提示し、それを協力して解決していく方法を習得する必要がある。そのために課題を設定して、問題解決学習の要素を取り入れた内容とする。具体的には、出来る限り受講生自身が見つけた課題や問題をテーマとして、それを多面的な視野で検討し、結論を導き出すようにする。テーマは教員の専門に近い内容のクラスもあれば、専門から離れている内容のクラスもある。多面的に考察するための体験学習も含まれる。

【到達目標】

以下の技能・能力の育成を目標とする。

1. 文献調査・情報収集能力
2. 理解力・読解力
3. コミュニケーション能力
4. プレゼンテーション能力
5. レポート作成能力

この講義では、汎用的技能の修得、体験・参加型学習及び課題解決・探究型学習を進めることとしています。各クラスの目標については、担当者ごとに示されたシラバスを参照して下さい。

【授業の計画】 1. 講読 2. 体験学習 3. ディベート（ディスカッション） 4. プレゼンテーション（口頭発表） 5. レポート作成 6. その他

【成績評価の方法】 出席の状況、授業への積極性、課題や発表の内容などから総合的に評価する。

【受講者へのメッセージ】 選択したクラスの教員の所属コースは、学生の2年次以降のコース配属とは関係しません。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
総合科学部 1号館南棟 2F
(メールアドレス) murakami@ias.tokushima-u.ac.jp

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
福田スティーブ利久

【授業の目的】 大学で有意義に学習・研究ができるため、自己効力感、スタディー・スキル、英語力を高めること。

【授業の概要】 大学で高校と同じ方法で勉強をしていたら、成長はあまり期待できない。そのため、本講義では大学でどのような学習や行動をすれば良いのか一緒に考えていきたい。

【キーワード】 スタディー・スキル、自己効力感、英語学習

【到達目標】 ①学業生活は研究活動を充実させる学生自身の方法を明らかにする。②自己効力感を高める。③効果的な自律学習ができる。

【授業の計画】 スタディー・スキルに関する書籍や資料から得た情報をベースにディスカッションを毎回行う。

【教科書】 授業内容の詳細は受講生と一緒に決めていくので、購入する教科書は授業中に紹介する。

【参考書】 頭のいい大学四年間の生き方／和田秀樹著：中経出版、2007、ISBN：9784806126867

How to Study/Arthur W. Kornhauser: Univniversity of Chicago Press,

1993,ISBN:9780226451176

「やればできる！」の研究：能力を開花させるマインドセットの力／キャロル・S. ドゥエック著、今西康子訳、：草思社、2008、ISBN：4794216807

学び続ける力／池上彰著、：講談社、2013、ISBN：4062881888
読書力／斎藤 孝著、：岩波書店、ISBN：4004308011

【成績評価の方法】 授業時に報告する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 今回の基礎ゼミナールは初めて受け持つことになるので、受講生と一緒に授業を作っていく感じになる。もっと詳しい話を聞きたい学生はいつでも研究室を訪ねること。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
stevefukuda110277@gmail.com

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
笹尾佳代

【授業の目的】 大学での学びをスタートするために、身につけておきたい知識・教養を修得することを目的とする。日本近代文学作品を多角的に読むことを通して、言語表現に対する意識を高めるとともに、広く文化の中での文学の位置付けを捉えることから、社会と文学との相互関係に目を向けたい。

【授業の概要】 まずは大学での学びそのものについて考える。その後、基本的な情報を得るための方法やレポートの書き方、文学作品へのアプローチの方法を、具体的な作品の講読を通して提示する。後半はグループに分かれ、文学的事象に関する調査、分析、発表を行う。

【キーワード】 情報収集、表現分析、日本近代文学、メディア・ミックス

【到達目標】 情報収集能力を高め、それらを参照しながら論理的な思考ができるようになる。

資料の作成、プレゼンテーション、議論ができるようになる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 大学での学びを考える 1 3. 大学での学びを考える 2 4. 日本近代文学作品を分析するために 5. 情報収集の方法、及び意義について 6. 作品講読—多角的に読む 1 7. 作品講読—多角的に読む 2 8. 作品講読—多角的に読む 3 9. 文学の派生と発表テーマ設定 10. 経過報告と議論 11. グループ発表 1 12. グループ発表 2 13. グループ発表 2 14. グループ発表 2 15. グループ発表 2 16. まとめ

【教科書】 大学生の論文執筆法／石原千秋著、：筑摩書房、2006、ISBN：978-4480063106

【参考書】 筑摩書房、2006

【教科書・参考書に関する補足情報】

授業時に適宜配布、提示する

【成績評価の方法】 授業時のグループ発表やそれをもとに作成する期末レポート、出席を含めた授業への取り組みを総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 展開によっては、内容を追加・変更・省略する場合もある。主に受講者が授業を展開する形式をとる。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 多様な文学作品を読むなど、文学、文化に親しむこと。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
笹尾佳代、2N17

(メールアドレス) sasao@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 木曜 12:50～14:20 研究室

その他はメールで問い合わせてください。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
田中智行

【授業の目的】 論理的文章を読む力、書く力を身につける

【授業の概要】 みなさんは大学生活において、レポート執筆や授

業内での口頭発表を多く求められていくことになります。それらは単に考えたことを書けば（話せば）いいのではなく、一定の手順と様式にのっとった学術的な文書（発表）となっていないことはなりません。この授業は、論理的で説得力ある文章とはどのようなものかを考え、あわせてレポート作成に際しての実際的な知識を身につけることを目標としています。また、自分が文章を書く力を身につけるためには、他人の文章を論理的・批判的に読む訓練をすることも大切です。この授業では野矢茂樹『新版 論理トレーニング』を題材として、論説文を精読する練習をする予定です。

【キーワード】 アカデミック・ライティング

【到達目標】

1. 日本語の論理的文章を理解できる能力の養成
2. 日本語の論理的文章を書くことができる能力の養成
3. プレゼンテーション能力の養成

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. レポート・論文の構成と書式 3. 文献調査の基礎 4. さまざまな接続関係（教科書第1章） 5. 接続の構造（教科書第2章） 6. 議論の組み立て（教科書第3章） 7. 論証の構造と評価（教科書第4章） 8. 演繹と推測（教科書第5章） 9. 価値評価（教科書第6章） 10. 否定（教科書第7章） 11. 条件構造（教科書第8章） 12. 推論の技術（教科書第9章） 13. 批判への視点（教科書第10章） 14. プレゼンテーション実践1 15. プレゼンテーション実践2 16. 総括授業

【教科書】 論理トレーニング／野矢茂樹：産業図書，2006.11，ISBN：4782802110

【参考書】 これからレポート・卒論を書く若者のために／酒井聡樹：共立出版，2007.5. ISBN：978-4320005747

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書に沿って授業を進めるので、かならず購入してください。

【成績評価の方法】 授業中の課題や宿題と期末レポートにより総合的に採点する。

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 授業中は積極的に発言を求めます。教科書の各章に沿った練習問題を出席者に作成してもらい、授業中に他の出席者に解いてもらいますが、昨年度はなかなかの良問もありました。今年度のみなさんにも期待しています。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業中は教科書を隅々まで解説することは難しいですが、触れられなかった部分もぜひ自習して下さい。

【連絡先（Eメールアドレ、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 田中智行（2 N06, Tel:656-7115, E-mail:tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp)

（メールアドレス）tomoyuki@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）一応水曜13-14時とするが、不在のこともあるので必ず事前に連絡すること。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
樋口友乃

【授業の目的】 主体的に考える態度を身に付けること、および、研究の成果をプレゼンテーションやレポートで発表できるようになることを目指す。

【授業の概要】 大学においては、主体的に考え、その成果をプレゼンテーション（口頭発表）あるいはレポート・論文の提出という形で発表することを求められます。この授業では、自分で問いを設定して考え、その成果を発表するための手順を学びます。具体的には、情報収集の方法やプレゼンテーションの仕方、批判的な読み方や論理的な文章の書き方などを、英米文学の素材を題材として扱いながら学ぶ予定です。

【到達目標】 プレゼンテーション能力の養成

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. アカデミック・スキルズとは(1) 3. アカデミック・スキルズとは(2) 4. 情報収集・整理(1) 5. 情報収集・整理(2) 6. 情報収集・整理(3) 7. プレゼンテーションの仕方 8. グループプレゼンテーション 9. 批判的な読み方 10. 様々な研究手法 11. 論文・レポートのまとめ方(1) 12. 論文・レポートのまとめ方(2) 13. 論文・レポートのまとめ方(3) 14. プレゼンテーション 15. プレゼンテーションの講評 16. 総括授業

【教科書】 授業時に指示する。

【成績評価の方法】 授業中の発表、レポート、授業参加の態度、出席状況などを総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】 なし

【連絡先（Eメールアドレ、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 1 N14 088-656-6173

（メールアドレス）thiguchi@ias.tokushima-u.ac.jp

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
宮澤一人

【授業の目的】 オペラという「得体の知れない芸術(?)」を取り上げる。オペラを通して、芸術と娯楽とはなにか、そもそも音楽は芸術なのか、それよりも芸術とはなんなのか、といった問に対する答え（があるのなら）を、時代や世相の変化を通して考えてみる。

【授業の概要】 17世紀になって突然現れた「オペラ」と呼ばれる音楽のジャンル。この「浪費を前提とした」音楽ジャンルが、時代や場所によってどのように変化していったかを、様々な作品を通してたどる。そして「娯楽と芸術」の狭間で揺れ動きながら存在し続けた、オペラというものを見つめようと考えている。

【キーワード】

1. バロックオペラと宮廷
2. オペラセリアとオペラブッファ
3. フランス革命と19世紀パリの文化
4. ワグナー以後
5. 芸術音楽と娯楽音楽の分離

【到達目標】

- 1 本講義では国際感覚の醸成を要請することを目的としている。
- 2 音楽、芸術、娯楽、エンターテインメントといった言葉の意味を、的確に定義づけられるようになる。
- 3 自分なりに定義づけられた言葉を、的確な文章として、他人に伝わるように表現できるように、文章テクニクを身につける。

【授業の計画】

- 1 講義全体の説明講義の趣旨と概要の説明（オペラの定義をしてみよう、とりあえず）
 - 2 バロックオペラ、その1オペラの誕生と絶対王政（ギリシャ悲劇の復活だって?）
 - 3 バロックオペラ、その2バロックオペラ（華やかで金がかかることが前提）
 - 4 バロックオペラ、その3バロックオペラの終わり（だってつまらないから）
 - 5 18世紀のオペラオペラセリアとオペラブッファ（まじめとおふざけ）
 - 6 モーツァルト、その1モーツァルトの登場（人間の心は複雑）
 - 7 モーツァルト、その2モーツァルトの成し遂げたこと（本当はこわい・・・）
 - 8 フランス革命直後フランス革命（全てを壊してしまった革命）
 - 9 19世紀パリ、その119世紀のパリは文化の中心（様々な政治体制の変化とオペラの変化）
 - 10 19世紀パリ、その2グランドオペラ（現代のエンターテインメントの元祖）
 - 11 ワグナーワグナーの成し遂げたこと（もう娯楽ではない「芸術」なのだ）
 - 12 ワグナー以後ワグナーは偉大すぎて（あんなものの後でどうすれば?）
 - 13 20世紀とオペラ20世紀になってオペラはどうなったか（もう娯楽じゃない）
 - 14 現代におけるオペラの意義そして「演出」の時代へ（話題になればそれで良いのだ）
 - 15 総括授業全体のまとめと期末レポートの提出
 - 16 各自の発表各自の発表
- 【教科書】 オペラの運命 十九世紀を魅了した「一夜の夢」／岡田暁生：中公新書，2001，ISBN：4-12-101585-1
- 【教科書・参考書に関する補足情報】 講義では指定した教科書を読んでもらうので、全員必ず購入してください。

【成績評価の方法】 期末レポート45%，授業への取り組み状況40%，出席状況15%，です。正当な理由の無い欠席をすると、点数が減ります。

【再試験の有無】 行いません

【WEB ページ】 基本は、音楽が好きな人が対象になります。ただし「自分はクラシックを全く聴いたことが無い」という人も大丈夫です。もちろん、クラシック大好き人間も。かなり長めの音楽を聴くことがありますが、そのときに「必ず静かにしていただける」ことが大切です。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
宮澤一人 Tel：088-656-7163
E-mail：miyazawakazuto@tokushima-u.ac.jp
(メールアドレス) miyazawakazuto@tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 金曜日 PM 3：00－PM 5：30 1号館北棟2階2 N09, その他、在室している時は対応します。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
中村 豊

【授業の目的】 今後大学で研究する上で必要となる、自ら考えて能動的に行動し、その成果を報告する方法を学ぶことを目的とする。野外でのフィールドワーク（大学近辺の近世遺跡踏査）をおこない、それによって得た情報を検討し、その成果を客観的に伝える方法を実践する。

【授業の概要】 研究対象を自らの目・足で確認するための、フィールドワーク（遺跡踏査）の重要性を説明する。実際に大学から徒歩圏内の遺跡を踏査し、そこで得た情報を、班ごとに発表した上で討論する。

【キーワード】 遺跡、踏査

【到達目標】 研究対象に自ら働きかけ、自ら行動し、その成果を客観的に伝えることを到達目標とする。

【授業の計画】 大学で学ぶということ／フィールドワークについて／徳島大学と遺跡／徳島城下町踏査／徳島城下町踏査をふり返る／徳島城踏査／徳島城踏査をふり返る／興源寺蜂須賀家墓地踏査／興源寺蜂須賀家墓地踏査をふり返る／班分け、研究発表テーマの選定／研究発表準備／研究発表準備／研究発表準備／研究発表準備／研究発表／総括授業

【教科書・参考書に関する補足情報】 必要な資料は、その都度配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み状況と研究発表による。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 屋外でもおこなう授業です。研究発表に際しては、復習と自主的に学ぶ姿勢が必要となります。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
中村 豊（総合科学部1号館北棟2階2 N20, 656-7155,
yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp)
(メールアドレス) yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 毎週月・水曜日 AM 9：00－PM12：00 1号館北棟2階2 N20

その他、メールにて調整の上対応

【備考】 動きやすい服装・靴がおすすめです。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
的場秀樹

【授業の目的】 身体トレーニングを通して自分の器としての身体を体感する

【授業の概要】 レジスタンストレーニングと持久性トレーニングの理論を学び、実践する

【キーワード】 レジスタンストレーニング、持久性トレーニング

【到達目標】 1. トレーニング理論の理解と実践

【授業の計画】

1. 授業概要の説明

2. トレーニング前の身体計測および体力測定Ⅰ
3. トレーニング前の身体計測および体力測定Ⅱ
4. レジスタンストレーニング、持久性トレーニング
5. "
6. "
7. "
8. "
9. "
10. "
11. "
12. "
13. トレーニング後の身体計測および体力測定Ⅰ
14. トレーニング後の身体計測および体力測定Ⅱ
15. 定期試験
16. 総括授業

【教科書】 なし

【参考書】 授業時に紹介する

【成績評価の方法】 身体計測・体力測定の結果およびレポートにより評価する

【再試験の有無】 なし

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
的場秀樹（2 M18 運動生理学研究室, Tel：656-7208, E-mail：matoba@ias.tokushima-u.ac.jp)

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
立花敬雄

【授業の目的】 社会科学の基礎力を身につけ、総合科学的思考能力を養う。

【授業の概要】 社会科学と総合科学

【到達目標】 現代社会の諸問題を分析・検証し、解決するための基礎的能力を養う。

【授業の計画】 社会科学に関する入門書や他の文献、資料を共同で検討することを通して理解力を深める。

【教科書】 ゼミナール時に相談して決める。

【参考書】 適宜、指示する。

【成績評価の方法】 ゼミナールでの報告、受講態度などにより、評価を行う。

【再試験の有無】 実施しない。

【受講者へのメッセージ】 ゼミナール生の主体性を尊重する。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
研究室電話 088-656-7187
(オフィスアワー) 随時

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
王 冷然

【授業の目的】 法律は絶対的・不変的であると思われがちですが、実際に時代によって法律の内容は変わりますし、また法律は、神様ではない人間によって作られているので、完璧なわけではありません。したがって、各々の法律問題について意見の対立が生じるのは当然のことであり、その議論こそが法律学であるとも言えます。

そこで、本ゼミナールでは、裁判例を素材として書き上げられた民法学の入門書を通読することによって、法律知識の獲得だけではなく、色々な人たちの考え方を理解したうえで、人を説得できる論理的思考力および基礎ゼミナールがめざす各種の基礎的能力を身につけてもらうことを目的とします。

【授業の概要】 教科書の中に取り上げている事例を中心に、個人またはグループ（受講者の人数による）による報告と、それに基づく質疑応答、議論を行います。報告者は、事前に報告内容を整理し、レジュメを作成すること、報告者以外の者は、毎回、疑問点や意見を積極的に発言し、ゼミをより活発にすることが求められます。詳細については、第1回目のゼミにて説明します。

【キーワード】 民法、権利、義務、民事責任、契約責任、不法行為責任、親子関係、夫婦関係、信義則、公序良俗、権利濫用

【到達目標】

- ・教科書の購読、報告レジュメなどの作成を通じて、大学での学習に必要な「読む」「話す」「聴く」「書く」といった基本的な能力を身につけること。
- ・ゼミ内での発表、議論を通じて、自らの考えを形成し、それを論理的に、かつできるだけ自分の言葉で表現する能力を養うこと。

【授業の計画】

- 第1回 自己紹介とガイダンス
- 第2回 隣人紛争について(1)——教科書第1章
- 第3回 隣人紛争について(2)——教科書第1章
- 第4回 隣人紛争について(3)——教科書第1章
- 第5回 権利濫用について(1)——教科書第2章
- 第6回 権利濫用について(2)——教科書第2章
- 第7回 「人の法」について(1)——教科書第3章
- 第8回 「人の法」について(2)——教科書第3章
- 第9回 公序良俗について(1)——教科書第4章
- 第10回 公序良俗について(2)——教科書第4章
- 第11回 信義則について(1)——教科書第5章
- 第12回 信義則について(2)——教科書第5章
- 第13回 民法と憲法について(1)——教科書第9章
- 第14回 民法と憲法について(2)——教科書第9章
- 第15回 民法と憲法について(3)——教科書第9章
- 第16回 総括授業

【教科書】 民法学入門（第2版）／河上正二：日本評論社，2009年，ISBN：978－4－535－51648－

法学六法13／石川明など 編修代表：信山社，2012

【参考書】 授業中に適宜指示する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法】 成績は、ゼミナールに取り込む姿勢などの受講態度（50％）と、発表（50％）で評価します。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 ゼミナールを通じて多くの知識を得、また良い友人が得られるように期待しています。そのため、ゼミナールに積極的に取り込む意欲のある受講者を望みます。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 各回で取り上げる教科書の該当する部分に、あらかじめ目を通しておくこと。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 王 冷然（民法研究室，656－7177）

（メールアドレス）wlengran@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）水曜日 13：00～16：00

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）

趙 彤

【授業の目的】 社会科学を学習するのに必要な物事の考え方を習得することを目指します。

【授業の概要】 この基礎ゼミでは、社会科学に必要な基礎的な思考法や方法論を学びます。グループごとに報告のテーマを決め、毎週該当グループがレジュメを作成し報告します。「なぜこのテーマを決めたか」、「なぜこのテーマをおもしろいと感じたか」をプレゼンテーションしてもらいます。残った時間は報告した内容についてディスカッションします。

【キーワード】 社会科学的な思考方法

【到達目標】 物事を感情論ではなく、社会科学的な思考方法で思考すること

【授業の計画】

- 1. イントロダクション、報告者の順番とテーマを決定する
- 2. 決めたテーマについてグループで発表し、全員でディスカッションを行う
- 3. 決めたテーマについてグループで発表し、全員でディスカッションを行う
- 4. 決めたテーマについてグループで発表し、全員でディスカッションを行う
- 5. 総括授業を行う

【教科書】 特になし

【成績評価の方法】 出席、報告内容及び積極性という3点を総合評価する

【再試験の有無】 実施せず

【受講者へのメッセージ】 皆さんのプレゼンテーション能力と思考能力の成長を期待する

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

趙 彤，総合科学部1号館3階中棟奥，Tel：088－656－7176，

zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp，

（メールアドレス）zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）水曜 12：00～13：00

【備考】 総合科学部1号館3階中棟，オフィスアワー以外の時間でも事前にメールで連絡をしてもらえれば対応できる。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）

上原克之

【授業の目的】 本授業では、基本的人権に関する裁判例を素材として、今後の授業を履修するうえで基礎となる、資料を読み解く力、論理的思考力、報告・討論する力、論理的文章を書く力等を養うことを目的とします。

【授業の概要】 はじめの2～5回目は、ウォーム・アップとして裁判例に関係ないテーマで自由に討論していきます。6回目以降、報告者をきめ、報告者はテキストを読んで裁判例に関するレジュメを作成して報告します。報告者以外の参加者は事前にテキストを読んだうえで報告内容について討論・検討していきます。後日、報告者は、報告及び討論・検討内容についてレポートを提出します。

【キーワード】 基本的人権 自由 自己決定権

【関連／科目】 『法律学の基礎Ⅰ [Basics of Legal Science Ⅰ]』，

『法律学の基礎Ⅱ [Basics of Legal Science Ⅱ]』

【到達目標】

- 1 論理的思考力の養成
- 2 報告・討論する力の養成
- 3 論理的文章を書く能力の養成

【授業の計画】

1 ガイダンス／2～5 自由テーマ討論／6 髪型の自由／7 バイクに乗る自由／8 再婚の自由／9 プライバシー権／10 歴史的文化的環境権／11 取材の自由／12 アクセス権／13 自己情報開示請求権／14 平等権／15 生存権／16 総括授業

【教科書】 基本的人権の事件簿 憲法の世界へ／棟居快行他：有斐閣，2011，ISBN：97846412812129

【成績評価の方法】 各課題毎に課すレポート（80％）と出席や授業への取組みなどの平常点（20％）により評価します。

【再試験の有無】 再試験は実施しません。

【受講者へのメッセージ】 しっかり予習をして、授業中は積極的に発言するようにしてください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 報告者になっていなくとも、テキストはしっかり読んできてください。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 総合科学部1号館中棟3階3 M18

（メールアドレス）uehara@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）水曜日 12－13 時

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）

石井健二

【授業の目的】 現在は視覚表現時代であると言われている。言語を主とした情報伝達から、画像や図表を含めた「ビジュアルコミュニケーション」が新しい情報伝達法としてクローズアップされている。それは「読むこと、考えること」から「見ること、感じること」の人間の視覚に直接訴える情報伝達といえる。ここでは画面構成の基礎について学ぶ。また色彩についての体験学習を

行う。(基本的なところでは、同授業は課題解決・探求型学習の性格を有している。)

【授業の概要】 構成の基礎について考察する。

【キーワード】 画面構成

【到達目標】 「基礎ゼミ(購読)総論」参照。

本講義ではコミュニケーション能力を養成することを目的としています。

【授業の計画】

1. テキストを題材として、以下の論題について討論する。
2. 受講生による発表を中心に授業を進める。
3. Pタイルを使った構成について
4. 3点による構成について
5. 1本の線による構成について
6. 3本の線による構成について
7. 2面分割について
8. 3面分割について
9. 寒色と暖色による構成について
10. 記号について
11. 木炭デッサン(幾何形体を描く)
12. 鉛筆デッサン(幾何形体を描く)
13. デッサンはどう描かれたか
14. デッサンと科学的要素
15. レポート提出
16. 総括授業

【教科書】 教科書は使用しない

【参考書】 講義の中で紹介する

【成績評価の方法】 課題と期末レポート及び、授業への取り組み状況などをもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 「基礎ゼミ(購読)総論」参照

前期開講 講義は、総合科学部 美術棟1階 地域交流スタジオにて行う。

【連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)(学生用連絡先)】 「地域連携研究室1(デジタルイメージング研究室), Tel:088-656-7165」

(メールアドレス) ishii@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 毎週木曜日12時から13時迄(午後1時迄)。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位(必修)1年(前期)

内藤直樹

【授業の目的】 この授業では実際に地域社会に飛び込み、過疎・高齢化や防災・減災などの地域社会が直面している問題の理解や支援を目指したフィールドワークやボランティア活動をおこないます。そしてフィールドワークの成果を社会に発信するスキルを学びます。

【授業の概要】 東日本大震災の経験は、私たちの災害への向き合い方を大きく変えました。たとえば2012年1月に徳島県が発表した、新たな津波被害の予測情報は、県下の地域社会に衝撃を与えています。とくに最大波高20m以上と予測された地域の人びとは、これまでに経験したことのない災害リスクに対処することを迫られています。

いつ発生するか正確に予測することが困難な自然災害に対処するためには、行政まかせではない住民主体の防災活動が不可欠です。しかしながら、①かつてない超過疎化が進む県内の地域社会では、防災活動の担い手となる青年・壮年層が少なくないうえに避難時に介護を要する高齢者が多いことに加えて、②いくつかの地域では、これまでに大規模な津波被害の経験や伝承がありません。こうしたなか、地域社会に生きる人びとは手探りで新たな防災活動に取り組んでいます。

この授業では、県南の集落にて実際にフィールドワークやボランティア活動をおこない、過疎地域の防災や地域おこしの実態についての民族誌(エスノグラフィー)を記述します。そして、その成果を発表するなかで、地域の人びととともに住民主体の防災や地域おこしのあり方について考えます。

【キーワード】 フィールドワーク/防災・地域おこし/ボランティア/民族誌/プレゼンテーション

【到達目標】

フィールドワークを計画・実行する能力の養成(体験・参加型学習, 課題解決・探求型学習)

日本語の論理的文章を理解, 書く能力の養成

プレゼンテーション能力の養成

【授業の計画】 イントロダクション/フィールドワークとは何か?/フィールドワークの理論と方法/フィールドワークの倫理と実践/調査対象について調べる(グループワーク)/調査手法や考え方について調べる(グループワーク)/調査計画を立てる(グループワーク)/調査計画を発表する(グループワーク)/フィールドワークの分析/第1回調査報告を発表する(グループワーク)/第1回調査報告を修正する(グループワーク)/第2回調査報告を発表する(グループワーク)/フィールドワークの発表・社会的応用/第1回・第2回調査報告をまとめる(グループワーク)/調査成果の公開プレゼンテーション/総括授業

【教科書】 エスノグラフィー入門:〈現場〉を質的研究する/小田博志:春秋社,2010,ISBN:9784393499115

【参考書】 限界集落の真実:過疎の村は消えるか?/山下祐介:筑摩書房,2012,ISBN:9784480066480

災害の人類学:カタストロフィと文化/スザンナ・M・ホフマン・他編:明石書店,2006,ISBN:9784750324227,絶版

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書はかならず購入してください。

【成績評価の方法】 フィールドワークへの参加,ゼミでの積極性,プレゼンテーションの内容から総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 大学は既に明らかになっている知識を「学ぶ」場所であると同時に、新たな知識を「創る」場所でもあります。実際の地域社会に飛び出し、そこで新たな発見をすることの楽しさを経験してください。

【連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)(学生用連絡先)】 内藤直樹, IS20, 088-656-7141

(メールアドレス) naito.naoki@tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 水曜12:00-13:00

【備考注意】

- 1) フィールドワークは授業時間外(休日等)に行います。
- 2) フィールドワークやボランティア活動には、公共交通機関による移動や宿泊を伴うことがあります。旅費・宿泊費は基本的に自己負担です。
- 3) 調査地には、最大で20m超の津波が来る危険性があります。
- 4) 地域の人びとが真剣に取り組んでいる課題に参加します。
- 5) 遅刻・無断欠席はしないように。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位(必修)1年(前期)

村上敬一

【授業の目的】 大学生に必要な、文書作成、レポート作成のための基礎知識を身につける。具体的事例を通じて、日本語の論理的文章を理解し、書くことができる能力を体得する。

【授業の概要】 この講義は、主に書きことばとしての日本語、日本語の文章表現能力を高めるために、具体的には以下に示す4点をふまえつつ、課題解決・探究型学習によって展開する。

1. 文章表現に必要なこと(文の構造、論理的で明快な文章表現、文体、敬語など)
2. 日本語の表記に係る問題(表記の特徴、常用漢字、仮名づかい、外来語の表記、同音異義語、異字同訓など)
3. 実用文の書き方(実用文とは何か、文章を作る基本的ルールなど)
4. 論文・レポートの書き方

【キーワード】 文章表現 文字・表記 実用文 論文 レポート作成

【到達目標】

1. 日本語の書きことばについての基本的なしくみを知る。
2. 日本語の書きことばについて、適切な運用能力を具体的な実践を通して向上させる。
3. 大学生に必要な論文、レポート、実用文の作成ができるようになる。

【授業の計画】 1. はじめにー講義の概略などー 2. ことばの調べ方 3. 文章表現の諸相ー話しことばと書きことばー 4. 実用文の書き方ービジネス文書の書き方ー 5. 実用文の書き方ーメールについてー 6. 実用文の書き方ー手紙・はがきの書き方ー 7. 文章表現ー文章作成の基礎(1)ー 8. 文章表現ー文章作成の基礎(2)ー 9. 文章表現ー敬語についてー 10. 論文・レポートの書き方ー論文／レポート作成の基本ー 11. 論文・レポートの書き方ー論文の付属要素(表題, 要旨, 目次, 注など)についてー 12. 論文・レポートの書き方ー論文やレポートでよく使用される語と表現ー 13. 論文・レポートの書き方ー引用や要約, 表記規則などについてー 14. 論文・レポートの書き方ー論文の構成について(1)ー 15. 論文・レポートの書き方ー論文の構成について(2)ー 16. 補足・補足的なことがら

【参考書】 新版 大学生のためのレポート・論文術／小笠原喜康：講談社現代新書, 2009, ISBN : 4062880210

【教科書・参考書に関する補足情報】 プリントを配付する

【成績評価の方法】 出席など授業への参加度 (50%) 日常的な小テスト・課題 (50%)

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 授業への積極的な参加を期待します。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】

(予習) 授業の計画に従って, 事前に教科書の関連箇所を読み, 問題点や疑問点を整理しておくことが望ましい。

(復習) 授業の内容をふまえたレポートを課すことがある。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

1号館南棟1階東奥・村上研究室 088-656-7117

(メールアドレス) murakami_tokushima@yahoo.co.jp

(オフィスアワー) 水曜日13時～14時 1号館南棟1階東奥・個人研究室にて

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位(必修) 1年(前期)

小山保夫

【授業の目的】 総合科学部で自分の力をどのように伸ばし, 自分の将来の希望(夢)をどのように実現するか, ステップアップできるか, その為には今から何をしなければならないのか, それらを考えさせる。

【授業の概要】 何人かの学生は自分の将来の希望(夢)とは関係なく, センター試験の結果により仕方なく「総合科学部」にいるのかもしれない。しかし, 総合科学部のカリキュラムはいろいろな夢を実現するためには優れていると思う。そのカリキュラムの中で, どのように力を付けて行くか, 具体的に考えさせる。(A) 他の大学学部への編入学(医歯学部への3年次編入学なども含む), (B) 京都大学, 大阪大学, 九州大学などの大学院への進学, (C) 一般企業への就職, 公務員や教員採用, (D) 各種の資格取得など, 日常の勉強の中でそれらをどのように実現するのか, 考えてみよう。

【キーワード】 進学 就職 能力 編入

【到達目標】 どのように学生生活を送るか。

【授業の計画】 (1)君は自分の将来をどのように考えていたか, 考えているか。(1回目) (2)君は自分の将来をどのように考えていたか, 考えているか。(2回目) (3)君らにはどのような進路があるのか。自らの可能性を閉ざしていないか。私の「基礎ゼミナール」を受講した学生で「夢(希望)」を実現した人と諦めた(?)人の違いは何か。(4)徳島大学総合科学部から, 大阪大学, 京都大学, 九州大学, 東北大学の大学院に進んだ学生は, また医学部, 歯学部へ編入学した学生はどのような学生生活を送ったか。(5)就職, 進学, いずれも志望動機(エントリーシート, 入学願書)は必要なので, どのような志望動機が相手に受けるのか。特に, 就職の場合にエントリーシートで落とされ, 面接まで進めなければ, 意味はない。学生生活のどの段階で何を頑張らなければならないのか。(6)就職, 進学, いずれも面接はあるわけで, 自分を売り込むということはどのような事なのか。売り込む為の具体的な事例(相手に評価される)を持っているか。どうするのか。(7)どのように勉強するのか。大学の最初の二年間で得る力, 失う力。何を不得, 何を失うか。人生を決める時期に人生を意識しないことの怖さ。これからの試験は自分の人生を決める試験になる。就

職試験も大学院試験も, 中学・高校・大学の定期考査とは違う。(8)大学は, 教員は, 家族は君に何をしてくれるのだろうか。指導を受ける教員により, 学生は異なる人生を歩む可能性がある。何を基準に教員を選ぶのか。君はどの道を進みたいのか。総合科学部の教員の多くは本当に面倒見が良い, 特に, 教務委員, 学生委員はそれなりの教員が担当している。しっかりと利用しなさい。教員の利用の仕方を教える。(9)君らの先輩の成功例, 失敗例(?)を考えながら, 学生生活をどのように送れば良いのか。自分の性格, 能力を踏まえながら考える。(10)社会創生学科で何を学び, 何を研究するか。学問の面白さを感じよう。(11)総合理数学科で何を学び, 何を研究するか。学問の面白さを感じよう。(12)人間文化学科で何を学び, 何を研究するか。学問の面白さを感じよう。(13)これから3年前期が終わるまでの期間, 何を為すか。(1回目・実行プラン作成) (14)これから3年前期が終わるまでの期間, 何を為すか。(2回目・実行プラン論議) (15)自分の人生, 本当にこれで良いのか, 確かめる。(16)総括

【教科書・参考書に関する補足情報】 資料を配布する。

【成績評価の方法】 自分の「希望」を実現する為のプランを他人に説明できること。

【再試験の有無】 無し。

【受講者へのメッセージ】 就職・進学関係の情報には目を通すこと。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】 何を学びたいのかを明確にする。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

何かあれば, メールで問い合せ。

(メールアドレス) oyama@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) メールで問い合わせをしてください。総合科学部3号館北棟3階の生命科学エリアは実験室と通路の間に壁がないために事故が起こる可能性があります。研究室の教員を訪問する場合は事前にメールで問い合わせて入室確認を取ることを必要です。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位(必修) 1年(前期)

真壁和裕

【授業の目的】 ベースとなる考え方は, 「基礎ゼミナール総論」を参照のこと。大学では, 中学や高校での「過去に決着がついている事柄についての整理された知識を覚える」という学び方から, 自分で問題を見つけ出して解決法を探るという学び方へと, 段階的に変わっていきます。そして最終的には, 卒業研究では, 今まで世界の誰も知らないことを, 過去の知見と自ら考えた科学的検証実験を通じて明らかにする(実際にはほんのちょこっとだけですが…)ことができるまでになる必要があります。この授業では, そうした転換を図るための基礎的な思考と技法の能力を身につけます。

【授業の概要】 大学において演習や研究を通じて問題発見解決能力を育てるのは, 現代では敷かれたレールの上をなぞるだけの仕事がかたくなに減り, 常に創造性が求められるからです(例えば, 大手企業の採用面接でそうした能力が試されることが多いのが, その証左です)。しかし, いわゆる「お勉強」だけではそうした創造性を創出することはできません。目の前に存在しないものを形にするための力を習得するには, 自ら問題を見つけ, 解決するための方策を探し出し, 実践できるだけの能力が必要です。ここでは, 生命科学に関連したトピックを中心にさまざまな話題を選びながら, 幅広い知的好奇心(←ココ重要! あらゆる活動のエンジンです!)・総合的視点(偏らない!)・情報の収集力(雰囲気だけで語らない!)・集めた情報の目利き(デマや都市伝説に騙されない!)・論理的考察力(感情的に決めつけない!)・プレゼン力(相手に分かってもらおう!)・議論力(冷静なキャッチボールができる!)などを育成します。

【キーワード】 科学的態度, 情報リテラシー, コミュニケーション(ディスカッション)能力, バイオテクノロジー

【到達目標】 複雑な物事について, 適切な資料を集めて分析した上で, 自力で問題解決に至ることのできる「賢い人」に近づく。具体的には, 大学生に必要な自然科学の知識や技能の養成・論理的な文章を読んで理解して書くことができる能力の養成・コミュニ

ケーション能力の養成・プレゼンテーション能力の養成・情報リテラシーの養成・自分で問題を発見して解決しようという態度の養成・総合的視点と知識の理解の養成などを目標とします。

【授業の計画】 1. ガイダンスとグルーピング・一巡目のテーマ設定（過去の例：遺伝子組換え食品・性の多様性（性的二型）・遺伝子治療・出生前診断・捕鯨・外来移入種・代理母出産など） 2. 資料の収集の方法（文献のいろいろ・図書館・インターネットなど）・発表の方法（スライドの作り方・話し方・聞き方など）・議論の方法（質問の仕方・答え方など）の概説 3. 一巡目（第3～6週） 4. 二巡目（第7～10週） 5. 三巡目（第11～14週） 6. 最終のまとめ

【教科書】 なし

【参考書】 適宜紹介する。

【成績評価の方法】 授業態度を重視し、積極性などの取り組み状況、発表（質疑応答を含む）の成否などにより、総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 演習科目であるので、毎回の参加が必須です。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 真壁（1号館中棟1階）（オフィスアワー）随時受けつけます。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
連沼 徹

【授業の目的】 点と点同士をつなぐ線によって描くことのできる図形をグラフといい、ネットワーク構造をもつものはグラフとしてモデル化することができる。この授業では、グラフによるモデル化、グラフの性質及びその応用を学びながら、論理的思考力と問題解決能力を養うことを目的とする。

【授業の概要】 テキストあるいは資料を輪講形式で読み進める。また、グループあるいは個人単位で興味ある問題に取り組み考察を行い、その考察結果を板書やPowerPointを用いた発表形式で報告してもらう。

【キーワード】 論理的思考力、問題解決能力、プレゼンテーション能力

【到達目標】 1. 論理的思考力、問題解決能力、プレゼンテーション能力を高める。

【授業の計画】 1. 導入（授業の計画・概要、自己紹介）（第1週） 2. テキストあるいは資料の講読・討論（第2週～第8週） 3. グループあるいは個人単位で課題に取り組み、考察を行う（第9週～第13週） 4. 考察結果の発表・報告・ディスカッション（第14週、第15週） 5. 総括授業

【教科書】 授業の時に指定する。

【成績評価の方法】 出席、授業への取り組み状況、発表などにより総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 毎回の出席を原則とする。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 連沼 徹
（メールアドレス）hasunuma@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）金9・10 講時

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
今井昭二、山本祐平

【授業の目的】 化学関連コースに進むにあたって必要な心構えを身につけ、自学・自習、研究発表プレゼンテーションなどの大学での基本的な教育・研究の流れを理解する。

【授業の概要】 化学の初学者にとって必須の化学分析を用いた実地ゼミを実施する。必要なデータを各自が収集して、まとめ、レポートしてもらい、ポスター発表の形式で公開する。

【キーワード】 流域圏環境調査、河川水質、環境化学、問題解決、流域圏民族文化、中山間地

【到達目標】

1. 大学における自学・自習とレポートの作成、発表プレゼンテーションという流れを実感し、4年間の大学生活の流れを理解する

2. （課題解決・探究型学習の導入）

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 地域の水資源や環境調査に関わる調査項目の設定 3. 東四国の河川と自然と文化 4. サンプリング・歴史と文化（祖谷川・鮎喰川ルート、平家屋敷、かずら橋、二重かずら橋、源流） 4/28サンプリング・自然と資源（物部川・那賀川ルート、龍河洞、別府峡、高の瀬峡、滝王国木沢） 5/12. サンプリング・吉野川水源域（大歩危、梶ヶ森、中山間地民俗資料館、梶ヶ森山頂天文台） 4/21-22 7. 滴定による水質分析 8. 文献調査 9. プリゼンテーションの準備 15. 総括 16. 成果の公開

【教科書】 【参考書】 【成績評価の方法】 出席40%、発表40%+レポート20%

【備考】 調査や採水は、休日または土日に行う予定でいます。調査・見学・宿泊に必要な経費の一部は各自で支弁いただく場合もありますので、受講を決める際には、あらかじめ了承願います。授業計画の内容は、天候や天災により変更することもあります。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2単位（必修）1年（前期）
村田明広

【授業の目的】 ユネスコが支援するジオパークについて学び、地質現象、植物、動物などの自然と、そこでの人間の営みに関して理解を深めることを目標とする。また、ジオパークについての情報を収集し、一般に分かりやすく説明するプレゼンテーション法を習得することを目的とします。

【授業の概要】 ジオパークは、重要な地質現象が観察される地域で、植物、動物、人間の営み、文化などとの関連も含めて野外博物館に作り、ジオツアーを企画し、自然の保全活動、環境教育、観光開発などを行うものである。このゼミでは、世界中のジオパークを調査し、プレゼンテーションを行うことで、ジオパークに理解を深め、プレゼンテーション能力の向上を目指します。また、徳島のジオパークを考える時に欠かせない南海地震や中央構造線活断層系についても学びます。

【キーワード】 ジオパーク、ジオツアー、地質、自然、野外博物館

【到達目標】 1. ジオパークについて説明することができ、ジオツアーを企画できるようになる。南海地震についても説明ができるようになる。本ゼミではプレゼンテーション能力を養成するとともに、体験・参加型学習を導入しています。

【授業の計画】 1. ジオパークとはどういうものか。 2. 日本のジオパークについて調査する(1)。 3. 日本のジオパークについて調査する(2)。 4. 日本のジオパークについて発表する(1)。 5. 日本のジオパークについて発表する(2)。 6. スコットランド、北西高地のジオパーク。 7. 海外のジオパークについて調査する(1)。 8. 海外のジオパークについて調査する(2)。 9. 海外のジオパークについて発表する(1)。 10. 海外のジオパークについて発表する(2)。 11. レポートを作成する(1)。 12. レポートを作成する(2)。

【参考書】 世界のジオパーク編集委員会・日本ジオパークネットワーク JGN 共編、「世界のジオパーク」オーム社。平野勇著、「ジオパーク」、オーム社。

【成績評価の方法】 ゼミでの積極性と発表、レポート。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 遅刻をしないように。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 村田 明広

（オフィスアワー）研究室にいる時はいつでもかまいませんが、場合によっては出直してもらうことがあります。

基礎ゼミナール

Basic Seminar

2 単位（必修）1 年（前期）
久田旭彦，折戸玲子

【授業の目的】 学内，学外で科学コミュニケーションを実践し，成功体験を得る。その体験を通じて，大人としてのコミュニケーション能力を高めていく。

【授業の概要】 本講義では「科学」を題材に，コミュニケーションについてともに考え，学び，実践します。これから皆さんは大人として扱われます。社会に出れば，好きな場所に行き，好きな仕事をする事ができるでしょう。しかし，そこに居場所を得る為には，自分の価値を周囲に伝える努力も必要です。例えば，自分の考えを正確に伝える為には，あらかじめ自分の中で整理しておかなければなりません。また，それが相手に「伝わるようにする為には，相手のもつ知識や要求に応じて，伝え方を工夫する必要もあります。さらに，話の内容だけでなく，話し手自身の表情や場の雰囲気によっても，相手に与える印象は大きく変わってきます。皆さんには，これからの大学生活の中で，勉強はもちろん，こうしたコミュニケーション能力も磨いていって欲しいと思います。そこで本講義では，皆さんのコミュニケーション能力を伸ばす為のプログラムを用意しました。実践中心の講義です。経験を通して多くのことを学びたい，という意欲をもって取り組んでください。

【キーワード】 科学コミュニケーション

【関連／科目】 『科学と人間 [Science and Humanity]』

【到達目標】 本講義では，体験・参加型学習を導入しています。到達目標は，皆さんの家族や友人，地域の人々といった一般人に対して，大学で学んだこと・研究したことの価値や魅力を伝えられるような，コミュニケーション能力を身につけることです。

【授業の計画】

1. 90 秒で自己紹介（「科学を交えた自己紹介」「これからの大学生活に期待すること」）
2. 魅せ方を学ぶ
3. 場の作り方を学ぶ
4. プロの発表から学ぶ
5. 企画書の作り方を学ぶ
6. グループ討論を行い，発表テーマを決定する
7. 発表の構成について学び，スライドを作成する
8. 広報の役割について学び，ポスターを作成する
9. 発表練習（第1回），案内作成
10. 企画書をもとに，進捗状況を検証する
11. 発表練習（第2回），案内作成
12. 体験学習（学内発表）
13. 報告レポートをもとに，反省会を行う
14. 発表練習（第3回）
15. 体験学習（学外発表）
16. 90 秒で自己紹介（初回と同じように自己紹介を行い，半年間の自分の成長を確認する。）

【教科書】 科学するところを開く Science Window：独立行政法人科学技術振興機構

ディズニー・ワールドで私が学んだ10のルール お客様もあなたも笑顔になる／デニス・スノー：実務教育出版，2010，ISBN：9784788907812

【参考書】 科学の横道 サイエンス・マインドを探る12の対話／佐倉 統：中公新書，2011，ISBN：9784121021045
日本人のための科学論／毛利 衛：PHP サイエンス・ワールド新書，2010，ISBN：9784569791333

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書・参考書は，すべて徳島大学付属図書館で借りることができます。また，雑誌「科学するところを開く Science Window」は，科学技術振興機構のホームページから無料で読むこともできます。

【成績評価の方法】 普段の取り組みをもとに評価する。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 本講義では「科学」が好きな人も苦手な人も歓迎します。お互いに多様な価値観との交流を楽しみましょう。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 本講義では，毎回いろいろな準備をしてきてもらいます。初回は自己紹介です。科学に

まつわる適当なテーマ（体験談や最近気になるニュースなど，テーマは自由です。）についての簡単な解説と自分の意見，そして，将来の夢に向けて大学生活に期待していること，という二つのテーマについて，それぞれ90秒で発表できるよう，しっかり準備してきてください。

【連絡先（Eメールアドレス，オフィスアワー）（学生用連絡先）】

久田 旭彦：総合科学部3号館1 N06，TEL 088-656-7231
折戸 玲子：総合科学部3号館1 N03，TEL 088-656-7237（メールアドレス）

久田旭彦：a-hisada@tokushima-u.ac.jp

折戸玲子：orito@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）久田旭彦：毎週火曜日12:00-12:50 総合科学部3号館1 N06

（上記以外でも随時受け付けます。不在の場合もあるので，事前に連絡をとることを推奨します。）

【備考】 学外発表は，実施日が土日または休日になる可能性があります。また，その際，交通費等の一部を各自で負担して頂く可能性があります。あらかじめご了承ください。（実施場所は徳島県内を予定しています。）

キャリアプラン入門Ⅰ

Introduction (1) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（前期）

葭森健介，石川榮作，平井松午，中川秀幸

大淵 朗，田中徳一，山野明美

【授業の目的】 大学ならびに総合科学部を取巻く今日の社会環境，および大学生に求められる社会人基礎力やキャリアデザインについて講義し，初年次学生が自律的で有意義な学生生活を構築するとともに，将来の就職について考える上で必要な素養と能力を養う。また web 版キャリア学習ポートフォリオの作成を開始する。

【授業の概要】 今年度は以下の3点を主題とする。①総合科学部とはどんな学部か？ 総合科学部教員により授業ガイダンスおよび大学・学部・学習方法について講義する。それによって，総合科学部の置かれている位置を理解し，総合科学部でどの様に学んだらよいのかをも考えてもらう。②キャリアデザイン GP 特任教授により社会人基礎力，キャリアデザインや Web 版キャリア学習ポートフォリオの意義と作成方法に関する説明がある。③大学生から社会人になるということを学部教員および非常勤講師等がそれぞれの立場から，適宜，企業・社会等において求められる人間像について講義を行いエンプロイアビリティを高めるということについて学習してもらう。また受講者はそれを踏まえて自らのキャリアデザイン・ライフプランを作成する。最終回までに授業で習った基本的な事に関するレポートが二回ないし三回ほど課せられる予定である。なお各自の学習内容の要点および課題レポート等を Web 版キャリア学習ポートフォリオに記入する練習も適宜課せられることになる。

【キーワード】 大学，総合科学，地域社会，キャリアデザイン，ポートフォリオ，職業

【到達目標】 1. 大学の現実と課題を各自が理解し，大学における真摯な学び（広い教養と専門的力の養成）の重要性を自覚し，今後4年間の学習計画を立てる。

【授業の計画】 1. 授業の進め方について＜大淵＞（4月17日）
2. 総合科学部で何を学ぶ総合科学部の長所・短所＜葭森＞（4月24日）
3. レポートの書き方，評価のされ方およびネットの使い方について＜葭森・大淵＞（5月1日）
4. 高校と大学での学びの違い－高校の勉強と総合科学部での学び＜卒業生：中川＞（5月8日）
5. 読書と人生＜石川＞（5月15日）
6. 総合科学部で学んで＜植月葉梨亜＞（5月22日）
7. 総合科学部から社会へ－大学生から社会人になるということ＜中川秀幸＞（5月29日）
8. 大学におけるキャリア教育と「巣立ちプログラム」＜平井＞（6月5日）
9. Web ポートフォリオの利用方法＜田中＞（6月12日）
10. 求められる社会人基礎力＜田中＞（6月19日）
11. ビジネスコミュニケーション＜山野明美＞（6月26日）
12. ネットワークと大学＜卒業生：森本哲史＞（7月3日）
13. 地域産業と職業＜田村耕一＞（7月10日）
14. 大学と企業 次代の若者へ（植田貴世子）（7月17日）
15. 全体のまとめ（総括授業に当たる）

【教科書】 各講師よりその都度提示された書籍等は自発的に読ん

でレポートにまとめることが望ましい。

【参考書】 授業中に配布

【成績評価の方法】 評価は討論の参加度合い、レポートにより行う。出席状況については、授業時の点呼や Web 版ポートフォリオのショートレポート（200 字程度）で確認する。

【受講者へのメッセージ】 各講師の授業には全て参加し、レポートを提出すること。討論・発表への自発的参加が重要である。詳細な授業計画等はホームページに掲載する予定。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
荻森健介、石川榮作、大淵 朗、中川秀幸、田中徳一、平井松午、山野明美
（メールアドレス）

yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp, ishikawa@ias.tokushima-u.ac.jp,

ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp, sea-hide@ias.tokushima-u.ac.jp,

t_tanaka@ce.tokushima-u.ac.jp, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp,

yamano@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー） 荻森健介 水曜日 12:30-13:30, 石川榮

作 金曜日 15:00-16:00, 大淵 朗 水曜日 14:20-15:

20, 田中徳一 随時受け付ける, 中川秀幸 月曜日 15:00-

16:00（随時受け付ける） 平井松午 水曜日 11:50-12:50,

山野明美 月曜日 12:30-13:30

【備考】

1. 講義では適宜討論をはさみます。また、講師の講演順が変わることがあります。
2. 汎用的技能修得科目の項目について
3. 1. 日本語の論理的文章を理解できる能力
4. 2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力
5. 3. コミュニケーション能力
6. 4. プレゼンテーション能力
7. 5. 情報リテラシー

キャリアプラン入門Ⅱ総論

Introduction (2) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（後期）
村上一、平井松午、田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプラン、ライフプラン、適正把握、コンピテンシー

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【授業の計画】 前半部分（学部合同で講義される。）8. 授業ガイダンス（キャリア教育）9. 適性把握演習（テスト実施）10. キャリアプラン体験講座（1. 考え方）11. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介）12. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 13. 適性把握演習（テスト解説）14. コンピテンシーの意義と考え方

後半部分（小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。）15. 将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解する。16. 自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミ

ナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。

【再試験の有無】 各担当教員の判断による。

【受講者へのメッセージ】 履修要件：キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。

履修上の注意：必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。

キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

平井松午（総合科学部 1 号館 1 S26, 088-656-7159）

田中徳一（工学部建設工学棟北棟 3 F, 088-656-9321）

（メールアドレス）

平井松午（hirai@ias.tokushima-u.ac.jp）

田中徳一（t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

（オフィスアワー）

平井松午 オフィスアワー：金曜日 12:00-12:45

田中徳一 オフィスアワー：金曜日 12:00-12:45

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（後期）
堤 和博、平井松午、田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。8 回目以降の後半では、前半から引き続いて基礎学力を養成するための準備を兼ねながら、自己の将来設計をたてていく。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、討論

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。基礎学力を養成するための準備をする。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施）3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方）4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介）5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説）7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 現在の企業のありかたについてのビデオ 9. 上記ビデオについて意見交換 10. 学部・学科の学習理念について 11. 討論・議論・意見交換の基本（ディベートとの違い）について 12. 自己の将来設計について将来設計について意見交換・討論(1) 13. 自己の将来設計について将来設計について意見交換・討論(2) 14. 自己の将来設計について将来設計について意見交換・討論(3) 15. レポート作成（文章作成）上の注意点。

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。後半部分はレポートの提出を課し、それによって評価する。

【再試験の有無】 無し

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 討論の部分では毎回内容を反芻し、次の討論での発言に備えること。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

堤 和博（総合科学部 1 号館 2 N17 日本文学研究室）

（メールアドレス）tsutsumi@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）堤 和博：随時

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
荒武達朗，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

後半部分では、時事問題などに関わる論文の講読を通じて、要約、レジュメ作成、発表（論文の内容紹介、各自の見解論述）、質疑応答の技法を学ぶ。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念
【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 論文講読、要約、レジュメ作成（ここまで宿題）、発表（一人3～4分） 9. 同上 2 10. 同上 3 11. 同上 4 12. 各自の発表に対してコメントを論述する 1 13. 同上 2 14. 同上 3 15. 同上 4 16. 総括授業

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。ノート・メモをきちんととることが出来るか、論文の要約は当を得ているか、プレゼンテーションとして成功しているか、的確で建設的なコメントが出来るかなどを見る。授業態度の良否は評価の前提である。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 謙虚に努力すること。最初から出来る人はいない。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
荒武達朗：荒武達朗，2N07

田中徳一：田中徳一（Tel：656－9320，E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

平井松午：平井松午（総合科学部1号館南棟1F1S26，656－7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp）

（メールアドレス）

荒武達朗：aratake@tokushima-u.ac.jp

田中徳一：E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

平井松午：hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

荒武達朗：月～金8：15～35あるいはメールでアポをとること。

田中徳一：火曜日13：00～14：00

平井松午：月曜日12：00～13：00および17：30～19：30

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
吉田文美，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念
【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】

1 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

2 ことば、特に「はなしことば」を使った日常的なコミュニケーションにおいては、どのようなことに注意する必要があるかについて、基本的な心得について学び、実践的なトレーニングを行う。

【授業の計画】 1 授業ガイダンス／2 適性把握演習（テスト実施）／3 キャリアプラン体験講座（1. 考え方）／4 キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介）／5 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える／6 適性把握演習（テスト解説）／7 コンピテンシーの意義と考え方／8 日常のはなしことば：自己紹介（基本）／9 日常のはなしことば：自己紹介（実践）／10 日常のはなしことば：公的なはなしことば（基本）／11 日常のはなしことば：公的なはなしことば（実践）／12 日常のはなしことば：説明・報告の方法(1)／13 日常のはなしことば：説明・報告の方法(2)／14 日常のはなしことば：レポートの方法／15 日常のはなしことば：レポートの実践

【教科書・参考書に関する補足情報】 加瀬次男『コミュニケーションのための日本語・音声表現』学文社（2001年）を使用予定。

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。後半では、ほぼ毎回の授業で練習課題の提出および実践を求める。要求された課題の提出状況(50%)、実践的トレーニングの参加状況(50%)により評価する。当然のことながら、欠席した場合は、トレーニング参加への評価が低くなっていることに注意すること。

【再試験の有無】 再評価は行わない。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業でのトレーニングを日常的に応用する場を増やすよう、努力してください。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
吉田文美：吉田文美（1N10）Tel：088－656－7124，E-mail：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp

田中徳一：田中徳一（Tel：656－9320，E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

平井松午：平井松午（総合科学部1号館南棟1F1S26，656－7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp）

（メールアドレス）

吉田文美：yoshida.ayami@tokushima-u.ac.jp

田中徳一：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

平井松午：hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

吉田文美：毎週月曜12：00～13：00 総合科学部1号館北棟1階1N10

田中徳一：火曜日 13:00～14:00
平井松午：月曜日 12:00～13:00 および 17:30～19:30

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（後期）
佐藤健二，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。上記が前半部分の授業目的であるが、後半部分では、自らのキャリアプランを（臨床）心理学との関連において検討、プレゼンテーション、議論することを目的とする。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。後半部分では、心理学との関連において、まず、参加者の興味のあるテーマをリストアップする。この際、（臨床）心理学を活かした職業（例えば、少年鑑別所技官、産業カウンセラーなど）、心理学が貢献しうるコンピテンシー（例えば、コミュニケーション能力など）も、その候補とする予定である。その後、それらをまとめて、大きく 3 つのテーマに絞り込む。それに基づいて 3 つのグループ（班）を作る。その後は、各グループ毎に、一週ずつ、調べ、まとめたものについて、プレゼンテーション・議論していく。

【キーワード】 キャリアプラン、ライフプラン、適正把握、コンピテンシー、心理学、プレゼンテーション、議論

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】

1. 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。
2. （臨床）心理学に関連する特定の課題について、グループで調べ、解決し、まとめ、プレゼンテーションし、議論出来る能力を身につける（課題解決・探求型学習）

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス（キャリア教育） 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. ガイダンス 1：趣旨説明、自己紹介、課題設定、検討グループ組織、発表の順番決め 9. ガイダンス 2：（臨床）心理学に関するキャリアプラン形成に資する映像資料視聴 10. 発表 1（第 1 班 1 回目） 11. 発表 2（第 2 班 1 回目） 12. 発表 3（第 3 班 1 回目） 13. 発表 4（第 1 班 2 回目） 14. 発表 5（第 2 班 2 回目） 15. 発表 6（第 3 班 2 回目）・総括

【教科書】 無し

【参考書】 無し

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半は、毎回の授業での発表および期末レポートで総合評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】

履修要件 キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。

履修上の注意 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。

キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 自らのキャリアプラン

を具体的にイメージし、それに関連する（心理学的）話題について、積極的に、情報を収集・整理し、発表の準備をしましょう。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

田中徳一：田中徳一（Tel：656－9320，E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp） 佐藤健二（3 S05，Tel：088－656－7202，E-mail：satoken@ias.tokushima-u.ac.jp）

（オフィスアワー）木曜日 12:15－12:50

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（後期）
佐竹昌之，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、健康、スポーツ

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】

1. 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。
2. コミュニケーション能力を養成する。
3. プレゼンテーション能力を養成する。
4. 考えの相違を尊重する態度を身につける。
5. 本講義では課題解決・探求型学習を導入します。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. コミュニケーションスキル 9. コミュニケーションスキルとしてのスポーツ実践Ⅰ 10. 課題についての調査Ⅰ 11. 課題についての検討Ⅰ 12. 課題についての調査Ⅱ 13. 課題についての検討Ⅱ 14. プレゼンテーションの準備 15. コミュニケーションスキルとしてのスポーツ実践Ⅱ 16. プレゼンテーションおよび総括

【教科書・参考書に関する補足情報】 必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。後半部分は授業の中での取り組み状況と最終報告レポートで総合評価を行う。

【再試験の有無】 なし

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 後半部分については、毎回アドバイスをします。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

佐竹昌之：総合科学部 1 号館中棟 2 階，Tel：088－656－7212

平井松午（総合科学部 1 号館南棟 1F1 S26，656－7159，

hirai@ias.tokushima-u.ac.jp）

田中徳一（Tel：656－9320，E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

(メールアドレス)

佐竹昌之: satake.masayuki@tokushima-u.ac.jp

平井松午: hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

田中徳一: t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー)

佐竹昌之: 月曜日 16 時 30 分～17 時 総合科学部 1 号館中棟 2 階健康体力学研究室

平井松午: 月曜日 12:00～13:00 および 17:30～19:30

田中徳一: 火曜日 13:00～14:00

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位 (必修) 1 年 (後期)
中里見博, 平井松午, 田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。この演習の後半の授業の目的は、人類にとって最大のリスクといわれる「原発」について学び、原発についての「リスク・コミュニケーション」に「市民社会」を引き入れるための方策を検討することである。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。後半の授業では、21 世紀社会はしばしば「リスク社会」と特徴づけられる。リスク社会とは、人間が人間自らの行為によって人間を侵害し、損害を与えるものをつくり出している社会のことであり、リスクをつくり出している人間の行為とは、科学・技術のことにほかならない。このゼミでは、人類にとって最大のリスクといわれる「原発」について学び、原発についての「リスク・コミュニケーション」に市民社会を引き入れるための方策を検討する。

【キーワード】 キャリアプラン、ライフプラン、適正把握、コンピテンシー、リスク、リスク社会、リスク・コミュニケーション、原発、市民社会

【先行/科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。21 世紀社会の特徴としてのリスク社会について理解し、「原発」のリスクについて理解を深め、原発を制御し廃絶するための市民社会の役割の重要性について理解すること。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス(キャリア教育) 2. 適性把握演習(テスト実施) 3. キャリアプラン体験講座(1. 考え方) 4. キャリアプラン体験講座(2. 事例紹介) 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習(テスト解説) 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. ～15. 文献・資料にもとづく報告やグループ討論、全員での議論

【教科書】 低線量汚染地域からの報告 チェルノブイリ 26 年後の健康被害/馬場朝子・山内太郎: NHK 出版, 2012, ISBN: 9784140815717

この国は原発事故から何を学んだのか/小出裕章: 幻冬社, 2012
【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や(レポートの提出状況など)受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでは、授業中の報告の内容や、質疑応答、議論への参加・貢献度、課題の遂行、出席状況など総合的に判断して評価する。試験は行なわない。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】

履修要件 キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。

履修上の注意 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。

キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

部屋番号: 3 M05 電話番号: 088-656-7184 (内線 2610)

(メールアドレス) h-naka@ias.tokushima-u.ac.jp

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位 (必修) 1 年 (後期)
多田正仁, 平井松午, 田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。また、産業界の実情について学習する。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。市販されているテキストを用いて主要業界について学習する。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、自己啓発

【先行/科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

産業界の実情を会得する。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習(テスト実施) 3. キャリアプラン体験講座(1. 考え方) 4. キャリアプラン体験講座(2. 事例紹介) 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習(テスト解説) 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 電機業界の実情と課題 9. 自動車業界の実情と課題 10. 食品業界の実情と課題 11. 流通業界の実情と課題 12. 外食業界の実情と課題 13. 金融業界の実情と課題 14. マスコミ業界の実情と課題 15. レジャー業界の実情と課題

【教科書】 図解革命 2013 年版業界地図 最新ダイジェスト: 高橋書店

【参考書】 なし

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や(レポートの提出状況など)受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。後半は試験。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 積極的・自発的に学習すること。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】 興味のある業界を見つけること。

【連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

多田正仁 Tel: 656-7189

(メールアドレス) rxn10515@nifty.com

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
岸江信介，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプラン、ライフプラン、適正把握、プレゼンテーション力、書く力、聞く力、話す力

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス（キャリア教育） 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 書く力、聞く、話す力 9. 社会人の話を聞く 10. 取材し、まとめる力を養う 11. プレゼンのための取材(1) 12. プレゼンのための取材(2) 13. プレゼン発表(1) 14. プレゼン発表(2) 15. プレゼン発表(3) 16. 総括

【教科書・参考書に関する補足情報】 適宜、プリント資料を配布する。

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。

【再試験の有無】 出席点不足の場合は再評価なし。報告および中間報告、最終報告が不足の場合は再度提出または発表していただく。

【受講者へのメッセージ】

履修要件 キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。
履修上の注意 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。
キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。プレゼンを必ず行うこと。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業内容に関係した読書をするのが良いと思います。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
岸江信介 総合科学部1号館1階南棟日本語学研究室 656-9309

（メールアドレス）kishie.shinsuke@tokushima-u.ac.jp（岸江信介）
（オフィスアワー）岸江信介 火曜日12～13時。総合科学部1号館1階南棟日本語学研究室

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
吉田敦也，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、フューチャーセンターをオープンし、対話力を高めると共に、その力をもとに、地域の未来を作ってみる。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、フューチャーセンター、対話の力、ICTリテラシー。

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. フューチャーセンターへようこそ（未来を語り合う文化、社会イノベーションを興そう！） 9. 教室の外での対話の準備（ネット環境の構築：iPad／スマートフォン／フェイスブック活用法） 10. 互いに注意を払い、人間関係をつくる（チェックイン） 11. 個人の価値や強み、組織や地域の真価の発見（アプリーティブ・インクワイアリー） 12. コミュニケーションスキルの強化（フィッシュボール） 13. 知恵を集め、アクションを生み出す（ワールドカフェ、プロアクション カフェ） 14. やってみる（プロトタイプング） 15. ハーベストとクールダウン（チェックアウト）

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 クラスメイトと仲良くなり、コミュニケーションを十分にとり、情報交換に努める。その上で、「疑問をもつ」「自分で調べる（ネット検索含む）」「本を読む」「考える」「書いてみる」「やってみる」などを基本にして、事前学習、事後学習することを奨める

【WEB ページ】 <http://ct.ias.tokushima-u.ac.jp/yclass>（受講者限定）

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
吉田敦也（総合科学部2号館地域連携プラザ2階 E202, Tel:088-656-7897)

（メールアドレス）yoshida@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）メールで24時間対応する（yoshida@tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
横井川久己男，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。後半部分では、基礎学力の養成と課題解決能力の育成を目的とする。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

後半部分では、環境生命科学の諸問題を設定して問題点を整理した後、自らの考えをレポートにまとめる。また、プレゼンテーションにより他の学生に自分の考えを伝えてディスカッションする。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、基礎学力、問題解決能力、課題設定、プレゼンテーション

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。後半部分では、基礎学力の重要性を認識し、課題設定力や問題解決能力の育成を到達目標とする。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 環境生命科学の基礎学力 9. 環境生命科学の諸問題の設定 10. 問題点の整理 11. グループミーティング 12. レポートの作成 13. プレゼンテーション 14. 討論 15. レポートのまとめ 16. まとめ

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。後半は、授業に対する取り組み姿勢とレポート等により総合的に評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 配布のプリントを活用して予習、復習を行う。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 1 M17, 088-656-7267

（メールアドレス）yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）月曜 16:00-17:00, 研究室 1 M17

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）

金丸 芳, 平井 松午, 田中 徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 進路選択 9. 働くということ 10. 職業選択のプロセス 11. 大学の専門性と職業 12. 職業と資格・免許 13. 大学での学び方 14. 必要な能力 15. これからすべき事 16. 総括授業

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書・参考書は指定しません。必要なものは適宜配布します。

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミ

ナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。

後半は、出席状況、講義中の発言やレポート等で評価する。

【再試験の有無】 再試験は行いません。

【受講者へのメッセージ】

履修要件 キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。

履修上の注意 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。

キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

金丸 (088-656-7268, kanemaru@tokushima-u.ac.jp)

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）

小山保夫, 平井松午, 田中徳一

【授業の目的】 前半部分は平井・田中が担当し、将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

後半部分は私、小山（社会創生学科・環境共生）が担当する。時間が許せば、前半部分は学生諸君と受講しようと考えている。前半部分のキャリアプラン入門のように、学生の能力・適性を定量化しない。私の研究室の過去十年間の学生（17名）の進路は大阪大学大学院7名、九州大学大学院1名、神戸大学大学院1名、基礎生物学研究所（生理学研究科）1名、歯学部編入学4名、医学部編入学1名、第一地方銀行1名、派遣研究員1名である。また、何人かは「著者が学部学生だけの学術論文」を国際誌に発表した。2年の終わりに研究室に所属した彼等は専門科目を学ぶ中で、入学する前には考えなかった「自分の将来の方向」を見出した。君らが、これから何をどのように学び、それらを将来にどのように繋げていくのか。「今ある自分」ではなく、「これからの自分」をどのように考えるか。君自身、どう在りたいのか。それらを考え、次に進む。

【授業の概要】 前半（平井・田中）のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。

後半（小山）は、「何を学び、それをどのように将来に繋げるか？」を考える。お仕着せの職業観・プランニング等ではなく、「学び」の中で自分の進む道を考える。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、疑似定量化、エントリーシート、志望動機、大学院進学、編入学、ターゲット校、格差・差別

【先行／科目】 『キャリアプランⅠ [Career Plan (1)]』

【到達目標】（前半部分）誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

（後半部分）自分の能力・適性等は学ぶ過程で変わる。何を学び、それをどのように将来に繋げるかを明確にする。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方（ここから後半） 8. 「今の君」にとって「キャリアプラン」は意味があるか？君は自分の能力・適性等を“疑似定量化していないか、させられていないか？ 9. 君は何を「学びたい」のか、それらを将来にどのように繋げたいのか？ 10. その「学び」に相応しい教員はいるか、教員の業績データベース（徳島大学 EDB）で調べる。 11. どこに進むにも志望動機は必要、君に「志望動機」はあるか？ 12. 企業のエントリーシートが求めるものは何か？それらを書けるだけの学生生活とは？ 13. 公務員・教員の希望者が多いが、何をどのように準備するのか？合格できるのか？ 14. 大学院進学・他学部編入学という選

択、自分の進路に合う「学び」とは何か？ 15. 指定校制度、ターゲット校、格差・差別にどのように立ち向かうか？ 16. 学生にとって「良いキャリアプラン」とは何か？（総括）

【教科書・参考書に関する補足情報】（後半部分）必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。

後半部分は、これからの学生生活をどのように送るかであり、講義終了時に客観的に成績を評価することは難しい。そこで、これからの時間を自分の将来への準備にどのように使うか、討議・レポート・準備状況の内容で評価を行う。後半8回の講義の中で6回以上の出席がない場合は成績評価の対象とならない。

【再試験の有無】 無し。

【受講者へのメッセージ】（後半部分）自分の人生、それなりの取組をこなさい。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 明確な目標・目的がないと学習は難しい。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】（後半部分）何かあれば、メール（oyama@ias.tokushima-u.ac.jp）で問い合わせをください。平日で徳島にいるならば、24時間以内に必要返信をする。

（メールアドレス）oyama@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）（後半部分）何かあれば、メールで問い合わせをください。

【備考】 無し。

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
伊藤正幸、平井松午、田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。自主的に課題を選びグループにおけるコミュニケーションや課題探究、成果発表を通して主体的に学ぶ力を伸ばす。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。グループにおけるコミュニケーションをしながら共通の主題を決め、それに対して主体的に取り込む方法について学び、その成果発表を相互に評価する。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、課題解決・探究型学習

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。自主的に学ぶために、問題を発見し、それをどのような立場で取り組めば効果的に課題解決に至るかを模擬体験する。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. グループ討論会 9. 主題決定、状況設定 10. 班内の役割分担決定 11. 情報収集、進捗状況の確認 12. 情報収集、進捗状況の確認 2 13. 班ごとの発表計画

14. 発表Ⅰ（評価） 15. 総括（前段階） 16. 発表Ⅱ（評価）
【教科書・参考書に関する補足情報】 後半部分では、教科書は指定しない。

【成績評価の方法】 前半7回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。後半部分の評価は研究発表に対する学生相互の評価が大きな比重を占めます。このため欠席は大きな減点となる可能性があります。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 「モノを調べる、情報を検索する、知識を整理する」は学習の基礎ですが、どんな状況であれば真剣に取り組めるか考えてみましょう。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 自主的な検索や、情報の整理には講義時間内では時間不足をきたします。相互評価の成果発表で得点を得るためには、自主学習が必要です。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 伊藤正幸：伊藤正幸 総合科学部 1号館 2S06

田中徳一：田中徳一（Tel：656－9320，E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

平井松午：平井松午（総合科学部 1号館南棟 1F1S26，656－7159，hirai@ias.tokushima-u.ac.jp）

（メールアドレス）

伊藤正幸：mas-ito@ias.tokushima-u.ac.jp

田中徳一：E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

平井松午：hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

伊藤正幸：1.（前期）火曜日 12：00－12：45，（後期）火曜日 16：30－17：30 2. 月曜日 16：30－17：30

なお在室時は随時可

田中徳一：火曜日 13：00～14：00

平井松午：月曜日 12：00～13：00および17：30～19：30

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2単位（必修）1年（後期）
守安一峰、平井松午、田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web版キャリア学習ポートフォリオに登録する。小クラスに分かれた後半部分では、能力開発を目的としたゲームや簡単な数学の問題などを通じて、自発的に考え、議論していくことを身につけます。

【キーワード】 キャリアプランニング、自己開発、学科学習理念、課題解決・探究型学習

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』

【到達目標】

1. 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。
2. 論理的な考え方や説明ができるようになる
3. 自主的・主体的な学習活動を行えるようになる

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. ゲーム&討論 9. ゲーム&討論 2 10. ゲーム&討論 3 11. 数理的な問題の考察 12. 数理的

な問題の考察 2 13. 大学で学ぶ数学 1 14. 大学で学ぶ数学 2 15. 総括授業

【教科書】 特に指定しない。

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半部分のゼミナールでの担当教員の評価と合わせ総合的に評価する。

後半は、出席や受講態度（積極的に討論に参加しているかなど）による。

【再試験の有無】 なし。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 守安一峰：守安一峰（総合科学部 1 号館 2 S20, Tel：088-656-7220）

（メールアドレス）守安一峰：moriyasu@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）守安一峰：水曜日 7・8 時限

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（後期）
中山信太郎，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 テーマの設定、質問力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、キャリアプラン、ライフプラン、適正把握、コンピテンシー

【到達目標】 1. 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス（キャリア教育） 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 就職と仕事：どちらも動機付けが大事 9. 自分さがしとキャリアプラン 10. 先輩の仕事観を読んで 11. 先輩の仕事観から学ぶ 12. 総合科学部で学べること 13. キャリアプラン作成 14. プレゼンテーションの事前指導 15. 最終報告会（プレゼンテーションによる） 16. 総括

【教科書】 随時指示する。

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容やキャリアプランのプレゼンテーションについても成績評価の対象となる。

【再試験の有無】 出席点不足の場合は再評価なし。報告および中間報告、最終報告が不足の場合は再度提出または発表していただく。

【受講者へのメッセージ】

履修要件 キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。
履修上の注意 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。
キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。
出席は必須である。さらに、出席しているだけでは意味がない。
積極的に発言し、議論をすることが重要である。また、議論とロゲンカとは大いに異なることをよく認識すること。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 中山信太郎：総合科学部 3 号館 1 N02, 088-656-7236, nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp

平井松午：平井松午（総合科学部 1 号館南棟 1 F1 S26, 656-7159, hirai@ias.tokushima-u.ac.jp）

田中徳一：田中徳一（Tel：656-9320, E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

（メールアドレス）

中山信太郎：nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp

平井松午：hirai@ias.tokushima-u.ac.jp

田中徳一：E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

中山信太郎：授業など公務がない平日 17 時から 18 時

平井松午：月曜日 12：00～13：00 および 17：30～19：30

田中徳一：火曜日 13：00～14：00

キャリアプラン入門Ⅱ

Introduction (2) to Career Plan

2 単位（必修）1 年（後期）
中村光裕，増田俊哉，平井松午，田中徳一

【授業の目的】 将来の社会的・職業的自立を目指し、キャリアプラン、ライフプランに対する基本的な視点・展望を持つために必要な素養と社会的能力を養う。キャリア体験講座や適性把握演習を通じて自らの立ち位置ならびに適性を把握するとともに、学部・学科の教育理念を理解し基礎学力を養成するための準備を行う。

【授業の概要】 前半のキャリアプランニング部分は、学部合同で講義される。キャリア体験講座を通じて学生個々に自らの職業観について考える。必要に応じてレポートが課せられる。次いで適性検査にもとづき、自らの適性を性格、言語、係数、総合の観点から診断・把握する。それらをもとに自らキャリアプランを作成する。さらにコンピテンシー（企業等で要求される能力・行動特性）について学ぶとともに、各自が必要なコンピテンシー項目を選定し、Web 版キャリア学習ポートフォリオに登録する。後半部分は、小クラスに分かれ、ゼミナール形式で遂行される。将来の自立のために大学での学業面での充実を目指し、学科の理念を理解し、自らの社会力・基礎学力を養成するために何をすべきかを学ぶ。

【キーワード】 キャリアプラン、ライフプラン、適正把握、コンピテンシー、化学、化学工学、生物化学

【到達目標】

1. 誰もが将来、社会的・職業的自立をしなければならないことを認識し、そのための行動を始める。
2. 大学における自学・自習とレポートの作成、発表プレゼンテーションという流れを実感し、4 年間の大学生活の流れを理解する

【授業の計画】 1. 授業ガイダンス（キャリア教育） 2. 適性把握演習（テスト実施） 3. キャリアプラン体験講座（1. 考え方） 4. キャリアプラン体験講座（2. 事例紹介） 5. 自らのキャリアプラン・ライフプランを考える 6. 適性把握演習（テスト解説） 7. コンピテンシーの意義と考え方 8. 授業の趣旨説明。9. 産業と化学(1)。10. 産業と化学(2)。11. 徳島の産業を調べる。12. 徳島の産業に関する発表(1) 13. 徳島の産業に関する発表(2) 14. 徳島の産業に関する発表(3) 15. まとめ 16. 総括授業

【成績評価の方法】 前半 7 回は、出席や（レポートの提出状況など）受講態度による。また、Web 版キャリア学習ポートフォリオへの報告内容についても成績評価の対象となる。後半は、出席 50%，発表 50%。

【受講者へのメッセージ】

履修要件 キャリアプラン入門Ⅰを履修していること。
履修上の注意 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。
キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 中村光裕（2 N02），増田俊哉，平井松午，田中徳一

（メールアドレス）中村光裕：mnaka@ias.tokushima-u.ac.jp

【備考】 1. 授業計画の内容についても、受講者との相談の上、そのつど変更することもあります。

科学と人間

Science and Humanity

2 単位（選択必修 A）1 年（前期）

山口裕之、小山晋之、三好徳和、桑原 恵
今井晋哉、内海千種、渡部 稔、吉岡宏祐

【授業の目的】 現代社会において科学技術と付き合っていくために必要な、多面的な思考方法を学ぶ。

【授業の概要】 「科学は客観的で価値中立的である」という通俗的な見方がある。そこで、なにか社会問題などが起こった時には、「科学的に解決しよう」という言葉が呪文のように唱えられる。たしかに、ある観点から自然を理解しようとするとき、科学的方法是客観的な指針を示してくれる。しかし、科学の前提となる観点自身の是非については、通常の場合、科学はそれを評価することができない。また、科学は魔術ではなく、科学にもできることとできないことがあり、どんなことでも解決できるわけではない。むしろ、人種問題などのように、「科学」が問題を生み出したという状況さえある。

この授業では、「科学」についていくつかの事例を取り上げて多面的に考察することで、科学を導く「前提」の部分の問い直しをしていきたい。そうすることで、科学に過剰に期待することなく、また逆に科学を軽視するのではなく、妥当な評価を下すことができるであろう。その上ではじめて、科学的な思考法そのものを身に付けることもできる。

講義は二部構成になっており、第一部のテーマは「科学的に考える」とはどのように考えることか、第二部のテーマは「人はなぜ人を分類し差別するのか」である。まず第一部で「科学とはいかなるものか」ということを学び、第二部ではそうした方法論を社会問題に当てはめたときにどのようなことが起こるかということを考える。「科学」の名の下に「エセ科学」が流通し、時にそれが大きな力を発揮してしまう現状にあって、「科学」と「エセ科学」を見抜く力を身に付けること、人間にかかわる諸問題を適切に（科学的に）考えていく力を身に付けることが重要である。

毎回、講義を受けての学生のコメントを収集し、主だったものについて翌週に回答することで、受講する学生の全員が授業に参加できるようにする。また、毎回、マークシートを利用した小テストを行い、成績評価に利用する。

授業で使ったファイルや資料はウェブページに掲載するので復習などに利用すること。

ウェブに掲載板を設け、連絡事項などを掲示するので、毎週確認し、授業に関連する質問などがあれば利用すること。

授業ウェブサイト URL: <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html>

【キーワード】 科学とエセ科学、科学史、人種問題、生命倫理

【到達目標】

1. この授業では、「情報リテラシー」を身につけることを目標とします。
2. また、「日本語で論理的文章を書く能力」の基礎を身につけることを目標とします。

【授業の計画】

① 4/12 イントロダクション：授業の進め方の説明・担当者紹介

<第一部：「科学的に考える」とはどのように考えることか>

② 4/19 「科学的に考える」ための基本的な方法（山口）

③ 4/26 誤解と誤信の心理学（内海）

④ 5/10 江戸時代の科学（桑原）

⑤ 5/17 科学とエセ科学（小山）

⑥ 5/24 化学的に考える（三好）

⑦ 5/31 第一部の総括とパネルディスカッション

<第二部：人はなぜ人を分類し差別するのか>

⑧ 6/7 人種と優生学の西洋史（今井）

⑨ 6/14 人種と優生学の西洋史（続）（今井）＋人種分類の科学的背景（渡部）

⑩ 6/21 レポート課題の発表と「レポートの書き方教室」（山口）

⑪ 6/28 遺伝子操作と生殖補助技術（渡部）

⑫ 7/5 「新優生学」の流行（山口）

⑬ 7/12 現代アメリカの人種問題（吉岡）

⑭ 7/19 第二部の総括とパネルディスカッション

⑮ 7/26 総括アンケートなど

【教科書】 特になし。

【参考書】 ウェブページを通じて紹介・配布します。

【成績評価の方法】 授業へのコメント、レポート、小テスト、授業への取り組みやディスカッションでの発言などによって総合的に評価する。配分は、メールでのコメント10%、レポート20%、小テスト70%。ボーナス加点として、ディスカッションでの発言は一回2点、よいメールコメント1回1点（最高7点まで）。「授業への取り組み」の評価として、無断欠席や遅刻、授業中の内職・居眠りなどは減点対象。基準として、授業中の悪質な態度（内職・ゲーム・携帯メールなど）は減点5、遅刻は-2、居眠りは-1。3分の1以上の欠席は不可（再履修）

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 レポートや授業への質問などは原則的にメールを使って提出してもらいます。メールやパソコンの使い方などが分からない学生はオフィスアワーなどを活用して早めに習得すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 復習のために、毎回の「授業に対するコメント」を提出してもらいます。ウェブページなどを参照しながら復習してください。予習については適宜指示します。

【WEB ページ】

<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/scienceandhumanity/top.html>

【連絡先（E メールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

山口裕之：総合科学部1号館北棟1F Tel 088-656-7615

渡部 稔：渡部稔（総合科学部1号館中棟1階1M19室、088-656-7253、minoru@ias.tokushima-u.ac.jp）

吉岡宏祐：吉岡宏祐（2N14、088-656-7245、yoshioka@ias.tokushima-u.ac.jp）

今井晋哉：今井晋哉（総合科学部1号館北棟2F、2N23号室、TEL：088-656-7139）

小山晋之：小山晋之（総合科学部3号館1N07、088-656-7233、koyama@ias.tokushima-u.ac.jp）

内海千種：内海千種：総合科学部3号館南棟3階（3S07）

桑原 恵：桑原 恵 総合科学部1号館北棟2階2N16

（メールアドレス）

山口裕之：yamaguti@tokushima-u.ac.jp

渡部 稔：minoru@ias.tokushima-u.ac.jp

吉岡宏祐：yoshioka@ias.tokushima-u.ac.jp

今井晋哉：shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp

小山晋之：koyama@ias.tokushima-u.ac.jp

内海千種：uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp

桑原 恵：megumi@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

山口裕之：毎週月曜 10:30～11:30

渡部 稔：月曜日 12:00～13:00。これ以外の時間帯は事前に連絡を取ってください。

吉岡宏祐：水曜日 14:00～15:00

今井晋哉：休 9・10 講時、北棟 2 F 研究室

小山晋之：火曜日・木曜日 11:50～12:50

桑原 恵：時間を指定せず、学生からのメールを受けて時間を調整して適宜対応する。

健康と福祉

Health and Welfare

2 単位（選択必修 A）1 年（後期）

小原 繁、荒木秀夫、境 泉洋、福森崇貴
原 幸一、山口鉄生

【授業の目的】 心と身体の健康と福祉について、基本的な知識・情報を得ると共に、現代社会と関連するそれらの諸問題を知り、考え、それらのメカニズムと解決策を見出すことを目的とする。

【授業の概要】 現代社会における「健康と福祉」に関連する諸問題を知り、その解決策を考える。

【キーワード】 健康、福祉、環境、心身健康

【到達目標】

1. 人間科学に関わる幅広い知識の理解；現代社会における「健康と福祉」に関連する諸問題を知る。
2. 地域社会で活躍する能力の育成；それらの問題に対してどのような対応がなされているかを知る。

3. 地域社会の生活環境の創造への貢献；自らの問題と捉え、対応法を模索する。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 脳と行動（荒木） 3. 身心相関（荒木） 4. 個人における健康づくり（小原） 5. 健康づくりと行政の役割（小原） 6. 心－身－社会のつながり（福森） 7. ストレスへの対処（福森） 8. 不登校（境） 9. ひきこもり（境） 10. コミュニケーションについてⅠ（原） 11. コミュニケーションについてⅡ（原） 12. 生活習慣病についてⅠ（山口） 13. 生活習慣病についてⅡ（山口） 14. 高齢者の健康と福祉の在り方（小原） 15. 児童生徒の健康（小原）

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書は使わない。視聴覚機器などを利用する。

【成績評価の方法】 出席点、レポートおよび講義への参加姿勢によって総合的に評価する。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 さまざまな問題に関心を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むことを期待する。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

小原 繁 2 M14 088-656-7213

obara@ias.tokushima-u.ac.jp

荒木秀夫 2 M13 088-656-7214

araki@ias.tokushima-u.ac.jp

境 泉洋 3 S03 088-656-7191

motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

原 幸一 3 S04 088-656-7617

hara@ias.tokushima-u.ac.jp

福森崇貴 3 S08 088-656-7194

fukumori@ias.tokushima-u.ac.jp

山口鉄生（新任）2 M16 088-656-7209

（メールアドレス）obara@ias.tokushima-u.ac.jp

【備考】 講義の順序は都合により変更されることがあります。それは第1回目の講義の時にお知らせします。

情報処理の基礎Ⅰ

Introduction to ComputingⅠ

2単位（選択必修B）1年（後期）

豊田哲也、矢部拓也、真岸孝一、小野公輔

佐藤充宏、村上公一、西山賢一、佐藤高則

行實鉄平、田口太郎、内藤 徹

【授業の目的】 客観的なデータに基づく検証は科学における認識の基礎である。本授業では、統計データを扱うための基本的な知識と技術を身につける。

1. 表計算ソフト Excel の基本操作を習得する
2. データの尺度や性質とそれにふさわしい基本統計量を理解する

3. 標準化や相関関係などデータ分析の基本を学ぶ

【授業の概要】 Excel を用いた統計分析入門

【キーワード】 情報処理、統計学、Microsoft Excel、社会調査士

【到達目標】 1. データの整理や分析に必要な情報リテラシーを学ぶ。統計学の基礎的な考え方を理解し、ソフトウェアを使ってデータ分析をおこなうことができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス：データの見方、考え方 2. データの尺度と比率(1)：質的データと量的データ、静的比率と動的比率 3. データの尺度と比率(2)：比率の計算、表の作成 4. グラフの種類と表現(1)：グラフの特性と読み方 5. グラフの種類と表現(2)：データ加工とグラフの作成 6. 集計表の作成(1)：データベースの形式、単純集計とクロス集計 7. 集計表の作成(2)：質的データと因果関係、媒介関係とコントロール変数 8. ヒストグラムと代表値(1)：度数分布表の作成、累積相対度数 9. ヒストグラムと代表値(2)：平均値、中央値、最頻値 10. データの散らばり(1)：分散、標準偏差、四分位値、尖度、歪度 11. データの散らばり(2)：正規分布、データの標準化 12. 2変数間の関係(1)：散佈図と相関係数、因果関係と疑似相関 13. 2変数間の関係(2)：回帰分析と最小二乗法、決定係数、残差 14. 推測統計学への道(1)：母集団と標本 15. 推測統計学への道(2)：統計的推定と検定 16. 授業のまとめ

【教科書・参考書に関する補足情報】 各回の授業時にプリントを配布する。教材はこの授業のために開発されたオリジナルな内容

である。参考資料は授業時に指示する。

【成績評価の方法】 課題の評価に授業への取組を加味して評価する。

【再試験の有無】 おこなわない

【受講者へのメッセージ】 受講者は前提として Windows 操作の基礎知識をすでに獲得していることが求められる（1年次前期に共通教育「情報科学入門」を受講済みであることが前提である）。授業は講義と実習を組み合わせでおこない、各回の内容に応じた課題を与える。なお、利用可能な端末の台数によって受講者を制限する場合がある。初回授業ではガイダンスとクラス分けをおこなうので、K棟6階創生スタジオに集合すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業は講義と実習を隔週で実施し、各1回で1つのテーマを扱う。毎週必ず内容を復習し、与えられた課題は締切までに提出すること。また、eラーニングシステムを活用して授業教材や講義ビデオを配信しているので、欠席したときや復習のときに役立ててほしい。

【WEB ページ】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/excel/>

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

豊田哲也：

豊田哲也（総合科学部1号館1 S25, toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp）

内藤 徹：contact@kpu.hustle.ne.jp

佐藤充宏：1号棟2階2 M11（スポーツ社会学研究室）TEL 088-656-7207

西山賢一：西山賢一（総合科学部3号館2 S05室, 088-656-7239, nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp）

小野公輔：小野公輔（総合科学部1号館2階2 S05, Ex 3610, ono@ias.tokushima-u.ac.jp）

田口太郎：田口太郎（1号館地域計画学研究室, Tel：088-656-2235, taguchi@tokushima-u.ac.jp）

佐藤高則：佐藤高則（総合科学部3号館3 N05, E-mail：tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp）

矢部拓也：1号館南棟1階

行實鉄平：行實（088-656-7286）

村上公一：総合科学部1号館南棟2 F

真岸孝一：真岸孝一（総合科学部3号館1 N09, 088-656-7230）（メールアドレス）

豊田哲也：toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp

内藤 徹：contact@kpu.hustle.ne.jp

佐藤充宏：satom@ias.tokushima-u.ac.jp

西山賢一：nisiyama@ias.tokushima-u.ac.jp

小野公輔：ono@ias.tokushima-u.ac.jp

田口太郎：taguchi@tokushima-u.ac.jp

佐藤高則：tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp

矢部拓也：yabe@ias.tokushima-u.ac.jp

行實鉄平：yukizane@ias.tokushima-u.ac.jp

村上公一：murakami@ias.tokushima-u.ac.jp

真岸孝一：magishi@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

豊田哲也：水曜12：00～13：00

西山賢一：月12～13時

小野公輔：月曜16：15～17：00

田口太郎：適宜。田口へメールにてアポイントを取ってください。

佐藤高則：平日の9：00～17：00で、授業以外の時間

矢部拓也：希望者は、随時、メールにてアポを取って下さい。

行實鉄平：月曜午後

村上公一：火曜日 16：30～17：00 村上研究室

真岸孝一：木曜日12～13時（これ以外に随時、教員室に居ればできるだけ対応します。）

【備考】 1. 社会創生学科地域創生コースで取得可能な社会調査士資格のためのカリキュラム「基本的な資料とデータの分析に関する科目」（必修）に該当する。

情報処理の基礎Ⅱ

Introduction to ComputingⅡ

2単位（選択必修B）1年（後期）

石田基広、掛井秀一、齊藤隆仁、中島浩二

【授業の目的】 問題解決やアルゴリズムの基礎を学び、初歩的なプログラミング能力を習得し、コンピュータを自分の意図した処

理を実行する道具として使えるようになる。

【授業の概要】 初心者向けプログラミング超入門

【キーワード】 プログラミング、コンテンツ、情報リテラシー

【到達目標】 簡易なプログラミング言語である Visual Basic などを用いて受講者自身がコンピュータ上でマルチメディアコンテンツなどを自力で作成できるようになり、基礎的な情報リテラシーを身につけ、プログラミングは楽しいと感じられるようになることを目標とする。

本講義は、情報リテラシーの要請を目標としています。

【授業の計画】 ガイダンス、Visual Basic によるプログラム作成の流れ／最初のプログラム／文字の入力、数値の入力と計算／パブリック変数、数値の表示／条件の判断処理（2方向分岐）／条件の判断処理（多方向分岐）／変数の配列、繰り返し処理（For 文）繰り返し処理（Do 文）／ファイルの操作／アルゴリズム／タイマー、アイコン／選択処理／プログラミングの応用(1)／プログラミングの応用(2)／プログラミングの応用(3)

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書：なし

参考書：「新訂版 Visual Basic 標準テキスト図解・例解」安藤明之、工学図書

【成績評価の方法】 授業中に課される課題による評価。

【再試験の有無】 無し

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

石田基広：2606

齊藤隆仁：総合科学部 3 号館 1 階 1N08 室 TEL 088-656-7232

掛井秀一：掛井秀一 総合科学部 1 号館中棟 3 M13

中島浩二：中島浩二（1S11, 088-656-7151）

（メールアドレス）

石田基広：ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp

齊藤隆仁：saito.takahito@tokushima-u.ac.jp

掛井秀一：kakei@tokushima-u.ac.jp

中島浩二：nakasima.kj@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）石田基広：金曜日 16 時～18 時、齊藤隆仁：

水曜日 12:00～13:00、掛井秀一：水曜 13:00～14:00

中島浩二：2013 年度前期：月曜 16:10～17:00 研究室（1S11）後期：火曜 16:10～17:00 研究室（1S11）

国際交流・協力体験

Field Work on International Cooperation

2 単位（選択必修 B）2 年（前期）

饗場和彦

【授業の目的】 国際交流、国際協力をめぐる意義や問題を座学と現場体験を通して学び、自らも関わる意欲を醸成する。

【授業の概要】 授業では国際交流・国際協力を現場で実践している専門家から具体的な話を聞ききつ、ワークショップや討論も通じて基本的な知識を習得する。また学外で実際に自ら国際交流、国際協力の活動に直接関わってみて、体験学習を行う。

【キーワード】 国際、交流、協力、実践

【到達目標】

1. 国際交流、国際協力について基本的な知識を得る。

2. 広い視野、国際的な視野を持つ。

3. 社会性・公益性をつける。

4. 積極的な行動力をつける。

5. コミュニケーション力をつける。

【授業の計画】 1. イントロダクション・基礎講座 2. 徳島における国際交流 3. 世界の貧困をめぐる実際と支援その 1 4. 世界の貧困をめぐる実際と支援その 2 5. 世界の紛争をめぐる実際と支援その 1 6. 世界の紛争をめぐる実際と支援その 2

7. 国際連合による支援と課題 8. 民間企業による支援と課題

9. 国際協力機構（JICA）による支援と課題 10. ワークショップ・討論その 1 11. ワークショップ・討論その 2 12. ワーク

ショップ・討論その 3 13. 現場体験その 1 14. 現場体験その 2 15. 体験報告会 16. 総括と補足

【教科書】 なし

【参考書】 授業中、適宜配布する。

【成績評価の方法】 期末レポート（およそ 50%）と平常点（およそ 50%）。平常点の要素は授業の出席と、現場体験、ワークショップ、討論での取り組み方、体験報告のプレゼンテーション。

【再試験の有無】 無し。

【受講者へのメッセージ】 現場の体験学習に日帰りで二日間参加してもらいます。土日を当てますが、具体的な日時や場所は授業中に指示します。ちなみに昨年度は香川県内の公益社団法人に行きました。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 国際政治学研究室、総合科学部 1 号館中棟 3 階、088-656-7186

（メールアドレス）aibak@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）前期は水曜日 13:00～16:00、後期は火曜日 13:00～16:00。この時間以外でも研究室に在室の際はいつでも可。

【備考】 少人数形式の授業であるため、受講者の上限をおよそ 25 人とします。超過する場合は成績などで選抜することがあります。

基礎英語講読 I

English Reading I

2 単位（選択必修 B）2 年（前期）

三浦 哉

【授業の目的】 現代社会において、英語は国際的な共通語という役割をもっており、英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている。いまや異文化を理解するだけでなく、自国の文化を外国に発信する場合も、英語の能力は重要となっている。人文科学や社会科学分野の英語文献を読み、英語の文章を読む力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す。基礎外国語基礎演習（英語）I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて、英語の文章を読む力を養う。

【授業の概要】 人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み、英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につける。具体的には、健康、医療、スポーツ科学に関連する英語文献、英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う。英語文献を通じて健康科学、スポーツ科学などを広く学び、現代社会のさまざまな知識、考え方を学ぶと共に、専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける。

【キーワード】 英語、講読、読解力

【到達目標】 1. 広く英語の文章に親しみ、辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す。また多読、精読なども行い、語彙力をつけることも目指す。

【授業の計画】 1. 体力に関連する最新トピック I 2. 体力に関連する最新トピック II 3. 体力に関連する最新トピック III 4. 生活習慣病に関連する最新トピック I 5. 生活習慣病に関連する最新トピック II 6. 生活習慣病に関連する最新トピック III 7. 生活習慣病に関連する最新トピック IV 8. 認知機能に関連する最新トピック I 9. 認知機能に関連する最新トピック II 10. 認知機能に関連する最新トピック III 11. 健康づくりに関連する最新トピック I 12. 健康づくりに関連する最新トピック II 13. 健康づくりに関連する最新トピック III 14. 介護予防に関連する最新トピック I 15. 介護予防に関連する最新トピック II 16. 試験

【教科書】 その都度資料を配付する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 資料等は随時配布する。

【成績評価の方法】 授業への取り組み、訳読、討論、レポートなどを総合的に評価する。

【再試験の有無】 無し

【受講者へのメッセージ】 分野ごとにクラスを分けるので、自分の興味のある分野を選ぶこと。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業で使用する資料（英文）は事前に配布するので、授業当日までに訳し、内容を把握すること

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

三浦 哉 2M17 応用生理学研究室 088-656-7288

hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp

（メールアドレス）hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）木曜日 11:50～12:50

基礎英語講読 I

English Reading I

2 単位 (選択必修 B) 2 年 (前期)
水島多喜男

【授業の目的】 中東産油国の政治経済学的理解に必要な基本文献の読解を通じて、中東地域を理解する。

【授業の概要】 昨年度に引き続き、中東産油国を理解するための基本概念である“Rentier State”に関する論文集の中から 1 本を選び精読する。

【キーワード】 中東産油国、政治、経済

【到達目標】 外国語文献に慣れる。異文化、異なる政治体制、経済システムの理解を深める。

【授業の計画】 事前に配布したテキストに基づき、事前に分担部分を決定し、担当部分を授業で訳してもらおう。教員は、記事内容を理解するための補足説明を行う。従って、週ごとの進度をあらかじめ決めておくことはできない。

関連する授業は、共通教育 (「中東経済入門—歴史と文化基盤—」「中東経済入門—第二次世界大戦後の政治と経済—」) ですが、これらを受講していなくても、本授業の受講には問題ありません。

レポート、小テストは行わない。ただし、定期試験としてはテキストで読み残した部分の訳を提出してもらおうので、評価を高くしようとするれば授業中に扱ったテキストの内容理解が不可欠となる。

【教科書】 The Rentier State/Beblawi, H et al. ed. :Croom Helm, 1987, ISBN : 0-7099-4144-7

【教科書・参考書に関する補足情報】 使用テキストは学年始めに配布する。参考資料は授業中に提示する。

【成績評価の方法】 授業への取り組みを重視する。

【再試験の有無】 (なし)

【受講者へのメッセージ】 担当した部分については、指定された授業時間に必ず訳すこと。

【自主学習 (予習・復習) のアドバイス】 中東関係の新聞記事 (日本語) を読むようにしてください。

【連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)] 水島多喜男 (3M09, 088-656-7188, mizushima.takio@tokushima-u.ac.jp)

(メールアドレス) mizushima.takio@tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 授業後

【備考】 初回の授業のとき、受講者調整を行います。掲示を出しますので、それを必ず見ておいてください。

基礎英語講読 I

English Reading I

2 単位 (選択必修 B) 2 年 (前期)
清水真人

【授業の目的】 現代社会において、英語は国際的な共通語という役割をもっており、英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている。いまや異文化を理解するだけでなく、自国の文化を外国に発信する場合も、英語の能力は重要となっている。人文科学や社会科学分野の英語文献を読み、英語の文章を読む力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す。基礎外国語基礎演習 (英語) I・II で習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて、英語の文章を読む力を養う。

【授業の概要】 人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み、英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につける。具体的には、スポーツ科学、国際経済学、環境政治学、哲学思想、現代日本文学、社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う。英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び、現代社会のさまざまな知識、考え方を学ぶと共に、専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける。

【キーワード】 Corporate Governance, Shareholder Value, Stakeholder Value

【到達目標】 広く英語の文章に親しみ、辞書を使えば普通程度の

専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す。また多読、精読なども行い、語彙力をつけることも目指す。

【授業の計画】 1. 英文テキスト講読 2. 英文テキスト講読 3. 英文テキスト講読 4. 英文テキスト講読 5. 英文テキスト講読 6. 英文テキスト講読 7. 英文テキスト講読 8. 英文テキスト講読 9. 英文テキスト講読 10. 英文テキスト講読 11. 英文テキスト講読 12. 英文テキスト講読 13. 英文テキスト講読 14. 英文テキスト講読 15. 試験 16. 総括授業

【教科書】 Firm Commitment: Why the corporation is failing us and how to restore trust in it/Colin Mayer : Oxford University Press, 2013, ISBN : 978019966993

【教科書・参考書に関する補足情報】

1. 本授業では、英語版と日本語版 (現在翻訳作業進行中) の双方を参照しながら講義を進める予定である。

2. また、時事問題に対する理解を深めるよう、Wall Street Journal や Financial Times 等の記事を適宜配布し、解説を交えながら読み進める予定である。

【成績評価の方法】 出席状況 (30%程度)、授業における発言および課題レポート (70%程度) により評価する。

【再試験の有無】 再試験は行わない。

【受講者へのメッセージ】

1. 本書を通じて、株式会社制度が私たちの生活に密接に関係していることを学ぶとともに、株式会社制度を支える基本的な価値原理が、地域社会の在り方、環境問題への影響、労働者保護といった問題に大きく影響を及ぼしている点について考えてもらいたいと思っています。

2. 英語版と日本語版のテキストを両方使用することで、英語力と専門性の双方を身に付けることを目標とします。

【自主学習 (予習・復習) のアドバイス】 講義にて適宜アドバイスをを行う。

【連絡先 (E メールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)]

1 号館中棟 3 階商法研究室

清水真人 : 部屋番号 : 3M07, 電話番号 : 088-656-7174 (内線 2372), E-mail : shimizu@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 火曜日 9・10 講時

基礎英語講読 I

English Reading I

2 単位 (選択必修 B) 2 年 (前期)
石田三千雄

【授業の目的】 現代社会において、英語は国際的な共通語という役割をもっており、英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている。いまや異文化を理解するだけでなく、自国の文化を外国に発信する場合も、英語の能力は重要となっている。人文科学や社会科学分野の英語文献を読み、英語の文章を読む力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につける。具体的には、スポーツ科学、国際経済学、商法、哲学思想、日本史、社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う。英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び、現代社会のさまざまな知識、考え方を学ぶと共に、専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける。

【授業の概要】 人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み、英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につける。具体的には、スポーツ科学、国際経済学、商法、哲学思想、日本史、社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う。英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び、現代社会のさまざまな知識、考え方を学ぶと共に、専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける。

【キーワード】 英語読解力

【到達目標】 この授業では、外国語の基本的運用能力とそれに基づく国際感覚を身につけることを目的とする。広く英語の文章に親しみ、辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す。また多読、精読なども行い、語彙力をつけることも目指す。

【授業の計画】 哲学思想分野の英語文献・資料を読む。広い意味での環境思想や環境倫理に関する英語文献を読み、環境思想や環境倫理についての知識を身につける。今年度使用するテキストは、Murray Bookchin and Dave Foreman, Defending the Earth, 1991 である。

【教科書・参考書に関する補足情報】 その都度資料を配付する。
【成績評価の方法】 授業への取り組み、訳読、討論、レポートなどを総合的に評価する。
【再試験の有無】 なし
【受講者へのメッセージ】 初回の授業のとき、受講者調整を行います。掲示を出しますので、それを必ず見ておいてください。
【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業の前に、あらかじめ資料を読んでおいてください。
【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 石田三千雄（総合科学部1号館1N17, 088-656-7147, mishida@ias.tokushima-u.ac.jp）
（メールアドレス）mishida@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）水曜7・8校時

基礎英語講読Ⅰ English Reading Ⅰ

2単位（選択必修B）2年（前期）
衣川 仁

【授業の目的】 現代社会において、英語は国際的な共通語という役割をもっており、英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている。いまや異文化を理解するだけでなく、自国の文化を外国に発信する場合も、英語の能力は重要となっている。人文科学や社会科学分野の英語文献を読み、英語の文章を読む力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す。基礎外国語基礎演習（英語）Ⅰ・Ⅱで習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて、英語の文章を読む力を養う。

【授業の概要】 人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み、英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につける。具体的には、スポーツ科学、国際経済学、商法、哲学思想、日本史、社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う。英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び、現代社会のさまざまな知識、考え方を学ぶと共に、専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける。

【キーワード】 英語、講読、読解力

【到達目標】 1. 広く英語の文章に親しみ、辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す。また多読、精読なども行い、語彙力をつけることも目指す。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 日本史・日本文化に関する基礎知識を学ぶ 3. 英語文献を講読する。取り上げる文献・資料としては、以下のようなものを予定している。 4. 日本文化に関する英語文献—史料に基づく考察— 5. 日本史に関する英語論文—日本語文献との比較— 6. 日本中世の寺社勢力に関する英語文献—多様な資料を使って— 7. その他、日本文化・日本史に関する英語文献を素材として進めたい。

【教科書】 適宜配布する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 テキストは Mikael S. Adolphson, THE TEETH AND CLAWS OF THE BUDDHA を中心に、こちらで用意したプリントを適宜配布して進める。

【成績評価の方法】 授業への取り組み、課題などを総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 ひたすら辞書を引くこと。その際には、英和辞典だけでなく国語辞典・漢和辞典・日本史事典なども使うこと。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 衣川 仁（総合科学部1号館2N02）
（メールアドレス）kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）月曜日10時30分～12時

【備考】 初回の授業のとき、受講者調整を行います。掲示を出しますので、それを必ず見ておいてください。

基礎英語講読Ⅰ

English Reading Ⅰ

2単位（選択必修B）2年（前期）
樋口直人

【授業の目的】 現代社会において、英語は国際的な共通語という役割をもっており、英語で文献を読む能力はどのような分野に進む学生にとっても必要になっている。いまや異文化を理解するだけでなく、自国の文化を外国に発信する場合も、英語の能力は重要となっている。人文科学や社会科学分野の英語文献を読み、英語の文章を読む力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につけることを目指す。基礎外国語基礎演習（英語）Ⅰ・Ⅱで習得される英語の実用的な運用能力とも関連させて、英語の文章を読む力を養う。

【授業の概要】 人文科学や社会科学分野の文献・資料を英語で読み、英語の文章を読む基礎的読解力を身につけると同時に、それらの分野の基礎的な知識を身につける。具体的には、スポーツ科学、国際経済学、商法、哲学思想、現代日本史、社会学の分野に関する英語文献や英字新聞・インターネットの記事などの資料を活用して英文を読む訓練を行う。英語文献を通じて人文科学や社会科学などを広く学び、現代社会のさまざまな知識、考え方を学ぶと共に、専門の基礎となる英語文献を読むための基礎的読解力をつける。

【キーワード】 生殖技術、生命倫理、中絶、遺伝子操作

【到達目標】 1. 広く英語の文章に親しみ、辞書を使えば普通程度の専門書を理解できる読解力を身につけることを目指す。また多読、精読なども行い、語彙力をつけることも目指す。

【授業の計画】 1. 次の分野の英語文献・資料を読む。使用するテキストは、比較的やさしい文献とするが、専門的な内容の文献も使用することがある。 2. 性と生殖に関わる英語文献（主に新聞記事）を読み、中絶や代理母、遺伝子操作などに対する各国の捉え方の相違を理解する。 3. その際、アメリカ、イギリスの代表的な新聞や雑誌から教材を選択する。

【教科書】 コピーして配布する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書・参考書は特になし。必要な資料はこちらで配布するが、その訳を毎回きちんと全員がやってくことを前提とする。やってこない場合には欠席扱いにする。

【成績評価の方法】 平常点。無断欠席は25点減点、当てられてやっていない場合には10点減点、欠席は課題を出さない限り10点減点。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 単に英語を読むだけでなく、理解した内容に対して自分なりの意見を持てるように授業を組んである。文献を読むだけでは読みこなしたうに入らず、それを理解したうえで自らの血肉にするべく評価するプロセスを重視する。

語学は、一定の強制がなければなかなか学習しないし力もつかない。その意味で、読解力をつけたい学生向けの授業にしてある。要求水準は高いが、それに合った質の授業を提供するので、厳しくても力をつけたい人に受講をお勧めする。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 樋口直人

【備考】 初回の授業のとき、受講者調整を行います。掲示を出しますので、それを必ず見ておいてください。

基礎英語講読Ⅱ

English Reading Ⅱ

2単位（選択必修B）2年（後期）
大沼正樹、石田啓祐、真壁和裕

【授業の目的】 英文で書かれた科学文献を読み、その内容を的確に読み取る力を養う。

【授業の概要】 科学文献を読む際には「何がどこまで分かっているのか」、「現在、何が未解明の問題なのか」、「どのような方法で得られたどのような結果から、何がどの程度の確度で分かったのか」、「その研究に潜む問題点は何か」、「今後はどのような研究を続行すべきなのか」などを的確に理解することが大切である。この授業では、自らの研究を通じて科学の英語に接している教員

(大沼・石田・真壁)が、それぞれの研究分野(数学・地球科学・生命科学)から題材を集め、英語で書かれた文献に対して上記のような力を養うべくトレーニングを行う。

【到達目標】 外国語の基本的運用能力の養成、およびそれを通じての国際感覚の醸成と論理的文章を理解し書く能力の養成

【授業の計画】 概要説明と受講上の注意(大沼・石田・真壁)

大沼1: 数字の読み方

大沼2: 数式の読み方

大沼3: 図形の表現

大沼4: 数(自然数、実数等)について

大沼5: 関数の極限について(その1)

大沼6: 関数の極限について(その2)

大沼7: 連続について(その1)

大沼8: 連続について(その2)

大沼9: 片側連続について(その1)

大沼10: 片側連続について(その2)

大沼11: 連続関数の性質について(その1)

大沼12: 連続関数の性質について(その2)

大沼13: 数列の極限について(その1)

大沼14: 数列の極限について(その2)

石田1: 基礎1 基本構文(動詞の特性)

石田2: 基礎2 基本構文(冠詞の使い分け)

石田3: 基礎3 基本構文(複数)

石田4: 基礎4 基本構文(形容詞・副詞)

石田5: 基礎5 基本構文(接続詞)

石田6: 基礎6 基本構文(比較・仮定法)

石田7: 基礎7 基本構文(関係詞・前置詞)

石田8: 応用1 長文読解(地球科学関連テキストより-1)

石田9: 応用2 長文読解(地球科学関連テキストより-2)

石田10: 応用3 長文読解(地球科学関連テキストより-3)

石田11: 応用4 長文読解(地球科学関連テキストより-4)

石田12: 応用5 長文読解(地球科学関連テキストより-5)

石田13: 応用6 長文読解(地球科学関連テキストより-6)

石田14: 応用7 長文読解(地球科学関連テキストより-7)

真壁1: 演習1(前置詞1)・解説1(時制)

真壁2: 演習2(前置詞2)・解説2(仮定法)

真壁3: 演習3(接続詞)・解説3(否定)

真壁4: 演習4(動名詞・関係詞)・解説4(強調と倒置)

真壁5: 演習5(句と節)・解説5(分詞構文)

真壁6: 演習6(動詞1)・解説6(比較)

真壁7: 演習7(動詞2)・解説7(itと物主構文)

真壁8: 演習8(動詞3)・応用1(ノーベル賞論文の要旨とイントロ1: 初期胚の遺伝的制御)

真壁9: 演習9(形容詞)・応用2(ノーベル賞論文の要旨とイントロ2: 細胞内輸送シグナル)

真壁10: 演習10(副詞1)・応用3(ノーベル賞論文の要旨とイントロ3: 細胞周期制御因子)

真壁11: 演習11(副詞2)・応用4(ノーベル賞論文の要旨とイントロ4: プログラム細胞死)

真壁12: 演習12(名詞1)・応用5(ノーベル賞論文の要旨とイントロ5: 嗅覚受容体)

真壁13: 演習13(名詞2)・応用6(ノーベル賞論文の要旨とイントロ6: RNA干渉)

真壁14: 演習14(名詞3)・応用7(ノーベル賞論文の要旨とイントロ7: iPS細胞)

最終回: 総括(大沼・石田・真壁)

【教科書】 講義中に指示する。

【成績評価の方法】 予習してきた英文の和訳の発表による。

【受講者へのメッセージ】 第1回目の講義の時にクラス分けを行いますので、必ず出席してください。その後、各クラスに分かれて講義を行います。この講義においては、他の講義科目以上に出席・受講態度も重要な評価ポイントになります。

実用外国語基礎演習(英語)総論

Practical English (Basic)

2単位(選択必修B) 2年(前期)
山内暁彦, 吉岡宏祐, 佐久間亮

【授業の目的】 現在のグローバル化した世界において、共通語の

地位を占めている英語を用いてコミュニケーションをおこなう能力、さらには多様な英語媒体から情報を収集し、整理し、提示する能力は必須であろう。「実用外国語基礎演習(英語)」は、国際文化コースのコース専門コア科目である「実用外国語演習(英語)」とあわせて、中学、高校、更には全学共通教育で培ってきた英語の能力を、より実地的なコミュニケーションの道具として使えるレベルにまで高めることを目標とする。前期の基礎演習Ⅰでは、日本語を介さずに英語を英語のまま聴いて理解するための基礎トレーニングをおこなう。後期の基礎演習Ⅱでは、Ⅰでのトレーニングを踏まえて、多様な英語媒体から情報を収集、加工し、それらをプレゼンテーションをする訓練をおこなう。なお、基礎演習でおこなわれるトレーニングは、TOEIC、TOEFL、英検などの資格試験の準備にも有益である。受講者は与えられた課題をこなすだけではなく、演習で提示されるトレーニングを自ら実践することが求められる。言うまでもなく、実用的な英語のレベル向上は、日々の自発的トレーニング抜きには期待できない。この演習を刺激として、英語によるコミュニケーション能力という一生の財産となりうる確かな技能を身につけて欲しい。

【授業の概要】 基礎演習Ⅰ、Ⅱともに3クラス用意される。Ⅰは一つがbasic class、二つがadvanced classである。受講可能なのは3クラスあわせて75名までとし、受講登録者がそれを超えた場合は、抽選により人数調整を行う。受講クラスの決定は、Ⅰ(前期)の場合は、初回の授業時に行う。いずれのクラスでも、ニュース、ドキュメンタリー、映画、ドラマなどの音声視覚教材を駆使して、発音ドリル、ディクテーション、シャドウイング(声を出して英語を追いかける練習)など、現代の生きた英語を聴き、さらに英語を話すための基本的な訓練がおこなわれる。Ⅱの3クラスは学生番号順でクラス分けされる。それぞれのクラスで、ニューストピックについて多様な英語媒体から情報を収集し、内容を要約し、プレゼンテーションをする訓練などがおこなわれる。

【キーワード】 ディクテーション、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション

【到達目標】 1. 実用的なコミュニケーション能力の基礎として、1) 英語を英語のまま理解する能力を養成する。2) 多様な英語を聴き取る能力を養成する。3) シャドウイングを通じて英語を滑らかに口から出せるように訓練する。4) これらを通じて外国語の基本的運用能力を養成する。5) 英語媒体のニュースなどの情報収集、加工を通じて、国際感覚の養成を目指す。

【授業の計画】 1. 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【教科書】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【成績評価の方法】 平常点や期末試験の成績が評価に占める割合も含めて、各担当教員のシラバスを参照すること。

【再試験の有無】 行わない。

【受講者へのメッセージ】 個々の担当者のシラバスを参照すること。

【連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)(学生用連絡先)】

山内暁彦: 1号館北棟2階2N10 Tel: 088-656-7132

吉岡宏祐: 1号館北棟2階2N14 Tel: 088-656-7245

佐久間亮: 1号館北棟2階2N22 Tel: 088-656-7152

(メールアドレス)

山内暁彦: yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp

吉岡宏祐: yoshioka.koyu@tokushima-u.ac.jp

佐久間亮: sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp

オフィスアワー) 山内暁彦: 金曜日12時~13時, 吉岡宏祐: 水曜日14時~15時, 佐久間亮: 火曜日12時~13時

実用外国語基礎演習Ⅰ(英語)

Practical English (Basic) I

2単位(選択必修B) 2年(前期)
山内暁彦

【授業の目的】 全学共通教育段階までに蓄積してきている英語運用能力を増進するための訓練を行なう。

【授業の概要】 BBCのニュースを用いて作成されたDVD付き教材を利用し、映像も援用しながら、穴埋め、内容に合う記述の判定、語彙の習得等の練習により、聴き取りによる内容理解力を高めていく。

【キーワード】 リスニング、時事英語

【到達目標】 英語のニュースを聴いて即座に内容を把握できる聴

解力を身につけること。

【授業の計画】 1. Class Division & Pre-Test 2. Unit 1:Pandas from China Visit Edinburgh Zoo 3. Unit 2:Drive for Healthier Lunchboxes 4. Unit 3: Peace gate Opened in Belfast 5. Unit 4: Spain's Lost Generation? 6. Unit 5: Stay Alcohol Free for Two Days 7. Class Test 1 (Unit 1-5) 8. Unit 6: The Best Place in Britain to Grow Up 9. Unit 7: Animal Rights Threaten Medical Research 10. Unit 8: Addiction to Smartphones 11. Unit 9: India's Economic Potential 12. Unit 10:The UK's Daily Commute 13. Unit 11:Migration and Job Losses in the UK 14. Class Test 2 (Unit 6-11) 15. Final Test 16. Review

【教科書】 DVDでBBCニュースを見て、聞いて、考える10(BBC Understanding the News in English 10) /小野田榮, Lucy Cooker 編著:金星堂, 2013, ISBN: 9784764739550

【成績評価の方法】 Class Tests 70%, Final Test 30%

【再試験の有無】 行わない

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

1号館北棟2階2 N10, Tel: 088-656-7132

(メールアドレス) yamauchi@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 金曜日 12時～13時

実用外国語基礎演習Ⅰ (英語)

Practical English (Basic)Ⅰ

2単位 (選択必修B) 2年 (前期)

吉岡宏祐

【授業の目的】 グローバリゼーションが進展する現代の世界においては、多様な文化・信条・背景を持った人々との相互作用がますます重要となってきている。このような現状において、今求められているのは、コミュニケーション・ツールとしての英語運用能力の獲得であるといっても過言ではないであろう。本授業では、とりわけ、英語ニュースを聴いて、これを理解する力を高めることを目的とする。

【授業の概要】 CBSで放送されたニュースを扱ったテキストを使用する。その際、DVDを視聴することによって、映像を手掛かりに、聴き取りによる内容理解力を高めていく。加えて、ディクテーションならびに語彙の習得を通じて、理解力を高める際の補助とする。

【キーワード】 英語ディクテーション

【到達目標】 英語ニュースを聴いて即座に内容を把握できる聴解力を身につける。

【授業の計画】 1. Introduction 2. Unit1: Addicted to Your Smartphone? 3. Unit2: Tutoring for Tots 4. Unit 3: Corporate Wellness Programs Gaining Popularity 5. Unit 4: Are Kids Hurt When Moms Work? 6. Unit 5: New Graphic Warnings for Cigarette Smokers 7. Unit 6: Silicon Valley School: No Computers in Classrooms 8. Unit 7: Buzz Words: "Skinny the Latest to Catch On 9. Unit 8: Learning Small Talk 10. Unit 9: Happy Meal Ads Target Kids 11. Unit 10: Internships? Are They Worth It? 12. Unit 11: Happiness 101 13. Unit 12: Therapy Dogs Help the Sick 14. Class Test (Unit 1-12) 15. Final Test 16. Review

【教科書】 CBS News Break /熊井信弘 / Stephen Timson: 成美堂, 2013, ISBN: 9784791912872

【成績評価の方法】 Weekly Assignment 40%, Class Test 30%, Final Test 30%

【再試験の有無】 なし

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

吉岡宏祐 (2N14, Tel: 088-656-7245)

(メールアドレス) yoshioka.koyu@tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 水曜日 14:00～15:00

実用外国語基礎演習Ⅰ (英語)

Practical English (Basic)Ⅰ

2単位 (選択必修B) 2年 (前期)

佐久間亮

【授業の目的】 『実用外国語基礎演習 (英語) 総論』を参照のこと。

【授業の概要】 英語を聴き、話し、そして英文を英語の論理で読むために必須の基礎トレーニングをおこないます。素材としてニュースやドキュメンタリーなど身近で、時事的なものを用います。比較的最近の話題ならば、耳から聴く音とその意味との関連付けが容易なので、その分だけ英語の音を意味をもつ音のつながりとして体になじませるトレーニングを容易におこなえるからです。また、将来「英語で勉強する」(「英語を勉強する」ではなくて)ための基礎訓練をすることもここでは意識しています。トレーニングメニューは以下の通りです。a. 音に慣れるトレーニング(カタカナ英語の払拭、音の連結や脱落に慣れる)として、ディクテーション(書き下し) b. 英語を英語のまま理解する回路を頭の中に作り上げるトレーニングとして、意味をもったかたまり(phrases)ごとに、文頭から理解していく練習をします。英語の論理は核心部分を先に述べて、その説明を次々に追加していくというものです。最後を知って初めて全体の意味が分かる日本語の論理とは根本的に異なります。そのことを体得するために、以下のメニューでbのトレーニングをします。1)スクリプトの速読(かたまりごとにスラッシュをいれ、文頭から理解するトレーニング) 2)スクリプトを見ながら、シャドウイング(発音のトレーニングを兼ねる) 3)スクリプトを見ないで、シャドウイング(文字に頼らないで英語を話すトレーニングとしてきわめて重要です)。

【キーワード】 authentic English, dictation, shadowing, BBC news

【関連/科目】 『実用外国語基礎演習Ⅱ (英語) [Practical English (Basic)Ⅱ]』, 『実用外国語基礎演習Ⅰ (英語) [Practical English (Basic)Ⅰ]』, 『実用外国語基礎演習Ⅰ (英語) [Practical English (Basic)Ⅰ]』

【到達目標】 国際社会で活躍する能力の養成、外国語の基本的運用能力の養成、国際感覚の醸成

【授業の計画】 1. 上記 a, b のトレーニングを毎回おこないます。具体的には→ 2. 毎回、5分前後の素材を音声あるいは映像で提示し、テーマ、おおまかな内容について英語で議論します。

3. 次回までの宿題としてそのディクテーション(スクリプトを作ること)を課します。4. ディクテーションの成果を確認し、さらに文法なことがら、語彙も含めて内容の分析をします。5. さらに次回までに自宅でシャドウイングしてくる(最初は一部分からはじめる) 6. 「NHK ワールドニュース」からはじめて、順に「BBC」, 「ABC」などネイティブ向けの authentic なニュースへと移行していきます。

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書は使用せず、音声 or ビデオ素材を配布します。各自、USB 接続のメモリ (MP3 の音声ファイルと MPEG のビデオ素材を保存できるもの) を用意すること。携帯プレーヤーになっているものが望ましい。64MB 以上のものを用意するようにしてください。なお、受講に際し、英英辞典を必ず用意し、活用するように(日本語を媒介としない英文の理解、聞き取りに必須のアイテムです)。COBUILD English Dictionary (Collins) を推奨します。電子辞書でもでています。

【成績評価の方法】 演習中や自宅でのトレーニングの達成度などの平常評価 (30%) と期末試験の結果 (70%) を併用する。

【再試験の有無】 『実用外国語基礎演習 (英語) 総論』を参照

【受講者へのメッセージ】 英語でコミュニケーションが出来るようになる上で、突破すべき最初の壁がリスニングです。これは、どれだけ多くの英語を「意識的に」聴き込むかにかかっています。この演習は、担当教員が日々行っているトレーニングの一端をお見せすることで、皆さん個々のトレーニング方法を確立する手助けとすることをねらいとしています。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】

佐久間亮 (2 N22, 656-7152)

(メールアドレス) sakuma@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 火曜 12時～13時 佐久間研究室 (1号館北棟2F)

実用外国語基礎演習Ⅰ (ドイツ語)

Practical German (Basic)Ⅰ

2単位 (選択必修B) 2年 (前期)

井戸慶治

【授業の目的】 全学共通教育の全学共通教育のドイツ語で習得した知識を基礎として、初級文法の不足している部分を補いながら、

より実用的なレベルをめざす。今後の授業やゼミでドイツ語と関わる可能性があるか、ドイツ語やドイツ語圏の文化などに関心を持つ受講生の、さらなる自律的学習のための基礎固め・橋渡しとなれば幸いである。また、折に触れてドイツ語圏の文化や事情を、視聴覚教材などを用いて紹介するが、このことは英語圏の知識に偏らない健全な国際感覚を持つために有益であろう。

【授業の概要】 この授業は、1) 専門の授業においてドイツ語を必要とするので、ドイツ語をメインにして「実用外国語演習」を履修したい、または2) ドイツ語またはドイツ語圏一般に関心があり、1年間履修したドイツ語の知識をより確実なものにしたい、という受講生のための授業である。全学共通教育のドイツ語を履修済みで、ドイツ語圏の言語や文化・社会に関心を持つ人であれば、所属学科・コースにかかわらず受講を歓迎する。ただし、他の外国語との関連で単位に関する制約があるので、下の「注意」を参照のこと。

【到達目標】 ドイツ語初級文法の復習と補完（接続法まで）をおこなう。

ドイツ語の基本的な表現を習得し、辞書を用いて比較的容易なドイツを読み、作文することができるようになること。

ドイツ語圏の事情や文化に触れる。

【授業の計画】 1年次に習った内容は受講クラスによって多少異なるため、具体的な内容や進度、取り上げるテキストについては、最初の授業でおこなう既習事項に関する簡単なアンケートを参考にして、受講生のレベルや関心に応じて決定する。

以下は、取り扱う文法事項という観点から記述した授業計画の一例と考えてもらいたい。

1－5回目：ガイダンス、発音、現在人称変化、冠詞（類）の格変化などの復習。

6－10回目：話法の助動詞、未来、過去、現在完了など。

11－15回目：関係代名詞、受動、接続法など。

【教科書】 何か一冊に決めて購入するか、必要に応じてプリントを配布する。4月初め頃の授業で決定する。

【参考書】 必要に応じて視聴覚教材や参考文献、あるいはそれからのコピーを提示する。

【成績評価の方法】 平常点（授業中の発表や教員とのやりとりに対する評価）が中心になるが、他に、筆記の課題を課すこともある。また、前回の授業で習った（あるいは復習した）基本的な暗記事項などについて、小テストをおこなう。

【再試験の有無】 なし。

【受講者へのメッセージ】 以下の点に注意が必要である。学部共通の選択必修Bは、卒業に必要な単位としては上限4単位という制限がある。また、英語、フランス語などの同種の授業と同じ時間帯に開講されているので、これらと同じ年度に履修することはできない。年度をずらして複数の外国語を受講したとしても、「卒業に有効な」単位として算定されるのは、いずれかひとつだけである。もちろん、「卒業に有効な」単位にならなくても、受講することはできるし、「せっかく1年間学んだのだからもっとしっかり学びたい」という気持ちはもっともであり、そのような受講生向けにも開設された授業である。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 課題をしっかりと果たすこと。さらにドイツ語を本格的に学びたい人は、できるだけ多くの時間、ドイツ語に触れるようにしてください。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
Tel：088－656－7138、E-mail：ido@ias.tokushima-u.ac.jp
(メールアドレス) ido@ias.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 火曜日16－17時（第一火曜日は16:30まで）、
場所は総合科学部3号館1階スタジオ隅の学習支援室

実用外国語基礎演習Ⅰ（フランス語）

Practical French（Basic）Ⅰ

2単位（選択必修B）2年（前期）

田中 佳

【授業の目的】 異文化（広い意味で自分とは異なるものすべて）に触れ、理解しようとすることは、多大なるエネルギーを要します。「常識」と思っていたものが覆され、発想の根本的な転換が迫られることもしばしばです。しかしその経験が、人生に幅をもたらしてくれることも事実です。新しい言語を勉強したのをきっかけに、普段の日本語生活からは見えてこない世界を覗いてみま

しょう。

【授業の概要】 フランス語文化圏について理解を深めるための総合的・実践的な運用能力の育成。

【キーワード】 フランス語

【到達目標】

・本講義は、外国語の基本的運用能力を養成することを目的としています。

・「フランス語入門」や「フランス語初級」で修得した知識を確実なものとし、より実践的な場面で活用できるようにすること。個々の関心に応じた情報収集をフランス語でできるようにすること。

【授業の計画】 ※受講生の人数や希望に柔軟に対応しますので、以下は暫定的な計画です。1、オリエンテーション 2～8、旅行等を中心とした実践的な場面での会話練習 9～14、テキストの講読 15～16 総括

【教科書】 後日指定するか、コピーを配布する

【参考書】 授業の中で適宜紹介する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 特になし

【成績評価の方法】 平常点（教室での発言、課題、小テストなど）を重視する。場合によっては学期末試験を実施する。

【再試験の有無】 必要に応じて検討する

【受講者へのメッセージ】 語学習得の近道は、まず何より楽しむこと、そして復習と反復練習です。目と耳と口と手をフルに動かして、積極的な姿勢で臨んでください。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
田中佳 2 N03 電話番号088－656－7135

(オフィスアワー) 木曜5・6講時

実用外国語基礎演習Ⅰ（中国語）

Practical Chinese（Basic）Ⅰ

2単位（選択必修B）2年（前期）

葭森健介

【授業の目的】 全学共通教育中国語初級で身につけた中国語の能力を高め、実用として使いこなす事のできるよう、読解と聞き取りを中心にトレーニングを行う。

【授業の概要】 この授業では教材に現代中国の社会や文化に関する記事を取り上げ、時事や現代文化に関する語彙力と速読の能力を養成する。前期は市販の教科書を使って、最新の中国についての記事を扱う。また、記事に関係して、中国の放送番組によるビデオ教材も用い、聞き取りの力も養成する。

【キーワード】 中国語、時事問題、現代中国

【到達目標】 1. 中国語の新聞やインターネットの記事が辞書を引いて読めること。指定する基本単語及び基本表現を覚え使いこなせることを目標とする。

【授業の計画】 1. 中国語入門・初級の復習－表現～単語－ 2. 中国語入門・初級の復習－文法－ 3. 時事中国語を読むための基礎 4. アメリカでの習近平 5. 中国の春節事情 6. 中国のスター選手 7. 中国の就活事情 8. 中国語表現の復習 9. 中国の教育事情 10. 中国のプレゼント作戦 11. 中国のグルメ世界 12. 中国と世界 13. 中国語のネットをのぞく 14. 文法のまとめ 15. 期末試験 16. 総括

【教科書】 セレクト8時事中国語2012／三瀧正道・陳祖蒨：朝日出版、2012、ISBN：978－4－255－45210－

『セレクト8時事中国語2013』（朝日出版社 1600円＋税）

【参考書】 1年次に使用した辞書及び中国語のテキストを必ず持参のこと。

【成績評価の方法】 授業での発表、小テストと学期末テストの点数を総合して行う。

【再試験の有無】 原則無し。ただし受講態度・日常の努力の度合いをみて再試験を行うこともある。

【受講者へのメッセージ】 共通教育で中国語入門・初級または中国語4単位を履修済み、あるいはそれに相当する中国語能力を有していることが絶対条件である。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
葭森健介（総合科学部1号館2 N05 Tel：656－7156 E-mail：yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp、
(メールアドレス) yosimori@ias.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 月曜日：14:30～15:30

実用外国語基礎演習Ⅱ（英語）

Practical English (Basic) II

2単位（選択必修B）2年（後期）
スティーヴンズ メリディス、
早内ジュディス、パトリックジェフリー

【授業の概要】 Students will discuss current events from the media. Headlines will be analysed and rewritten as complete sentences. The topic of the story will be identified. Students will make a special focus on a story from the news of their choice over the semester, and report on this at the end of the course.

【キーワード】 current events, world events

【授業の計画】 Each week current stories from the media will be chosen and analysed.

【教科書】 No textbook is necessary. Students will be required to source stories on the Internet. Some newspaper or internet stories will be provided.

【成績評価の方法】

1. Diary entries of current events
2. Oral Presentations
3. Final exam in which students will outline the progress of an event they have been following over the semester

【受講者へのメッセージ】 Students are recommended to regularly listen to the news in English for short periods.

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 Please read and listen to the current events on National Public Radio. Please also follow current events in Japanese on the local media. If you follow the events first in Japanese, you will have the right background information to follow the news in English.

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（オフィスアワー）】
スティーヴンズ、メリディス：
パトリック、ジェフリー：By appointment
早内・ブリングル ジュディス：By appointment

実用外国語基礎演習Ⅱ（ドイツ語）

Practical German (Basic) II

2単位（選択必修B）2年（後期）
依岡隆児

【授業の目的】 初級から中級程度のドイツ語を読み、簡単なドイツ語が運用できるようにする

【授業の概要】 実用ドイツ語をブラッシュアップし、読む・書くの技能を中心に、中級程度のレベルを目指す。書くためにも、読むトレーニングは不可欠である。中級程度の教科書を適宜使用しながら、多様なドイツ語に触れられるようにする。

【キーワード】 ドイツ語、実用外国語、比較文化

【到達目標】

1. 初級から中級程度のドイツ語が読み、簡単なドイツ語を実際に運用できる技能を身につけること。
2. 外国語の基本的運用能力と国際感覚の醸成。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 初級から中級程度のテキストの読解 3. ビデオ鑑賞などにより背景の文化・社会についての理解を深める

【教科書】 小林和貴子ほか『Reise nach Fantasie ようこそファンタジーの世界へ』（同学社）か、Prismen（東大教養部ドイツ語部会編）のテキストを適宜使用。

【成績評価の方法】 授業への取り組みにもとづいて総合的に評価します。

【再試験の有無】 無

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 次回分のテキストは事前に目を通して、音読できるようにしておくこと。また一度やった箇所は、何度も復習すること。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
依岡隆児 1号館2階、088 (656) 7143
(メールアドレス) yorioka@ias.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 火曜日12時から12時50分

実用外国語基礎演習Ⅱ（フランス語）

Practical French (Basic) II

2単位（選択必修B）2年（後期）
田島俊郎

【授業の目的】 大人になって始めた外国語について、仕方がないことなのだけれど悔しいのは、実際の知的レベルよりずっと低いこともわからなかったり言えなかったりすることです。母国語だったら小学生にも言えるようなことも、語彙が足りないためにわからない、うまく言えない。そんなフラストレーションを感じてしまいます。そろそろフランス語の雰囲気はつかめたという君。語彙を増やすためには、そろそろ自分の知的レベルにあったものを読み始めよう。聞き話せるようになるためにも、読んでことばの奥にあるものにとらえ方考え方に慣れるようにしよう。

【授業の概要】 フランス語で読み、フランス語で発信する世界。

【キーワード】 フランス語

【到達目標】

1. 本講義は、外国語の基本的運用能力を養成することを目的としています。
2. 外国の事情をフランス語で情報収集できる能力と、日本の事情をフランス語で発信する能力の獲得。

【授業の計画】 1. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。音声教材としてはフランスのニュースや映画などの現在進行中の題材も使うようにします。

2. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。
3. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。
4. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。
5. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。
6. 音声や動画を使って聞き取り、発音する能力を訓練します。
7. フランスの中学や高校の、公民や哲学、歴史の教科書などから抜粋したさまざまなトピックを読んで語彙を身につけます。
8. 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます。
9. 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます。
10. 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます。
11. 例えば「人権」や「差別」や「知」や「宗教」や「失業」などの語彙を身につけます。
12. 思考方法は言語に規定されてしまう部分もある。いかにわれわれが日本の文化に寄りかかって議論を組み立てているか、外国語で読み、外国語で話す際、議論する時に気づかされる。こともあります。外国語の議論を理解するためにこちらの想像力を動員する必要もあります。そういったことも含めて考えましょう。
13. 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう。
14. 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう。
15. 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう。
16. 思考方法は言語に規定されてしまう部分もあることも含めて考えましょう。

【教科書】 コピーや音声素材を配布します。

【参考書】 フランス語入門や初級で使用した教科書など

【成績評価の方法】 出席および授業中の発言を重視します。

【再試験の有無】 行いません

【受講者へのメッセージ】 全学共通教育のフランス語基礎および初級の単位を修得しているか、それと同等以上のフランス語能力が必要。

【WEB ページ】 <http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/francais/index.html>

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
田島俊郎 2N08 088-656-7144
(メールアドレス) tajima@ias.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 木曜日12時から13時

実用外国語基礎演習Ⅱ（中国語）

Practical Chinese (Basic) Ⅱ

2単位（選択必修B）2年（後期）
部 迎建

【授業の目的】 1. 確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。初級中国語で学んだ文法の基礎の上に立て、名文に触れ、ことばの感性を育てながら、語彙を増やし、表現を豊かにします。中国語力を高めることを目指します。

【授業の概要】 名作を読解します。朗読、翻訳をした後、言い回しや文型を用いて作文の練習をします。

【キーワード】 朗読 理解 活用

【到達目標】 確実に中国語の実力を身につけ、実用レベルに到達します。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 第一課「打電話」を朗読、翻訳 3. 作文練習 4. 第二課「弯弯的月亮」を朗読、翻訳 5. 作文練習 6. 第三課「誠」を朗読、翻訳 7. 作文練習 8. 第四課「改詞儿」を朗読、翻訳 9. 作文練習 10. 第五課「叫我一声」を朗読、翻訳 11. 作文練習 12. 第六課「愛好」を朗読、翻訳 13. 作文練習 14. 第七課「軍犬黒子」 15. 期末試験（『人民日報』のコラムを翻訳する、辞書持込可）。16. なお、より詳細な授業計画は第一回の授業で説明するので、必ず出席すること。

【教科書】 心あたまる短い小説10選／渡辺晴夫・大川完三郎：同学社、2006、ISBN：4810207587、¥2300円（税別）辞書については授業で指示する（必ず購入すること）。

【成績評価の方法】 平常点及び期末試験により総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試験無

【受講者へのメッセージ】 授業時間の二倍を使って、予習、復習をしましょう。欠席・遅刻はしないこと（特に第一回はガイダンスなので必ず出席すること）。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

1号館 中国文学・文化研究室2N19 Tel：(088) 656 7146

E-mail：shaoyingjian@yahoo.co.jp

（メールアドレス）yingjian@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）水曜日12：00～13：00

キャリアプランⅠ

Career Plan (1)

1単位（選択必修C）2年（前期）
田中徳一

【授業の目的】 自分のキャリアデザインにあった仕事をリサーチするための素養を養うとともに、就職活動において不可欠な日本語力、コミュニケーション力およびプレゼンテーション力の向上を図る。

【授業の概要】 まず徳島大学の進路情報と合わせて就職環境の変化など、就職環境全般の知識を習得する。次に種々の分野の職業人によるジョブリサーチ講座が実施される。次いで、就業力に重要な日本語力、コミュニケーション力を向上させるための演習を実施する。またアクティブラーニングの一環として、経済新聞を用いて情報収集・取りまとめをするともに、全員の前でプレゼンテーションを行う。第9、15回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。

なお各回の学習内容の要点等はweb版キャリア学習ポートフォリオに記入し、授業終了後にキャリア教育担当教員のチェックを受ける。

【キーワード】 ジョブリサーチ、日本語力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction to Career Planning (1)]』、『キャリアプラン入門Ⅱ [Introduction to Career Planning (2)]』

【到達目標】 ジョブリサーチのための素養、ならびに就業力に最低限必要な日本語力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力を身に付けるとともに、キャリア学習ポートフォリオ作成を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 徳島大学の進路情報 3. 就職環境の変化と情報収集 4. 経済新聞を用いた資料収集・分析法 5. 企業に求められる人材とは 6. ジョブリサーチ講座(1) 7.

ジョブリサーチ講座(2) 8. 発表資料進捗確認・指導 9. ジョブリサーチ講座(3)／レポ(1／2) 10. 日本語力(エントリーシート)演習 11. コミュニケーション演習 12. 発表資料整理・分析取り纏め 13. プレゼンテーション演習(1) 14. プレゼンテーション演習(2) 15. プレゼンテーション演習(3)／レポ(2／2)

【教科書】 特に指定なし。

【参考書】 授業中に適宜プリント等を配布する。

【成績評価の方法】 到達目標の達成度を、レポート2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評価の合計(100点満点)が60点以上を合格とする。

【受講者へのメッセージ】

1) 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。

2) この授業の受講に必要な「先行／科目」規定について、編入学性は対象となりません。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

田中徳一（Tel：656－9320、E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp）

（メールアドレス）E-mail：t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）火曜日 13：00～14：00

【備考】

1) 受講者が多い場合は最初の授業時に受講者調整を行いますので、初回授業の2日前までに、必ず履修登録を済ませておいてください。登録されていない場合は、受講できないことがあります。

2) 副教材で自己負担（2千程度）をお願いする場合があります。

キャリアプランⅡ

Career Plan (2)

1単位（選択必修C）2年（後期）
田中徳一、山野明美

【授業の目的】 各種の職場見学を通して社会に触れるとともに、就職情報の収集方法を会得する。また、先輩のキャリアデザイン形成やその実践活動を学ぶことでジョブリサーチプラン作成能力を養う。

PBL講義では、現在の社会におけるジェンダーを巡る諸問題について理解し、なぜ男女共同参画社会が必要なのか、どうすれば男女共同参画社会が実現できるのかについて考える。また、自らエンパワメントする。さらに、卒業後社会に出てからワーキングライフを送るうえで重要となる課題解決の基礎を習得する。さらに、高い視点に立ったグローバル人材育成を目指す。

【授業の概要】 まず徳島大学の進路情報と合わせて就職環境の変化など、就職環境全般の知識を習得する。続いて“社会体験・職場見学実習”、“自己分析表現技法”、“先輩の体験に学ぶ”の順に実施される。“社会体験・職場見学実習”では、各種のイベント・ボランティアへの参加やバス等で近隣の企業等へ出向き、職場見学を実施する。“自己分析・表現技法”では、自己PR・エントリーシートの捉え方・作成技法を学ぶ。“先輩の体験に学ぶ”では主に4年生に自らの就職活動体験を紹介してもらうと同時に直接アドバイスを受ける。第7、10、14回の授業時にそれぞれレポート課題が出される。

なお各回の学習内容の要点等はweb版キャリア学習ポートフォリオに記入し、授業終了後にキャリア教育担当教員のチェックを受ける。

PBL講義では、男女共同参画社会におけるライフ・プランの形成を支援するために、ワーク・ライフ・バランス（WLB）を軸として、現代の課題の捉え方、考え方を学ぶ。事例を通じて、仕事、家庭生活、地域活動、自己啓発など、仕事と豊かな生活の両立を考える機会をもつ。また、グローバル人材育成につなげる。

【キーワード】 社会体験、職場見学、企業説明会、先輩の体験、ジョブリサーチプランPBL（課題解決型授業）、男女共同参画、エンパワメント、グローバル

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction to Career Planning (1)]』、『キャリアプラン入門Ⅱ [Introduction to Career Planning (2)]』

【到達目標】 まず就職環境全般の知識を習得するとともに、社会体験実習、自己分析、先輩の体験、を学ぶことでジョブリサーチプラン作成方法を身に付ける。キャリア学習ポートフォリオ作成

を通して自らのキャリアプランを自主的に進めることができる。PBLの少人数グループ学習では具体的な課題について洞察、観察、対話、反省、という過程で①固定的性別役割分担意識が根深くあることに理解を深め、課題発見を見つめる②自分たちの人生を過ごすには、これからの社会をどう作っていくのかの方向性を見出す③グループ内での討議や全体発表を通し、自らエンパワメントする

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 徳島大学の進路情報 3. 就職環境の変化と情報収集 4. 企業に求められる人材とは 5. 社会体験・職場見学実習(1)／PBL 講義：男女共同参画及びグローバル人材について問題提起(1) 6. 社会体験・職場見学実習(2)／PBL 講義：グローバル人材(2) 7. 社会体験・職場見学実習(3)レポ(1／2)／PBL 講義：グループワーク(3) 8. 就職情報収集演習(1)／PBL 講義：グループワーク(4) 9. 就職情報収集演習(2)／PBL 講義：グループワーク(5) 10. 就職情報収集演習(3)／PBL 講義：グループ発表(6) 11. 先輩の体験に学ぶ(1) 12. 先輩の体験に学ぶ(2) 13. 先輩の体験に学ぶ(3) 14. 先輩の体験に学ぶ(4)／レポ(2／2) 15. 総括授業・アンケート

【教科書】 特に指定なし。

【参考書】 授業中に適宜プリント等を配布する。

【成績評価の方法】 到達目標の達成度を、2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点の合計(100点満点)が60点以上を合格とする。

PBL 講義では、到達目標の達成度を、出席して討論に参加、グループ内の発表分担への参加より評価する。また、レポートを評価する。

【受講者へのメッセージ】

- 1) 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。
- 2) この授業の受講に必要な「先行／科目」規定は、編入学性は対象となりません。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】 田中徳一 (Tel: 656-9320, E-mail: t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp)

(メールアドレス) E-mail: t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

【備考】

- 1) 受講希望者が定員を超える場合は受講者調整を行いますので、初回授業の2日前までに必ず履修登録を済ませておいて下さい。登録されていない場合は、受講できないことがあります。
 - 2) 副教材で自己負担(2千円程度)をお願いする場合があります。
- 2) PBL方式による授業は、演習形式で行うため、受講者数(上限30名)に制限を設ける。受講者調整が行われる場合、調整結果については最初の授業時に発表します。

キャリアプランⅢ

Career Plan (3)

1 単位 (選択必修C) 4 年 (後期)
山野明美

【授業の目的】 大学での就職活動およびキャリア学習の総括を行うとともに自らの体験を後輩に伝えることを通してより高いレベルのコミュニケーション力ならびにプレゼンテーション力を養成する。

【授業の概要】 まず各自の就職活動体験レポートを作成する。またそれに基づいて、自らの就職活動体験を後輩に伝えるためのPPTを作成し、それをを用いて第10～13回の「キャリアプランⅡ」の体験伝承セミナーにおいて、自らの体験を紹介するとともに後輩のキャリアプラン作成ならびに就職活動等に関してアドバイスをを行う。

第5、8回の授業時にそれぞれレポートを提出する。

【キーワード】 就職活動体験、体験伝承、キャリア学習ポートフォリオ

【到達目標】 キャリア学習および就職活動の総括を行い自らの体験を後輩に伝えることができるとともに、キャリア学習ポートフォリオを完成させる。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 就職活動体験レポート作成(1) 3. 就職活動体験レポート作成(2) 4. 就職活動体験レポート作成(3) 5. 就職活動体験レポート作成(4)レポート1 6. 体験伝承資料作成(1) 7. 体験伝承資料作成(2) 8. 体験伝承資料作成(3)レポート2 9. 体験伝承演習 10. 体験伝承演習 11. 体験伝承

セミナー(1) 12. 体験伝承セミナー(2) 13. 体験伝承セミナー(3) 14. 体験伝承セミナー(4) 15. キャリア学習ポートフォリオまとめ

【成績評価の方法】 到達目標の達成度を、2回分のレポートとキャリア学習ポートフォリオの進捗状況により評価する。各レポート評点の合計(100点満点)が60点以上を合格とする。

【受講者へのメッセージ】

- 1) 必ず出席し、レポート提出は期限厳守のこと。キャリア学習ポートフォリオを継続的に作成すること。
- 2) この授業の受講に必要な「先行／科目」規定について、編入学性は対象となりません。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】 田中徳一 (Tel: 656-9320, E-mail: t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp)

(メールアドレス) E-mail: t_tanaka@career.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 火曜日 13:00～14:00

短期インターンシップ

Short Term Internship

2 単位 (選択必修C) 3 年 (前期)
山野明美

【授業の目的】 ①働くことの意義を実感する②学外研修において実社会の現状を把握する③職場でのビジネス・コミュニケーション及びマナーの重要性を認識する④仕事に対する責任感と緊張感を体験する

【授業の概要】 ①インターンシップとは、企業・行政機関・公益法人・団体等における実習・研修的な就業体験を通じて、自らの将来計画におけるキャリア・デザインについて考える授業である。②前半では、学外研修の準備としてのコミュニケーション・マナー、守秘義務等法律知識等を修得する。また、各種企業からゲストスピーカーを招聘し、社会人・企業人として望まれる人材ならびに学生の見方について学ぶ。③後半では、7月～9月の間に、各自5日間程度の学外研修を受ける。④社会の一員としてのマナーや責任感や厳しさを体験することにより、自己啓発の機会を得る。

【キーワード】 学外研修、ビジネス・コミュニケーション、ビジネス・マナー、キャリア・デザイン

【先行／科目】 『キャリアプラン入門Ⅰ [Introduction (1) to Career Plan]』、『キャリアプラン入門Ⅱ 総論 [Introduction (2) to Career Plan]』

【到達目標】 ①事前学習により、社会人として必要なマナーとビジネス・コミュニケーションを理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。②学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 事前学習：インターンシップ受入団体講演(1) 3. 事前学習：インターンシップ受入団体講演(2) 4. 事前学習：社会人としての必要な法律知識 5. 事前学習：社会人としての必要なビジネス・マナー (小テスト) 6. 事前学習：インターンシップ申し込み等の文章指導 7. 事前学習：参加のための各種必要書類の作成 8. 事前学習：お礼状や報告書の作成法指導 (レポート) 9. 学外研修：(1)仕事内容や業務の流れの説明、日誌作成 10. 学外研修：(2)研修、日誌 (授業コメント) 作成 11. 学外研修：(3)研修、日誌 (授業コメント) 作成 12. 学外研修：(4)研修、日誌 (授業コメント) 作成 13. 学外研修：(5)研修、日誌 (授業コメント) 作成 14. 学外研修：(6)研修、日誌 (授業コメント) 作成 15. 学外研修：(7)講評とまとめ (報告書)

【教科書・参考書に関する補足情報】 初回講義時に、テキストとして本学作成の「インターンシップ・ハンドブック」を配布する予定。

【成績評価の方法】 事前学習(1～8回)で出席を2/3未満の場合は成績評価の対象にならない。到達目標の達成度を、小テスト(30点)：レポート(30点)：報告書(40点)により評価する。なお、学外研修先の評価も参考とする。合計(100点満点)が60点以上を合格とする。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 キャリアプラン入門Ⅰ・Ⅱを履修していること(編入生は除外)。事前学習(1～8回)を受講しなければ学外研修を受けることができない。学外研修の日誌をポート

フォリオの授業コメント欄に記載しておき、それを参考にポートフォリオの報告書を完成させる。レポートおよび報告書は提出締切厳守。学外研修の日程と集中講義の日程が重ならないように注意しておく。尚、インターンシップ実習を行うにあたっては、必ず賠償責任保険等に加入しておくこと。学外研修先は、就職支援センター紹介・学科紹介および自由応募先のいずれかとする。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 インターンシップに参加するには、何を学びたいのか、何を中心課題とするのかなどの具体的な視点や課題をもって臨むこと。また、「知っている」「わかる」から「できる」姿勢で臨む。一例として「あいさつ」がある。つまり、物事に取り組む際の主体性の発揮とコミュニケーション力（発信力・傾聴力）の強化を図ること。さらに、課題発見・発想力強化に役立つことができるようにする。「短期インターンシップ」を通じて、得たいものは何か、思い浮かんだ言葉やキーワードを文字でマッピングしてみる。安易な取り組みに成果は期待できない。就職したい企業、希望の職種、必要な能力は何か。インターンシップは、それを探る機会となる。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

部屋番号：キャリア教育推進室

Tel：088－656－9321

（メールアドレス）yamano@tokushima-u.ac.jp

【備考】 研修期間は、主に夏季休暇中とする。成績は、後期中に開示される。学外研修にあたり、体調を整え欠席等がないようにすること。

2. 人間文化学科 学科共通科目

ページ	配当学年	授 業 科 目	単位数等
147	①②	日本語表現の基礎	2
147	①②	文化研究の基礎	2
147	①②	哲学・思想の基礎	2
148	①②	近現代世界の成立と展開	2
148	①②	心理学の基礎Ⅰ	2
149	①②	心理学の基礎Ⅱ	2
149	①②	ヘルスプロモーションの基礎	2
149	①②	健康体力科学の基礎	2
計			12 単位以上

日本語表現の基礎

Proper Japanese

2単位（選択）1年（前期）
村上敬一

【授業の目的】 現代日本語の基本的なしくみ（構造）と、その適切な運用について理解することを目的とする。日本語を母語とする者としての最低限必要な知識（音声・文法・語彙など）と、その具体的な運用を実践的に学び、高めていく。

【授業の概要】 高校までの「国語」ではなく、日本語をひとつの言語として客観的に眺めることから始める。具体的な事例に基づいて、現代日本語の基本的なしくみを解説する。同時に「日本語教育能力検定試験」や「話しことば検定」「文章能力検定」などの過去問を通じて、運用能力の向上を図る。

【キーワード】 日本語学 日本語の音声 日本語の語彙 日本語の文法

【到達目標】

1. 日本語の基本的なしくみ（構造）について理解する。
2. 日本語の適切な運用能力について、具体的な実践を通して高めていく。
3. 現代日本語の現状について、客観的に眺める目を養い、具体的に説明できる力を身につける。

【授業の計画】 1. 日本語表現と日本語のしくみ 2. 日本語の音声・音韻 3. 日本語の文字・表記 4. 日本語の語彙①（語構成と語構造、語種） 5. 日本語の語彙②（語の意味、語源、語史） 6. 日本語の語彙③（新語、流行語、若者語など） 7. 日本語の文章・文体（話しことばと書きことば） 8. 論説文を書く 9. 書簡文を書く 10. 日本語の文法①（動詞、形容詞） 11. 日本語の文法②（助動詞、格助詞、終助詞、接続助詞など） 12. 日本語の敬語①（敬語の種類とはたらき） 13. 日本語の敬語②（具体的な場面における敬語） 14. 現代日本語とその周辺①（社会言語学） 15. 現代日本語とその周辺②（日本語教育） 16. 総括

【教科書】 図解日本語／沖森卓也ほか：三省堂，2006，ISBN：4-385-36242-4

【参考書】 スキルアップ！ 日本語力 大学生のための日本語練習帳／古屋大学日本語出版会 GK 7：東京書籍，2009，ISBN：978-4-487-80364-9

大学生のための日本語表現実践ノート 改訂版／米田明美：風間書房，2010

【成績評価の方法】 出席など授業への参加度（40%）日常的な小レポート（20%）レポート①（30%）レポート②（30%）

【再試験の有無】 再試験

【受講者へのメッセージ】 授業を受身で「聞く」「受ける」のではなく、積極的な参加を期待します。日常的な小レポートのほか、日本語に関する実践的な能力を身につけるための課題にも、積極的に取り組んでください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】

（予習） 授業の計画に従って、事前に教科書を読み、問題点や疑問点を整理しておくことが望ましい。

（復習） 授業の内容をふまえたレポートには、積極的に取り組むこと。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 1号館南棟1階東奥・村上研究室 088-656-7117

（メールアドレス）murakami_tokushima@yahoo.co.jp

（オフィスアワー）水曜日13時～14時 1号館南棟1階東奥・個人研究室にて

文化研究の基礎

Foundations of Cultural Studies

2単位（選択）1年（後期）
田島俊郎、石川榮作

【授業の目的】 文化とはある人間の集団、民族や国民や、部族のような人々の集まりの構成員に共有される約束ごとをいう。大はゆるゆる民族や部族のような地域的、政治的グループであっても、学生、会社員、医者、などの職業や年齢などによる比較的小さなグループ、さらに遊び仲間のようなごく小さなグループであって

も、そのグループに独特の約束ごととはもっている。そういった約束ごととの総体を文化と呼ぼう。文化を共有するかどうかで、共同体に受け入れられ、あるいは排除されることがある文化は時に部外者には不合理で不可解なものに見える。さらに集団のなかで共有された規約であるはずなのに集団の構成員自身にも不可視であることがある。不可視な文化的約束ごとは、内部の人間にとっても不合理で不可解であることもある。そういった文化を約束ごととして認識していくことが、文学や言語学、哲学、美学、文化人類学などが文化研究の方法である。

【授業の概要】

1. 前半に田島が文化を観察し分析する方法論について述べ、後半には石川が、ドイツ文学やオペラ、映画を題材に具体的に分析する。
2. 田島は言語学、文化人類学、レトリック論、文学など、文化を読み解く手法について概観する。
3. 石川は、5、6世紀のゲルマン民族移動時代にその伝説が生まれたとされる英雄ジークフリートを取り上げ、この人物を主人公とした英雄叙事詩『ニーベルングの歌』やワグナーのオペラ、ウーリー・エデル監督の映画の特質を探っていく。

【キーワード】 文化、文学、オペラ、言語学、レトリック、神話

【到達目標】 分析の方法について学び、実際の表現方法の諸相にも触れることによって、文化を研究するための基礎を築き上げる。

【授業の計画】 1. 文化とは何か、文化を研究するとは 2. ことばと文化 3. ことばで世界を切りわけ 4. 文化人類学、野生の思考 5. レトリック、隠喩と換喩 6. 文学の方法 7. 文学は世界の見方を提示する 8. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(1) 9. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(2) 10. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(3) 11. ドイツ英雄叙事詩『ニーベルングの歌』(4) 12. ワグナーのオペラ『ジークフリート』 13. ワグナーのオペラ『神々の黄昏』 14. ウーリー・エデルの映画『ニーベルングの指環』(1) 15. ウーリー・エデルの映画『ニーベルングの指環』(2) 16. レポート

【教科書】 資料を提示、配布する。石川の授業ではプリントを配布するほか、石川榮作訳（新訳『ニーベルングの歌』前編、ジークフリートの暗殺、ちくま文庫）を使用する。

【参考書】 授業中に紹介する。

【成績評価の方法】 レポートおよび授業への参加貢献の程度による

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 コメントや質問などは大いに歓迎します。授業への積極的な参加を期待します。

【WEBページ】 <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/ob/introcul/index.html>

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

石川榮作，1N08，088-656-7142

田島俊郎，2N08，088-656-7144

（オフィスアワー）石川，金曜日15時から16時 田島，木曜日12時から13時

哲学・思想の基礎

Introduction to Philosophy

2単位（選択）1年（前期）
山口裕之，石田三千雄

【授業の目的】 「正しく考える」ための知識や技術を、哲学的な思想を取り上げつつ学ぶ。

【授業の概要】 哲学とは「正しい知識」を得るための方法論である。日本語で「正しさ」というと、「科学的な正しさ」（事実認識の正しさ）と、「倫理的な正しさ」という二つの意味がある。この授業では、前半に「科学的な正しさ」について講義し、後半で「倫理的な正しさ」について講義する。

【キーワード】 哲学、科学と哲学、倫理学

【到達目標】

1. 人文科学（哲学）に関わる幅広い知識の理解を目標とする。
2. 日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成を目標とする。
3. 高い倫理観の涵養を目標とする。

【授業の計画】 ①4/12 導入・授業の目的など・近代科学の成立(1)（山口） ②4/19 近代科学の成立(2)（山口） ③4/26 近代科学の成立(3)（山口） ④5/10 自然法則とイデア論（山口）

⑤5／17 経験は真理を保証できるか(山口) ⑥5／24 プラナリアの記憶物質(山口) ⑦5／31 因果関係は実在するか(山口)
⑧6／7 正義を考えるその1：功利主義と正義(石田) ⑨6／14 正義を考えるその2：リベラリズムの立場(1)(石田) ⑩6／21 正義を考えるその3：リベラリズムの立場(2)(石田) ⑪6／28 正義を考えるその4：リベタリアニズムの立場(石田) ⑫7／5 正義を考えるその5：コミュニタリアニズムの立場(石田) ⑬7／12 正義を考えるその6：リベラル・コミュニタリアン論争(石田) ⑭7／19 正義を考えるその7：正義をめぐる思想のまとめ(石田) ⑮7／26 まとめとディスカッション(石田・山口)

【教科書】なし

【参考書】授業中に適宜指示する。

【教科書・参考書に関する補足情報】授業に必要な資料は配付する。

【成績評価の方法】毎回の授業の最後に記入する「一言カード」、授業中に行う「小テスト」、「まとめ」授業における発表、学期末レポートを総合して評価する。得点の配分や発表と期末レポートの採点基準については授業中に説明する。

【再試験の有無】なし。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】配布したプリントを何度も読み、そこに何が書かれているのかを考えることが、一番大切な予習であり、復習です。可能ならば、授業で扱った文献を自分で読んでください。

【WEBページ】

<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/shin-kokusai/philosophy/top.html>

【連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)(学生用連絡先)】
山口裕之：総合科学部1号館北棟1F Tel 088-656-7615
石田三千雄：総合科学部1号館1N17, 088-656-7147
(メールアドレス) 山口裕之：yamaguti@tokushima-u.ac.jp, 石田三千雄：mishida@ias.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 山口裕之：毎週月曜 10:30～11:30, 石田三千雄：水曜 7・8 講時

近現代世界の成立と展開

Formative History of the Modern World

2単位(選択) 1年(後期)
今井晋哉, 田中 佳, 桑原 恵, 荒武達朗

【授業の目的】18世紀後半～20世紀初頭のヨーロッパ, 日本, 中国の歴史を対象として, 近現代世界がどのように成立してきたのか, またどのような問題を孕んでいるのかについて考察する。

【授業の概要】18世紀後半～20世紀初頭のフランス, ドイツ, 日本, 中国の政治・社会・文化などについて概観する。とくに各国の近代化過程における国民形成とナショナリズム, 文明化に焦点を当て, また対外関係を重視しつつ講義する。

【キーワード】国民国家, ナショナリズム, 帝国主義, 文明化, 近代化

【関連/科目】『地域交流史 [History of Cultural Exchanges]』, 『ヨーロッパ史研究Ⅱ [European History Ⅱ]』, 『ヨーロッパ史研究Ⅲ [European History Ⅲ]』

【到達目標】1. 特に, 講義でとりあげる各国の近代化過程を, 比較史的に, またグローバルな視野をもって理解することを目標とする。

【授業の計画】1 ガイダンスー日程と授業の概要について [今井, 田中, 桑原, 荒武] 2 近代の胎動ーアンシャン・レジームの文化的変容 [田中] 3 フランス革命とナショナリズム [田中]

4 帝国主義, 植民地支配と異文化の摂取 [田中] 5 試験 [田中] 6 「国民国家」の基本的特徴 [今井] 7 統一国家ドイツの成立過程と国民統合ー内政上のいくつかの論点に即して [今井]

8 国民統合とナショナリズムの機能ードイツ帝国の対外政策との関わりで [今井] 9 江戸時代から明治国家へー国家の変容と「国家観」[桑原] 10 近代日本の「国民」像ー理想と現実 [桑原]

11 文明化と近代化ー平和主義と民族主義ー単一民族神話の誕生 [桑原] 12 伝統的中華世界の国際関係 [荒武] 13 西力東漸ーウエスタンインパクト 西方からの衝撃 [荒武] 14 十九世紀末中華帝国の崩壊ー東アジアにおける近代的国家関係の形成 [荒武]

15 試験 [桑原, 荒武] 16 総括授業

【教科書】特定の教科書は用いない。授業内容をまとめたプリントや資料を配付する。

【参考書】講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】出席状況, レポート・試験の結果をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】実施しない。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】授業時に紹介される文献を中心に, 授業のテーマに関係する参考文献に積極的に目を通すようにしてください。

【連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)(学生用連絡先)】
今井晋哉(総合科学部1号館2N23, 088-656-7139)
田中 佳(総合科学部1号館2N03, 088-656-7135)
桑原 恵(総合科学部1号館2N16, 088-656-7157)
荒武達朗(総合科学部1号館2N07)

(メールアドレス) 今井晋哉: shi-imai@ias.tokushima-u.ac.jp

桑原 恵: megumi@ias.tokushima-u.ac.jp

荒武達朗: aratake@tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー) 今井晋哉: (火)9・10 講時, 田中 佳: (木)5・6 講時, 桑原 恵: とくに時間を指定していないので, メールで連絡を下されば, 日程を調整します, 荒武達朗: (月)～(金)8:15～8:35あるいはメールでアポをとること。

心理学の基礎 I

Basic Psychology I (Developmental Psychology)

2単位(選択) 1年(前期)
山本真由美

【授業の目的】本授業では, 心理学のさまざまな分野のうち, 発達を心理学的観点から検討する。従来の発達心理学では, 人間が成長, 発達していく時期は乳幼児期から青年期までと考えられていた。しかし, 長寿化, 価値観や生き方の多様化という社会の中で成人期以降でも自分らしい生き方の模索などは共通課題であると考えられるようになってきた。そこで, 生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ, 生涯にわたって発達し続ける人間について考えていくことを目的とする。

【授業の概要】生涯にわたって発達し続ける存在である人間の発達の基本的知識を獲得し, 人間について考える。

【キーワード】生涯発達, 個人と環境, 相互性

【関連/科目】『心理学の基礎Ⅱ [Basic Psychology Ⅱ (Clinical Psychology)]』

【到達目標】

- 1 人間科学に関わる幅広い知識の理解; 生涯発達の意味を理解し, 説明できる。それぞれの発達期にある課題を理解する。
- 2 豊かな人間性の涵養: 個性ある人間の姿に気づく。
- 3 現代社会の諸問題を分析する能力と技能の養成: 発達に関する現代社会の課題に気づく。

【授業の計画】1 ガイダンス 2 ライフサイクルとは 3 乳児期① 4 乳児期② 5 幼児期① 6 幼児期② 7 児童期① 8 児童期② 9 青年期① 10 青年期② 11 成人初期 12 成人中期・後期 13 文化と発達 14 教育と発達 15 期末テスト 16 総括
【教科書】発達心理学: 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか/藤村宣之 編著, ミネルヴァ書房, 2009, ISBN: 9784623054640

【参考書】講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法】小レポート(15%), 受講態度(15%), 発表態度(10%), 期末レポート(60%)の結果を勘案し, 総合評価する。

【再試験の有無】実施しない。

【受講者へのメッセージ】主体性を持って学ぶことを期待する。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】授業計画は教科書の章立てに沿っているので, 受講週に合わせて該当する章を事前学習しておくこと。

【連絡先(Eメールアドレス, オフィスアワー)(学生用連絡先)】
山本真由美(3S06, TEL: 088-656-7192,
E-mail: yamamotom@tokushima-u.ac.jp)
(メールアドレス) yamamotom@tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 在室していれば, いつでも可。総合科学部3号館3S06

心理学の基礎Ⅱ

Basic Psychology II (Clinical Psychology)

2単位（選択）1年（後期）
内海千種

【授業の目的】 近年、心理学に関連した資格を持つ専門家の役割が認識され、社会的にも関心を寄せられるようになっていきます。しかし、一般にいわれている「こころ」についての考えは、必ずしも心理学でいわれている知見と一致するわけではありません。本授業では、臨床心理学的視点からの、「こころ」に対するアプローチの理解を目指します。

【授業の概要】 臨床心理学の歴史を概観した後、心理学的な支援を行う際に必要となるアセスメント、理論、技法などについて講義します。また、心理臨床家が支援をおこなっている領域について概観します。

【キーワード】 臨床心理学、アセスメント、心理療法

【到達目標】 1 臨床心理学における基本的な理論や技法を理解し、心理臨床家が支援する様々な領域について認識することを目標とします。

【授業の計画】 1はじめに 2臨床心理学とは 3臨床心理学の資格と仕事 4臨床心理学の対象①発達に関して 5臨床心理学の対象②適応に関して 6アセスメントの方法①面接 7アセスメントの方法②検査 8アセスメントの方法③その他 9おもな理論と技法①歴史 10おもな理論と技法②基礎 11おもな理論と技法③応用 12おもな理論と技法④その他 13危機介入とコンサルテーション 14臨床アプローチ 15学期末試験 16総括

【教科書】 教科書は使用しません。参考図書を紹介しながら、適宜資料を配布します。

【成績評価の方法】 2／3以上の出席者にのみ学期末試験を実施します。評価は、授業への取り組み状況、学期末試験の成績から総合的にを行います。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 何らかの心理的困難を抱えている人を支援するには、心理学の知識はもちろんのこと、幅広い知見と柔軟な思考が必要です。他の関連科目もしっかりと学習してください。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
内海千種：総合科学部3号館南棟3階（3 S07）
（メールアドレス）uchiumi@ias.tokushima-u.ac.jp

ヘルスプロモーションの基礎

Introduction to Health Promotion

2単位（選択）1年（前期）
小原 繁、佐藤充宏、山口鉄生

【授業の目的】 身体の仕組みを学ぶとともに、健康の保持増進のために必要な基本的な医学的な知識と運動の在り方、さらには健康増進を図る上での政策や組織的取り組みに対する理解と基礎知識を身につける。

【授業の概要】 生きる力の基礎としての健康と体力の意義を考え、加齢と運動、生活習慣病と予防、健康づくり政策について学び、ヘルスプロモーションにおける基本的な知識と方法を理解する。

【キーワード】 健康、生活習慣病、行動変容、身体活動

【到達目標】

- 1 生活習慣病とは何かを理解する。
- 2 生活習慣病予防のための運動の在り方を理解する。
- 3 健康維持のための日常生活の在り方を理解する。

【授業の計画】 1健康と体力・生きる力（小原） 2疾病予防と健康管理（小原） 3加齢と運動処方：運動強度・持続時間・頻度に対する理解（小原） 4加齢と運動処方：運動強度と身体の反応：一過性の反応（小原） 5加齢と運動処方：運動継続にともなう身体の変化：トレーニング効果（小原） 6生活習慣病の発生機序（山口） 7糖尿病とその予防（山口） 8高血圧・高脂血症と関連疾患、その予防（山口） 9高齢者介護とその予防（小原） 10疫学の意義（小原） 11運動行動変容の理論（佐藤） 12健康づくりのソーシャルマーケティング（佐藤） 13トランスセオレティカル・モデルと行動変容プログラムの開発（佐藤） 14地方分権時代におけるヘルスプロモーション（佐藤） 15試験 16総括

【教科書・参考書に関する補足情報】 必要に応じて資料を配付します。

【成績評価の方法】 3名の教員で担当しますが、15回目に筆記試験を行います。

【再試験の有無】 再試験は、3名の教員の担当分野から不十分と思われる分野の課題を挙げてレポート提出とします。

【受講者へのメッセージ】 教科書を利用しないので、毎回の授業でのノートをしっかりとして下さい。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）】

（オフィスアワー）小原 水曜日16時30分～17時30分、佐藤 水曜日12時00分～12時40分、山口 水曜日16時10分～17時10分

健康体力科学の基礎

Introduction to Health and Physical Fitness

2単位（選択）1年（後期）
三浦 哉、荒木秀夫、的場秀樹、佐竹昌之

【授業の目的】 健康と体力の問題を、エネルギー代謝系と情報処理系をテーマとする生理科学・運動科学の諸知見を学んだ上で、人間生活における健康体力の意義を理解する。

【授業の概要】 現代社会における健康問題は、次第に複雑な様相を示しつつある。その最大の特徴は、身心が相互に関係し合い、様々な身体・運動能力の変化が相乗的に影響し合うといったバランスの欠如にある。この問題を正しく捉えるために、神経系、筋系、呼吸循環器系、代謝系、運動機能に関わる基礎的な理解を踏まえ、日常生活における具体的な健康体力の諸問題の解決策を学習する。

【キーワード】 健康、体力、身体、運動

【到達目標】 1. 健康と体力に関する科学的基礎知識を得る

【授業の計画】 1. 現代社会における健康体力問題 2. 健康と体力の評価 3. 呼吸循環器機能からみた健康問題 4. 体力を支える筋機能とエネルギー代謝 5. 運動の仕組み—バイオメカニクスと運動生理学— 6. 運動とホルモン 7. 健康と脳・神経 8. 健康のための基礎運動—トレーニング論— 9. 健康のための基礎運動—スポーツ論— 10. 脳に及ぼす運動効果 11. 栄養と食事 12. 中高齢者のための健康運動 13. トレーニング計画 14. 健康のための運動実践 15. 総括授業—日常生活と健康志向— 16. 試験

【教科書】 必要に応じて授業用のテキスト、資料などを随時配布する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 資料等は随時配布する。

【成績評価の方法】 中間試験・レポートと期末試験により総合評価する。

【再試験の有無】 原則として再試験は行わない。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

三浦 哉：三浦 哉 2 M17 応用生理学研究室 088-656-7288 hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp
荒木秀夫：荒木秀夫、088-656-2014, araki@ias.tokushima-u.ac.jp

的場秀樹：的場秀樹（2 M18 運動生理学研究室、Tel:656-7208、

E-mail: matoba@ias.tokushima-u.ac.jp）

佐竹昌之：総合科学部1号館中棟2階、Tel:088-656-7212

（メールアドレス）

三浦 哉：hajime-m@ias.tokushima-u.ac.jp

荒木秀夫：araki@ias.tokushima-u.ac.jp

的場秀樹：matoba@ias.tokushima-u.ac.jp

佐竹昌之：satake.masayuki@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）三浦 哉：木曜日11:50～12:50、荒木秀夫：毎週金曜日午後12時10分～13時10分、的場秀樹：月曜日17時から18時、佐竹昌之：毎週月曜日16時30分～17時

3. 社会創生学科 学科共通科目

ページ	配当学年	授 業 科 目	単位数等
153	①	社会創生学の基礎	2 必修
153	①②	経済学の基礎Ⅰ	2 必修
153	①②	社会学の基礎Ⅰ	2
153	①②	社会学の基礎Ⅱ	2 } 2単位以上必修
154	①②	生命科学の基礎	2 必修
154	①②	法律学の基礎Ⅰ	2
155	①②	地理学の基礎Ⅰ	2
155	①②	文系数学の基礎	2
156	①②	アート創生プロジェクト	2
156	①②	化学の基礎	2
156	①②	生命科学基礎実験	2
計			12 単位以上

社会創生学の基礎

Civil and Environmental Studies

2単位（必修）1年（後期）
北村修二，栗栖 聡，平木美鶴，佐藤征弥，松嶋一成

【授業の目的】 1) 社会創生学科の教育課程の基本骨格を提示する。2) 総合科学の課題意識や方法を紹介し、各々の学生が卒業までの学習計画を検討するよう促す。

【授業の概要】 現代社会の重要テーマである「持続可能なまちづくり」に関し、地域・文化・経済・行政・環境等の観点から、具体的事例を紹介しながら、「社会創生学」には、さまざまな学問分野の総合と融合が必要であることを学ぶ。徳島県内には持続可能なまちづくりで優れた実践が数多く展開されている。これらを踏まえて、地域づくりのダイナミズムを学生に伝え、地域社会に対する関心を喚起し、地域調査や地域実習への主体的な取り組みを働きかける。

【キーワード】 持続可能な発展、地域づくり、総合科学

【到達目標】 地域づくりに関する学問的諸課題やそれらにアプローチするさまざまな方法について理解する。

【授業の計画】

- 第1週 地域の課題に総合的に取り組む：「アートによる街作り」による情報発信：全国的な実践例
- 2 「大学生と住民による街作り」の現在：地域とのコミュニケーションについて
- 3 「アートによる街作り」を徳島で：徳島での実践例
- 4 国際化時代における地域の再編成と課題
- 5 地域条件や地域環境を活かした産業・地域づくり
- 6 グローバル時代の新たな地域づくりに向けて
- 7 地域における気候変動政策
- 8 地域における持続可能なエネルギー政策
- 9 地域における持続可能な交通政策
- 10 「環境共生」の成り立ち：自然観の変遷と環境破壊・環境保全の歴史
- 11 「環境共生」の未来：環境に優しい技術と地域づくり
- 12 「地域生物資源」の利用：生物資源の観光・農業・産業・教育への活用の実例
- 13 地域中小企業の発展プロセス：ヒト、モノ、カネのダイナミクス
- 14 地域における需要搬入のコア企業の役割
- 15 地域における産業インフラ、ネットワークの役割
- 16 総括

【教科書】 全般的なテキストは用いない。講義時に関連資料を示す。

【参考書】 講義時に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法】 5人の先生による、提出したりポート等の内容及び出席状況をもとに総合的に評価する。

【再試験の有無】 再試は行わない。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
平木美鶴，北村修二，栗栖 聡，佐藤征弥，松嶋一成の研究室：
（北村研究室は1号館1階南棟（1S24）。相談時間：月曜日13：30～17：00。narunaru@ias.tokushima-u.ac.jp）

経済学の基礎 I

Fundamentals of Economics I

2単位（必修）1年（前期）
内藤 徹

【授業の目的】 ミクロ経済学の理論的な考え方の習得と基本事項の厳密な把握と理解を目的とする。

【授業の概要】 本講義では、消費者理論および生産者理論の議論を行った後、完全競争市場を前提とした市場均衡理論を解説します。後半ではこれらの知識をもとに不完全競争市場、市場の失敗、不確実性と情報の経済分析、ゲーム理論といったミクロ経済学の先端の話にも触れる予定です。

【キーワード】 ミクロ経済学、消費者理論、生産者理論、市場均衡、市場の失敗

【到達目標】 1. ミクロ経済学の基本事項を理論的に説明できるようになる。

【授業の計画】 1. ミクロ経済学で学ぶこと 2. 需要の理論 3. 消費者行動の理論：需要の理論の背景にあるもの 4. 供給の理論 5. 需要曲線と弾力性 6. 市場の理論 7. 中間テスト 8. 需要と供給で解く経済問題 9. 余剰分析で解く経済問題 10. 市場の失敗(1)：外部性と公共財 11. 市場の失敗(2)：情報の非対称性 12. 市場の失敗(3)：独占 13. 不確実性のもとでの選択行動 14. まとめ 15. 筆記試験 16. 総括授業

【教科書】 基礎からわかるミクロ経済学（第2版）／家森信義／小川光：中央経済社，2003，11

【参考書】 講義で使用するレジュメ等を公開します。

【成績評価の方法】 期末テストと中間テスト（もしくは課題）の総合評価

【再試験の有無】 なし

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
contact@kpu.hustle.ne.jp

社会学の基礎 I

Introduction to Sociology I

2単位（選択必修）1年（後期）
矢部拓也

【授業の目的】 私たちを取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか？ <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか？ 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか？ 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。

【授業の概要】 日本の社会学者たちが編集した『社会学』（長谷川ら編集，有斐閣，2007）をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方をを用いて問題点を論じる。また、徳島での事例を取り入れながら授業を進めてゆく。毎回の授業では、テキストで論じられている視点を元に、自分たちの経験をふまえたコメントをリアクションペーパーに記入して提出してもらう。

【キーワード】 社会学

【授業の計画】 1. ガイダンス 2. 自己と他者の社会学(1) 3. 自己と茶者の社会学(2) 4. 親密性と公共性 5. 相互行為と自己(1) 6. 相互行為と自己(2)と社会秩序と権力 7. 「自己」再考 8. 組織とネットワーク／マクドナルド化する社会 9. マクドナルド化と日本 10. 世代間格差と公正性 11. 格差と階層化 12. 消費社会論 文化と再生産 13. 空間と場所 14. 家族とライフコース 15. レポート相談 16. 総括授業

【教科書】 長谷川公一，浜日出夫，藤村正之，町村敬志編『社会学』有斐閣，2007年

【参考書】 アンソニー ギデンズ『社会学（改訂第3版）』而立社 1998年

【成績評価の方法】 期末レポートの評価および、毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーにより判断する。

【再試験の有無】 無

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
1号館南棟1階
（メールアドレス）yabe@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）希望者は、随時、メールにてアポを取って下さい。

【備考】 1. 次年度開講せず（隔年開講）

社会学の基礎 II

Introduction to Sociology II

2単位（選択必修）1年（後期）
樋口直人

【授業の目的】 高校までに社会学を学んだ人はほとんどいないだろう。そうした人たちに対して、社会学的な思考法を教えることがこの講義の目的となる。身近なところで起こっている社会現象

が、どのようなしくみでなりたっているのか、それを意識的に考えてもらうことで社会学のものの見方を身につけてもらうことを目標とする。

【授業の概要】 秩序と逸脱、環境、集団、階層と教育、権力と支配といったテーマに即して、自分の振る舞いやこれまでの歩みを振り返ってもらう。自分がいかに社会のなかで作られているか、自分と社会がいかにしてつながっているのかを、それぞれのトピックに即して解説していく。

【到達目標】 1. 社会学的な思考にもとづきレポートを書けるようにする

【授業の計画】 1. オリエンテーション 2. 秩序と統制(1):規範・監視・契約 3. 秩序と統制(2): 互酬の連鎖としての社会 4. 環境と社会(1): 合理性の悲劇 5. 環境と社会(2): 社会的費用と社会的負担 6. 主観と客観(1): 逸脱と犯罪 7. 主観と客観(2): 主観と客観 8. 真実とは何か: 映画『羅生門』鑑賞 9. 支配と正統性(1): 社会と政治 10. 支配と正統性(2): ジェンダーと社会 11. 教育と階層(1): 教育と選別 12. 教育と階層(2): 進学と階層 13. 集団と排除(1): ネットワークと社会 14. 集団と排除(2): 社会的包摂と社会的排除 15. まとめ

【教科書】 特になし

【参考書】 関連する書籍リストを初回に配布する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 いくつかの課題図書の中からレポート対象図書を選んでもらう。初回にリストを配るので欠席しないこと。

【成績評価の方法】 詳しくはオリエンテーションの際に資料を配るが、授業中の課題が50%、レポート50%を基本とする。到達度で評価されたい場合には、そうした選択肢も用意する。

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 授業の「秩序」維持のため、10分経過したら入室を認めない。また、携帯メールをみることも、授業を無効化するため見つけ次第退室してもらう。また、初回に詳細を説明するので、必ず出席されたい。欠席により不利益を蒙っても関知しない。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】 1号館南棟1階, 088-656-7200, higuchinaoto@yahoo.co.jp (メールアドレス) higuchinaoto@yahoo.co.jp (オフィスアワー) 木曜日昼休み

【備考】 1. 隔年開講。今年度は開講しない。2014年度開講

生命科学の基礎

Basics of Life Science

2単位 (必修) 1年 (前期)
横井川久己男, 佐藤高則

【授業の目的】 ・生物は、さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している。本講義では、生命の単位である細胞と主要生体成分について、それらの構造と機能を理解させると共に、それらの代謝や制御機構を通じて、生命現象の基礎を学ぶことを目的とする (横井川)。
・細胞は多種多様な化学物質によって構成されており、生命現象は詳細に制御された化学反応の連鎖に基づいている。ここでは生命科学の基礎として細胞を構成する化学成分について学ぶ (佐藤)。

【授業の概要】 ・生命の単位である細胞と主要生体成分の構造と機能、またそれらの代謝や制御機構を通じて生命現象の基礎を学ぶ (横井川)。
・生命科学の基礎としての細胞を構成する生体高分子 (タンパク質, 糖, 脂質, 核酸) の化学的基礎と遺伝情報の流れについて学ぶ (佐藤)。

【先行/科目】 『生命科学基礎実験 [Experiments in Basics of Life Sciences]』

【到達目標】 1. 生命の自然科学的な統一像を得ること (横井川)。
細胞を構成する生体高分子について、その構造や特性が理解できる (佐藤)。

【授業の計画】

1. 生命科学全般を概説し、生命現象の包括的な概念を教授する (横井川)
2. 生命誕生の歴史と多様な生物を解説する (横井川)
3. 真核細胞と原核細胞の構造と機能を解説する (横井川)
4. 細胞の増殖と分化について解説する (横井川)
5. 遺伝について解説する (横井川)

6. エネルギー代謝を解説する (横井川)
7. 脂肪代謝とアミノ酸代謝を解説する (横井川)
8. 感染症と薬剤耐性について解説する (横井川)
9. 生命の化学的基礎 (佐藤)
10. 細胞を構成する元素と原子 (佐藤)
11. 細胞を構成する生体高分子 (タンパク質) (佐藤)
12. 細胞を構成する生体高分子 (糖) (佐藤)
13. 細胞を構成する生体高分子 (脂質) (佐藤)
14. 細胞を構成する生体高分子 (核酸) (佐藤)
15. 核酸と遺伝情報の流れ (佐藤)
16. 定期試験

【教科書】 佐藤担当: 「Essential 細胞生物学」(南江堂)

【参考書】 ・生命科学 (東京化学同人) (横井川) ・授業中に随時配布する。配布したパワーポイント資料および実施した課題はHPに掲載する (佐藤)。

【成績評価の方法】 ・授業への取り組み態度 (25%), 定期試験 (25%) により総合的に評価する (横井川)。
・毎回の課題 (30%) と定期試験 (20%) の合計で成績を算出する (佐藤)。

【受講者へのメッセージ】 毎回、課題を出しますので出席してください (佐藤)。

【自主学習 (予習・復習) のアドバイス】 授業内容の予習は、HPの資料を参考にしてください。毎回の課題は提出後に添削し返却しますので、間違えたところは復習してください。 (佐藤)

【WEB ページ】 佐藤担当の資料・課題は、下記 HP よりダウンロードできます。

<http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)】 横井川久己男 1 M17, 088-656-7267

佐藤高則 3 N05, 088-656-7657

(メールアドレス)

横井川久己男 yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp

佐藤高則 tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp

(オフィスアワー)

横井川久己男: 毎週月曜日 PM16:30-17:30 総合科学部 1号館中棟 1階 1 M17室

佐藤高則: 平日の 9:00-17:00で、授業以外の時間

法律学の基礎 I

Basics of Legal Science I

2単位 (前期) 1年 (選択)
中里見博

【授業の目的】 「憲法」の目的 (存在理由) は、現在および将来の国民の「人権」保障と、それを実現するための「国民自治」(すなわち民主政治) を制度化することにあります。そのような「憲法」の一つである現行憲法 (1946年制定) を、しかし日本の保守政権は認めてきませんでした。「改(壊)憲」を究極目標に掲げる第二次安倍内閣が2012年12月の総選挙の結果生まれたことは、憲法の学習上重大な問題です。本講義は、「憲法総論」「人権総論」「人権各論(1)」の学習をとおして、そうした憲法の「光」(人権と自治の保障) とそれをめぐる「闇」(改(壊)憲) を理解することにあります。

【授業の概要】 本講義では、最初に法学の学習に関する基礎知識を学んだ上で「憲法総論」に入り、「日本国憲法の成立過程」「日本国憲法の意義と改憲問題」「平和主義」を学びます。次いで、「人権総論および各論(1)」に入り、「人権総論」では「公と私」「自由と安全」「平等」について、「人権各論(1)」では自由権 (身体的自由と精神的自由) について学習します。

【キーワード】 基本的人権, 国民自治, 憲法改正, 平和主義, 身体的自由, 精神的自由

【関連/科目】 『行政法 I [Administrative Law I]』, 『行政法 II [Administrative Law II]』, 『法律学の基礎 II [Basics of Legal Science II]』

【到達目標】 憲法の存在理由, 日本国憲法の意義と改憲論の問題点について理解できる

憲法の制定過程, 平和主義について基本的な問題を理解できる
身体的自由, 精神的自由に関する諸論点について理解できる

【授業の計画】 第1回 法学学習の基礎/第2回 日本国憲法の成立/第3回 日本国憲法の意義と改憲問題/第4~6回 平和

主義／第7回 公と私／第8回 自由と安全／第9回 平等／第10回 思想・良心の自由／第11回 信教の自由／第12、13回 表現の自由／第14回 学問の自由／第15、16回 総括授業、期末試験

【教科書】 クローズアップ憲法（第2版）／小沢隆一編：法律文化社、2012、2625円

憲法24条＋9条 なぜ男女平等がねらわれるのか／中里見博：かもがわ出版、2005、630円

【教科書・参考書に関する補足情報】 公務員試験受験を考えている方は、憲法判例集（たとえば別冊ジュリスト「憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ」など）を購入してください。

また、法学の授業を複数受講するために小型の六法を持っている学生は、この講義でも持参してください。

【成績評価の方法】 課題図書レポート（20％）、ビデオ教材を使ったさいの感想レポート（10％×2）、期末試験（60％）で総合評価します。

【再試験の有無】 なし

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 事前にテキスト該当箇所を予習して講義にのぞんでください。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 部屋番号：3 M05 Tel：088-656-7014 内線：2610（メールアドレス）h-naka@ias.tokushima-u.ac.jp

地理学の基礎Ⅰ

Introduction to GeographyⅠ：Human Geography

2単位（選択）1年（後期）
豊田哲也

【授業の目的】

1. 教職免許科目として学校地理教育に求められる知識と教授法を学ぶ。
2. 経済地理学の基礎を学び、地域の社会現象を地理学的視点から考察する。
3. 社会科学における理論の構築と発展のプロセスを知り、論理的な思考力を養う。

【授業の概要】 経済地理学概説経済や情報のグローバル化が急速に進む現代において、地域のかたちやしくみはどうあるべきかが問い直されている。あらゆる経済活動は地域の資源や市場を前提に成立しており、われわれのくらしは農業、工業、商業など産業の立地によって支えられている。そうした地域と立地のメカニズムを系統的かつ論理的に考えてみるのがこの授業の目的である。前半は、チューネン、ウェーバー、クリスターに代表される古典理論の系譜を紹介し、後半では現代における立地論の新たな展開と応用について学ぶ。

【キーワード】 地理学、地域科学、地域経済学、政策科学、産業、立地

【到達目標】 1. 人文地理学の体系の中で最も重要な根幹部分をなす経済地理学の基礎理論を学び、社会現象を理論的・空間的に考察する能力を身につけることを重視する。

【授業の計画】 1. 地理学の体系と立地論の系譜 2. チューネンの農業立地論 3. 地代と土地利用モデル 4. ウェーバーの工業立地論 5. 外部経済と集積の利益 6. クリスターの中心地理論 7. 都市の階層的システム 8. テスト（第1回） 9. オフィスの立地 10. 流通革命とコンビニの立地戦略 11. 公共施設の立地・配分モデル 12. クルグマンの産業立地モデル 13. ポーターの産業クラスター論 14. グローバリゼーションと多国籍企業 15. テスト（第2回） 16. 授業のまとめ

【教科書】 立地論入門／松原 宏：古今書院、2002、ISBN：477225062X

地域と産業－経済地理学の基礎／富田 和暁：原書房、原書房、ISBN：4562091088

【教科書・参考書に関する補足情報】 毎回授業に関連する資料はプリントとして配布する。

【成績評価の方法】 授業内容の確認と復習を兼ねたテスト（持ち込み不可）を2～3回に分けて実施し、授業への取り組みと併せて成績評価をおこなう。

【再試験の有無】 なし

【受講者へのメッセージ】 地理学は地名や物産を暗記する科目ではない。地形、気候、産業、社会など地域のさまざまな現象につ

いて、その分布の特徴や立地の法則を空間的な視点から解明することが地理学本来の目的である。この授業は経済地理学の入門として立地の理論を学ぶ。学説史の流れや理論の展開を通じ、論理的な思考力を養ってほしい。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 豊田哲也（総合科学部1号館1 S25、toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp）（メールアドレス）toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp（オフィスアワー）水曜 12：00－13：00

【備考】 1. この授業は教員免許取得（中学校・社会、高校・地歴）のための必修科目となっている。隔年開講のため、平成25年度は開講しない（26年度開講予定）。開講年次に注意して履修計画を立てること。

文系数学の基礎

Introduction to Mathematics for Social Sciences

2単位（選択）1年（前期）
日置善郎、石田基広、掛井秀一、趙 彤、豊田哲也、吉川隆吾

【授業の目的】 大学受験の場面では文系と分類される分野であっても、専門課程では数学的なモデルによる説明や統計的な手法による分析が頻繁におこなわれる。経済学、社会学、地理学、行動科学などでは、数式が全く出てこない教科書を探すことはむしろ難しい。また一般社会においても、数学に関する計算力や思考力は職業に必要な基礎的能力とみなされ、各種試験において必須とされている。いずれの場合でも、高校で学習するレベルの数学の知識や能力が前提となっている。この授業では、高校で学んだ数学が大学の人文・社会科学でどのように展開され活用されていくのかを具体的に例示しながら、その基本となる数学を復習し必要な能力を固めることを目的とする。「数学は苦手」という学生にこそ、この授業を受講してほしい。

【授業の概要】 人文・社会科学に求められる数学の基礎とその考え方

【キーワード】 高校数学、統計学

【到達目標】 1. 人文・社会科学において求められる数学的な基礎知識を身につける。

【授業の計画】

1. データの分析(1) 徳島は交通安全県か？
2. データの分析(2) 平均的な所得額はいくら？
3. データの分析(3) 視聴率はどのように調べるのか？
4. 確率(1) じゃんけんに強い人・弱い人？
5. 確率(2) ジャンボ宝くじで大金持ちに？
6. 確率(3) 偏差値はそんなに大事なのか？
7. 図形と式(1) マンホールのふたはなぜ丸い？
8. 図形と式(2) 関数とグラフの関係は？
9. 図形と式(3) 線形計画法とは？
10. 指数・対数(1) サラ金でお金を借りると？
11. 指数・対数(2) 震度とマグニチュードの違いは？
12. 指数・対数(3) 対数で表すと何が便利なのか？
13. 微分・積分(1) 平均速度と瞬間速度の違いは？
14. 微分・積分(2) 最大値と最小値をさがすには？
15. 微分・積分(3) 学歴と生涯賃金の関係は？
16. 授業のまとめ

【教科書・参考書に関する補足情報】 授業時間にプリントを配布する。

【成績評価の方法】 課題や小テストについて理解度を見るほか、授業への取り組みについて総合的に評価する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講者は数学に関し特に予備知識を必要としない。むしろ、これまで数学に対し苦手意識や不安感を持ってきた受講生を対象としている。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 豊田哲也（総科1号館、toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp）（メールアドレス）

日置善郎：hioki@ias.tokushima-u.ac.jp

石田基広：ishida-m@ias.tokushima-u.ac.jp

掛井秀一：kakei@ias.tokushima-u.ac.jp

趙 彤：zhaotong@ias.tokushima-u.ac.jp

豊田哲也：toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）日置善郎：火曜12：00－13：00、石田基広：

金曜 16:00-18:00, 掛井秀一: 水曜 13:00-14:00, 趙彤:
水曜 12:00-13:00, 豊田哲也: 水曜 12:00-13:00

アート創生プロジェクト

Projects for Art Creation

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
平木美鶴, 石井健二, 河原崎貴光

【授業の目的】 芸術をキーワードにして私たちの住む地域の活性化に貢献する。

【授業の概要】 アートを使った地域活性化事業について理解し、対象地域の調査結果を基に地域に相応しいアートを発想し、地域住民参加型などの作品制作をする。

【キーワード】 芸術, 地域活性化

【到達目標】 地域の活性化に貢献できる。

【授業の計画】

1. 地域活性化事業について
 2. アートを使った地域活性化事業について
 3. 地域の視察, 調査等
 4. 地域の視察, 調査等
 5. 美術を使った地域活性化を発想し意見交換
 6. 美術を使った地域活性化を発想し意見交換及び役割分担
 7. 住民との意見交換
 8. 地域住民との共同作業による作品制作 (説明)
 9. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作)
 10. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作)
 11. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作)
 12. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作)
 13. 地域住民との共同作業による作品制作 (制作)
 14. 完成作品の記録及び聞き取り調査
 15. 外部に向けた成果発表会
- まとめ

【教科書】 使用しない

【参考書】 菜の花里美発見展記録集/監修 北川フラム: 現代企画社

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000/監修 北川フラム: 現代企画社

【成績評価の方法】 地域活性化事業を理解した積極的な参加を評価する。

【再試験の有無】 行わない。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)]
平木美鶴 総合科学部人間社会学科絵画表現研究室, FAX 088-656-7167, hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp
(メールアドレス) hiraki@ias.tokushima-u.ac.jp
(オフィスアワー) 火曜日 昼休み

化学の基礎

Fundamentals of Chemistry

2 単位 (選択) 1 年 (後期)
今井昭二

【授業の目的】 専門に進んで、科学の諸分野を専攻する上で必要とされる、化学の基礎的内容を修得することを目的とする。

【授業の概要】 物質世界を支配するエネルギーによって化学現象の原理が理解できる。原子や分子の運動、エネルギーと化学反応、乱れるエネルギー、反応速度の真実など、サイエンスのおもしろさが詰まっている。

【キーワード】 エントロピー, エンタルピー, 化学平衡, 反応速度, 原子の構造など

【到達目標】

1. 原子の構造に関する基礎的な内容を理解している。
2. 化学結合の種類や特徴について理解している。
3. 化学反応式の量的関係を理解している。
4. 物質の三態の間の関係について理解している。
5. 酸と塩基について理解している。
6. 熱力学の基礎的内容について理解している。

【授業の計画】 1) 学問のすすめ 2) 気体分子運動論入門 (理想

気体と実在気体) 3) 化学熱力学入門 4) 化学熱力学入門
5) 化学熱力学入門 6) 化学熱力学入門 7) 化学平衡とエネルギー入門 8) 化学物性入門 (融点・沸点, 蒸気圧, 浸透圧)
9) 化学平衡論入門 (酸塩基平衡) 10) 反応速度論入門 (反応次数, 速度定数) 11) 反応速度論入門 (衝突理論, 遷移理論)
12) 原子構造と特性 (電子配置, イオン化エネルギー, 電子親和力, 電気陰性度) 13) 元素の周期性 (融点・沸点の周期性など)
14) 化学結合の立体性 (混成軌道, 分極, 結合力) 15) 期末試験 16) 総括

【教科書】 一般教養現代物理化学/阿武聡信: 培風館, 1988, 3, ISBN: 978-4-563-04502-9

芝原寛泰・齊藤正治著「<大学への橋渡し>一般化学」化学同人

【成績評価の方法】 期末テスト, 授業への取組状況などをもとに総合的に評価する。復習のための小テストは、評価に入れない。

【再試験の有無】 平常の受講姿勢, 試験結果などを鑑みて、許可する学生に対して実施する。一定の基準を満たしている場合に再試験を行う。

【受講者へのメッセージ】 予習を前提に講義を進めるので、事前に内容を調べて授業に臨んで下さい。遅刻しないこと。専用ノートを一冊準備すること。これにより、学習、受講態度、自習について、判断する。自習している事項についてのみ、質問などに対応する。

【連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー) (学生用連絡先)]
今井昭二

(オフィスアワー) 18:00 ~ アポを取ることに。

生命科学基礎実験

Experiments in Basics of Life Sciences

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

山城 考, 中川秀幸, 小山保夫, 大橋 真, 佐藤高則,
真壁和裕, 松尾義則, 佐藤征弥, 渡部 稔, 金丸 芳,
横井川久己男, 浜野龍夫, 服部武文, 川上竜巳

【授業の目的】 高校で生物学を履修していない学生は中学校レベルの生物学的知識を忘れていきます。そのまま、大学生活、そして大学院生活あるいは社会生活に入りますと、苦労することが多いでしょう。日常社会で話題になりやすいことは生命科学分野の話です。そこで、高校で生物学を履修していない学生にも、もちろん、生物学を履修した学生にも、新鮮な気持ちで「生命科学」に触れていただきたいと思います。この実習では、生命科学系の実験を行う上で必要な基本的な技術などを体験させると同時に、生命の基本的現象を観察・理解してもらいます。

【授業の概要】 目的には書きましたが、社会に出てから「最も身近な学問」は生命科学です。なぜなら、健康問題、環境問題などの理解には生命科学分野の知識が求められるからです。生命科学の実験の一端に触れることで、いろいろな問題を容易に理解できる「切っ掛け」になります。細胞 (単細胞生物, 心臓の細胞, 卵子, 精子など), 微生物, 昆虫, 植物, 生体分子 (DNA など) など、毎回、様々なテーマで生命科学の知識を広げていきます。同時に、生命科学実験の基礎技術についての理解できるようになります。

【キーワード】 生命科学, 環境, 生態, 細胞

【到達目標】

1. 生命科学 (生命現象) に興味を持ってもらう。
2. 生命科学系の実験を行う上で最低限必要な器具・機器の操作法, 基本的な技術などを習得してもらう。

【授業の計画】

1. ガイダンス (実習の進め方, 内容, レポート, 受講学生の確認など一般的な指導を行います)
2. 顕微鏡の使い方 (中学・高校の顕微鏡と違います) と淡水中のプランクトンの観察 (水一滴の中の世界に多くの生物がいます)
3. ラットの単離心筋細胞の収縮運動と細胞の死 (心臓の一個の細胞の収縮, そして細胞が死ぬという現象を観察します)
4. レクチンによるウサギ赤血球の凝集反応 (血液型の判定の基礎が解ります)
5. 生命科学における情報処理の基礎 (もちろん、生命科学でもパソコンは必須です)
6. DNA の抽出 (DNA 診断の第一歩となる技術です)

7. 無菌操作（私たちは微生物に囲まれていることを実感してください）
8. リン酸の定量（生命現象の中で大きな役割を果たすリン酸を定量してみます）
9. 葉で樹木の検索表を作ってみよう（身近な植物を注意深く見てみましょう）
10. 小型魚類の色素胞の伸縮に及ぼすイオンの影響（細胞の運動の様子を観察します）
11. アフリカツメガエルの人工受精と初期発生（卵が受精をして発生していく様子を観察します）
12. ゲルろ過法による生体分子の分離精製（分子量の異なる生体分子を分子量の大きい順に分離します）
13. 動物個体群の成長と生残（貝やカニを採集して測定し、成長率や生残率を推定します）
14. （未定）
15. レポート返却・解説・研究紹介など

【教科書】 実習の1回目に具体的なスケジュール（実習書）に示し、実習の概要を説明します。必要に応じて、個々の実習についてのプリントを配布します。

【教科書・参考書に関する補足情報】 実習用の冊子を配布。また、適宜、参考資料も配布。

【成績評価の方法】 提出されたレポートの内容と、実習にどのように参加しているか、基本的な実習態度も含めて評価します。全ての実習の平均点で評価します。

【再試験の有無】 実習ですので、再評価はありません。

【受講者へのメッセージ】 自分で積極的に「生命現象」を体験してください。そして、必要に応じて図書館などで生命についての疑問点を調べて、面白い内容のレポートを作成してください。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 実習用の冊子を事前に読むこと。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

山城 考：1 M20, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp

渡部 稔：渡部稔（総合科学部1号館中棟1階1 M19室, 088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp）

横井川久己男：総合科学部1号館中棟1階1 M17室 TEL 088-656-7267

浜野龍夫：浜野龍夫（総科3号館3階3 N04, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp）

服部武文：服部武文（総合科学部1号館1階生物資源保全学研究室1 M15, Phone:088-656-7183, E-mail:thattori@ias.tokushima-u.ac.jp）

金丸 芳：金丸（総合科学部3号館3 N07, 088-656-7268, kanemaru@tokushima-u.ac.jp）

佐藤高則：佐藤高則（総合科学部3号館3 N05, E-mail:tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp）

大橋 眞：総合科学部3号館3階 N302

小山保夫：小山保夫（総合科学部3号館北棟3階3 N06室, Tel:088-656-7256, E-mail:oyama@ias.tokushima-u.ac.jp）

佐藤征弥：佐藤征弥（部屋：総合科学部3号館北棟3階3 N03, E-mail:satoh@ias.tokushima-u.ac.jp）

中川秀幸：中川秀幸（中棟1階1 M16：電話：088-656-7259

川上竜巳：川上竜巳（3号館3階未定）

【備考】

1. 実習全体についての質問は山城（tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp）までお願いします。個々の実習についての質問は担当している教員をお願いします。

4. 総合理数学科 学科共通科目

ページ	配当学年	授 業 科 目	単位数等
161	①	数理科学の基礎Ⅰ	2
161	①	数理科学の基礎Ⅱ	2
161	①	物理科学の基礎	2
162	①	化学の基礎	2
162	①	生命科学の基礎	2
162	①	地球科学の基礎	2
163	②	プログラミング演習Ⅰ	2
163	②	物理学基礎実験	2
163	②	化学基礎実験	2
164	①	生命科学基礎実験	2
165	②	地球科学基礎実験	2
計			12 単位以上

10単位以上必修

2 単位以上必修

数理科学の基礎Ⅰ

Foundations of Mathematical Science Ⅰ

2 単位（選択必修） 1 年（前期）
大 淵 朗

【授業の目的】 微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられている。今では自然科学の事象を表す一つの言語であり基礎的なものです。本講義では高校の時に学習するであろう関数の連続や微分及び積分という概念を改めてその定義に立ち返り学習し、高校の時には扱わないような関数も含めてそれら計算が出来るようになることを目的とします。また、様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解しその知識を取得することも目的の一つです。

【授業の概要】 微分積分学

【キーワード】 一変数関数の微分積分学

【到達目標】

1. 微分積分学に関する定義が理解出来る
2. 微分積分の計算が出来る
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る

【授業の計画】 1. 数列の極限（その1）（定義と性質） 2. 数列の極限（その2）（計算） 3. 1変数関数の極限 4. 連続関数 5. 中間値の定理と逆関数 6. 1変数関数の微分 7. 逆関数の微分 8. 平均値の定理 9. 不定形の極限 10. テイラーの定理 11. 1変数関数の積分（原始関数と不定積分） 12. 部分積分と置換積分 13. 有理関数などの不定積分 14. 定積分（その1）（定義と性質） 15. 定積分（その2）（計算）

【教科書】 戸田暢茂著「基礎微分積分学」学術図書出版社

【成績評価の方法】 受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します

【受講者へのメッセージ】 計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です。各自で問や演習問題を解くことをお願いします。疑問があったら気軽に聞いて欲しい。高校数学の内容でも構いません。高校で数学Ⅲを履修していない学生は全学共通教育での「高大接続科目・数学」を受講する事をお勧めします。この講義の内容理解の助けになると思います。

【WEB ページ】

<http://www-math.ias.tokushima-u.ac.jp/~ohbuchi/index1.html>

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
大 淵（088-656-7297、ohbuchi@ias.tokushima-u.ac.jp）
（オフィスアワー）火曜日 12:00-13:00（随時受け付けます）

数理科学の基礎Ⅱ

Foundations of Mathematical Science Ⅱ

2 単位（選択必修） 1 年（後期）
大 沼 正 樹

【授業の目的】 微分積分学は数学のみならず他の広い分野で用いられている。今では自然科学の事象を表す一つの言語であり基礎的なものです。本講義では高校の時に学習するであろう関数の連続や微分及び積分という概念を改めてその定義に立ち返り学習し、高校の時には扱わないような関数も含めてそれら計算が出来るようになることを目的とします。また、様々な解析学に関する言葉の定義を具体的な例を通して理解しその知識を取得することも目的の一つです。

【授業の概要】 微分積分学

【キーワード】 多変数関数の微分積分学

【到達目標】

1. 微分積分学に関する定義が理解出来る。
2. 微分積分の計算が出来る。
3. 微分積分法を応用した問題を解くことが出来る。
4. 論理的に理解出来る答案を作成出来る。

【授業の計画】 1. 1変数関数の広義積分（その1）（定義とその性質） 2. 1変数関数の広義積分（その2）（計算） 3. 2変数関数の極限 4. 2変数関数の微分（偏微分） 5. 全微分 6. 合成関数の微分と偏微分 7. テイラーの定理 8. 陰関数定理 9. 極値問題

10. 2変数関数の積分（重積分） 11. 累次積分と重積分の計算 12. 重積分における変数変換 13. 広義積分 14. 多重積分 15. 重積分の応用

【教科書】 基礎微分積分学／戸田暢茂：学校図書出版社

【成績評価の方法】 受講姿勢及びレポートによる平常点と期末試験による得点で評価します。

【再試験の有無】 有

【受講者へのメッセージ】 計算力を付けるためには問題演習は欠かせませんがそのための時間を講義内で多く取ることは困難です。各自で問や演習問題を解くことをお願いします。疑問があったら気軽に聞いて欲しい。前期に開講される「数理科学の基礎Ⅰ」を受講している事が望ましい。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
大沼正樹（総合科学部 1 号館南棟 2 階 2S10、088-656-7225、ohnuma@ias.tokushima-u.ac.jp）

（オフィスアワー）（後期）水曜日 12 時から 12 時 50 分

物理科学の基礎

Foundations of Physical science

2 単位（選択必修） 1 年（前期）
日 置 善 郎

【授業の目的】 自然科学の基礎としての物理学の理解

【授業の概要】 物理学は現代の科学技術を支える大きな柱であり、将来どのような分野に進もうと理系学生の基礎として極めて重要な科目である。本講義では、この物理学の中で巨視的な現象を扱う古典物理学（力学・電磁気学・熱統計力学）から現代物理学の中核をなす量子論・相対論の基本的な構成までを概観する。そこには通常の常識では全く理解できないような現象も登場するが、それが正に現代の科学技術の基礎となった諸法則に結び付いている。それらを丁寧に、数式の取り扱いだけでなく基礎概念の理解にも力点を置いて解説していく。

【キーワード】 古典力学、古典電磁気学、量子力学、相対性理論

【関連／科目】 『数理科学の基礎Ⅰ [Foundations of Mathematical Science Ⅰ]』、『数理科学の基礎Ⅱ [Foundations of Mathematical Science Ⅱ]』、『数理科学の基礎Ⅲ [Foundations of Mathematical Science Ⅲ]』、『化学の基礎 [Fundamentals of Chemistry]』、『地球科学の基礎 [Foundations of Earth Science]』

【到達目標】

1. 古典物理の成功と限界、それを超える現代物理（量子力学・相対性理論）の基本的構成の理解
2. 物質科学に関わる幅広い知識の理解、現代科学に対する総合的視点、論理的思考力の養成、および日本語で論理的文章を書くことができる能力の養成

【授業の計画】 1. 物理学の目的・現代物理学概観 2. 古典物理学の世界(1)素朴な自然観 3. 古典物理学の世界(2)古典力学概説 4. 古典物理学の世界(3)電磁気学概説 5. 古典物理学の世界(4)熱統計力学概説 6. 古典物理学は万能か？(1)原子世界と古典物理 7. 古典物理学は万能か？(2)古典物理の破綻 8. 古典物理学は万能か？(3)量子力学と現代物理学 9. 量子物理学の世界(1)量子の概念 10. 量子物理学の世界(2)ボーアの原子模型 11. 量子物理学の世界(3)粒子の波動性 12. 量子物理学の世界(4)量子力学の完成 13. 量子物理学の世界(5)原子核・素粒子 14. 相対性理論の世界(1)研究の歴史 15. 相対性理論の世界(2)特殊相対性理論 16. 期末試験

【教科書・参考書に関する補足情報】 教科書は市販のものではなく、自製テキストを使用する（生協書籍部で販売）。加えて、必要に応じてプリントを配布する。また、関連する参考書については、講義中に適宜紹介する予定。

【成績評価の方法】 毎回のレポート（または小テスト）＋受講態度で判定する。通常の「期末試験」は行わない。詳しくは第1回目の講義で説明する。

【再試験の有無】 無

【受講者へのメッセージ】 受講態度も重要な評価項目となります。私語・携帯使用などは厳禁で、違反者はその時点での評価には無関係に「再受講」となります。また、教室にいても眠っていたり関係のないことをやっている場合には「欠席」扱いとなります。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 講義中にノートした事項は、忘れないうちに復習すること。その際、第3者が読んで

理解できるように補足等も含めて整理しておくことが重要。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
日置善郎（総合科学部 3 号館 1 N04, Tel:088-656-7234, E-mail: hioki@ias.tokushima-u.ac.jp）
（メールアドレス）hioki@ias.tokushima-u.ac.jp
（オフィスアワー）火曜日 12 時～13 時（これ以外の時間帯でも在室時は質問等可）

化学の基礎

Fundamentals of Chemistry

2 単位（選択必修）1 年（後期）
今井昭二

【授業の目的】 専門に進んで、科学の諸分野を専攻する上で必要とされる、化学の基礎的内容を修得することを目的とする。

【授業の概要】 物質世界を支配するエネルギーによって化学現象の原理が理解できる。原子や分子の運動、エネルギーと化学反応、乱れるエネルギー、反応速度の真実など、サイエンスのおもしろさが詰まっている。

【キーワード】 エントロピー、エンタルピー、化学平衡、反応速度、原子の構造など

【到達目標】

1. 原子の構造に関する基礎的な内容を理解している。
2. 化学結合の種類や特徴について理解している。
3. 化学反応式の量的関係を理解している。
4. 物質の三態の間の関係について理解している。
5. 酸と塩基について理解している。
6. 熱力学の基礎的内容について理解している。

【授業の計画】 1) 学問のすめ 2) 気体分子運動入門（理想気体と実在気体） 3) 化学熱力学入門 4) 化学熱力学入門 5) 化学熱力学入門 6) 化学熱力学入門 7) 化学平衡とエネルギー入門 8) 化学物性入門（融点・沸点、蒸気圧、浸透圧） 9) 化学平衡論入門（酸塩基平衡） 10) 反応速度論入門（反応次数、速度定数） 11) 反応速度論入門（衝突理論、遷移理論） 12) 原子構造と特性（電子配置、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度） 13) 元素の周期性（融点・沸点の周期性など） 14) 化学結合の立体性（混成軌道、分極、結合力） 15) 期末試験 16) 総括

【教科書】 一般教養現代物理化学／阿武聡信：培風館，1988，3，ISBN：978-4-563-04502-9

芝原寛泰・齊藤正治著「＜大学への橋渡し＞一般化学」 化学同人

【成績評価の方法】 期末テスト、授業への取組状況などをもとに総合的に評価する。復習のための小テストは、評価に入れない。

【再試験の有無】 平常の受講姿勢、試験結果などを鑑みて、許可する学生に対して実施する。一定の基準を満たしている場合に再試験を行う。

【受講者へのメッセージ】 予習を前提に講義を進めるので、事前に内容を調べて授業に臨んで下さい。遅刻しないこと。専用ノートを一冊準備すること。これにより、学習、受講態度、自習について、判断する。自習している事項についてのみ、質問などに対応する。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
今井昭二

（オフィスアワー）18：00～アポを取る。

生命科学の基礎

Basics of Life Science

2 単位（選択必修）1 年（前期）
横井川久己男、佐藤高則

【授業の目的】 ・生物は、さまざまな生体成分が密接に相互作用して「生きている」状態を維持している。本講義では、生命の単位である細胞と主要生体成分について、それらの構造と機能を理解させると共に、それらの代謝や制御機構を通じて、生命現象の基礎を学ぶことを目的とする（横井川）。・細胞は多種多様な化学物質によって構成されており、生命現象は詳細に制御された化学反応の連鎖に基づいている。ここでは生命科学の基礎として細胞を構成する化学成分について学ぶ（佐藤）。

【授業の概要】 ・生命の単位である細胞と主要生体成分の構造と機能、またそれらの代謝や制御機構を通じて生命現象の基礎を学ぶ（横井川）。・生命科学の基礎としての細胞を構成する生体高分子（タンパク質、糖、脂質、核酸）の化学的基礎と遺伝情報の流れについて学ぶ（佐藤）。

【先行科目】 『生命科学基礎実験 [Experiments in Basics of Life Sciences]』

【到達目標】

1. 生命の自然科学的な統一像を得ること（横井川）。細胞を構成する生体高分子について、その構造や特性が理解できる（佐藤）。
- 【授業の計画】 1. 生命科学全般を概説し、生命現象の包括的な概念を教授する（横井川） 2. 生命誕生の歴史と多様な生物を解説する（横井川） 3. 真核細胞と原核細胞の構造と機能を解説する（横井川） 4. 細胞の増殖と分化について解説する（横井川） 5. 遺伝について解説する（横井川） 6. エネルギー代謝を解説する（横井川） 7. 脂肪代謝とアミノ酸代謝を解説する（横井川） 8. 感染症と薬剤耐性について解説する（横井川） 9. 生命の化学的基礎（佐藤） 10. 細胞を構成する元素と原子（佐藤） 11. 細胞を構成する生体高分子（タンパク質）（佐藤） 12. 細胞を構成する生体高分子（糖）（佐藤） 13. 細胞を構成する生体高分子（脂質）（佐藤） 14. 細胞を構成する生体高分子（核酸）（佐藤） 15. 核酸と遺伝情報の流れ（佐藤） 16. 定期試験

【教科書】 佐藤担当分：「Essential 細胞生物学」（南江堂）

【参考書】 ・生命科学（東京化学同人）（横井川） ・授業中に随時配布する。配布したパワーポイント資料および実施した課題は HP に掲載する（佐藤）。

【成績評価の方法】 ・授業への取組み態度（25%）、定期試験（25%）により総合的に評価する（横井川）。・毎回の課題（30%）と定期試験（20%）の合計で成績を算出する（佐藤）。

【受講者へのメッセージ】 毎回、課題を出しますので出席してください（佐藤）。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 授業内容の予習は、HP の資料を参考にしてください。毎回の課題は提出後に添削し返却しますので、間違えたところは復習してください。（佐藤）

【WEB ページ】 佐藤担当分の資料・課題は、下記 HP よりダウンロードできます。

<http://www.geocities.jp/satokichi2004jp/syllabus/jyugyou.htm>

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】
横井川久己男 1 M17, 088-656-7267

佐藤高則 3 N05, 088-656-7657

（メールアドレス）

横井川久己男 yokoigaw@ias.tokushima-u.ac.jp

佐藤高則 tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）横井川久己男：毎週月曜日 PM16：30～17：30 総合科学部 1 号館中棟 1 階 1 M17 室

佐藤高則：平日の 9：00～17：00 で、授業以外の時間

地球科学の基礎

Foundations of Earth Science

2 単位（選択必修）1 年（後期）
石田啓祐、村田明広、西山賢一、青矢睦月

【授業の目的】 地球表層部における地球科学的な現象と事象に関して、現在の姿と歴史を学ぶ。

【授業の概要】 地史学・進化古生物学（石田）、構造地質学・地震学（村田）、岩石学・火山学（青矢）、地形学・気象学（西山）などの地球科学における基礎的な内容を扱う。また、それぞれの分野で最近話題になっている研究内容を紹介し、地球科学の勉学のための導入的な講義とする。

【キーワード】 地層と化石、地球の歴史、断層、褶曲、プレートテクトニクス、活断層、地震、地形、火山、マグマ、岩石、鉱物、地球表層物質循環

【到達目標】 地球の歴史と地層・化石（石田）、活断層と地震（村田）、岩石と鉱物（青矢）、火山・地形の形成と天気の変化（西山）の基本や概要が説明できること。

【授業の計画】 1. 地質時代区分：絶対年代（放射年代）と相対年代（石田） 2. 年代指標・環境指標としての古生物・大型化石と微化石（石田） 3. 地層の種類と形成環境（堆積岩類と堆積環境）（石田） 4. 地球の運動と環境変化・生物界の変遷（石田） 5. 東

日本大震災（村田） 6. 南海地震の再来（村田） 7. 内陸の活断層と地震（村田） 8. 断層と褶曲（村田） 9. プレートテクトニクスと岩石の分類（青矢） 10. 火成岩の分類（青矢） 11. 全岩化学組成と鉱物化学組成（青矢） 12. 変成岩とその形成場（青矢） 13. 地形の変化（西山） 14. 天気の変化（西山） 15. 大気と海洋の構造（西山） 16. 気候変動と異常気象（西山）

【教科書】 指定しない。

【参考書】 講義資料は各教員が配布する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 講義資料は各教員が配布する。

【成績評価の方法】 4人の教員が、それぞれの担当部分の理解力を問う小試験や課題レポートを講義時間の最後に課すので、出席が大前提となります。

【再試験の有無】 積極的な取り組みの見られる学生に対しては行うことがある。

【受講者へのメッセージ】 パワーポイントやビデオなどを使うことがあります。遅刻・欠席をしないこと。積極的にノートを取ることを。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 石田啓祐：総合科学部3号館南棟2S04室、Tel:088-656-7243, E-mail: ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp

村田明広：総合科学部3号館南棟2S03室、Tel:088-656-7242, E-mail: murata@tokushima-u.ac.jp

西山賢一：総合科学部3号館南棟2S05室、Tel:088-656-7239, E-mail: nisyama@ias.tokushima-u.ac.jp

青矢睦月：総合科学部3号館南棟2S02室 Tel:088-656-7265, E-mail: aoya@tokushima-u.ac.jp

（メールアドレス）

石田啓祐：ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp

村田明広：murata@tokushima-u.ac.jp

西山賢一：nisyama@ias.tokushima-u.ac.jp

青矢睦月：aoya@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

石田啓祐：平日12:00-12:50。／村田明広：火12:00-13:00。ただし、在室時はいつでも構いません。／西山賢一：月12:00-13:00。／青矢睦月：火12:00-13:00。ただし、在室時はいつでも構いません。

プログラミング演習Ⅰ

Computer ProgrammingⅠ

2単位（選択必修）2年（後期）

鍋島克輔

【授業の目的】 本演習では、最も多用されているプログラミング言語の1つであるC言語について、文法やプログラミング技法を初歩から演習を行うことで、修得し、使いこなせるようになることを目的とする。

【授業の概要】 C言語による基本的プログラミング技法の修得

【キーワード】 プログラミング、C言語

【到達目標】 1. C言語の基本仕様を修得し、種々のアルゴリズムがC言語でプログラミングできるようになる。

【授業の計画】 1. C言語とは&プログラム開発環境の操作方法 2. データの型 3. 入出力関数 4. 制御文if else 5. 制御文for 6. 制御文while 7. 制御文switch 8. 配列 9. 関数 10. 関数 11. 文字列 12. プログラムの作成 13. プログラムの作成 14. プログラムの作成 15. プログラムの作成

【教科書】 新版 明解C言語入門編／柴田望洋：ソフトバンク・クリエイティブ

【成績評価の方法】 講義での課題30%、最終課題作成30%、試験40%の合計により成績を評価する。

【再試験の有無】 行わない

【受講者へのメッセージ】 受講者はデータ保存のため、各自でUSBメモリーを用意すること。

【自主学習（予習・復習）のアドバイス】 教科書の例題は完璧に理解できるようにすること。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】 鍋島克輔

（メールアドレス）nabesima@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）火曜14:00-15:30、金曜14:00-15:30

物理学基礎実験

Fundamental Experiments in Physics

2単位（選択必修）2年（前期）

真岸孝一、小山晋之、中山信太郎、齊藤隆仁、伏見賢一

【授業の目的】 物理学は実験と理論を両輪として発展してきた。単なる自然現象の記述に終わってはならないし、空理空論でもない。実験によって自然に問いかけて法則性を見出すということ、理論を組み立てるということキャッチボールのように繰り返しながら自然を理解していかなければならない。「高校の物理」では実験が軽視されがちで、無味乾燥な暗記物と誤解している学生が多い。本実験では基礎的な物理実験を行い、現象の中から法則性を見出したり、理論的推論を確かめたりすることによって、物理の面白さを体験することを目的とする。また卒業研究等の自分で研究を行う際に、実験（研究）経過・過程をきちんとノートに記録するということは大切である。これをどの様にしたら良いかという点を実験を通して学んでいく。

【授業の概要】 最初の数回は、物理測定法の基礎を講義し、データを扱う方法を学ぶ。また、ノギスとマイクロメータを使って物の長さを測るという測定を、テスターとオシロスコープを使って電圧や抵抗を測定するということを学ぶ。以後、力学、熱、波、電磁気、物性の中の基礎的な物理実験を数回行う。

【キーワード】 物理学、実験

【到達目標】 1. 実験を正しく行い、その実験の経過をノートに記録することができる。実験の解析を正しく行うことができる。

【授業の計画】 1. 導入 2. 誤差論1とノギス・マイクロメータの実験 3. 誤差論2とテスターオシロスコープの実験

4. 誤差論3と関数電卓の使い方 5. Excelを使ったデータ処理 6. 実験の解説とレポートの書き方 7. 実験1 8. 面接試験1

9. 実験2 10. 面接試験2 11. 実験3 12. 実験4 13. 実験5 14. 実験予備日 15. 面接試験3 16. 総括授業

【教科書】 「基礎物理学実験テキスト」総合科学部物理学教室編（徳島大学生協）

【成績評価の方法】 提出されたレポートの評価および、個別面接時の実験ノートのチェック、実験テーマの理解度、実験の正確さの評価を併せて評価する。

【再試験の有無】 原則として行わない。

【受講者へのメッセージ】 全回出席し、全てのレポートを提出しなければならない。止むを得ず欠席した場合は、空いている時間に実験を行うこと。

【連絡先（Eメールアドレス、オフィスアワー）（学生用連絡先）】

真岸孝一：総合科学部3号館1N09, 088-656-7230

中山信太郎：総合科学部3号館1N02, 088-656-7236

齊藤隆仁：総合科学部3号館1N08, 088-656-7232

伏見賢一：総合科学部3号館1N01, 088-656-7238

小山晋之：総合科学部3号館1N07, 088-656-7233

（メールアドレス）

真岸孝一：magishi@tokushima-u.ac.jp

中山信太郎：nakayama@ias.tokushima-u.ac.jp

齊藤隆仁：saito.takahito@tokushima-u.ac.jp

伏見賢一：kfushimi@tokushima-u.ac.jp

小山晋之：koyama@ias.tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

真岸孝一：木曜日12-13時（これ以外に随時、教員室に居ればできるだけ対応します。）

中山信太郎：授業など公務がない平日17時から18時

齊藤隆仁：水曜日12:00-13:00

伏見賢一：随時。研究室の扉に掲示しています。

小山晋之：火曜日・木曜日 11:50-12:50

化学基礎実験

Fundamental Experiments in Chemistry

2単位（選択必修）2年（前期）

今井昭二、増田俊哉、三好徳和、山本裕史
山本 孝、中村光裕、山本祐平

【授業の目的】 物質総合コースと環境共生コースに必須の基礎的

な化学実験を行い、物質の分離分析、同定、合成等に必要な基本操作を習得することを目的とする。実験を通して化学物質の取り扱いを習熟し、その理解を深め危険な化学物質に対する安全な取り扱い方も学ぶ。

【授業の概要】 物質総合コースと環境共生コース向けの試薬の取り扱いと化学実験の基礎的かつ基本的操作の習得

【キーワード】 基礎化学実験、分析化学、物理化学、環境分析化学、有機化学

【到達目標】 1. 化学物質の取扱の習熟、実験の安全教育の徹底、化学実験の基礎の習熟

【授業の計画】 1. 実験の基礎知識(器具の説明、試薬全般と安全指導・安全対策・避難訓練を含む) 2. 無機定性反応Ⅰ(NaOH) 硫酸イオンの定量(1) 3. 無機定性反応Ⅱ(NH₃) 硫酸イオンの定量(2) 4. 無機定性反応Ⅱ(H₂S) 硫酸イオンの定量(3) 5. 陽イオンの系統的半微量定性分析 6. 容量器具の取り扱い・シュウ酸の再結晶・0.1N シュウ酸標準溶液の調製 7. 分析化学実験:pH 滴定曲線(水酸化ナトリウム-塩酸) 8. 分析化学実験:中和滴定(0.1N NaOH 標準溶液の標定, 0.1N HCl 標準溶液の標定, 食酢の定量) 9. 分析化学実験:沈殿滴定(モール法) 10. 分析化学実験:キレート滴定(Ca-Mg 分別定量, 硬度計算) 11. 分析化学実験:酸化還元滴定(オキシフル中の過酸化水素の定量, 亜硝酸の定量) 12. 環境分析化学実験:化学的酸素要求量(COD KMnO₄法) 13. 物理化学実験:酢酸エチルのケン化速度と速度論 14. 有機化学実験:アセトアニリドの合成 15. 予備日 16. 総括

【教科書】 環境・分析化学実験/酒井忠雄, 相原将人 編著: 三共出版, 2006. 2, ISBN: 4-7827-0524-7
分析化学/長島弘三, 富田功: 裳華房, 1985. 10, ISBN: 4-7853-3123-2

これだけは知っておきたい化学実験セーフティガイド/日本化学会: 化学同人, 2006. 3, ISBN: 978-4-7598-1051-1
化学実験初學者であることから、テキストは3冊とも必ず購入すること。卒業まで使用します。

【参考書】 丸山銓二郎「改稿 化学基礎実験」三共出版

【成績評価の方法】 出席点(実験の取り組み姿勢点も含む)とレポート点を併用して評価する。

【再試験の有無】 実施できない。木曜日の午後、場合によっては、再実験を行い補習を実施することもある。

【受講者へのメッセージ】 本授業は、化学実験の初級者向けです。実験の事前準備や心構えが重要です。白衣購入、コンタクトレンズ使用禁止、安全メガネ着用、適切な服装の指導など化学実験に対する準備について安全上の理由で指導されるので、理解してください。安全指導上または教育の継続が難しいと判断したとき、受講を中止させます。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】 以下のチェックを藤本助教により行われます。授業前に実験の予習レポートを捺印してチェックします。実験中の出来事は、実験ノートに記録します。実験終了時に、実験ノートを捺印してチェックします。実験レポートは、実験終了の翌週の実験開始前に提出して下さい、提出後直ちに捺印してチェックします。

生命科学基礎実験

Experiments in Basics of Life Sciences

2単位(選択必修) 1年(前期)
山城 考, 中川秀幸, 小山保夫, 大橋 眞, 佐藤高則,
真壁和裕, 松尾義則, 佐藤征弥, 渡部 稔, 金丸 芳,
横井川久己男, 浜野龍夫, 服部武文, 川上竜巳

【授業の目的】 高校で生物学を履修していない学生は中学校レベルの生物学的知識を忘れています。そのまま、大学生活、そして大学院生活あるいは社会生活に入りますと、苦労することが多いでしょう。日常社会で話題になりやすいことは生命科学分野の話です。そこで、高校で生物学を履修していない学生にも、もちろん、生物学を履修した学生にも、新鮮な気持ちで「生命科学」に触れていただきたいと思います。この実習では、生命科学系の実験を行う上で必要な基本的な技術などを体験させると同時に、生命の基本的現象を観察・理解してもらいます。

【授業の概要】 目的には書きましたが、社会に出てから「最も身近な学問」は生命科学です。なぜなら、健康問題、環境問題などの理解には生命科学分野の知識が求められるからです。生命科学

の実験の一端に触れることで、いろいろな問題を容易に理解できる「切っ掛け」になります。細胞(単細胞生物、心臓の細胞、卵子、精子など)、微生物、昆虫、植物、生体分子(DNA など)など、毎回、様々なテーマで生命科学の知識を広げていきます。同時に、生命科学実験の基礎技術についての理解できるようになります。

【キーワード】 生命科学、環境、生態、細胞

【到達目標】

1. 生命科学(生命現象)に興味を持ってもらう。
2. 生命科学系の実験を行う上で最低限必要な器具・機器の操作法、基本的な技術などを習得してもらう。

【授業の計画】

1. ガイダンス(実習の進め方、内容、レポート、受講学生の確認など一般的な指導を行います)
2. 顕微鏡の使い方(中学・高校の顕微鏡と違います)と淡水中のプランクトンの観察(水一滴の中の世界に多くの生物がいます)
3. ラットの単離心筋細胞の収縮運動と細胞の死(心臓の一個の細胞の収縮、そして細胞が死ぬという現象を観察します)
4. レクチンによるウサギ赤血球の凝集反応(血液型の判定の基礎が解ります)
5. 生命科学における情報処理の基礎(もちろん、生命科学でもパソコンは必須です)
6. DNA の抽出(DNA 診断の第一歩となる技術です)
7. 無菌操作(私たちは微生物に囲まれていることを実感してください)
8. リン酸の定量(生命現象の中で大きな役割を果たすリン酸を定量してみます)
9. 葉で樹木の検索表を作ってみよう(身近な植物を注意深く見てみましょう)
10. 小型魚類の色素胞の伸縮に及ぼすイオンの影響(細胞の運動の様子を観察します)
11. アフリカツメガエルの人工受精と初期発生(卵が受精をして発生していく様子を観察します)
12. ゲルろ過法による生体分子の分離精製(分子量の異なる生体分子を分子量の大きい順に分離します)
13. 動物個体群の成長と生残(貝やカニを採集して測定し、成長率や生残率を推定します)
14. (未定)
15. レポート返却・解説・研究紹介など

【教科書】 実習の1回目具体的なスケジュール(実習書)に示し、実習の概要を説明します。必要に応じて、個々の実習についてのプリントを配布します。

【教科書・参考書に関する補足情報】 実習用の冊子を配布。また、適宜、参考資料も配布。

【成績評価の方法】 提出されたレポートの内容と、実習にどのように参加しているか、基本的な実習態度も含めて評価します。全ての実習の平均点で評価します。

【再試験の有無】 実習ですので、再評価はありません。

【受講者へのメッセージ】 自分で積極的に「生命現象」を体験してください。そして、必要に応じて図書館などで生命についての疑問点を調べて、面白い内容のレポートを作成してください。

【自主学習(予習・復習)のアドバイス】 実習用の冊子を事前に読むこと。

【連絡先(Eメールアドレス、オフィスアワー)(学生用連絡先)】
山城 考: 1 M20, tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp

渡部 稔: 総合科学部1号館中棟1階1 M19室, 088-656-7253, minoru@ias.tokushima-u.ac.jp

横井川久己男: 総合科学部1号館中棟1階1 M17室 TEL 088-656-7267

浜野龍夫: 総科3号館3階3 N04, hamanot@ias.tokushima-u.ac.jp

服部武文: 総合科学部1号館1階生物資源保全学研究室1 M15,

Phone: 088-656-7183, E-mail: thattori@ias.tokushima-u.ac.jp

金丸 芳: 総合科学部3号館3 N07, 088-656-7268,

kanemaru@tokushima-u.ac.jp

佐藤高則: 総合科学部3号館3 N05, E-mail: tsatoh@ias.tokushima-u.ac.jp

大橋 眞: 総合科学部3号館3階 N302

小山保夫: 総合科学部3号館北棟3階3 N06室, Tel: 088-656-7256, E-mail: oyama@ias.tokushima-u.ac.jp

佐藤征弥: 部屋: 総合科学部3号館北棟3階3 N03, E-mail:

satoh@ias.tokushima-u.ac.jp

中川秀幸：中棟 1 階 1 M16：電話：088-656-7259

川上竜巳：3 号館 3 階未定

【備考】

1. 実習全体についての質問は山城 (tyamash@ias.tokushima-u.ac.jp) までお願いします。個々の実習についての質問は担当している教員をお願いします。

地球科学基礎実験

Fundamental Experiments in Earth Science

2 単位（選択必修）2 年（前期）
石田啓祐，村田明広，西山賢一，青矢睦月

【授業の目的】 地層解析の基本事項（石田），偏光顕微鏡観察と空中写真判読（村田），地質図・天気図（西山）が活用できる。

【授業の概要】 層序学・古生物学（石田），構造地質学（村田），地質図学・気象学（西山）に関わる地球科学の基礎的な実習を扱う。この中には，岩石・鉱物・化石の肉眼鑑定，偏光顕微鏡での観察，天気図の作成など，地球科学の基本的解析手法の習得が含まれる。

【キーワード】 基礎実験・実習，層序学，古生物学，構造地質学，地質図学，気象学

【到達目標】 地球科学の解析に必要な基本的な実験・調査法を身につける。

【授業の計画】 1. 粒度区分と粒度表（ふるいを使った粒度分析と粒度表の作成）（石田） 2. 海岸の堆積物の観察と漂着貝殻の採集（石田） 3. 海岸の堆積物と漂着貝殻群集の解析（石田） 4. 古生物の分類と特徴（大型化石の観察とスケッチ，レプリカ作成）（石田） 5. 空中写真判読による地質構造解析（村田） 6. リモートセンシングによる地質解析（村田） 7. 岩石（火成岩・堆積岩・変成岩）の肉眼観察（村田） 8. 組成三角図などの使い方（青矢） 9. 偏光顕微鏡による薄片観察（火成岩 1）（青矢） 10. 偏光顕微鏡による薄片観察（火成岩 2）（青矢） 11. 偏光顕微鏡による薄片観察（変成岩）（青矢） 12. 偏光顕微鏡による薄片観察（堆積岩）（村田） 13. コンターマップ・水系図・地形断面図の作成（西山） 14. 地質図の作成（西山） 15. 地質断面図の作成（西山） 16. 天気図の作成（西山）

【教科書】 指定しない。

【参考書】 各担当教員が紹介する。

【教科書・参考書に関する補足情報】 各担当教員が資料を配布する。

【成績評価の方法】 実習への取り組み姿勢と，成果物の提出・各教員による課題のレポートを総合的に判断して評価する。

【再試験の有無】 実習であり，再試験は原則行わない。

【受講者へのメッセージ】 実習内容が積み重ね式になっているので，出席は大前提となります。

【連絡先（E メールアドレス，オフィスアワー）（学生用連絡先）】

石田啓祐：総合科学部 3 号館南棟 2 S04 室，Tel:088-656-7243，E-mail: ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp

村田明広：総合科学部 3 号館南棟 2 S03 室，Tel:088-656-7242，E-mail: murata@tokushima-u.ac.jp

西山賢一：総合科学部 3 号館南棟 2 S05 室，Tel:088-656-7239，E-mail: nisyama@ias.tokushima-u.ac.jp

青矢睦月：総合科学部 3 号館南棟 2 S02 室，Tel:088-656-7265，E-mail: aoya@tokushima-u.ac.jp

（メールアドレス）

石田啓祐：ishidak@ias.tokushima-u.ac.jp

村田明広：murata@tokushima-u.ac.jp

西山賢一：nisyama@ias.tokushima-u.ac.jp

青矢睦月：aoya@tokushima-u.ac.jp

（オフィスアワー）

石田啓祐：平日 12:00-12:50。

村田明広：火 12:00-13:00。ただし，在室時はいつでも構いません。

西山賢一：月 12:00-13:00。

青矢睦月：火 12:00-13:00。ただし，在室時はいつでも構いません。

【備考】 全ての教員の实習に出席することを原則とする。

V. そ の 他

コース担当教員一覧表

人間文化学科

[illegible]

◎：コース代表 ◎教：教務委員 ◎学：学生委員 ◎就：就職委員 *協力教員

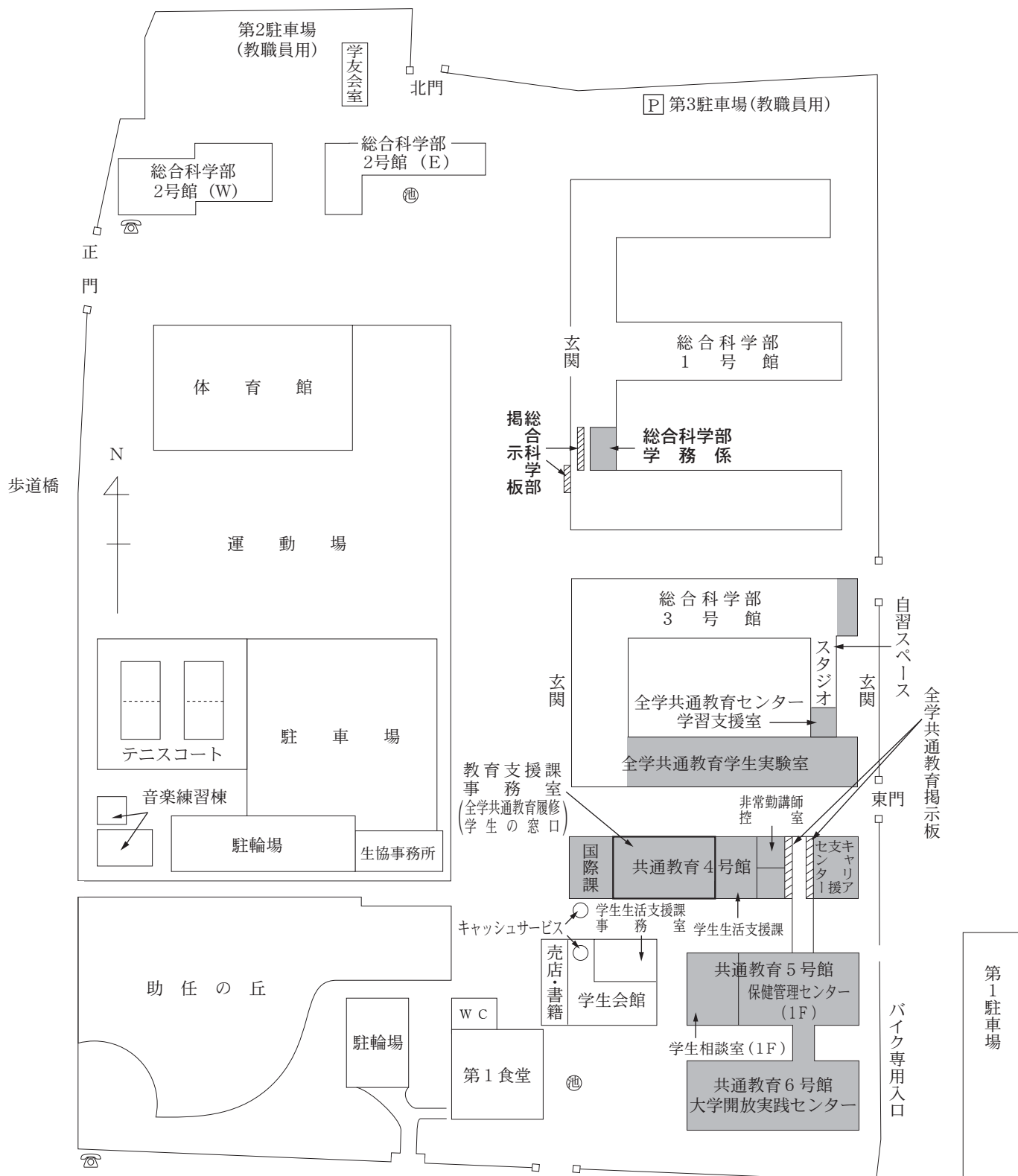
[illegible]

– 170 –

[illegible]

㊦：コース代表 ㊧：教務委員 ㊨：学生委員 ㊩：就職委員

総合科学部(共通教育棟を含む)建物配置図



講義室・実験室および教員研究室配置図

〔 1 階 〕

総合科学部 1 号館

国際文化コース

(ハルバト) (座喜) (石川) (桂) (吉田文)

1N01 渭水会	1N02 女性職員 休憩室	1N03 学部図書室 書架	学部図書室 書架	1N04 国際文化 図書室	1N05 ゼミ国際 文化室	1N06 比較文学 文化室	1N07 英語スラ ム・思想 研究室	1N08 ドイツ語 文学・文 学研究室	1N09 ドイツ語 文学・文 学研究室	1N10 研究米文 学文化	1N11 研究国際 学文化				
			閲覧室	周密書架	1N12 国際文化 大学院生 研究室	1N13 研究英語 学	1N14 研究米文 学	1N15 ゼミ国際 文化室		1N16 ドイツ語 文学・文 学研究室	1N17 研究哲学 学	1N18 研究科学 学論・学 史			
	WC														
展示室	(山田) (樋口友)							(井戸) (石田三) (山口)							
1W01 地域交流 プラザ															
1W02 事務用倉庫	環境共生コース														
1W03 非常勤講師 控室	オープンス ペース	1M01 機器センタ ー1	1M02 事務環境 共生室	1M03 実験環境 共生室1	1M04 実験環境 共生室2	1M05 実験環境 共生室3	1M06 実験環境 共生室4	1M07 実験環境 共生室5	1M08 実験環境 共生室6	WC	1M09 実験博士 課程学後 1生期	1M10 実験博士 課程学後 2生期	1M11 実験博士 課程学後 4生期		
		1M12 倉庫	1M13 研究環境 共生学 生	1M14 研究環境 共生学 生	1M15 研究生物 資源学	1M16 研究生活 性物理 学質	1M17 研究微生物 科学	1M18 科学発 生ゲノ ム研究 室	1M19 研究分子 生物学	1M20 研究系統 分類学	1M21 博士後期 課程学 生研究 室1	1M22 実験博士 課程学後 3生期	1M23 実験博士 課程学後 2生期	1M24 実験博士 課程学後 5生期	
WC															
1W04 学務係 資料室		(服部) (中川) (横井川) (真壁) (渡部) (山城)													
1W05 書庫															
1W06 学務係	地域創生コース														
	WC	1S01 事務長 室	1S02 学部長 室	1S03 研究博 課程学 生後 2生期	1S04 GIS 共同利用室		1S05 ゼミ地 域創 生1 生	1S06 ゼミ地 域創 生2 生	1S07 ス作 ベ ー ス 業	WC	1S10 地域創 生研 究室	1S11 言語情 報研 究室	1S12 総合情 報研 究室		
	置 ご 場 み				1S08 地域創生コース 学生・院 生研究 室		1S09 地域創生コース 学生ス ペース1			1S13 地域創生コース 学生ス ペース2					
1S14 印刷 室1	1S15 更衣室 男	1S16 更衣室 女	1S17 総務係		1S18 社会学 研究室	1S19 方言通 信調 査室	1S20 地域動 態論 研究 室	1S21 文化人 類学 研究 室	1S22 社会学 研究 室	1S23 社会学 研究 室	1S24 地域政 策学 研究 室	1S25 研究人 文地理 学	1S26 地域地 理学 研究 室	1S27 日本語 学研 究室	1S28 日本語 学研 究室
(上野) (内藤直) (高橋) (樋口直) (矢部)												(北村) (豊田) (平井) (岸江) (村上敬)			

〔 2 階 〕

国際文化コース

(衣川) (田中佳) (葭森) (田中智) (荒武) (田島) (宮澤) (山内) (宮崎) (田久保)(スタージ) (吉岡) (スティーブ)

2N01 Culture Lounge	2N02 研日 究本 室史	2N03 研フ 究化 室論ス	2N04 研国 究際 室文	2N05 研ア 究ジ 室ア	2N06 研中 究国 室文	2N07 研ア 究ジ 室社	2N08 研文 究フ 室学	2N09 研ミ 究ユ 室学	2N10 研英 究米 室学	2N11 研英 究米 室学	2N12 研英 究語 室学	2N13 研英 究米 室学	2N14 研ア 究メ 室力	2N15 研英 究語 室学
---------------------------	------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------

WC (男女)	2N16 研日 究本 室史	2N17 研日 究本 室学	2N18 研現 究代 室学	2N19 研・中 究文 室学	2N20 研考 究古 室学	2N21 研比 究較 室学	2N22 研イ 究ギ 室学	2N23 研ド 究イ 室学	2N24 研応 究用 室学	2N25 情コ 報国 実際 習文 室ス	2N26 資コ 料国 際文 室学	2N27 国際文化コース 学生研究室
------------	------------------------	------------------------	------------------------	-------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	------------------------------------	------------------------------	--------------------------

2W01 (桑原恵) (堤) (笹尾) (郡) (中村豊) (依岡) (佐久間)(今井晋)(スティーブ)

第2会議室

2W02
第3会議室

心理健康コース

(坂田) (大宮)

2W03 印刷室 2		2M01 研 教育 究 方法論 室	2M02 研 道徳 究 教育学 室	2M03 第2健康 分析社会	2M04 健康社会 デザイン 第1分析室	2M05 運動生理学 第2実験室	2M06 スポーツ 健康増進 ラボラトリー	2M07 心 理 健 康 コ ー ス ゼ ミ 室	W C		2M08 運動生理学 第1実験室		
ご 置 場		2M09 研 人間 究 形成論 室	2M10 研 経ス 究 営ポ 室 学 ツ	2M11 研 社ス 究 会ポ 室 学 ツ	2M12 スポーツ科学 学生・院生 研 究 室	2M13 研 運動 究 行動制 室 御	2M14 研 運動 究 処方 室	2M15 研 健康 究 体力学 室	2M16 研 健康 究 教育学 室	2M17 研 応用 究 生理学 室	2M18 研 運動 究 生理学 室	2M19 前 室 スポーツ 科学物 飼育室	準備室 ----- 実験室
W C													

2W04 (山下) (行實) (佐藤充) (荒木) (小原) (佐竹) (山口鉄) (三浦) (的場)

数理学
コース
演習室2W05
数理学
コース
情報実習室

数理科学コース

(小野) (伊藤) (中山慎) (宇野) (鍋島) (大沼)

EV	2S01 サ ー バ ー 室	2S02 ゼコ数 ミ理 室1科	2S03 数理学 コース 学生実験室	2S04 院コ数 生理 研究室	2S05 研数 究理 室学	2S06 研数 究理 室学	2S07 研数 究理 室学	2S08 研数 究理 室学	2S09 研数 究理 室学	2S10 研数 究理 室学	WC	2S11 数理学 コース 図書閲覧室
2S13 ゼ理総 ミ数 室学 1科合	2S14 ゼ理総 ミ数 室学 2科合	2S15 ゼコ数 ミ理 室1科	2S16 数理学 コース 学生研究室	2S17 研数 究理 室学	2S18 研数 究理 室学	2S19 研数 究理 室学	2S20 研数 究理 室学	2S21 研数 究理 室学	2S22 研数 究理 室学	2S23 研数 究理 室学	2S24 数理学 コース セミナー室	2S12 数理学 コース 資料室

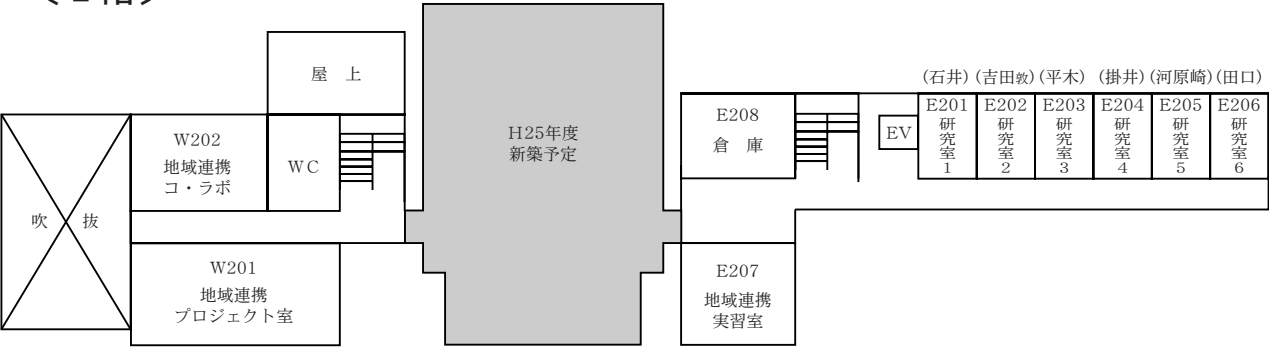
(桑原頼) (村上公) (大橋守) (守安) (大淵) (片山) (蓮沼)

〔3 階〕

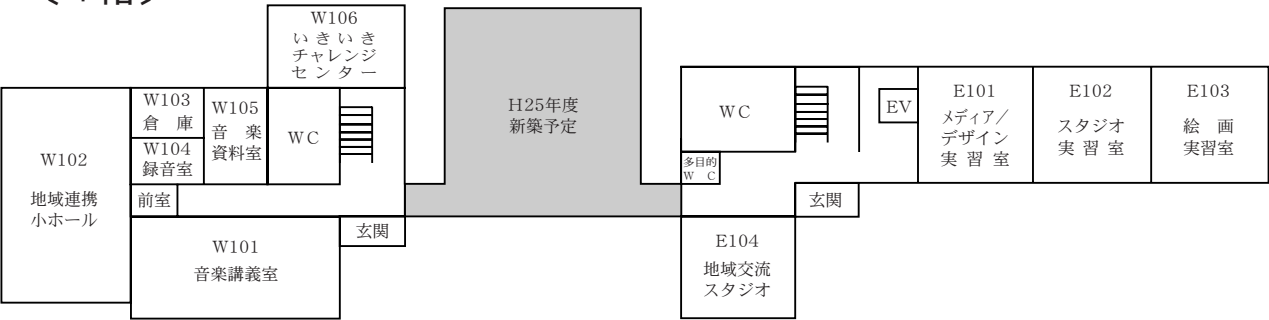
E V		3S01	3S02	3S03	3S04	3S05		WC (男)		3S06
		倉庫 2	情報実習室 3	ゼミ室 5 部	306 講義室	307 講義室			WC (女)	310 講義室
	3S07	3S08	3S10		3S11	3S12	3S13	3S14		
	技術職員室	倉庫 1	第 1 会議室		ゼミ室 6 部	308 講義室	ゼミ室 7 部	309 講義室		
		3S09 サーバ室								

2 号 館

〔 2 階 〕



〔 1 階 〕



3 号 館

〔 1 階 〕

階段	1N11 PS	1N14 電気室	1N15 量子科学実験室				1N16 学生研究室			1N17 物性実験室		1N18 試料作成室		1N19 便所	1N20 PS	1N27 共通教育実験室 (物理1)		
	1N12 EPS														1N21 EPS			
	1N13 倉庫														1N22 倉庫			
風除室	1N23 湯沸室 1N24 PS	1N25 雑誌閲覧室	1N01 研究室1 (伏見)	1N02 研究室2 (中山前)	1N03 研究室3 (折戸)	1N04 研究室4 (日置)	1N05 全学共通教育 センター 特任准教授 研究室	1N06 研究室6 (久田)	1N07 研究室7 (小山西)	1N08 研究室8 (斉藤)	1N09 研究室9 (真岸)	1N26 工作室	DS	物質総合コース（物理）	1S11 スタジオ	階段		
	1N28 便所																	
																階段		
	1N29 多目的 便所																階段	
	1S01 機器センター2															階段		
	1S02 機器センター3 NMR																階段	
	1S03 管理室															階段		
	階段	1S04 電子顕微鏡室 (地学)	1S05 共通教育実験室 (化学)					1S06 共通教育実験室 (生物)					多目的便所				1S10 共通教育実験室 (物理2)	
													1S07 便所			1S08 EPS		
																1S09 PS		

〔 2 階 〕

階段	2N37 印刷室	2N11 PS	2N14 生物環境資源 化学実験室				2N15 有機合成化学 実験室				2N16 物理化学 測定室		2N18 試 無 料 機 調・ 製 物 室 化	2N19 測 無 機 定 化 室 学	2N20 環境化学 実験室		2N22 ト原 ル子 分 析 室 ケ		便所	2N25 PS	2N41 特任准 教授 研究室 和室 実験室	2N28 臨床心理 事務室	2N29 臨床心理 面接室 1		
	2N12 EPS	2N13 倉庫									2N17 前室				2N21 分析化学 実験室		2N23 前室	2N26 EPS		2N27 倉庫	通路				
																							2N30 臨床心理 面接室 3		2N31 臨床心理 面接室 2
	2N32 湯沸室	2N34 ボンベ 前室	2N35 2N36 薬品庫	2N01 研究室1 (増田)	2N02 研究室2 (中村元)	2N03 研究室3 (三好)	2N04 化 学 図書室	2N40-1 院 生 実験室 1	2N40-2 院 生 実験室 2	2N05 研究室5 (山本孝)	2N06 研究室6 (今井昭)	2N07 研究室7 (山本祐)	2N08 研究室8 (山本祐)	2N09 化学情報・ 合同研究室	2N10 空調機械室		物質総合コース（化学）							階段	
	2N38 便所																								
	2N39 倉庫																								
	2S21 院 生 研究室																								
	2S06 機器センター4															2S20 スタジオ									
	2S07 機器センター5 RI室																								
	2S08 EPS 2S09 PS																								
物質総合コース（地学）																	階段								
階段	2S10 実共通 験測 定化 学		地球科 学 資 料 室	2S01 多目的室	2S02 （青矢）	2S03 研究室3 （村田）	2S04 研究室4 （石田啓）	2S05 研究室5 （西山）	2S11 地球科学 学生研究室		2S12 地球科学 第 1 実験室		2S13 地球科学 第 2 実験室		2S14 地球科学 第 3 実験室		湯沸室	2S16 便所		2S17 EPS	2S19 共通教育実験室 （物理・生物）				
																	2S18 PS								

3 号 館

〔 3 階 〕

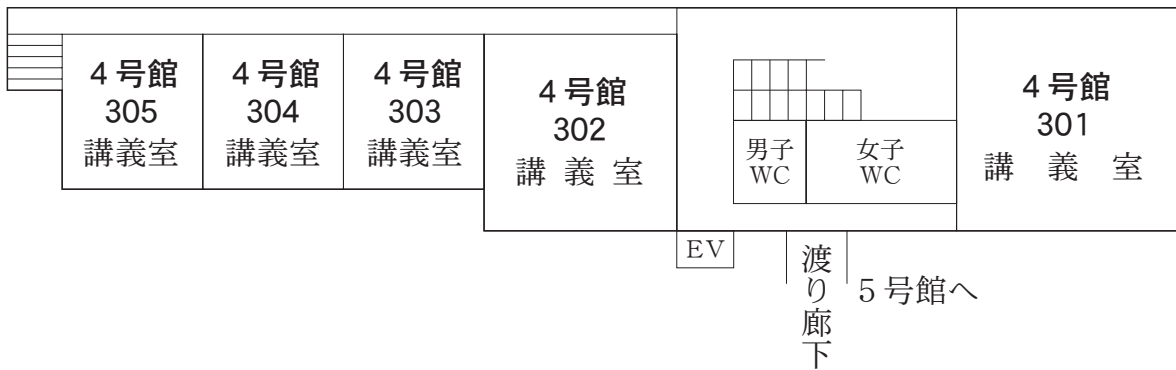
階段	3N13 印刷室	3N11 PS 動物室1	3N16 動物室2	3N18 実験室1 適応進化 学実験室	3N19 実験室2 環境共生 情報学 実験室	3N20 実験室3 植物環境 生理学 実験室	3N21 実験室4 環境マネ ジメント 実験室	3N22 実験室5 生物化学 実験室	3N23 実験室6 細胞情報 学実験室	3N24 実験室7 環境物質 影響学 実験室	3N25 実験室8 生命科学 実験室	3N26 培養室	3N27 無菌室	3N28 準備室	便所	3N30 PS	3N43 言語 聴視調 査室	3N32 臨床心理 第1プレ イルーム	3N33 臨床心理 第2プレ イルーム	
	3N12 EPS	3N15 前室	3N17 前室																	
	3N35 湯沸室	3N36 倉庫	3N38 前室	3N40 P2通伝子 組換え実験室	3N01 研究室1 (松尾)	3N02 研究室2 (大橋 眞)	3N03 研究室3 (佐藤 眞)	3N04 研究室4 (瀬野)	3N05 研究室5 (佐藤 眞)	3N06 研究室6 (小山 眞)	3N07 研究室7 (金丸)	3N08 研究室8 (川上)	3N09 院生研究室	3N10 交換機室	通路					3N34 機器センター6
	3N37 PS	3N39 低温室			学生スペース										3N34 機器センター6					
階段	3N41 便所	3N42 倉庫	3S10 全学共通教育 センター長室	3S11 全学共通教育 センター研究室	環境共生コース										吹抜		3S26 スタジオ		階段	
階段	3S13 EPS	3S14 PS	心理ヘルスコース										3S21 湯沸室		3S20 院生研究室		3S22 便所	3S23 EPS	3S24 PS	3S25 機器センター7
	3S15 心理学 第5実験室	3S16 心理学 第1実験室	3S17 心理学 第2実験室	3S18 心理学 第3実験室	3S19 心理学 第4実験室	3S01 健康 コミュニ ティ支 援室	3S02 研究室2	3S03 研究室3 (境)	3S04 研究室4 (原)	3S05 研究室5 (佐藤 眞)	3S06 研究室6 (山本 眞)	3S07 研究室7 (内海)	3S08 研究室8 (福森)	3S20 院生研究室	3S22 便所	3S23 EPS	3S24 PS	3S25 機器センター7		

共通教育 4 号館

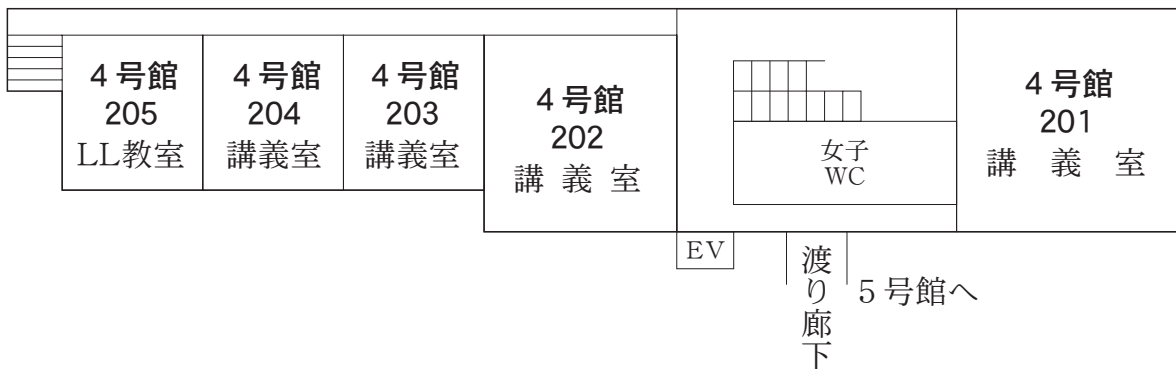
全学共通教育講義室と全学共通教育の窓口，キャリア支援センターなどがあります。
〔4 階〕



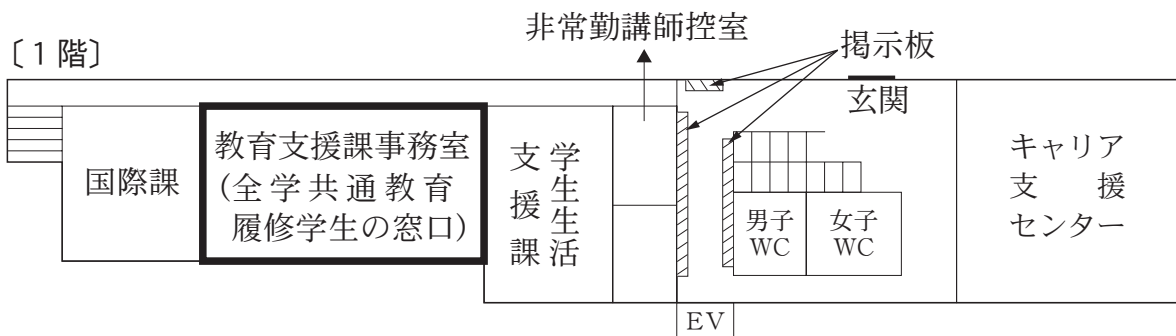
〔3 階〕



〔2 階〕

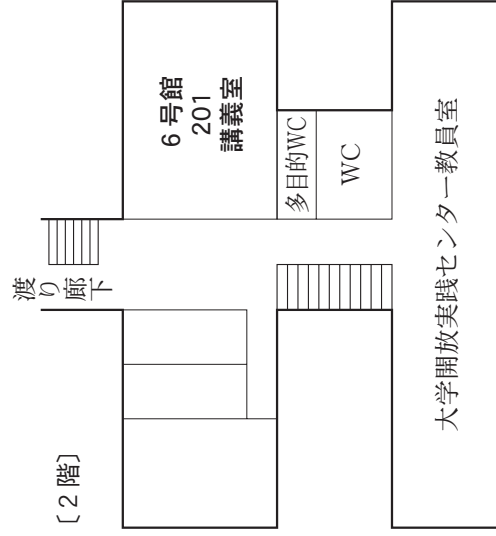
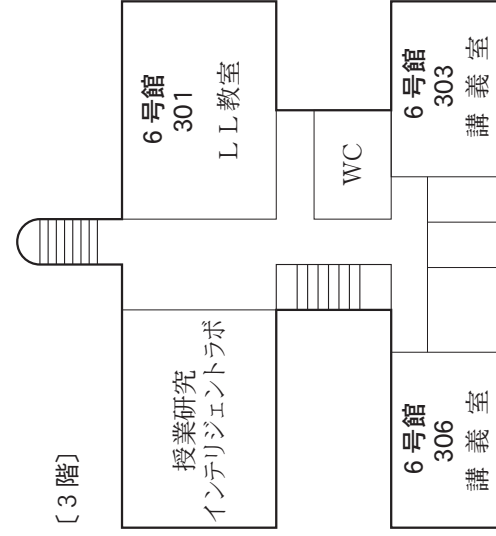


〔1 階〕



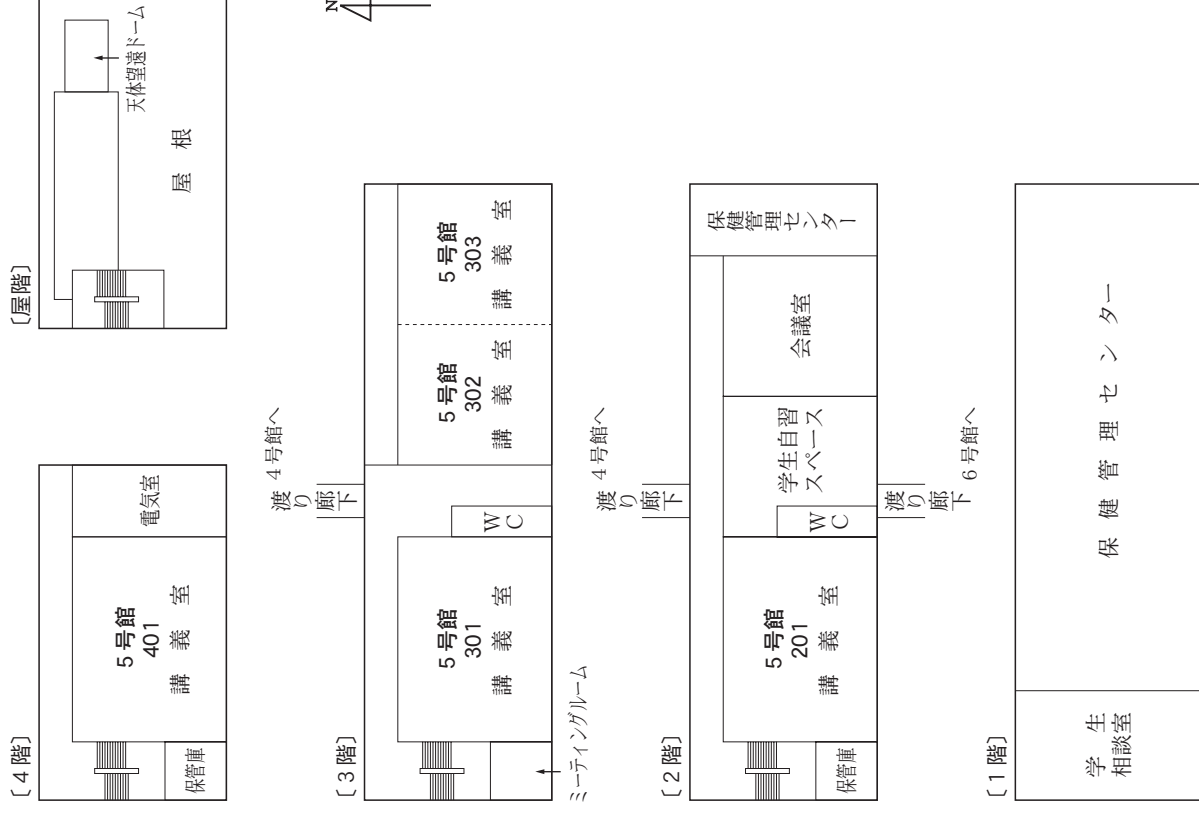
共通教育 6号館

全学共通教育講義室と大学開放実践センター教員室があります。

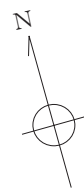


共通教育 5号館

全学共通教育講義室と保健管理センター、学生相談室があります。



工学部講義室配置図



平成 25 年度 総合科学部学年暦

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
						5
	7	8	9	10	11	12
				(1)	(1)	13
4	14	15	16	17	18	19
		(1)	(1)	(1)	(2)	(2)
月	21	22	23	24	25	26
		(2)	(2)	(2)	(3)	(3)
	28	29	30			
			(3)			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				(3)	月(3)	4
	5	6	7	8	9	10
		(4)	(4)	(4)	(4)	11
5	12	13	14	15	16	17
		(4)	(5)	(5)	(5)	18
月	19	20	21	22	23	24
		(5)	(6)	(6)	(6)	25
	26	27	28	29	30	31
		(6)	(7)	(7)	(7)	(7)

日	月	火	水	木	金	土
						1
	2	3	4	5	6	7
		(7)	(8)	(8)	(8)	(8)
6	9	10	11	12	13	14
		(8)	(9)	(9)	(9)	(9)
月	16	17	18	19	20	21
		(9)	(10)	(10)	(10)	(10)
	23	24	25	26	27	28
		(10)	(11)	(11)	(11)	(11)
	30					

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				(11)	(12)	(12)
	7	8	9	10	11	12
		(12)	(13)	(13)	(13)	(13)
7	14	15	16	17	18	19
		月(13)	(14)	(14)	(14)	20
月	21	22	23	24	25	26
		(14)	(14)	(15)	(15)	(15)
	28	29	30	31		
		(15)	(15)	(16)		

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				(16)	(16)	
	4	5	6	7	8	9
		(16)	(16)			10
8	11	12	13	14	15	16
						17
月	18	19	20	21	22	23
						24
	25	26	27	28	29	30
						31

日	月	火	水	木	金	土
						1
	2	3	4	5	6	7
9	8	9	10	11	12	13
						14
月	15	16	17	18	19	20
						21
	22	23	24	25	26	27
						28
	29	30				

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				(1)	(1)	(1)
	6	7	8	9	10	11
		(1)	(2)	(2)	(2)	(2)
10	13	14	15	16	17	18
		月(2)	(3)	(3)	(3)	19
月	20	21	22	23	24	25
		(3)	(3)	(4)	(4)	26
	27	28	29	30	31	
		(4)	(4)	(5)	金(5)	

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	
	3	4	5	6	7	8
			(5)	(6)	(5)	(6)
11	10	11	12	13	14	15
		(5)	(6)	(7)	(6)	(7)
月	17	18	19	20	21	22
		(6)	(7)	(8)	(7)	(8)
	24	25	26	27	28	29
		(7)	(8)	(9)	(8)	(9)

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				(8)	(9)	(10)
	8	9	10	11	12	13
		(9)	(10)	(11)	(10)	(11)
12	15	16	17	18	19	20
		(10)	(11)	(12)	(11)	(12)
月	22	23	24	25	26	27
		月(11)				28
	29	30	31			

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
						4
	5	6	7	8	9	10
			(12)	(13)	(12)	(13)
1	12	13	14	15	16	17
		(13)	月(12)	(13)		18
月	19	20	21	22	23	24
		(13)	(14)	(14)	(14)	(14)
	26	27	28	29	30	31
		(14)	(15)	(15)	(15)	(15)

日	月	火	水	木	金	土
						1
	2	3	4	5	6	7
		(15)	(16)	(16)	(16)	(16)
2	9	10	11	12	13	14
		(16)				15
月	16	17	18	19	20	21
						22
	23	24	25	26	27	28

日	月	火	水	木	金	土
						1
	2	3	4	5	6	7
						8
3	9	10	11	12	13	14
						15
月	16	17	18	19	20	21
						22
	23	24	25	26	27	28
						29
	30	31				

凡 例

- ……春季, 夏季, 冬季, 学年末休業等
- ……総括授業・定期試験期間
- ……授業振替日
- ……後期追再試験期間
- ……大学入試センター試験, 一般選抜, 特別選抜, 私費外国人留学生入学選抜

- ……4月5日(金) 入学式
- 3月24日(月) 卒業式・修了式
- ……4月4日(木)～4月9日(火) 新入生オリエンテーション
- 11月2日(土) 開学記念日
- 11月2日(土)～11月4日(月) 大学祭
- 1月17日(金) 大学入試センター試験会場設営のため休業

※ () の数字は授業回数を示す



総合科学部の英語表記の頭文字「IAS」をモチーフに、人と人をつなぐかたちを描きながら、奥行きのある「諸科学の融合」を表現したシンボルマーク。「諸科学の融合」は「人と人との和合」「世界中の人々の融和」につながっていくことに期待を込めている。

大学への問い合わせ及び緊急連絡先

○徳島大学総合科学部学務係

T E L 088-656-7108

F A X 088-656-9314

